

刑事訴訟法(第2編 第3編) 講義

亀山, 貞義

(出版者 / Publisher)

和佛法律学校

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

和佛法律学校講義録 / 和佛法律学校講義録

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

140

刑事訴訟法

自二編
至三編



0142

國家之

0143

鐵壁

桃園敬士

刑事訴訟法(第三編)講義目次

第二編 裁判所	一
第一章 裁判所ノ管轄	二十四
第一節 一般ノ權限	二十四
第二節 特別ノ權限	三十四
第二章 裁判所ノ組織ノ沿革及ニ沿革ノ理由	四十三
第一節 裁判所ノ沿革及ニ沿革ノ理由	五十九
第二章 裁判所ノ組織	六十六
第一節 裁判所ノ組織	九十二
第二節 裁判所ノ組織ノ理由	百六
第三章 裁判所ノ組織ノ沿革	百八
第一節 裁判所ノ組織ノ沿革	百十七



0144

鐵
 卷
 桃園敬士

刑事訴訟法(第二編)講義目錄

第二編 裁判所..... 一

第一章 裁判所ノ管轄..... 二十四

第一節 一般ノ權限..... 二十四

第二節 特別ノ權限..... 三十四

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避..... 四十三

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審..... 五十九

第一章 捜査..... 五十九

第一節 告訴及ヒ告發..... 六十六

第二節 現行犯罪..... 九十二

第三節 特別ノ原由..... 百六

第四節 捜査處分手續..... 百八

第二章 起訴..... 百十七

目錄..... 一

第三章 豫審……………	二百二十一
第一節 人ノ自由ニ對スル豫審處分……………	二百二十五
第一款 令狀……………	百三十六
第二款 密室監禁……………	百四十八
第三款 保釋……………	百五十二
第四款 責付……………	百五十六
第二節 財産ニ對スル豫審處分……………	百五十七
第三節 人ノ住所ニ對スル豫審處分……………	百六十一
第四節 人ノ信書ニ對スル豫審處分……………	百六十七
第五節 身体ニ對スル豫審處分……………	百六十九
第六節 墳墓ニ對スル豫審處分……………	百七十一
第七節 證據……………	百七十五
第一款 被告人ノ自白……………	百七十七
第二款 官吏ノ檢証調書及ヒ證據物件……………	百八十六
第三款 証人ノ供述……………	百九十三
第四款 鑑定人ノ供述……………	二百二十二
第八節 現行犯ノ豫審……………	二百三十三
第九節 豫審終結……………	二百四十九

刑事訴訟法講義

本校講師 龜山貞義先生口述

本校校友筆記

第二編 裁判所

凡ノ何事ヲ問ハス一ノ効果ヲ生セシメント欲セハ必ス相當ノ力ナカル可ラズ
 而シテ其力ヲシテ其目的トスル所ノ活動ヲ爲サシメント欲セハ必ス又相當ノ
 方法ナカル可ラス刑事ハ刑罰適用ノ効果ヲ生セシメンカ爲メナリ然ラハ則チ
 其効果ヲ生スル所ノ力ヲ假スモノナカル可ラス此力ヲ假ス者ハ即チ刑事裁判
 所ニシテ而シテ此官署ヲシテ活動セシムルノ方法ハ百般ノ訴訟手續即チ是ナ
 リ裁判所構成法ハ此力ノ組織ヲ定メ此法律ハ第三編以下ニ於テ其力ヲ活動セ
 シムルノ方法ヲ定メタリ

右述フル如ク刑事ハ刑罰適用ノ効果ヲ生セシメント目的トス而シテ此大ナ

ル効果ヲ生ゼシメンニハ又種々ナル小効果ヲ生ゼシメサル可ラス此小効果ヲ生ゼシメント欲セハ又相當ノ力即チ官廳ヲ設クルヲ要ス左ニ之ヲ説示セン

第一 犯罪及ヒ犯人ヲ捜査シ其證據ヲ蒐集シテ之ヲ裁判所ニ提擧スルノ効果

ヲ生スルコトヲ要ス此處分ハ下調處分ト稱スルモノニシテ之ヲ細別シテ搜查處分ト豫審處分ト爲ス搜查處分トハ公力ニ藉ラスシテ爲ス所ノ處分ニシテ豫審處分トハ公力ニ藉テ爲ス所ノ處分ナリ此二者ノ目的トスル所ハ共ニ

犯罪ヲ判決ス可キ心證ヲ作ルノ材料ヲ蒐集スルニアリ

第二 下調處分ノ目的ヲ達シ犯罪ニ關スル證據集マルトキハ其證據ヲ評定シ且ツ之ニ依テ以テ本案ヲ裁判ス之ヲ裁判處分ト稱ス

第三 既ニ裁判處分ニヨリ罪ヲ判決セラルハトキハ其裁判ヲ實地ニ執行スルコトヲ要ス之ヲ執行處分ト稱ス

第四 以上ノ三處分アリテ始メテ刑事處分ノ目的ヲ達スルコトヲ得然レトモ此三處分ノ實行ヲ確カムル爲メ常ニ其處分ニ注意シ而シテ時々其處分ヲ請求スル者ナカル可ラス此處分ハ即チ訴求處分ト稱スルモノナリ

刑事上已ニ此四個ノ處分ヲ要ストモハ各々之ニ必要ナル官署ヲ設置セサル可ラス(第一)下調處分ニ付テハ下調官廳即チ捜査ニ付テハ司法警察官豫審ニ付テハ豫審判事(第二)裁判官廳即チ裁判所(第三)執行官廳即チ監獄署(第四)訴求官廳即チ檢事局ナリトス

此第一第三第四ノ官署ハ概テ能動ノ處分ヲ爲ス所ナリ故ニ其官吏ハ敏捷ナラサル可ラス合同一致セサル可ラス機ニ臨ミ變ニ應セサル可ラス故ニ長官アリテ其下ヲ指揮命令スル様組織スルヲ必要ナリトス

之ニ反シ所動ノ處分即チ裁判ノ處分ニ付テハ成ル可ク數人合議シテ其職務ヲ執リ而カモ其數人ニ對シテハ指揮命令スル者ナキノ組織ナルヲ要ス蓋シ裁判ヲ爲スニ付テハ決シテ他ヨリ指揮命令ヲ受ク可ラス自己ノ本心ニ依テ判決スルハ裁判ノ本色ナリ然レハ裁判所ハ合議制ニシテ且獨立不羈ナルヲ要ス但輕微ノ事件ニ付テハ一ニ合議ノ制ヲ取ルトキハ事鄭重ニ過キテ却テ便ナラサルヲ以テ單獨ノ制ヲ採ルハ今日諸國ノ主義トスル所ナリ我法律モ亦此ノ如シ今裁判ノ職務ニ付テ一言セン此職務ハ分テ二ト爲ス公判ノ裁判ト豫審ノ裁判

ト即チ是ナリ公判ノ裁判トハ本案ニ付キ罪ノ有無輕重ヲ決スル者ニシテ豫審ノ裁判トハ豫審中ニ生シタル事件ヲ裁判シ又豫審終結ニ付キ何レノ裁判所ニ被告事件ヲ送付ス可キヤヲ決定スルモノナリ此豫審ノ裁判ハ社會ノ爲メ又被告人ノ爲メ甚タ有益アリト雖モ輕微ナル事件ニ至ルマテ尙ホ此裁判ヲ要ストスルトキハ却テ不都合ヲ生スルヲ免カレス故ニ各國概テ輕微ノ事件ニ付テハ豫審ヲ要セストモリ我法律モ亦此ノ如シ佛國ハ重罪ニ付テハ豫審判事ヨリ重罪取調局ニ廻付シ重罪取調局ヨリ重罪裁判所ニ送付シ而シテ後本案ノ裁判ニ着手スルモノト爲セリ我法律ハ之ヲ目シテ甚タ鄭重ニ過クルモノト爲シ取テ此制ニ倣ハサリキ

又公判裁判所ノ職務ヲ分テハ二トナル即チ有罪無罪ノ裁判ト法律適用ノ裁判是ナリ世人多クハ此第一ノモノヲ事實ノ裁判ト稱シ第二ノモノヲ法律ノ裁判ト稱スルモ此名稱允當ナラス何トナレハ第一ノ問題中ニハ事實ノ點多キニ居ル可キモ亦法律ノ問題ヲ混同スルコトアリ又第二ノ問題中ニハ獨リ法律ノ點ノミナラス事實ノ問題ヲ包含スレハナリ此二ノ職務ハ同一ノ裁判官ニ委ス可

キヤ又ハ各異ナル裁判官ニ委ス可キヤ思フニ此二者ハ相互ニ牽連スルカ故ニ共ニ同一ノ裁判官ニ托スルヲ可トス但シ事ノ重大ナル者ニ付テハ其裁判ノ信用ヲシテ重カラシメンカ爲メ之ヲ二者各別ナル裁判官ニ委スル國アリ即チ第一ノ裁判有罪無罪ノ裁判ハ國民中ヨリ撰舉シタル陪審ニ委シ第二ノ裁判法律適用ノ裁判ハ裁判官ニ委ス佛國及ヒ其他歐米諸國ハ概テ此主義ヲ取レリ我國ハ否ラス二者共ニ同一裁判官ノ判決ス可キモノト爲セリ

執行處分ハ行政法ノ部門ニ屬スルヲ以テ茲ニ之ヲ説カス他ノ處分ニ付テ聊カ論スル所アルヘシ

下調處分裁判處分及ヒ訴求處分ハ各々別個ノ官廳ニ托ス可キヤ又ハ一官廳ニ併托スルモ可ナルヤ曰ク此三處分ハ各々其性質ニ依リ道理上一官廳ノ相兼ルコトヲ得サルモノアリ又道理上相兼ルコトヲ得可キモ便宜上相兼ルコトヲ許ス可ラサルモノアリ

先ツ訴求處分ト裁判處分トニ就テ觀ルニ此二者ハ道理上相兼ルコトヲ許ス可ラス何トナレハ訴求處分ハ訴ヲ爲ス目的トシ裁判處分ハ其訴ヲ斷スルヲ目

的トス而レテ自ラ斷スルハ法理ノ禁スル所ナリ然ラハ則チ訴求處分ト裁判處分トヲ相兼ネシムルトキハ自ラ訴ヘテ自ラ裁判スルコトヲ許スト何ゾ擇ハシ故ニ相兼ヌルコトヲ許ス可ラサルナリ

然ラハ訴求處分ト下調處分トハ相兼ヌルコトヲ得サルヤト云フニ道理上之ヲ禁スルコトナレ蓋シ訴訟人タル者自己ノ訴旨ヲ貫徹セントセハ其主張スル事實ノ證據ヲ擧ク可キノ任アルヲ以テ先ツ證據ヲ蒐集レテ而シテ之ヲ裁判所ニ提出ス可キハ當然ノ手續ナリ是ヲ以テ訴求處分ト下調處分トハ理ニ於テ二者相兼ヌルコトヲ禁セス然ラハ訴求處分ヲ擔任スル檢事ヲレテ下調ノ職務ヲ兼行セシメテ可ナルカ曰ク其一半ヲ兼行セシムルハ可ナリ全部ヲ兼行セシムルハ非ナリ何トナレハ此下調處分ハ搜查處分ト豫審處分トノ二ヲ包含ス而シテ搜查處分ハ公力ヲ以テセサルカ故ニ之ヲ許スモ可ナリ然レトモ豫審處分ハ公力ヲ以テ爲ス者タルカ故ニ若シ之ヲ許ス時ハ原告ハ己レノ證據ヲ蒐集スルニ公力ヲ以テスルコトヲ得テ被告ハ其證據蒐集ノ爲メニ公力ヲ用フルコトヲ得ス原被ノ待遇甚タ不平等ノ結果ヲ生ス故ニ此下調ノ職務中公力ヲ用フル豫

六

審處分ハ非常ノ場合ヲ除ク外檢事ニ托ス可ラサルナリ

次ニ下調處分ト裁判處分トノ關係ヲ見ルニ此二者ハ道理上一個ノ官吏ヲシテ兼テシムルモ可ナリ蓋シ裁判官ニレテ自ラ下調ヲ爲シ諸般ノ證據ヲ蒐集スルトキハ能ク事實ノ真相ヲ發見ス可ク從テ適切ノ裁判ヲ得ルノ望アレハナリ然レトモ其下調處分中不知不識事實ヲ豫斷スルノ弊ナキヲ保タス若シ一タヒ事實ヲ豫斷センカ所謂先入主トナリ後日有力ナル反對ノ證據出ルコトアルモ其初念ニ制セラレテ遂ニ有罪ノ斷案ヲ下スニ至ラン豫斷ハ刑事ニ於テ最モ避ケサル可ラス故ニ道理上ハ格別便宜上此二處分ヲ相兼ヌルコトヲ許ス可ラス豫審終結ニ干預シタル裁判官ノ其公判ニ干預スルコトヲ許サハ右ノ論決ヲ適用シタルモノナリ

裁判所

是ヨリ裁判官應以下各官廳ノ組織ニ付キ其概要ヲ說示ス可シ
裁判所構成法ニ依ルニ通常刑事ノ裁判所トレテ設ケタルモノ左ノ如シ
第一區裁判所 區裁判所ハ刑事上最下級ニ位スル裁判所ニレテ民事上ニ於ケルモ亦然ノ此裁判所ハ輕微ノ犯罪ヲ管轄スルヲ以テ敢テ合議ノ制ニ從ハス

シテ單獨ノ制ヲ採レリ

第二地方裁判所 此裁判所ハ民刑共ニ第二級ヲ占ムル裁判所ニシテ其裁判ハ判事三名ニテ行フ即チ合議裁判所ノ一ナリ此裁判所ニハ民刑各々其部ヲ置ク而シテ刑事部ノ職務ハ獨リ重輕罪區裁判所ノ管轄及ヒ大審院ノ特別權限ニ屬スルモノヲ除クテ裁判スルノミナラス其管轄内ノ區裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス故ニ區裁判所ニ對シテハ控訴裁判所ナリ是レ蓋シ區裁判所ノ裁判ニ對スル控訴モ尙ホ控訴院ニ爲ス可レトスルトキハ甚タ不便ナル由ル

第三控訴院 此裁判所ハ民刑共ニ第三級ニ位スル所ノ裁判所ニシテ民刑各々其部ヲ置ク而シテ刑事部ノ職務ハ其名稱ノ如ク地方裁判所ノ刑事ノ第一審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判スルニ在リ然レトモ地方裁判所カ區裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判セタル場合ニ於テハ其裁判ニ對スル上告ハ此裁判所之ヲ裁判ス此點ヨリ觀レハ控訴裁判所ニ非ステ一ノ上告裁判所ト爲ル故ニ控訴院ノ名稱ハ其當ヲ得タルモノト謂フ可カラズ

此裁判所モ亦合議裁判所ニシテ五名ノ判事ニテ裁判ヲ行フモノトス
第四大審院 此裁判所ハ最上ノ裁判所ニシテ全國唯ターアルノミ此院ニモ亦民刑ノ各部アリ而シテ刑事部ハ控訴院ノ判決ニ對スル上告ヲ裁判スルヲ以テ其主タル職務トス

此裁判所ノ裁判ハ七名ノ判事ニテ之ヲ爲ス
舊治罪法ニハ以上各裁判所ノ外重罪裁判所及ヒ高等法院ノ二者アリテ甲者ハ重罪ノ裁判ヲ爲シ乙者ハ刑法第二編第一章第二章ニ記載シタル重罪、皇族ノ犯シタル重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪并ニ勅任官ノ犯シタル重罪ヲ裁判スルモノト爲シタルモ構成法ハ甲者ヲ廢シテ地方裁判所ニ重罪ノ裁判權ヲ與ヘ又乙者ヲ廢シテ勅任官ノ犯罪ハ地方裁判所ノ管轄ト爲シ餘ハ大審院ノ管轄ニ屬セシメタリ

以上述ヘタル外下調裁判所アリ即チ豫審判事ニシテ此判事ノ職務ハ第一罪證ヲ蒐集ス第二下調ノ終結裁判ヲ爲スニ在リ此第二ノ職務ハ即チ下調裁判所ノ職務ニ屬ス

此豫審判事ハ地方裁判所ニ置キ其裁判所ノ判事中ニ就キ司法大臣之ヲ任命ス其數ハ事務ノ繁簡多寡ニヨリ一ナラス其任期ハ一年ナリト雖モ司法大臣ノ見込ニヨリ數年引續キ其職務ヲ執ラシムルコトヲ得

以上裁判所構成法ニ規定シタル裁判所ノ外特別ノ構成ニ係ル裁判所アリ

第一 小笠原島及ヒ伊豆七島ニ在テハ區裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ハ裁判所設置マテ其島吏之ヲ取扱フ蓋シ此等ノ島地ニハ今日ノ經濟上特別ニ裁判所ヲ設置スルコトヲ得サルモノアルヲ以テ此ノ如ク定メタルナリ

第二 北海道ニ在テハ樺戸空知釧路三集治監ニ在ル囚人ノ犯罪ニシテ輕罪以下ニ係ルモノハ司獄官吏ニ於テ裁判ス此規定タル畢竟右囚人ノ犯罪ニ付キ

一々之ヲ札幌根室ノ裁判所ニ管轄セシメンカ輕罪ノ微ナルモノニ付テモ仍ホ被告人ヲ遠ク護送セサル可カラス若シ然ルトキハ費用ト日數トヲ費ス可シ且囚徒或ハ一時苦役ヲ免カレ或ハ逃走ノ機會ヲ得ンカ爲メ故ラニ微罪ヲ

犯シテ札幌根室ニ護送セラレンコトヲ希圖スル等實際其例アリテ當局者大ニ其處分ニ苦シミタルコト少カラス是レ以上ノ特別ヲ設ケラレタル所以ナ

以上ノ特別裁判所ハ皆一時ノ便宜ニ出ツルモノニシテ永ク此ノ如キノ制ヲ維持スルコトハ立法者ノ好マサル所ナリ故ニ法律中裁判所設置マテ又ハ當分ノ内云々トアリ是等ノ文字已ニ早晚廢止セラレヘキコトヲ言顯ハセリ

借又日本ノ版圖外ニ於テモ亦タ特別ノ構成ニ係ル裁判所アリ即チ朝鮮及ヒ支那ニ設クル所ノ裁判所是ナリ日本ハ朝鮮及ヒ支那ニ對シテハ治外法權ヲ有スルカ故ニ日本人彼國ニ在テ罪ヲ犯ストキハ日本裁判所ニテモ裁判ス可シ然レハ朝鮮及ヒ支那ノ領地内ニ特別ノ裁判所ヲ置クノ必要アリ而シテ各國ノ例ヲ見ルニ此特別裁判所ノ裁判官ハ其地駐在ノ領事ヲ以テ之ニ充ツ名ケテ領事裁判所ト云フ尤モ英國ノ如キハ東洋ニ對シテハ特別ニ裁判官ヲ派遣セリ然レトモ實ニ例外ナリ日本ニ於テモ當初ハ領事ヲシテ判事ノ職ヲ兼子シメタリ然レニ明治廿一年ニ至リ敕令第七十一號ヲ以テ清國并朝鮮國駐在領事裁判規則ヲ定メ領事タル者ハ別ニ判事ヲ兼スルニアラスシテ領事ノ資格ヲ以テ當然裁判權ヲ有スルコトト爲セリ即チ民事ハ一切ノ事件刑事ハ輕罪違警罪ノ裁判及ヒ



重罪ノ豫審ヲ爲スコト、爲レリ

各裁判所ノ傍ニ檢事局ヲ附置ス而シテ檢事ノ職務ヲ列記シタル裁判所構成法第六條ニ公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シトアルハ即チ檢事カ訴求處分ヲ擔當スヘキモノナルコトヲ定示シタルモノナリ斯ノ如ク檢事ハ訴求處分ヲ掌ルモノトセハ之ヲ各裁判所ニ配置セサル可ラス此法律第七十六條ニ公判ハ判事檢事裁判所書記出廷シテ之ヲ爲スモノトストアリテ檢事ノ公判ニ立會フコトヲ命シタル所以ハ單ニ原告官トナリテ訴ヲ爲サシムルカ爲メニアラス訴求處分中ニ包含スル公益保護ノ職務ヲ實行セシメシカ爲メナリ若シ夫レ原告官ノ資格ヲ以テ立會ヲ要スルモノト假定セシメ被告ノ立會モ亦之ヲ必要ナリトセサル可ラス思フニ原告被告ハ共ニ裁判所構成ノ一分子ト爲ルモノニ非ス茲ニ檢事ノ立會ヲ要スルハ即チ公益ヲ保護セシメンカ爲メナルコト益々明ナリ己ニ然リトセハ檢事ニシテ公廷ニ立會ハサルトキハ裁判所ノ構成規則ニ背クヲ以テ其裁判ハ廢棄若クハ破毀セラル、ヲ免カレサル可シ

斯ノ如ク檢事ハ各裁判所ニ之ヲ配置シ各々其職務ヲ行ハシムルト雖モ區裁判所ニ限リ其地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官ニ於テ其職務ヲ取扱フモ差支ナク又司法大臣ハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村長ニ代理ヲ命スルコトヲ得ルナリ

特別ノ構成ニ係ル裁判所ニ於ケル檢事ノ職務ハ何人カ之ヲ行フヤト云フニ朝鮮支那駐在領事裁判所ニ於ケル檢事ノ職務ハ副領事警察官又ハ書記生之ヲ行フ可キノ明文アルモ小笠原島伊豆七島及ヒ北海道三集治監ニ付テハ法律中檢事ノ職務ヲ行フ可キ者ヲ定メス尤モ其中治罪ノ手續ハ便宜取計フ可シト規定シタルモノアルモ裁判所ノ構成ヲモ便宜ニ任ストノ意ニハアラザル可シ然ラハ北海道三集治監及ヒ小笠原島伊豆七島ニハ裁判官アリト雖モ檢事ナレト言ハサル可ラス是レ不都合ノ構成ト云フ可シ夫レ檢事ハ必ス之ナカル可カラズ自ラ訴ヘ自ラ裁判スルカ如キハ條理ノ許ス所ニ非ス且被告人其裁判ニ對シ上訴シタル場合ニ於テ裁判官自ラ答辯ヲ爲スカ如キコトハ甚々事体ノ宜キヲ失スルモノナリ是故ニ別ニ規定アルコトナシト雖モ必ス其地ニ在ル所ノ官吏中

ヨリ之ヲ任命セサル可ラス此事ノ規定ナキハ蓋シ法律ノ欠典ト言ハサル可ラス
 上來述ヘタル如ク裁判官裁判ヲ爲シ檢事訴求ヲ爲シ以テ法廷ノ組織完全ナリ
 ト爲ス可キカ理論上ニ於テハ然リト爲ス可シ然レトモ今姑ク理論ヲ離レ實際
 ヨリ看察スルトキハ未ダ以テ完全ナリト爲スニ足ラス何トナレハ其法廷ニ見
 ハレタル辯論陳述其他訴訟ノ手續ハ一々記録シテ他日ノ證據ノ爲メ之ヲ保存
 セサル可ラス此記録ナケレハ後日裁判ニ付キ争ヲ生スルコトアルモ其當否ヲ
 斷定スルコトヲ得サルヘシ例之ハ上訴ニ依リ裁判所ハ此ノ如キ不規則ナル手
 續ヲ以テ裁判ヲ爲セリト攻撃スルニ當リ前訴訟手續ノ記録ナキトキハ其上訴
 ノ當否ヲ知ルコトヲ得ス而シテ舉證ノ責任ハ或ル事ヲ主張スル者ニ在ルヲ以
 テ上訴ヲ爲ス者ハ前訴訟手續ノ不規則ナリシコトヲ證明セサル可ラス然ルニ
 之ヲ證明スルノ具ナキカ故ニ遂ニ上訴スルコトヲ得ス空ク枉屈ニ沈ムニ至ラ
 シ記録ノ必要獨リ之ニ止ラス後ニ特赦ノ申立再審ノ訴等ヲ爲スニ付テモ亦タ
 甚タ其必要ヲ感ス故ニ訴訟手續ニ付テハ必ス其記録ナカル可ラス然ラハ之レ

ヲ記録スル人ハ何人ソヤ裁判官ニ託スヘキカ裁判官自ラ取調ヘテ自ラ記録ス
 ルハ法廷ノ威嚴ヲ損スルノ恐アリ故ニ裁判官ニ託ス可ラス然ラハ檢事ニ託ス
 ヘキカ檢事ハ原告官タルノ資格ヲ有スルカ故ニ之ニ託スルトキハ原告官自己
 ニ利益ナルノ記録ヲ作製スルノ嫌アリ加之檢事ハ一方ニ於テハ訴求處分ヲ司
 ル所ノ官吏ナリ之ニ記録セシムル時ハ又裁判所ノ威嚴ヲ損スルノ恐アリ是ニ
 於テカ特ニ記録ヲ掌ルノ官吏ヲ置クコトヲ要ス是レ各裁判所ニ書記課ヲ置キ
 裁判所書記ヲシテ訴訟記録ノ調製ヲ擔任セシメタル所以ナリ

此法律第七十六條ニ依レハ公判ニハ裁判所書記モ亦出廷スルコトヲ必要ト
 ス故ニ其出廷ナキトキハ裁判所ノ構成規則ニ背クモノナルヲ以テ上訴シテ其
 裁判ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ又豫審ニ就テ見ルモ同一ナリ第九十二
 條ニ書記ハ豫審ニ立會ハサル可ラサルコトヲ定メ且之カ立會ナクシテ爲シタ
 ル處分ハ無効タルコトヲ明記セリ但シ之ニ付テハ一例外アリ即チ裁判所外ニ
 於テ急速處分ヲ要スル際書記ノ立會ヲ得ル能ハサルトキハ豫審判事ハ書記ノ
 立會ナクシテ豫審處分ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ二名ノ立會人ヲ命シ若

シ又監獄内ニ於テ被告人ヲ訊問スル場合ニハ司獄官吏ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ要ストセリ故ニ書記ノ立會ヲ要セサルハ裁判所外ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキニ限ルモノトス抑モ右等ノ例外アル理由如何ト云フニ現行犯ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事ハ直ニ豫審ニ着手スルコトヲ許セリ然ルニ此場合ニ於テモ必ス書記ノ立會ヲ要ストスルトキハ遂ニ其處分ヲ爲ス能ハサルコトアルヘク殊ニ豫審判事遠ク裁判所ヲ離レタル地ニ在ルトキハ到底書記ノ來ルヲ待ツノ暇ナク之ヲ待ツトキハ時機ヲ失スルコトアリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ通常人ヲ以テ立會人ト爲シ其處分ニ着手スルコトヲ許セルノミ尤モ此場合ニ於テハ立會人ニ調書ヲ作ラシメシカ其立會人ハ必スシモ文字アル者ニ非サルヘシ又調書ヲ作ルノ方式ヲ知ラサル者多カラシ已ニ立會ノ義務ヲ命シ又重キテ此至難ナル義務ヲ命スルハ道理上穩當ナラス故ニ止ヲ得ス豫審判事自ラ筆ヲ執リテ調書ヲ作り之ヲ讀聞カセ立會人ヲシテ署名捺印セシメ以テ其事ノ相違ナキヲ證ス可シト定メタリ

司法警察官

ハ法律ニ明文ナシ然レトモ己ニ裁判ヲ爲ス以上ハ必ス其記録ナカル可ラス故ニ其官吏ノ中ニ於テ書記ノ職務ヲ行ハサル可ラス

朝鮮及ヒ支那ニ在ル領事裁判所ノ書記ニ付テハ明文ヲ以テ書記生又ハ其他ノ館員書記ノ職務ヲ行フコトト爲セリ

前已ニ述タルカ如ク犯罪ヲ捜査シ其證據ヲ蒐集スルハ下調ノ處分ニ屬ス而シテ此下調ノ處分ニ二アリ公力ヲ以テスルモノト否ラサルモノト即チ是ナリ公力ヲ以テ處分スル權アル者ハ豫審判事ニシテ公力ヲ以テ處分スルノ權ナキモノハ檢事司法警察官ナリ豫審判事ハ公力ヲ用非ルノ權アリト雖モ自ラ訴ヲ起シテ取調ヲ爲スノ權ナシ蓋シ威權濫用ノ恐アレハナリ公力ヲ用非ルコトヲ得サル下調處分ハ此恐ナキヲ以テ檢事司法警察官ハ自ラ起テ處分スルコトヲ得又必ス處分スヘキモノトス豫審判事及ヒ檢事ニ付テハ已ニ述タルヲ以テ是ヨリ司法警察官ノコトヲ一言セン

凡ソ警察ヲ大別シテ行政警察司法警察ノ二種ト爲ス行政警察ハ總テノ害惡ヲ未タ發生セサルニ豫防スルヲ以テ其目的トス而シテ其害惡ノ人爲タルト天爲

タルトヲ問ハサルナリ故ニ此警察ヲ施スノ範圍極メテ廣ク萬般ノ事物皆其支配ヲ受ケサルハナシ水火ノ災疫瀉ノ流行其他天爲人爲ノ害皆行政警察ニ於テ注意監察シ其害ノ甚シキニ至ルヲ防制ス然リ而シテ凡百ノ害ハ既生ノ後ニ制止セシヨリハ事口未發ノ前ニ豫防スルヲ優レリトス故ニ行政警察ハ瞬時ノ間斷ナク之ヲ行フヲ本旨トス乃チ行政警察ハ總テノ事物ニ及ヒ且ツ繼續的ノ性質ヲ有スルモノトス又行政警察ハ之ヲ細別シテ一般警察地方警察トス全國一般ニ害ヲ及ホス可キモノハ一般警察之ヲ支配シ特ニ一地方ニ害ヲ生ス可キモノハ地方警察ノ支配ニ屬ス一般ノ行政警察ハ全國劃一ニ出ルヲ要スルヲ以テ内務大臣之ヲ統轄ス地方ノ行政警察ハ必スシモ一途ニ出ツルノ要ナキヲ以テ地方長官之ヲ統轄ス

司法警察ハ行政警察ニ異ナリテ人爲ニ出ル害惡中法律ノ罪トスル所ノモノニ付テノミ之ヲ施行ス是レ行政警察ト異ナル第一ノ點ナリ又司法警察ハ已ニ生シタル犯罪ニ付キ施行スルモノニシテ而シテ犯罪ナルモノハ必スシモ常ニ之アルモノニ非ス然レハ此警察ハ瞬時ノ間斷ナク行フモノト云フコトヲ得ス是レ

行政警察ト異ナル第二ノ點ナリ又犯罪ハ重罪ノ大ヨリ違警罪ノ小ニ至ルマテ多少社會全體ニ害ヲ及ホスモノナレハコソ社會ハ之ヲ罰スルナリ之ヲ罰スルハ實ニ社會ノ爲メナリ然レハ其之ヲ處分スルニ付テハ甲地ハ嚴ニシ乙地ハ寬ニスルカ如ク土地ノ異ナルニ從ヒ區々ニ涉ルコトヲ許ス可カラス全國劃一ニ出ルコトヲ必要トスルナリ故ニ行政警察ノ如ク一般警察ト地方警察トノ區別ナシ是レ行政警察ト異ナル第三ノ點ナリ

司法警察ハ司法大臣之ヲ統轄シ檢事總長以下各々之ヲ監督ス而シテ平常ハ第一審裁判所ノ檢事之ヲ擔當シ專ラ其事ニ任ス是レ其犯罪ノ證據ヲ舉示シ犯人ノ罪ヲ明瞭ナルヲ以テ其公訴ノ根據ト爲ル可キ證據ヲ準備スル爲メ搜查ノ事ヲ專ラ擔當セシメタルナリ

檢事ハ各地方裁判所區裁判所ニ之ヲ置クト雖モ其數固ヨリ限アリ從テ幾數萬ノ犯罪事件ニ付キ遺漏ナク精密ニ搜查ヲ遂ケシムルコト頗ル難シ是ニ於テカ法律ハ別ニ司法警察官ナルモノヲ設ケ以テ檢事ノ補助ト爲リ手足ト爲リテ搜

查ノ事ニ任シ以テ有罪ノ法網ヲ免カルハノ弊ヲ防カンコトヲ期セリ
司法警察官ニ二種アリ一ハ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有スル者一ハ檢事ノ
補佐トシテ其指揮ヲ受クル者はナリ左ニ之ヲ列舉セン

第一 地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有スル司法警察官ハ左ノ如シ

(イ) 警視總監

(ロ) 東京府知事ヲ除クノ外地方長官

右ノ官吏ハ即チ行政警察官ニシテ其行政警察ノ力豫防スルコト能ハス犯罪此
ニ生シタル上ハ最早之ニ干渉スルニ及ハス袖手傍觀ス可シトセハ實際ノ不
便實ニ言フ可カラサルモノアリ故ニ犯罪ノ生シタル上ハ直チニ司法警察ニ移
リテ其處分ヲ爲サシムルヲ必要トス是レ右ノ官吏ヲシテ司法警察官ト爲シ而
カモ檢事ト同一ノ權ヲ有スル者ト定メタル所以ナリ但法律ノ右等ノ官吏ヲ司
法警察官ト爲シタルハ輕微ノ罪ニ付テモ亦其搜查ヲ行ハシメント欲スルノ意
ニ非ス國事犯兇徒聚衆等一地方ノ安寧秩序ヲ害スルコト最モ甚シキ大罪ニ付
キ處分セシメンカ爲メナリ蓋シ右ノ官吏ハ一般行政警察ニ付テハ内務大臣ノ

委任ヲ受ケテ之カ執行ヲ監督シ又地方行政警察ニ付テハ自ら其長ト爲リテ之
ヲ指揮ス可キ者ニシテ瑣々タル犯罪事件ニ干渉スルノ暇ナカル可キノミナラ
ス又實ニ之ニ干渉ス可キノ地位ニ居ル者ニ非サルナリ

第二 檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ク可キ司法警察官ハ左ノ如シ

(イ) 警視警部長、警部、警部補、警視ハ東京府下ニ限り之ヲ置キ警部長ハ東京

府外ノ各府縣ニ警部以下ハ總テノ地方ニ之ヲ置ク是等ノ官吏ハ亦行政警

察官ナルニ因リ便宜上司法警察ヲ兼テシム而カモ專任ノ行政警察官ナル

カ故ニ司法警察ニ付テモ亦專任ナリトス

(ロ) 憲兵將校下士ハ固ト軍事警察官ナルモ同時ニ普通ノ行政司法兩警察

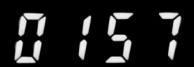
ヲ擔任セシムルヲ便宜ナリトス是レ司法警察官ト爲シタル所以ナリ

(ハ) 島司

(ニ) 郡長

嶋司ハ遠隔ノ島地ニ郡長ハ内地ノ一郡若クハ數郡ニ之ヲ置ク

此等ノ官吏ハ孰レモ元來行政事務ヲ擔任スル者ニシテ主トシテ警察ヲ司



ル者ニ非スト雖モ其郡區内ノ安寧靜謐ヲ保持ス可キノ職分ヲ有ス故ニ其郡區内ノ安寧靜謐ヲ害スル犯罪アルニ當リテ臨機處分セシメンカ爲メ之ヲ司法警察官ト爲セリ

(ホ) 林務官 此官吏ハ森林ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌スルモノナレハ森林

ニ關スル犯罪ニ付キ捜査ノ處分ヲ爲サシムルヲ便宜ナリトス殊ニ森林内ニハ必スレモ他ノ警察官ヲ置カサルヲ以テ旁之ヲ司法警察官ノ一ト爲セリ

(ニ) 市町村長 警部ハ全國中人口稠密ノ地ニ大概之ヲ配置スト雖モ山間僻

邑ニ至リテハ其配置洽カラス因テ其配置ナキ地ニハ別ニ司法警察ノ職務ヲ行フ者ヲ置カサル可カラズ然ルニ市町村長ナル者ハ概テ各市町村ニ之アルモノニシテ其職トスル所ハ郡長ニ次キ其町村ノ靜謐ヲ保持ス可キモノナリ故ニ亦司法警察官ノ一ニ列セリ

右ノ外常人ニシテ假リニ司法警察ノ職務ヲ行フ可キ者アリ第四十八條ニ海船内ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ可シトアルヲ以テ船長ハ官吏ニ非サルモ捜査等ヲ行フノ權アルモノトス

執行官吏

訴求處分下調處分及ヒ裁判處分ニ關係スル官吏ノ設置ニ付テハ上來已ニ之ヲ説キ盡セリ是ヨリ執行官吏ノ事ニ移リ説示スル所アラントス

裁判所構成法ハ裁判ノ執行ヲ監督スルヲ以テ檢事ノ職務ノ一ト爲シ又此法律第三百二十條ニ刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨ

リ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ依リ之ヲ爲ス可シ罰金科料訴訟費用及ヒ沒收物品追徴金ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス可シ破壊又ハ廢棄ス可キ沒

収物品ハ檢事之ヲ處分ス可シトアリ然レハ總テ裁判即チ判決決定及ヒ命令ハ其如何ナルヲ問ハス檢事ニ於テ其執行ヲ指揮ス可キモノニシテ檢事ハ即チ執行指揮官ナルコトヲ知ルニ足ル可シ然リ而シテ檢事ノ指揮ヲ受ケテ實際執行

ニ任スル者ハ何人ナルカ此點ハ裁判ノ性質ニ從ヒ自ラ其區別アリテ固ヨリ一様ナラス第七十六條末項ニ勾引狀勾留狀ハ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシムトアルヲ以テ是等ノ令狀即チ命令ノ執行ハ巡查憲兵卒ニ任ス可ク此他放免ノ執行ハ未決監獄吏自由刑ノ執行ハ已決監獄吏監視ノ執行ハ警察官之ヲ爲ス可キ

コトハ監獄則及ヒ刑法附則ニ明文アリ又罰金科料等ノ執行即チ其徵収方ハ裁

判所書記其事ニ當ル可キモノトス

第一章 裁判所ノ管轄

刑事裁判所ノ管轄ニハ事物ニ因ルモノト土地ニ因ルモノト又被告人ノ身分ニ因ルモノ等ノ區別アリ今便宜上假ニ本章ヲ二節ニ分チ一般ノ權限特別ノ權限ト爲シ其中ニ於テ右ノ區別ヲ説明ス可シ

第一節 一般ノ權限

一般ノ權限ハ職務階級事物及ヒ被告人ノ自分ニ關スルモノニシテ裁判所構成法ニ規定スル所ノモノハ即チ皆一般ノ權限ニ屬ス

第一 職務ニ關スル權限 何レノ官廳何レノ官吏ト雖モ法律規則ニ依リ委託セラレタル職務ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得サルヲ原則トス此原則ニ付テハ敢テ異論ヲ唱フル者ナシト雖モ之ヲ或ル事實ニ適用スルニ至リテハ官廳ノ間ニ紛争ヲ生スルコトナシトモ是レ畢竟法律規則ニ於テ不明不備又ハ欠缺アリ

ルニ因テ生スルニ相違ナキモ奈何セン法律規則ハ億萬限リナキノ事ヲ一々相像スルコトヲ得ルモノニ非ス隨テ往々權限争ヲ生スルニ至ル是レ實ニ不得已ノ事ナリトス

今通常裁判所ノ職務ニ關スル權限如何ヲ考究スルニ帝國憲法第五十七條ニ「司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」トアリ左レハ通常裁判所ハ司法權即チ裁判權ヲ行フ所ニシテ他ノ職務ヲ行フノ權ヲ有セサルモノトス又憲法第六十條ニ「特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム」第六十一條ニ「行政官廳ノ違法所分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス」トアリ故ニ通常裁判所ハ特別裁判所及ヒ行政裁判所ノ管轄ニ屬スルモノヲ除クノ外普通ノ民刑訴訟ヲ裁判スルニ過キサルモノトス

前述ノ如ク通常裁判所ハ普通ノ民刑訴訟ニ付キ裁判權ヲ有スルニ止マルモノナルヲ以テ彼ノ立法權ヲ侵スコト能ハサルノミナラス行政權ヲモ侵スコト能

ハサルナリ佛民法第五條ニ裁判所ハ一般的且ツ規則的ナル方法ヲ以テ裁判宣告ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ定メタルハ則チ立法權ヲ侵スコトヲ禁スルノ意ニ外ナラス我法律上此ノ如キ規則ナキモノハ其兩權相侵ス可カラサルハ言フ埃タサル所ニシテ法律ノ明文ヲ要セスト認メタルニ由ルナラン故ニ裁判所ハ法律ノ解釋トモテ一定ノ判決ヲ與フルハ格別ナリト雖トモ法律以外ニ一般ノ條規ヲ立テ以テ後來之ニ依ル可キモノト言渡スカ如キコトアル可カラス又行政權ヲモ侵スコト能ハサルカ故ニ例ヘハ警察令府縣令ノ違犯事件ニ付キ公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其命令ノ憲法又ハ他ノ法律ニ違フコトアルモ其取消ヲ命スルコトヲ得ス之カ取消ヲ命スルハ行政監督上官ノ職權ニ屬スルヲ以テナリ但此場合ニ於テハ裁判所ハ其命令ノ不法ナルヲ理由トシテ刑ノ適用ヲ拒ムコトヲ得ルハ勿論ナリトス

同シク是レ裁判所ナリト雖トモ單ニ下調ヲ擔任スルモノト公判ヲ擔任スルモノトノ別アリ左レハ下調裁判所ハ即チ豫審終結ニ付キ決定ヲ下ス所ノ裁判官ハ事件ノ本案ニ立入り以テ罪ノ有無ニ付キ裁判ヲ與フルコトヲ得ス此裁判ハ公判裁判所ノ職權ニ屬スルナリ但下調裁判所ハ公訴消滅又ハ停止ノ原因アルトキ及ヒ法律ニ於テ罪ヲ全免スルトキハ免訴ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルモ是レ此場合ニ於テハ公訴ヲシテ依然進行セシム可キニ非サルニ由ル故ニ此言渡ヲ爲スノ一事ヲ以テ罪ノ有無ヲ裁判シタルモノト看做ス可カラス又法律上ノ減輕ニ依リ輕罪ノ刑ニ下ルコトアル可キ事件例ヘハ重懲役ニ該ル可キ罪ノ未遂犯ノ如キハ一等ヲ減スルニ止マルトキハ仍ホ重罪ノ刑タル輕懲役ニ處セラレ可キモ二等ヲ減スルトキハ輕罪ノ刑タル重禁錮ニ下ル可シ此ノ如キ事件ニ付キ下調裁判所ノ意見ヲ以テ二等ヲ減ス可キモノト爲シ其事件ヲ輕罪公判ニ付スルノ言渡ヲ爲スカ如キハ下調裁判所ノ職務ニ關スル權限ヲ超越シタルモノトス是レ他ナシ一等ヲ減スルト二等ヲ減スルトハ公判裁判所ノ職權ニ屬シ下調裁判所ノ濤ヲ容ル可キニ非サレハナリ

合議裁判所ニ在テハ裁判官ノ中裁判長アリ陪席判事アリ而シテ裁判長ニハ特別ノ職權アリ陪席判事之ヲ侵スコトヲ得ス裁判所構成法第百四條及ヒ第百六條以下又ハ此法律第百九十四條等ニ規定シタルモノハ皆裁判長ノ職權ニ係ル

ヲ以テ陪席判事ハ其所分ニ付テ際ヲ容ルハコトヲ得ス若シ之ヲ許ストキハ公延ノ紛雜ヲ生シ結局審問ノ妨碍ト爲ル可キヲ以テナリ然レトモ法律上裁判所ノ爲ス可キ事即チ裁判長陪席判事合議シテ決定命令ス可キ事ニ付キ裁判長ノ獨斷ヲ以テ決定命令スルカ如キコトアラハ陪席判事之ヲ爭フコトヲ得ルハ勿論ナリトス

判事檢事ハ互ニ獨立シテ其職務ヲ行フ可キモノニシテ檢事ハ判事ニ命令スルノ權ナキハ勿論判事モ亦檢事ニ命令スルノ權ナシ裁判所構成法第六條第二項ヲ以テ檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ旨ヲ規定シ又同法第八一條ヲ以テ檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス規定シタルハ即チ判事檢事ノ獨立不羈ナルコトヲ示シタルモノナリ左レハ訴訟人又ハ證人鑑定人若クハ傍聽人ニシテ審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲ストキハ裁判長ハ裁判所構成法第九條第十條ニ依リ之ヲ退廷ヲ命シ又ハ拘引拘留ヲ命シ加之裁判所ハ之ヲ罰金若クハ拘留ニ依スルコトヲ得ルモ檢事ニ對シテハ裁判長裁判所共ニ是等ノ所分ヲ爲スノ權ナ

レトス

以上例示シタルカ如ク裁判所及ヒ裁判官共ニ各其職務ニ關スル權限アリテ法律ハ之ヲ超越スルコトヲ許サス故ニ各其職分ヲ恪守シ毫厘モ其外ニ出ルコトアル可カラス

第二 階級ニ關スル權限。凡ソ裁判所ノ階級ハ別テ三級ト爲ス第一審裁判所第二審裁判所及ヒ終審裁判所是アリ此審級ハ互ニ相侵スコトヲ得ス故ニ法律ニ特定アル場合ノ外ハ終審裁判所即チ最上級ノ裁判所ト雖トモ第二審第一審ノ裁判ヲ爲スコト能ハス况ンヤ下級裁判所ニ於テ上級審ノ權限ヲ侵スカ如キハ決シテ許容ス可キモノニ非サルナリ

第三 事物ニ關スル權限。事物ノ性質ニ關スル權限ト事物ノ輕重ニ關スル權限トアリ事物ノ性質ニ關スルモノトハ裁判所構成法第五十條第二項ニ記載シタルカ如ク刑法第二編第一章第二章ニ掲ケタル皇室ニ對スル重罪及ヒ國事ニ關スル重罪ハ地方裁判所ノ權限ニ屬セスシテ大審院ノ管轄ニ屬スルヲ云フ事物ノ輕重ニ關スルモノトハ裁判所構成法第十六條ニ記載シタル事件ハ區裁判

所ノ權限ニ屬シ同法第二十七條ニ記載シタル事件ハ地方裁判所ノ權限ニ屬スルヲ指ス

右ノ如ク事件ノ輕重ニ從ヒ管轄裁判所ヲ異ニスルモ若シ其輕重ノ度同シカラサル數罪俱ニ發シタルトキ仍ホ本則ニ依リ各罪ヲ各管轄裁判所ニ分テ之ヲ裁判セシムルモノトスルトキハ實際上ノ不便言フ可カラサルニ至ラン何トナレハ我刑法ニ於テハ數罪俱發一ノ重キニ從フノ方法ヲ採ルヲ以テ究竟被告人ハ一ノ重キ刑ヲ受クルニ止マル然ルニ其數罪ノ上級審下級審ノ二裁判所ニ分ツニ於テハ下級裁判所ハ其言渡ス所ノ刑到底執行セラレサルコトヲ知リナカラ仍ホ通常ノ手續ヲ履行シテ之ヲ言渡サ、ル可カラス且又一方ノ裁判所ニ於テハ他ノ一方ノ裁判所ノ審判結了スルニ非ラサレハ自ラ取調ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ其間審判ヲ停止セサル可カラス因テ訴訟ノ延滞ヲ來タスニ至ル此ノ如ク無用ノ手数ヲ要シ無用ノ費額ヲ消シ徒ラニ訴訟ヲ延滞ヒシメシヨリハ事口其數罪ヲ一裁判所ノ權限ニ屬シ同時ニ之ヲ審判セシムルヲ可トス是レ此法律第二十五條第二項ヲ以テ管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被

告人ニ對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スト規定シタル所
以ナリ

借事物ノ輕重ヲ量定スルハ民事ニ在テハ一ニ原告ノ申立ニ依據ス可キモ刑事ニ在テハ否ラス必ス真正ノ事實ニ基カサル可カラス故ニ檢事ハ違警罪ナリトシ又ハ二月以下ノ禁錮ニ該ル可キ輕罪ナリトシ區裁判所ニ起訴スルトキ區裁判所ハ其事件ヲ重キ輕罪又ハ重罪ナリト認ムルニ於テハ管轄邊ノ言渡ヲ爲サ、ル可カラズ蓋シ民事ハ私益ニ關スルノ訴訟ナルヲ以テ原告自ラ其私益ヲ損シテ請求ノ高ヲ減スルモ固ヨリ其隨意ニシテ裁判所ハ之ニ干渉シ其請求セサル部分ニ付キ裁判ヲ與フ可キニ非スト雖トモ刑事ノ訴訟ハ公益ニ關スルモノニシテ檢事ノ意ヲ以テ社會ノ公權ヲ害スルコトヲ許ス可カラス故ニ事實重キモノハ重キ所分ヲ爲スコトヲ要ス是レ刑事ニ在テハ檢事ノ申立如何ニ拘ハラヌ一ニ事實ニ依テ管轄ノ點ヲ判定ス可キ所以ナリ
前例ニ反シ區裁判所ノ權限ニ屬スル輕キ事件ヲ地方裁判所ニ訴ヘタルトキハ如何所分ス可キカ檢事ノ申立ニ依レハ其事件法律上區裁判所ノ權限ニ屬スル



コト明白ナル場合ニ於テハ地方裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シト雖トモ若シ最初起訴ノ主旨ニ依レハ其裁判所ノ權限ニ屬ス可キ事件ナリレモ審理ノ未發見シタル證憑ニ照シ始メテ其事件ノ區裁判所ノ權限ニ屬スルコトヲ覺知シタルトキハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可カラズ佛治罪法ニ依ルニ重罪審院ニ於テ事件ノ輕罪違警罪タルコトヲ知ルモ仍ホ自ラ裁判ヲ爲ス可シト定メタルニ拘ハラズ輕罪裁判所カ事件ノ違警罪ニ過キサルコトヲ知リタル場合ニ付テハ檢察官又ハ民事原告人ヨリ違警罪裁判所ニ送付スルノ請求ナキトキニ限り自ラ其裁判ヲ爲ス可キモノト爲セリ我法律ニ於テハ此ノ如キ區別ヲ立テス第二百四十條ヲ以テ裁判所地方裁判所ニ於テハ被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキト雖モ第一審ノ判決ヲ爲ス可シト規定シタリ是レ此場合ニ於テ地方裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シテ其事件ヲ更ニ區裁判所ニ起訴シ其第一審ノ判決ヲ受ク可キ者トスルトキハ無益ノ手續ヲ重ヌルノミナラス右區裁判所ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲ス者アルニ於テハ地方裁判所ハ復タ之カ判決ヲ爲サハル可カラズ左レハ此場合ニ於テハ地方裁判所ヲシテ直チニ判決ヒシム

ルヲ以テ最モ便利ナリトス然レトモ其判決ヲ第二審ノ判決ト同視スルニ於テハ訴訟人ハ爲メニ一審級ヲ失ヒ最早覆審ヲ求ムルコトヲ得ス事實上ノ判定ニ付キ當否ヲ争フノ權利ナキニ至ル法律ノ保護厚シト謂フ可カラサルナリ因テ治罪法ニテハ輕罪裁判所ハ被告事件違警罪ナルトキ終審即チ今日ノ所謂ル第二審ノ裁判言渡ヲ爲ス可シ治罪法第三百五十九條ト規定シタルモ刑事訴訟法ハ總テ第一審ノ判決ヲ爲ス可キモノト改メタリ

第四 被告人ノ身分ニ關スル權限 裁判所構成法第五十條第二號ニ依ルニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノハ豫審及裁判ハ大審院ノ特別權限ニ屬スルコトトヒリ是レ皇族ハ其身分殊ニ重ク常人ト待遇ヲ同クセシム可キニ非サルヲ以テ此特例ヲ設ケタルモノナリ然レトモ罰金ニ該ル輕罪及ヒ違警罪ニ付テハ其刑モ輕ク又其訴訟手續ニ付テモ代人ヲ以テ辯論ヲ爲スコトヲ許スヲ以テ此事件ニ付テハ普通ノ權限ニ從ヒ地方裁判所又ハ區裁判所之ヲ管轄スルモノトス



第二節 特別ノ權限

一般ノ權限ニ付テハ前節己ニ之ヲ説明セリ因テ本節ニ於テハ特別ノ權限ニ關シ講述スル所アラントス所謂ル特別ノ權限トハ即チ土地ニ關スル管轄ノ事ニ外ナラス

今茲ニ普通ノ竊盜ヲ犯ス者アリ而シテ其被告人ハ通常人ナリ此場合ニ於テハ一般ノ權限ニ從ヒ地方裁判所其事件ヲ管轄ス可キヤ明白ナリトス然レトモ地方裁判所ハ全國ニ遍シテ數十箇所ノ設アリ其中ニ就テ特別ニ管轄權ヲ有スル裁判所ヲ定メサル可カラズ若シ之ヲ定メサルトキハ一事件ニ付キ數十ノ裁判所各々裁判ヲ爲シ從テ自然抵觸ノ裁判下リ其信用ヲ害スルノ不都合ヲ生スルニ至ラン縱令ヘ抵觸ノ裁判ヲ下ス事ナシトスルモ各裁判所皆其事件ヲ自己ノ管轄ニ屬スルモノト主張シ互ニ相讓ルコトナキニ於テハ茲ニ權限爭ヲ生シ勢上級裁判所ノ判定ヲ請ハサル可カラサルニ至ラン是レ亦徒ラニ煩ヲ増スロノナリ故ニ特別ノ權限ハ必ス豫メ之ヲ定示セサル可カラズ

第二十六條ニ曰ク同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトスト蓋シ犯罪ノ地ニハ其犯罪ヲ目撃シタル證人モ在ル可ク其犯罪ノ證憑物件モ存ス可シ左レハ證人ヲ訊問シ犯罪ニ臨檢シ證憑物件ノ差押ヲ爲ス等犯罪ノ地ヲ以テ管轄ト爲ストキハ事實ノ取調上大ニ便益アル可シ加之ナラス犯罪ノ地ニ於テ裁判ヲ爲シ犯人ヲ刑ニ處スルトキハ被害者ハ勿論犯罪事件ヲ目撃耳聞シタル者爲メニ満足ノ感ヲ生シ又一般ニ惡事ノ爲ス可カラサルコトヲ知得シ坐ロニ刑罰ノ畏ル可キコトヲ感覺シ刑罰ノ効用大ニ顯著ナルノ好結果ヲ得ヘシ是レ犯罪ノ地ヲ以テ豫審公判ノ管轄ト定メタル所以ナリ

然レトモ犯罪ノ地ノミヲ以テ裁判管轄ト定ムル時ハ實際大ニ不便ヲ感スルコトナシトモ若シ其犯罪ノ地分明ナラザルトキハ之レカ管轄裁判所ナキヲ以テ公訴ヲ起スコトヲ得ス從テ犯人俸ニ法網ヲ免カル、ニ至ラン縱令ヘ犯罪ノ地分明ナリト雖モ被告人遠隔ノ地ニ住居スル場合ノ如キハ之ヲ犯罪ノ地ニ引致スルニ付キ費用ヲ要シ又徒ラニ日時ヲ費スノ不利益アリ被告人ヨリ之ヲ觀

ルモ其遠隔ノ地ニ引致セラレ、爲メ自然自由ヲ停止セラレ、コト永キニ涉リ且大ニ面目ヲ損スルヤ必然ナリ故ニ犯罪ノ地ノミニ限ラス尙ホ被告人ノ現在地ヲ以テ管轄ト爲スハ實際ニ於テ大ニ便利ナリトスル所ナリ若シ被告人ノ現在地ニ於テハ證人訊問及ヒ權證等ノ處分ニ付キ支障アルトキハ是等ノ處分ヲ他ニ囑託スルコトヲ得ヘシ是レ被告人所在ノ地ノ裁判所ニモ管轄權ヲ與ヘタル所以ナリ

右ノ如ク犯罪ノ地及ヒ被告人所在ノ地ヲ以テ管轄ト定メタルニ付テハ若シ被告人犯罪ノ地ニ非サル地ニ住居スルトキハ一事件ニ付キ二箇ノ管轄裁判所アルモノナルニ因リ孰レカ一方ノ裁判所ニ管轄權ヲ屬セシメサル可カラス又數箇ノ裁判所ノ管轄地内ニ於テ一罪若クハ數罪ヲ犯ス場合ノ如キハ亦管轄裁判所數箇アルヲ以テ其中ニテ實際管轄ス可キモノヲ選擇セサル可カラス一罪ニ付キ同時ニ數箇ノ裁判所ニテ裁判ヲ爲スハ管ニ益ナキノミナラス其裁判彼此相抵觸シ爲メニ信用ヲ害スルノ恐アレハナリ數罪ニ付テモ我刑法ハ一ノ重キニ從テ處斷ス可キモノト定メ違警罪ノ外ハ數刑ヲ併科スルコトナシ左レ

共犯集合ノ原則

ハ各罪ヲ別テ各管轄裁判所ニテ審判スルモ唯無益ノ手數ヲ重ヌルノミニシテ公私ノ爲メ寸毫モ其利アルコトナシ故ニ法律ハ以上列記セルカ如キ數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリト定メタリ蓋シ前ニ審判ニ着手シタル裁判所ハ最モ事實ヲ知り得タルモノナル可ケレハ此裁判所ニ管轄ヲ屬セシムルトキハ訴訟ノ落着ク見ルコト他ノ裁判所ヨリ迅速ナル可キノ道理アルヲ以テナリ
僭罪ハ必シモ一人ニテ犯スモノニ非ス數人共謀シテ之ヲ犯スコトアルハ吾人ノ常ニ見聞スル所ナリ其數人共謀シテ犯スモノハ法律ハ之ヲ共犯ト稱シ而シテ現ニ犯罪ノ所爲ニ干預シタル者ハ皆之ヲ正犯トシ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助スルニ止マル者ハ之ヲ從犯トス斯ク正犯從犯ノ區別アリト雖モ要スルニ一ノ犯罪ニ付キ數人ノ干預シタルニ外ナラスシテ犯人ノ數ニ等シキ犯罪アルニ非サルヤ論ヲ按タズ左レハ其被告人ノ多數ナルニ拘ハラス之ヲ一箇所ニ集合シ審理裁判スルヲ以テ至當ノ事ナリトス且實際ノ便利上ヨリ考察スルモ共犯ヲ各所ニ分チテ審判セシムル時ハ自然事實ノ分明ヲ缺キ一方ニ於テハ甲ヲ



正犯乙ヲ從犯ト認メテ乙ヲ輕キ刑ニ處シ他ノ一方ニ於テハ之ニ反シ乙ヲ正犯
 甲ヲ從犯ト認メテ甲ノ刑ヲ輕フスル等其裁判互ニ抵觸シ信用ヲ損スルノ恐ア
 ル可シト雖モ同一ノ裁判所ニテ同時ニ共犯ノ審理ヲ爲ストキハ或ハ共犯ヲシ
 テ互ニ對質セシムル等ノ方法アリ爲メニ正犯從犯ヲ誤認スルカ如キ憂決シテ
 レナキノミナラス事實發見ノ上ニ於テ種々ノ好都合アル可シ因テ法律ハ第
 二十八條ヲ以テ從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトシ又數箇ノ
 裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手
 シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリト定メタリ

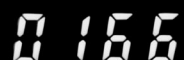
法律ハ此ノ如ク共犯ヲ一箇所ニ集合シテ審判ス可キモノト規定シタルモ此規
 定タル其共犯ノ罪同時ニ發覺シ同時ニ審理スルコトヲ得ヘキ場合ニ適用ス可
 キモノニシテ甲者ノ罪ヲ裁判シ了リタル後其共犯タル乙者ノ罪發覺シタル場
 合ニマテ此規定ヲ及ホス可キニ非ス是レ蓋シ法律ノ精神ナラン若シ然ラス
 テ此規定ヲ一般ノ場合ニ及ホス可キモノトスルトキハ法律ハ便利ヲ得ント欲
 シテ却テ不便利ヲ招クモノト謂フ可シ例ヲ舉ケテ之ヲ證セン甲者正犯ト爲リ

乙者從犯ト爲リ東京ニ於テ強盜ヲ犯シ後甲者大阪ニ到リ又強盜ヲ犯シ即時發
 覺シテ公訴ヲ受ケタリ此場合ニ於テハ大阪裁判判ハ最初豫審ニ着手シタルヲ以
 テ東京ニ於ケル強盜罪ヲモ管轄ス可シ然ルニ其強盜罪ニ付キ乙者ノ從犯トレ
 テ之ニ干預シタルコトヲ覺知セズ止タ甲者ヲ一ノ強盜ノ刑ニ處シタリ後乙者
 ノ罪發覺シタルトキハ大阪裁判所ニ於テ之ヲ管轄ス可キカ大阪ハ乙者ヨリ之
 ヲ觀レハ犯罪ノ地ニ非ヌ又乙者所在ノ地ニ非ス唯其正犯タル甲者ヲ曾テ裁判
 シシ緣故アルニ過キス此緣故ノ爲メニ乙者ヲ遠ク大阪ニ護送シ其裁判所ノ審
 理ヲ受ケレメントスルハ實ニ不便ヲ極メ無用ノ手續ヲ行フモノニ非スシテ何
 ツヤ故ニ第二十八條ノ規定ハ共犯ヲ同時ニ審判ス可キ場合ニ限り之ヲ適用シ
 他ノ場合ニ於テハ普通ノ規定ニ從ヒ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ニ於テ管轄
 ス可キモノト解釋スルヲ至當ナリトス

共犯集合ノ例外

共犯集合ノ原則ニ付テハ二箇ノ例外アリ一ハ常人ト軍人トノ共犯事件一ハ皇
 族ト常人トノ共犯事件是ナリ

第一 常人軍人ノ共犯事件ハ普通裁判所ニ於テ管轄ス可キカ將テ陸海軍々法



會議ニ於テ管轄ス可キカ佛國法ニ依ルニ普通裁判所ニテ常人軍人併セテ管轄スルモノト定ム是レ共犯ハ成ル可ク集合シテ審判スルヲ至當トスルモ常人ヲ軍事裁判所ニ移スハ其天然ノ裁判管轄ヲ離レシムルモノニシテ常人ノ爲メニハ大ニ不利タルヲ免カレス寧ロ軍人ヲ其特別ノ裁判管轄ヨリ離シ尤モ利益アル普通裁判所ノ管轄ニ屬セシムルヲ可トシ此ノ如ク規定シタルモノナラン然ルニ我陸海軍治罪法ニ於テハ最初ハ佛國法ト此反對ノ方向ヲ執リ常人ト雖モ軍人ト共ニ犯ス者ハ其罪質ノ如何ヲ問ハス軍法會議ノ管轄ニ屬セシメタリ是レ軍人ヲ普通裁判所ニ移ストキハ之ヲシテ軍旗ノ下ヨリ離レシムルノ不都合アリト認メタルニ由ル然レトモ軍法會議ニ於テハ辯護人ヲ用ユルコトヲ許サス又審問裁判ヲ公行セス其裁判ニ對シ上訴スルヲ許サ、ル等常人ノ爲メニハ不利益太甚シキモノアリ加之ナラス兇徒聚衆ノ如キ數千數萬ノ被告人中僅カニ一二名ノ軍人之ニ加ハリタルトキ悉ク舉ケテ軍法會議ノ管轄ニ屬セシムルハ實際處分上ニ於テモ不都合少カラス(實例アリ是ニ於テ明治十七年第十二號布告ヲ以テ)軍人常人共ニ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ軍人ハ軍法會議ノ判決

ニ付シ常人ハ普通裁判所ノ公判ニ付ス軍術ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ常人ハ審問ノ上證憑書類ト共ニ之ヲ管轄ノ普通裁判所檢事ニ送致シ普通裁判所ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタル時ハ軍人ハ審問ノ上證憑書類ト共ニ之ヲ被告人ノ所屬廳若クハ陸海軍檢察官ニ送致ス可シト定メ又二十一年陸軍治罪法ヲ改正シ二十二年海軍治罪法ヲ改正シ共ニ從前ノ規定即チ常人ヲモ軍法會議ニテ審判スルノ條項ヲ削除シ且陸軍治罪法第七十一條海軍治罪法第七十六條ヲ以テ軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄軍法會議所所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シトノ明文ヲ設ケ以テ常人軍人共犯事件ハ各引分ケテ管轄スルコトト爲レリ

第二 皇族ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタルトキハ大審院ニ於テ之ヲ管轄スルコトハ已ニ前ニ說示セリ若シ皇族正犯ニシテ常人從犯ナルトキハ原則ニ從ヒ常人ヲモ大審院ノ管轄ニ屬セシメテ不都合アルヲ見スト雖モ常人正犯ニシテ皇族從犯ナルトキ又ハ共ニ正犯ニシテ地方裁判所又ハ區裁判所最初ニ着手シタルトキハ普通ノ規則ニ從ヘハ皇族ヲシテ大審院ノ管轄ヲ離レ

シメサル可ラス然ルトキハ皇族ノ身分ヲ重シテ大審院ノ管轄ニ屬セシメタルノ旨趣ヲ貫クコト能ハサルナリ因テ法律ハ例外トシテ皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯後犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄スルモノト定メタルリ
以上講述スル所ノモノハ内地ニ於ケル犯罪ノ裁判管轄ニ關ス若シ犯罪ノ地外
國ナルトキハ其外國ノ土地ヲ以テ管轄ト爲スコト能ハサルヤ勿論ナリ故ニ内地ニ就テ管轄裁判所ヲ指定セサル可カラス第二十九條ハ即チ此規定ヲ爲シタルモノナリ

外國ニ於ケル犯罪ノ管轄

第二十九條ニ依レハ在外國ノ犯罪ニ付テハ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトシ又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス若シ闕席判決ヲ爲スコキ場合ニ係ルトキハ被告人最後ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス此ノ逮捕ノ地ヲ以テ管轄ト定メタルハ直チニ審理ニ着手スルノ便アルニ由ル又條約等ニ依リ外國政府ヨリ引渡ヲ得ルカ若クハ我駐劄公使等ヨリ送致シ來ル場合ニ於テ其送致ノ目的タル地ヲ以テ管轄ト定メタルハ其最初着港ノ地ハ一時通過ノ爲メニスル道路ニ過キサレハナリ又闕席判決ヲ被告人最後ノ住所ノ地ニ於テスルハ之ヲ他ノ地ニ比スレハ被告人ニ縁故アリ且證憑物件等多少其地ニ存在スルコトアル可キヲ以テナリ

海船内ニ於ケル犯罪ノ管轄

又海船内ノ犯罪ニ付テハ犯罪ノ場所陸上ニ在ラサルカ故ニ陸上ノ規定ニ依ラシムルコト能ハス因テ第三十條ヲ以テ其船舶ノ定繫港又ハ犯罪後最初ニ着船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリト定メテリ蓋シ船内ノ犯罪ニ付テハ船長司法警察ノ職務ヲ行フヲ以テ其現行犯ニ係ルモノハ船長假處分ヲ爲シ而シテ定繫港又ハ最初着船シタル地ノ檢事ニ其事件ヲ交付シ該地ニ於テ審判セシムルヲ最モ便利ノリトス其非現行犯ニ係ルモノニ付テハ此便利ヲ缺クカ如シト雖モ他ニ管轄ヲ屬ス可キ至當ノ場所ナキヲ以テ犯罪ノ場所ト同視ス可キ定繫港又ハ着船ノ地ヲ以テ管轄ト定メタルナリ

裁判所職員除斥及忌避回避

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避

裁判所ノ構成法律ニ適シ而カモ其現ニ審理スル事件其權限内ニ在ルトキハ其判決他ニ環瑾アラサル以上ハ固ヨリ有效ノモノト爲サハル可カラズ然レトモ法律ハ其構成ノ前章ニ說示シタルカ如ク定數ノ判事其裁判ニ參與シ檢事及ヒ書記之ニ立會ヒタルノミヲ以テ完全ナリトセス其審判ヲ爲ス可キ判事ニ付テ一ノ制限ヲ設ケタリ第四十條ノ規定即チ是ナリ
第四十條ニ依ルニ判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラレモトス

第一 判事被害者ナルトキ 蓋シ被害者ハ犯人ニ對シ惡惡ノ情ナキ能ハス判事モ亦人ナリ安ソ此情ナキヲ保ス可ケンヤ左レハ被害者タル判事ヲシテ裁判セシムルニ於テハ自然被告人ニ不利益ヲ及ホシ嚴刑酷罰ヲ適用スルヲ憚カラサルノ恐ナシトスタトヒ判事ニシテ公平ヲ保チ寸毫モ私意ヲ交フルコトナキモ世人ハ仍ホ其間ニ疑ヲ容レ裁判ノ當否ニ付キ喋々スル者亦之ナシト斷定シ難シ是レ玆ニ裁判ノ公平ヲ保チ其信用ヲ鞏固ナラシメンカ爲メ被害者タル判事ヲ除斥シ其關係アル事件ノ審理ニ與ルコトヲ禁レタル所以ナリ

第二 判事又ハ其配偶者ト被告人被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ 判事又ハ其配偶者ト被害者又ハ其配偶者ト親屬ナル場合ニ於テ判事ヲ除斥スルハ前段ニ說示シタル判事自ラ被害者ナル場合ニ於テ之ヲ除斥スルト其理由ヲ同シフス我父母兄弟妻子等ノ近親被害者ナルトキハ自身被害者ナルト殆ト異ナル所ナク人情ノ常トシテ是等ノ者ノ爲メニ報復ヲ望ムノ傾向アルヲ免カレサレハナリ其被告人又ハ其配偶者ト親屬ナル場合ニ於テ判事ヲ除斥スルハ全ク前ノ場合ト異ナリテ親屬タル者ハ互ニ相容隱ス可キ道德上ノ義務アルカ故ニ此義務アル者ヲシテ裁判セシムルトキハ勢ヒ被告人ヲシテ不正ノ利益ニ浴セシムルヲ免カレス且此弊ナシトスルモ強テ其親屬ノ罪ヲ斷セシムルハ實ニ忍ヒサルノ事ヲ行ハシムルモノニシテ法律自ラ道德ヲ破ルモノト謂ハサル可カラス故ニ親屬被告人ト爲ル場合ニ於テハ其判事ヲ除斥シ以テ職務ノ爲メニ道德上ノ義務ニ反スルコトナカラシム
婚姻ノ關係ニ因テ親屬ト爲リタル者即チ姻族ニ付テハ法律ハ其婚姻ノ解除セタルトキト雖モ亦同シトノ明文ヲ加ヘ此場合ニモ仍ホ其判事ヲ除斥ス蓋シ純



理ヨリ論スレハ婚姻ノ一事以テ親屬ノ關係ヲ生セシメタルモノナルカ故ニ其
原因タル婚姻ニシテ解除セラルトキハ雙方ノ間復タ何等ノ關係ヲ存セス爾
後他人ヲ以テ之ヲ遇スルヲ至當トスルカ如シト雖モ實際上必シモ雙方ノ關係
ヲ斷絶スルモノト定ム可カラス例ヘハ我妻死去シ茲ニ婚姻解除スルト雖モ子
女存在スルトキハ其子女ハ亡妻ノ父母ヨリ觀レハ實ニ外孫タリ故ニ我ト亡妻
ノ父母トハ法律上ニ於テコソ親屬ノ關係ナケレ實際上ニ於テハ亡妻生ケルノ
日ト異ナラス彼我ノ間仍ホ相背クニ忍ヒサルノ情義ヲ存ス他ナシ子女アリ雙
方ノ縁ヲ繫ケハナリタトヒ又子女存在セサルモ妻死スルノ後ハ復タ其父母等
ヲ顧ルニ及ハスト言ハンカ道德人情共ニ決シテ之ヲ是認セサルナリ故ニ立法
者ノ此明文ヲ加ヘタルハ道德ニ合シ人情ニ適シ尤モ宜キヲ得タル規定ニシテ
其注意ノ周到ナルヲ見ルニ足ル可シ

論者或ハ言ハン離婚ニ因テ婚姻解除シ而カモ其夫婦間ニ子女ナキ場合ノ如キ
ハ法律上實際上必ス雙方ノ關係ヲ絶ツテ以テ此場合ニ於テハ判事ヲ除斥スル
ノ理由ナシト其レ然リ然レトモ此場合ニ於テモ判事ヲ除斥スルヲ必要トス开

ハ前ニ夫婦タリ親屬ノ關係アリシトノ理由アルノ故ニ非シテ離婚ノ爲メ雙
方ノ間ニ不快惡惡ノ感情ヲ遺存スルニ由ル乃チ判事被害者ナル場合ニ之ヲ除
斥スルト同シク此場合ニ於テモ之ヲ除斥スルヲ適當トスルナリ

第三 判事其事件ニ付キ證人鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者
ノ法律上代理人ナルトキ 判事タル者一個人ノ資格ヲ以テ或ル事件ニ付キ證
人ト爲ルコトアラン又判事ノ職ニ就カサル以前或ル事件ニ付キ鑑定ヲ爲スコ
トアラン此證人鑑定人ト爲リシ判事ヲシテ其事件ノ審判ニ干與セシメテ可ナ
ルカ曰ク否決シテ其干與ヲ許ス可カラス何トナレハ一旦證人鑑定人ト爲リ宜
誓シテ供述鑑定ヲ爲シタル者ハ少クモ其供述鑑定シタル點ニ付テハ必ス其前
ニ信實ト認メタル所ノモノヲ固執ス可クタトヒ反對ノ證據出ルコトアルモ前
言ヲ翻スコトヲ憚リ飽マテモ其意見ヲ貫カント欲ススコト亦之ナシトセス是
レ人々免カル可カラサルノ通弊ナリ左レハ證人鑑定人タリシ者ヲシテ裁判セ
シムルトキハ公明正大ナル裁判ヲ見ルコト難シト認メサル可カラス且一方ニ
於テハ證人鑑定人トシ他ノ一方ニ於テハ判事トシ自己ノ提出シタル證據ヲ取

テ之ヲ自己ノ心證ヲ作ルノ資料ト爲スカ如キハ理ニ於テ許ス可カラサルコトトス強テ其人ヲ判事ト爲サントセハ其人ノ提出シタル證據ヲ採用スルコトヲ禁制ス可シ若シ然ルトキハ現在スル證據ヲ故ナク之ヲ捨テ爲メニ此證據ヲ利用セントスル社會若クハ被告人ヲ害スルニ至ル可シ是レ會テ證人タリ鑑定人タリシ所ノ判事ヲ除斥シ其事件ニ干與スルヲ許サハル所以ナリ

判事カ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人タル場合ニ於テハタトヒ彼此ノ間親屬ノ關係ナキモ元ト離ル可カラサルノ關係アリテ當然代理人ト爲ルモノナレハ其情義ハ親屬間ニ於ケルト同一ナリト看做サハル可カラス且法律上代理人ハ其代理セラル、無能力者ノ利益ヲ保護ス可キ責任アルヲ以テ勢ヒ無能力者ノ利益ト爲ル可キ裁判ヲ下スノ嫌アルヲ免カレス是レ此場合ニ於テモ除斥ヲ命シタル所以ナリ

第四 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ 古人曰ク先入爲主ト左レハ最初豫審ヲ行ヒ被告事件ハ何罪ニ該ル其犯人ハ何人ニ相違ナシト認メ終結ノ決定ヲ爲シタル上ハ其判事ヲ

シテ公判ニ干預セシメ又ハ其決定ニ對スル抗告ノ裁判ニ干預セシムルトキハタトヒ訴訟ノ模様一變レ反對ノ證據出ルコトアルモ仍ホ前ノ意見ヲ改ムルコトナカル可シ第一審ノ裁判ヲ爲シタル者モ亦第二審ノ裁判ニ於テ前裁判ニ反スル意見ヲ主張スルコトナカル可シ第二審ノ裁判ニ干預シタル者ノ終審ノ裁判ニ於ケルモ亦同シ是レ法律カ此除斥ヲ規定シタル所以ニシテ要スルニ豫斷ヲ爲シタル者ヲシテ再度ノ取調ニ與ラシメヌ再度ノ取調ハ清淨ナル頭腦ヲ有スル者ニ擔當セシメ公明正大ナル裁判ヲ與ヘシメンカ爲メナリ

以上列舉シタル四箇ノ場合ニ於テハ判事ハ當然其職務ノ執行ヨリ除斥セラレ之ニ干與スルコトヲ得ス若シ之ニ干與スルコトアレハ其裁判ハ不法ノモノトシテ破毀若クハ廢棄セラル、ヲ免カレス然ラハ上告裁判所ノ判事申除斥ノ原由アルニ拘ハラヌ其裁判ニ干與シタルトキハ如何ナル方法ヲ以テ其裁判ノ取消ヲ求ム可キカ説ヲ爲ス者曰ク上告裁判所ハ法律適用ノ當否ヲ鑑別スルニ止マリ事實ニ付キ裁判ヲ爲ス可キ所ニ非ス而シテ事實ノ點ハ判事ノ私心ヲ以テ隨意ニ之ヲ枉ケ罪アル者ヲ罪ナシトシ罪ナキ者ヲ罪アリトスルコトヲ得ヘキ

モ法律ノ點ハ決シテ之ヲ枉クルコト能ハス左レハ法律ノ點ノミヲ裁判スル上
告裁判所ノ判事ニ付テハ如何ナル理由アルモ之ヲ其職務ノ執行ヨリ除斥スル
必要ナク又除斥ス可キ理由アルヲ見ス況ヤ此除斥ニ關スル規定ヲ及ホスモノ
トスルモ萬一之ニ違背スルコトアラハ何レノ裁判所ニ於テ其不法ノ裁判ヲ取
消スコトヲ得ルカ上告裁判所ノ上ニハ裁判所ナレ然ラハ其不法ノ裁判ハ依然
效力ヲ有ス可ク無効ノ制裁ヲ及ホスコトヲ得サルモノトス故ニ此除斥ニ關ス
ル規定ハ第二審以下事實ノ審判ヲ爲ス可キ裁判所ニミ適用ス可ク上告裁判
所ニマテ適用セシムルノ精神ニ非スト解釋ス可シト此說一應理ナキニ非サル
カ如シト雖モ余ハ之ニ服スルコト能ハス何トナレハ第一法律ノ意ニシテ果シ
テ說者ノ言ノ如クナランニハ法律ハ此規定ノ上告裁判所ニ及ハサルコトヲ明
言ス可キニ之ヲ明言セスレテ一般のニ規定ヲ爲セリ第二上告裁判所必スレモ
ニ法律ノ點ノミヲ見テ決シテ事實ノ點ヲ見ルコトナレト斷定ス可カラズ擬律
ノ錯誤等ニ因リ原判決ヲ破毀スルトキハ上告裁判所自ラ事實上ノ裁判ヲ爲ス
ニ非スヤ又法律ノ點ニ付テモ或ハ原裁判ハ法式ニ違ヘリトカ或ハ原裁判所ハ

越權ノ處分ヲ爲セリトカ凡ソ是等ノ争ニ付テハ判事ノ見込ニ依リ如何様ニモ
認定ヲ下スコトヲ得ヘシ左レハ嫌疑ヲ容ル可キ判事ヲシテ其裁判ニ干與セシ
ムルノ危険ナシト云フ可カラズ又裁判ノ信用ヲ保ツ所以ニ非サルナリ故ニ余
ハ此規定ヲ一般ノ裁判所ニ及ホス可キモノト確信ス但タ上告裁判所此規定ニ
背キタル場合ニ制裁ヲ施スコト能ハサルハ勿論ナリト雖モ遺ハ裁判所ノ階級
限リアルノ致ス所ニシテ法制上己ムヲ得サルモノトス此一理由ヲ以テ上告裁
判所ヲ例外ニ置カントスルハ不當モ亦太甚シト云フ可シ

借除斥ノ理由アル判事其事件ニ干與スルトキハ訴訟關係人他日上訴ニ依リ其
裁判ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ルハ前段說示スル所ノ如シト雖モ目前干與ス可
カラサル判事ノ干與スルヲ看過シ徒ニ不法ノ裁判ノ下ルヲ待タシム可キニ非
ス因テ法律ハ此場合ニ於テ檢事其他訴訟關係人ヨリ判事ヲ忌避スルコトヲ許
セリ又除斥ノ理由ナキモ其判事カ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フ可キ情況ア
ルトキ之ヲ忌避スルコトヲモ許セリ蓋シ判事ノ不公平ヲ疑フ可キ場合ハ前
四箇ノ場合ニ限ラス或ハ判事ト被告人若クハ被害者ト膠漆ノ交アルカ或ハ其

間解ク可カラサルノ宿怨アルカ或ハ判事カ賄賂ニ非サルモ彼等ヨリ贈物ヲ收受シタル等ノ場合ニ於テハ同シク其判事ニ正當ナル疑アルヲ以テ之ヲ忌避スルノ權ヲ與ヘサル可カラス但タ是等ノ場合ハ何レモ特別ノ事情アルニ由ルモノニシテ一概ニ其判事ノ不公平ヲ疑フ可キニ非サルヲ以テ法律ハ單ニ訴訟關係人ヨリ忌避スルコトヲ許スニ止マリ當然其職務ノ執行ヨリ除斥セサルナリ一忌避ノ申請ヲ爲ス可キ時機ニ付テハ法律ハ區別ヲ立テ除斥ノ原由アル場合ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトシ偏頗ノ恐アル場合ハ其偏頗ヲ疑フ可キ原由ノ生シタルニ拘ハラズ訴訟關係人本案ニ付テ其判事ノ面前ニテ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル上ハ最早此申請ヲ爲スコトヲ得スト定メタリ是レ一ハ法律自ラ判事ノ偏頗ヲ疑フ一般ノ場合ニ係リ而カモ其疑ハ常ニ存スルカ故ニ時期ニ制限ヲ置カサルモ一ハ訴訟關係人カ疑ヲ挾ム特別ノ場合ニ係ルカ故ニ其疑ノ生シタル上ハ直ニ申請ヲ爲スヲ相當トス申請ヲ爲サシテ本案ノ辯論ヲ爲ス者ハ判事ニ信用ヲ置キタルモノト見做サ、ル可カラス第二ノ場合ニ制限ヲ付シタルハ則チ之カ爲メナリ

忌避ノ申請ハ其判事所屬ノ裁判所ニ爲ス可キモノニシテ書面ヲ以テスルモ口述ヲ以テスルモ訴訟關係人ノ隨意トス但其忌避ノ原由ハ必ス之ヲ説明セサル可カラス又本案ノ辯論ヲ爲シタル上ニテ偏頗ノ爲メ忌避ヲ爲サントスルトキハ其原由ノ辯論ヲ始メタル後ニ生シ又ハ後ニ之ヲ覺知シタルコトヲ説明ス可キモノトス

若シ區裁判所管轄ノ事件ニ付キ其判事忌避セラレタル場合ニ於テ判事其申請ヲ正當ナリトスルトキハ己レ其職務ヲ避ケ他ノ代理スヘキ權アル者代リテ其事件ヲ執ル可シト雖モ判事其申請ヲ正當ナラズトスルトキハ自ラ之カ裁判ヲ爲ス可キニ非サルヲ以テ其申請ヲ上級裁判所タル地方裁判所ニ廻付シ其裁判ヲ受ケサル可カラス地方裁判所以上ノ裁判所ニ在テハ判事ノ員數衆多ナルヲ以テ忌避セラレタル判事ヲ除キ他ノ判事ニテ之カ裁判ヲ爲ス可シ若シ他ノ判事定數ニ滿タズ合議裁判所ヲ構成スルコト能ハサルトキハ直近上級ノ裁判所ニ付シテ裁判ヲ受ク可キモノトス

忌避ノ裁判ニ付テハ先ツ忌避セラレタル判事ヨリ申請ノ理由ノ有無當否ニ付

キ職務上ノ意見ヲ述フ可シ而シテ後口頭辯論者クハ書類審査ニ着手ス其口頭辯論ハ多クハ必要ナキヲ以テ之ヲ行ハサルヲ可トス

右ノ裁判ニテ申請ヲ正當ナリト決定シタル時ハ申請者ハ其目的ヲ達シタルカ故ニ固ヨリ此裁判ニ不服ヲ懷ク可キ筈ナシ因テ法律ハ上訴等ヲ爲スヲ許サス又其相手方ニ於テハ必ス某判事ノ裁判ヲ受ク可キ權利アリト主張シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ是亦此裁判ニ對シ不服ヲ申立ルコトヲ許サス唯申請ヲ不正當ナリトスル裁判ニ對シテハ申請者ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

公判中忌避ノ申請アリタルトキハ辯論ヲ中止シ以テ其裁判ヲ待ツモノトス是レ其申請不當ナルヤ知ル可カラスト雖モ公判ハ左程急速ノ處分ヲ要スルコトナキノミナラス若シ其申請正當ナルトキハ辯論ヲ行ヒ手數ヲ盡スモ後ニハ皆無効ニ歸ス可キカ故ニ寧ロ中止スルヲ可ナリトシテ法律ハ即チ此規定ヲ爲シタルモノナリ豫審ハ公判ニ異ナリ證據集取ヲ唯一ノ目的トシ而シテ其處分ハ最モ急速ヲ要ス一日集取ヲ怠レハ一日ノ害アリ應サニ得ヘキ證據モ湮滅散亂スルノ患アルカ故ニ忌避ノ申請アリタルニ拘ハラズ其處分ヲ繼續ス可キモノトス但急速ヲ要セサル處分ハ豫審判事ノ見込ニ依リ中止スルモ妨ナキナリ

忌避ノ外ニ回避ナルモノアリ彼ノ訴訟關係人ヨリ判事ニ嫌疑ヲ懷キ其裁判ニ干與スルコトヲ止メントスルモノニシテ此ハ訴訟關係人ノ申請ナキモ判事自ラ他ノ嫌疑ヲ避ケンカ爲メ其事件ニ干與スルコトヲ免カレントスルモノナリ蓋シ判事モ亦人ナリ如何ニ職務ノ爲メナリト雖トモ我カ信友我カ恩人等被告人ト爲テ目前ニ在リ之ヲ審訊シ其罪ヲ斷スルハ人情忍フ能ハサル所ナリ故ニ是等ノ場合ニ於テハ判事自ラ回避スルコトヲ許セリ然レトモ回避ニモ亦相當ノ理由ナカル可カラス而シテ其理由ノ相當ナルヤ否ハ判事自ラ判定ス可キニ非サルヲ以テ其判事ヨリ忌避申請ノ管轄裁判所ニ申立テ以テ其裁判ヲ仰ク可キモノトス此裁判ハ訴訟關係人ノ申請ニ基クモノニ非サルヲ以テ裁判所ハ訴訟關係人ノ辯論ヲ聽クヲ要セス單ニ判事ノ申立ニ付キ裁判ヲ與フ可ク隨テ訴訟關係人ハ其裁判對シ不服ヲ申立ルコトヲ得サルヤ勿論ナリトス

以上說示シタル除斥及ヒ忌避回避ノ事ハ之ヲ裁判所書記ニ准用ス而シテ其忌避回避ニ付テノ裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲シ敢テ上級裁判所ヲ煩ハスコ

トナレ蓋シ書記ハ豫審公判ニ立會ヒ調書公判始末書等重要ナル訴訟記録ヲ作ルモノナレハ或ハ被告人ニ縁故アルカ爲メ故ラニ筆ヲ曲ケテ其不利益ト爲ル可キ事ヲ記載セス或ハ被害者ニ縁故アルカ爲メ文ヲ舞ハシテ被告人ノ害ト爲ル可キ無稽ノ事ヲ記載スルノ嫌疑ヲ免カレス是レ除斥等ノ規定ヲ準用シタル所以ナリ

茲ニ注意ス可キハ法律ハ準用スト言ヒテ適用スト言ハス準用トハ用ユ可キモノヲ用非用ユ可カラサルモノヲ捨ルノ意ナレハ前ニ規定シタル事柄ニシテ判事ニ限リ用ユ可キ性質ノモノハ之ヲ書記ニ用ユ可カラス例ヘハ豫審終結ニ干與シタル者公判ニ干與スルヲ許サ、ルカ如キハ判事ニ限ルノ事ナルヲ以テ書記ハ豫審公判共ニ之ヲ立會フモ不法ニ非ス隨テ忌避ヲ許ス可キニ非ス

檢事ニ付テハ法律之ヲ除斥セス又其忌避回避ヲ許サス是レハ檢事請求處分ヲ擔當スルニ過キサルヲ以テ自ラ被告人ニ利不利ナル處分ヲ爲スコトナク、トヒ故ラニ利不利ナル處分ヲ請求スルモ判事アリ之ヲ取捨スルカ故ニ如何ナル關係ヲ被告人被害者トノ間ニ有シ又如何ナル情况アルモ其事件ニ干與セシ

メテ實書ヲ生スルコトナク又爲メニ裁判ノ信用ヲ傷フコトナキニ由ル一ハ忌避ニ付テハ訴訟人相互ニ忌避スルコトハ性質上許容ス可カラサル事ナルニ由ル或ハ子トシテ父母ヲ訴フルカ如キハ人情忍フ能ハサル所ナルヲ以テ檢事ノ回避ハ舊治罪法ニ規定シタルカ如ク法律之ヲ明許スルヲ相當ナリト爲スニ似タリト雖モ元來檢事ハ一體ニシテ分ツ可カラサルモノナルカ故ニ必スシモ某檢事ヲシテ其事件ニ干與セシメサル可カラサルノ理ナク甲檢事ニシテ被告人等ト親屬ナル等ノ關係アルトキハ乙檢事ヲシテ之ヲ擔當セシムルコトヲ得ヘシ左レハ甲乙互ニ相代ルニ付キ特ニ裁判ヲ要スルコトナク一ニ檢事局内ノ便宜處置スルニ任セテ可ナリ是レ法律ニ於テ何等ノ規定ヲモ爲サ、ル所以ナリ

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審

刑事訴訟ニ於ケル最後ノ目的ハ刑罰ヲ適用スルニ在リ此刑罰ヲ適用スルニ付テハ先ツ事實ヲ審按シ罪ノ有無ヲ判明ニスルヲ要ス罪ノ有無ヲ判明ニスルニハ先ツ其證據徴憑ヲ集取スルヲ要ス證據徴憑ヲ集取スルニハ先ツ之ヲ捜査セサル可カラス左レハ第一證據徴憑ヲ捜査シ第二之ヲ集取シ第三之ヲ審按シテ罪ノ有無ヲ決シ第四有罪者ニ刑ヲ科スルニ至リテ刑事訴訟ノ目的ヲ達スルモトス是レ即チ治罪上當然ノ順序ナルカ故ニ法律ハ第三編ニ於テ捜査起訴豫審ノ事ヲ規定シ次ニ第四編ニ於テ公判ノ事ヲ規定シタリ余モ亦此順序ニ從ヒ一々講説スル所アラシ

第一章 捜査

捜査ハ下調處分ノ一ニシテ之ヲ司法警察ト稱ス其目的トスル所ハ犯罪ノ原因性質方法情狀日時場所被告人ノ氏名年齢職業住所身分品行前科ノ有無及ヒ證

人其他證據微憑等總テ犯罪ニ關係アル事物ヲ探求シ之ヲ取調ヘ以テ檢事ノ公訴ヲ提起實行スルノ資料ニ供スルニ在リ左レハ搜查ハ終始公訴ト相伴ヒ公訴權ノ生スルヤ搜查權モ亦同時ニ生シ公訴權ノ消滅スルヤ搜查權モ亦同時ニ消滅ス其關係恰モ影ノ形ニ於ケルト一般ナリ然レニ佛國法ニ於テハ司法警察ハ犯罪ヲ搜查シ其證據ヲ集取シ以テ其犯人ヲ刑罰ヲ掌ル裁判所ニ交付スルモノナリトノ定義ヲ下シ苟クモ被告事件ヲ公判ニ付シタル上ハ司法警察復タ之ニ干渉スルコトナキカ如ク規定シタルヲ以テ世人或ハ我法律ノ搜查即チ司法警察ヲ彼ノ所謂司法警察ト同一視シ搜查ノ權ハ證據集取ノ事ニ及フ可ク又公判開廷前ニ於テ其處分完結ヲ告ク可キモノナリト説ク者ナシトセス是レ誤認ノ甚シキモノナリ因テ聊カ之ヲ左ニ辯セン

佛國法ハ搜查ト豫審トヲ區別セス司法警察ノ中ニ此二ノ處分ヲ包括セシメタルカ如シフキースタン、エリー、氏曰ク司法警察ハ裁判官ノ審理ニ先ツモノニシテ此警察ハ犯罪發見ノ時ニ始マリ裁判官ノ公訴ヲ受理シ自ラ其處分ニ着手スル時ニ終ルモノナリ此警察ノ全權ヲ握ル者ハ豫審判事ニシテ其他ハ檢事ト雖モ

或ニ場合ニ限リ且ツ或ル制限ニ依ルニ非サレハ此警察ヲ行フコトヲ得ストオルトラン、氏モ亦此説ヲ爲セリ是ニ由テ觀レハ彼ノ所謂司法警察ハ我ノ所謂豫審ニ相當リ而シテ我ノ所謂搜查ハ彼ノ司法警察中ニ包括セスト爲ヌヲ寧ロ適切ノ見解ナリト爲ス可キニ似タリ

我法律ハ搜查ト豫審トヲ判然區別シ而シテ搜查即チ司法警察ハ公訴ノ提起實行ノ資料ヲ得ルニ在リトスルヲ以テ檢事ヲ長官ト爲シ豫審判事ノ如キハ此處分ニ與ラサルモノトス又豫審ハ豫審判事專ラ之ニ任シ有力ナル方法ヲ用井テ證據ヲ集取スルモノトス左レハ我法律ニ於テハ司法警察ノ處分ハ公力ヲ用井テ執行スルコトヲ許サス公力ヲ用ユルハ豫審處分ニ限ルナリ此ノ如ク彼我法律ノ精神ヲ異ニスルカ故ニ彼法ヲ以テ我法ヲ解スルノ標準ト爲ス可カラス是ヲ以テ余ハ明言ス公訴己ニ起リ裁判所自ラ其事件ニ干渉スルニ至ルモ司法警察ハコトニ其完結ヲ告ケタルモノト爲ス可カラス公訴ノ存スル以上ハ仍ホ之ヲ補助ト爲リ其資料ヲ供給スルヲ要スト論者或ハ言ハン公訴己ニ起リタル上ハ裁判所其職權ヲ以テ新ナル證據ヲ集取ス可キニ因リ司法警察ハ復タ之ニ



干渉ス可キニ非ス總テ裁判所ノ爲ス所ニ一任スルヲ要ス左レハ公訴ノ提起ヲ以テ司法警察ノ限界ト爲スモ敢テ不當ニ非サル可シト夫レ然リ裁判所ハ其職權ヲ以テ新ナル證憑ヲ集取スルコトヲ得ルハ或ル者ノ言フ所ノ如シト雖モ裁判所ニ此職權アルヲ頼ミ檢事タル者空シク袖手傍觀ス可キニ非ス豫審ト公判トヲ問ハス公訴已ニ提起セラレタル後ト雖モ尙ホ捜査ヲ爲シ新ナル證憑ヲ發見セハ之ヲ裁判所ニ提出シ又ハ其集取ヲ裁判所ニ請求セサル可カラズ是レ實ニ公益ノ代表者タル檢事ノ當サニ務ムヘキ所ナリトス故ニ余ハ斷言ス曰ク我捜査即チ司法警察ハ第一佛法ト異ナリテ其名稱ノ如ク單ニ犯罪ヲ捜査スルニ止マリ彼國ノ如ク公力ヲ用ヒテ證憑ヲ集取スルコトヲ包含セス第二佛法ト異ナリテ事件ノ公訴ニ移リタル後ト雖モ尙ホ捜査ノ權消滅セス公訴實行ノ資料ヲ得ル爲メ其處分ヲ行フコトヲ要スト

前述ノ如ク捜査ノ權ハ公訴ノ權ニ隨伴スルモノナルヲ以テ公訴ノ權生スルヤ捜査ノ權モ亦直チニ生スルヲ以テ此職務ニ任スル者犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ即時其事ニ從フ可キヲ當然トス是レ即チ通例ノ事ナリトス然ルニ公訴ニ付テハ停止アルモノナリ此停止ノ場合ニ於テハ捜査モ亦停止セラル可キカ

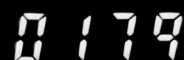
公訴停止ノ場合ハニアリ第一被害者又ハ其親屬ノ告訴アルコトヲ要スル場合第二豫メ上奏シテ允許ヲ受クルコトヲ要スル場合はナリ此第一ノ場合ニ於テハ捜査モ亦之ヲ停止スルコトヲ要スト雖モ第二ノ場合ニ於テハ必シモ然ルコトヲ要サセラル

第一ノ場合ニ於テ捜査モ亦之ヲ停止スルコトヲ要スルノ理由如何蓋シ猥褻姦淫ノ罪及ヒ幼者ヲ畧取誘拐スル罪ノ如キハ已ニ前ニ陳ヘタルカ如ク一家内ノ隱微ニ係ルモノニシテ之ヲ摘發セハ爲メニ一家ノ和合ヲ破リ又被害者ノ名譽ヲ害スルノヨナラス一般ノ風俗ヲ壞ルノ基ト爲ルノ恐アリ故ニ被害者等ノ告訴ナケレハ公訴ヲ提起セサルコト、定メタルモノナリ左レハ今若シ捜査ノ處分ヲ行フコト妨ケスト爲ストキハ此處分ノ爲メ自然其事ヲ世上ニ公ケニシ法律カ被害者ヲ保護セント欲シ其事ヲ秘密ニセント欲スルノ旨趣ニ反スルニ至ルヤ必然ナリ又誹毀ノ罪脅迫ノ罪ノ如キハ損害ノ生シタルヤ否ヤハ被害本人

ニ非レハ之ヲ知ルコト能ハサルモノナルニ官吏カ安リニ損害ヲ生シタルモノナ
ラント憶測シ捜査ニ着手スルモ將タ何ノ益ヲカ爲サシ實ニ徒勞ノ事ト謂ハサ
ル可カラス加之ノミナラス其處分ノ爲メニ人民ヲ煩ハスコトアルニ至リテハ
之ヲ不當ノ事ト謂フ可シ故ニ告訴ヲ要スル事件ニ付テハ其犯罪ノ性質何如ヲ
問ハス被害者等ノ告訴アルマテハ一切捜査ノ處分ヲ停止スルコトヲ要スルナ
リ尤ヒ強姦ノ現行犯ノ如キハ被害者ノ告訴ナキモ警察官タル者救援ノ處分ヲ
爲サシル可カラス雖モ違ハ行政警察ノ處分ニシテ司法警察即チ捜査ノ處分
ニ非ス組合ニ於テ捜査ノ處分ヲ停止スルコトヲ要セサルノ理由如何蓋シ勅奏
第二ノ場合ニ於テ捜査ノ處分ヲ停止スルコトヲ要セサルノ理由如何蓋シ勅奏
任官華族帶勳有位者ノ犯罪ト雖モ其現行犯ニ係ルモノハ處分シテ後奏聞スル
モ妨ガナキモ左レハ逮捕訊問等嚴格ナル處分ト雖モ奏聞シテ允許ヲ受
ケサル前ニ之ヲ行フコトヲ得ルモノナルニ捜査處分ノ如キ嚴格ナラサルモノ
ハ之ヲ行フコトヲ得スト爲ス可キ理由ナレ故ニ現行犯ノ場合ニ在リテハ搜
査ノ處分ヲ行フコトヲ得ルハ勿論ナリトス又非現行犯ノ場合ト雖モ公訴提起

ノ爲メ允許ヲ得ントスルニハ必ス先ツ其事件ノ果シテ犯罪ナルコト禁錮以上
ノ刑ニ該ル可キモノナルコト及ヒ其被告人ハ勅奏任官華族帶勳有位者ナルコ
トヲ十分ニ確カムルコトヲ要ス是等ノ諸件ヲ確カメントスルニハ勢ヒ捜査ノ
處分ヲ爲サシル可カラス捜査ノ處分ヲ爲サシテ之ヲ確カメントスルハ木ニ
線リテ魚ヲ索ムルヨリモ困難ナリ左レハ非現行犯ノ場合ニ於ケルモ捜査ノ處
分ヲ爲ス可キコト是レ亦勿論ナリト謂ハサル可カラス

然レトモ此第二ノ場合ニ於テハ元ト其勅奏任官ノ身分ヲ重シシ爲メニ允許ヲ
要スルコトト定メタルモノナルカ故ニトヒ捜査ノ處分ヲ行フモ其處分ヲ公
ケニシ未タ公訴ヲ提起スルノ允許ヲ得サル間ニ在リテ其人ノ名譽ヲ毀損スル
等ノ事ナキヲ要ス左レハ當該官吏タル者ハ宜ク其處分ヲ秘密ニシテ外ニ漏泄ス
ルコトナキニ注意スヘシ
公訴ノ權生スルキ捜査ノ權亦コトニ生ス即チ犯罪アルキ捜査ノ權生スルモノ
トス然レトモ此捜査ノ權ノ生スルハ冥々裡ニ生スルモノニシテ實際此權ヲ行
用スルハ當該官吏カ犯罪アリタルコトヲ認知スルカ又ハ少ナクトモ犯罪アリ



ト思料シタル場合ニ於テ始マル可シ而シテ當該官吏カ犯罪アリタルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料スルニハ必ス其原因ナカル可カラス法律ハ其原因中ノ著シキモノヲ告訴告發現行犯ノ三ト爲シ之ニ付テ各規定ヲ爲シタリ此他風説自首又ハ新聞紙ノ報道等種々ナル原因アル可シト雖モ特ニ規定ヲ爲ス可キノ要ナキヲ以テ法律ハ之カ爲メニ一言ヲモ爲サ、ルナリ

告訴、告發

第一節 告訴及ヒ告發

告訴トハ被害者ヨリ犯罪事件ヲ當該官署ニ申告スルヲ謂ヒ告發トハ被害者ニ非サル者ヨリ之ヲ申告スルヲ謂フ即チ之ヲ爲ス者ニ差アリト雖モ其効果ニ至リテハ固ヨリ何等ノ異ナルモノアラス故ニ法律ハ其手續等ニ付キ彼此ノ間區別ヲ爲サ、ルコト、爲シタリ

告訴告發ニ付テハ古來三種ノ論アリ或ハ之ヲ禁制ス可シト云ヒ或ハ之ヲ命令ス可シト云ヒ或ハ之ヲ聽許スルニ止マル可シト云フ我法律ハ此第三ノ聽許說ヲ採用シタリ

告訴、告發、
制訴

第一、告訴告發ヲ禁制ス可シトノ說 此說ヲ主張スル者ハ曰ク古昔羅馬其他ノ國ニ行ハレタルカ如ク公訴ノ權人民ノ手ニ存スルモノト爲スニ於テハ被害者タルト否トヲ問ハス苟クモ犯罪事件ヲ申告スル者ハ即チ自カラ原告人ト爲リテ其訴旨ヲ陳述シ常ニ審判ニ干預シ犯罪ノ証憑ヲ提出スルノ重任ニ當ルカ故ニ不實誣妄ノ申告ヲ爲ス者ナカル可ク隨テ弊害ノ生スルヲ防クニ足ル可シ然レトモ已ニ公訴ノ權ヲ人民ノ手ヨリ奪ヒ人民ノ告訴告發ヲ爲ス者ハ私ニ罪犯罪事件ヲ申告スルニ止マリ証憑ヲ提出シ申告ノ事由ヲ辯明シ且ツ審判ニ于テスル等原告人カ爲ス可キ責務ヲ負擔スルコトナシトセンカ恐ラクハ姦猾ノ徒此告訴告發ヲ以テ公安ヲ害シ私利ヲ營ムノ具ト爲シ誣告頻ニ起リ良民害ヲ被ムルニ至ル可シ實ニ危險ノ至ナラスヤ故ニ法律ハ一切私ノ告訴告發ヲ禁制スルコトヲ要スト

此說タル畢竟弊害ノ時ニ或ハ生センコトヲ恐レ一切告訴告發ヲ禁制セントスルモノニシテ恰モ水火ノ時ニ大害ノ釀スニ懲リテ一切其使用ヲ禁制セントスニ異ナラス實ニ偏見僻說ナリト謂フ可シ若シ法律ニ於テ告訴告發アレハ檢事

タル者必ス公訴ヲ提起セサル可カラスト爲ストキハ或ハ弊害續々トシテ生スルコトナキヲ保タスト雖モ其告訴發ヲ取捨スルノ權ヲ檢事ニ與ヘ公訴ヲ提起スルト否トハ一ニ檢事ノ公平ナル思料ニ委ヌルニ於テハ復タ弊害ノ生スルヲ憂フルコト或ル者ノ如クナレヲ要セス且ツヤ其誣妄ニ出ルモノハ刑法之ヲ嚴罰シ又惡意若クハ重過失ニ出ルモノハ民事上賠償ノ責ヲ免カレスト爲ス上ハ殆ト弊害ノ源泉ヲ塞キタルカ故ニ犯人ノ天ノ墮ルヲ憂フルト一般徒ラニ憂慮ヲ爲スニ及ハサレナリ

モシテスキウ言ヘルコトアリ曰ク法官タル者一ハ告訴人告發人ノ素行如何及其告訴發ヲ爲スニ付テ如何ナル利益ヲ有スルカヲ視察シ一ハ其申告ノ材料タル證據ヲ取調ヘ然ル上ニテ之ヲ取捨スレハ可ナリ弊害ヲ生スル恐レアリトテ告訴發ヲ禁制ス可キニ非スト實ニ此言ノ如シ

第二 告訴發ヲ命令ス可シトノ說 此說ヲ主張スル者ハ曰ク犯罪ヲ發覺スルハ現行犯ニ原因スルモノ少ク告訴發ニ原因スルモノ多キニ居ル可キ筈ナリ然ルニ實際上未ク必シモ然ラサルモノハ畢竟告訴發ヲ以テ法律上ノ義務

命令
告訴發
之ノ
可
ト
ノ
說

ト爲サスニ人民ノ自由ニ任セタルニ由ル抑モ人民タル者ハ公益ノ爲メニハ他マテ力ヲ盡シ苟クモ公益ヲ害スル者アレハ相齧フテ之ヲ除去ス可キ道德上ノ義務アルモノナリ然ルニ今現ニ公安ヲ擾亂スル犯罪人アルヲ認知シナカラ之ヲ官ニ申告セス袖手傍觀恰モ知ラサル者ノ如クシ官亦之ヲ責ムルコトナシ此ノ如クナラハ終ニ一人ノ告訴發ヲ爲ス者ナキニ至ルモ知ル可カラス蓋シ道德ノ命セサル所ト雖モ法律ハ公益ノ爲メニ之ヲ人民ニ命スルコトアリ告訴發ハ前述ノ如ク道德ノ命スル所ナレハ法律之ヲ命スルニ於テ何ノ不可カ之レアラシ反對論者必ス言ハン告訴發ヲ以テ法律上ノ義務ト爲ス上ハ其制裁ヲ設ケ以テ此義務ヲ盡サ、ル者ヲ罰セサル可カラス否ラサレハ法律上ノ義務ト爲スモ唯其名アルノミニシテ實際上何等ノ用ヲモ爲サ、ル可シ果シテ其制裁ヲ設ケンカ僅ニ告訴發ヲ爲サ、ルノ故ヲ以テ人ヲ刑罰ニ入ル酷モ亦太甚シカラスヤト此說果シテ是ナランカ法律ハ何カ故ニ證人鑑定人等カ呼出ニ應セス又ハ宣誓陳述ヲ肯セサル者ヲ罰スルカ同シク是レ犯罪事件ニ關シ我カ知ル所ヲ官ニ申告ヒシムルモノナルニ一ハ法律上ノ義務トシテ之ヲ盡サ、

ル者ヲ罰シ一ハ義務トセスシテ制裁ヲ付セス法律ハ濫妄放恣ナル規定ヲ爲シタルモノト謂フヘシ反對論者ノ言ノ如クナレハ證人鑑定人等ニ付テモ法律上ノ義務ヲ負ハシムルヲ非ナリト爲サ、ル可カラズト

此第二説モ亦第一説ト同シク極端ニ走ルモノナリト謂ハサル可カラズ蓋シ告訴發ハ有罪ヲ罰シ公安ヲ保ツノ基本ト爲ル可キモノナルカ故ニ法律ハ成ル可ク人民ノ之ヲ爲スコトヲ望ムト雖モ制裁ヲ付シテ之ヲ命令スルヲ必要トセス又之ヲ命令スルヲ至當ナリト認メス何ソヤ理ト情トハ人間社會ニ欠ク可カラサルモノニシテ決シテ偏廢ス可キモノニ非ス告訴發ハ公益ノ爲メニ必要ナルカ故ニ人民タル者之ヲ爲ス可シト云フハ理ニ於テハ或ハ然ラン然レトモ人情人ノ惡ヲ許クヲ欲セス成ル可ク之ヲ庇隱シ以テ其人ノ自カラ新ニスルヲ望ム此情タル道德ニ於テモ決シテ之ヲ非認セサルナリ左レハ論者ノ言ヘルカ如ク告訴發ハ道德上ノ義務ナリ道德ハ之ヲ各人ニ命令スト斷定スヘキニ非ス道德ハ唯其情理ノ間ニ處シテ宜シキヲ得ヘキコトヲ命令スルニ過キサルノヨ今此道德上ノ論ハ姑ク之ヲ含キ論者ノ言ニ從ヒ告訴發ヲ命令シタリトセ

ハ社會ハ果シテ如何ナル景狀ヲ呈ス可キカ默考シテ其景狀ヲ想像スルニ甲者乙者ノ罪ヲ許ケハ乙者モ亦甲者ノ罪ヲ許キ人々互ニ相爭フテ野蠻未開ノ景狀ニ復スルモ亦計ル可カラズ此ノ如キハ公益ノ爲メ決シテ希望ス可キ所ニ非ス論者ハ証人鑑定人ニ對シテ法律上義務ヲ負ハシメ之ヲ盡サ、ル者ヲ罰シナカラ告訴發ヲ爲サ、ル者ヲ罰セサルハ不倫ナリト云フモ證人鑑定人ノ事ハ告訴發ヲ命令ス可キノ例證ト爲ス可キモノニ非ス何トナレハ證人鑑定人ノ義務ハ臨時ニ生スルモノニシテ犯罪事件ト共ニ生スルモノニ非ス即チ犯罪ヲ見聞シタル者ハ進ンテ證言ヲ爲ス可ク又其證憑タル可キ物件ニ付テ鑑定ヲ爲ス可シト命令スルモノニ非スシテ特ニ裁判所ヨリ之ヲ命セラレタル場合ニ於テハ其命令ニ從フ可シト命令スルニ止マル故ニ一般ニ犯罪事件ヲ知リタル者ハ告訴發ヲ爲ス可シ裁判所ノ命ヲ待タズ進ンテ之ヲ爲スノ義務ヲ負ハシム可シトノ例ト爲スニ足ラサルナリ且論者ノ言ノ如ク告訴發ヲ以テ人民ノ義務ト爲シ之ニ制裁ヲ付スルトキハ一犯罪事件ノ爲メニ數多ノ犯罪人ヲ生スルコトヲ免カレサル可シ例ヘハ劇場其他多衆集會ノ場所ニ於テ犯罪アリトセハ之

例外

リトセハ其裁判ノ爲メニ直者ハ害ヲ受ケ曲者ハ利ヲ得ルコトト爲ル可シ是レ
裁判ヲ爲スノ本旨ニ反スルモノナリ故ニ判事ハ告發ヲ爲シ以テ刑事裁判ヲ促
シ其裁判ニテ偽造變造ノ有無定マルヲ待テ而シテ後其民事ノ裁判ヲ與ヘサル
可カラス

収税官吏アリ其職務ヲ以テ或ル營業ヲ檢査スルニ當リ其營業者カ脱税ノ所爲
ヲ行ヒタルコトヲ發見シタリ此場合ニ於テ其犯罪事件ヲ告發スルノ義務ナシ
トセンカ渠レ必ス安心シテ其脱税ノ所爲ヲ再ヒシ三ヒシ以テ國庫ノ收入ヲ減
シ且ツ他ノ正實ナル營業者ヲ間接ニ害スルニ至ラン是レ收税ノ目的ニ適合ス
ルモノニ非ス故ニ收税官吏ハ其犯罪事件ヲ告發シ以テ國庫ノ收入ヲ減スルコ
トヲ防制スルノ手段ヲ採ラサル可カラス

左レハ行政ト司法トヲ別タス苟クモ官吏公吏タル者其職務ニ關スル犯罪アル
コトヲ覺知シタルトキハ之ヲ告發ス可シト定メタルハ實ニ至當ノ事ト謂ハサ
ル可カラス然レトモ此告發ノ義務ハ官吏公吏タル身分ニ附着スルモノニ非ス
シテ其職務ニ關スルモノナリ故ニ官吏公吏タル身分ヲ有スルノ一事ヲ以テ告

發ノ義務ヲ負フコトナク又其職務ヲ行フノ際ニ於テ犯罪アルコトヲ認知思料
スルモ必シモ此義務アリトス可カラス唯其職務ヲ行フニ際シ其職務ニ關係ア
ル犯罪ヲ認知思料シタル場合ニ限り告發ヲ爲ス可キモノトス是レ法交ニ其職
務ヲ行フニ因リ云々ト記シ第五十八條ノ如ク其職務ヲ行フニ當リト記セサル
所以ナリ

例外ノ例示
一般ノ犯罪
告發ノ義務
又官吏

第二ノ例外 此例外ハ本法第五十八條第二項ニ規定スル所ナリ法交ニ曰ク罰
金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ被告人
ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事、違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告
發ス可シ云々ト是レ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ犯罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ
司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒ニ告發ノ義務アルコトヲ定メタルモノナリ而シテ
是等ノ官吏公吏ニ告發ノ義務ヲ負ハシメタルハ前段第一ノ例外ニ付キ說示シ
タルト同一ノ理ニ基クモノニシテ是等ノ官吏公吏ハ總テノ犯罪ニ付キ捜査ノ
處分ニ任ス可キモノナレハ其犯罪ノ性質如何ヲ區別セス一般ニ此義務アリト
爲シタルモノナリ要スルニ此第二ノ例外ハ之ヲ第一ノ例外ノ適用ト謂フモ亦

刑事訴訟法(第三編)

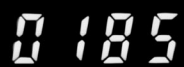
不可ナルコトナシ

第三ノ例外 此例外ハ本法第五十九條第二項ニ之ヲ規定ス曰ク其被告人ヲ受
 取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シト即チ巡查憲兵
 卒カ被告人ヲ逮捕シタルトキハ司法警察官ニ之ヲ引致シ同時ニ告發ヲ爲ス可
 キコトヲ間接ニ示シタルモノナリ已ニ被告人ヲ引致シ司法警察官ニ交付スル
 コトナレハ其之ヲ逮捕引致シタルノ事由トシテ犯罪事件ヲ申告ス可キハ勿論
 ナリ故ニ此告發ノ義務ヲ負ハシメタルハ之ヲ當然ノ事ト謂ハサル可カラス
 第四ノ例外 此例外ハ本法第六十一條第二項ニ之ヲ規定ス曰ク被告人ヲ巡查
 憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可シト是レ現行犯ノ被告
 人ヲ逮捕シタル常人ニ對シ告發ヲ命令シタルモノニシテ前數段ニ示シタル場
 合ト同シカラス官吏公吏即チ法律上特別ノ職務ヲ委任セラレタル者ニ非サル
 常人ニ對シ此告發ノ義務ヲ負ハシメタルハ畢竟右常人カ被告人ヲ逮捕シタル
 トキハ同條第一項ニ規定スルカ如ク之ヲ司法警察官ニ引致ス可ク之ヲ引致シ
 タルトキ逮捕ノ事由トシテ勢ヒ告訴告發ヲ爲ス可キモノナルニ半途ニシテ其

例ハ人共ニテ
 之ハ法律上
 之ハ法律上
 之ハ法律上

被告人ヲ巡查憲兵卒ニ引渡シタルトテ其逮捕ノ事由ヲ申告ス可キ責ヲ免カレ
 シム可キニ非ス之ヲ申告セサルトキハ其被告人ニ果シテ犯罪アルヤ否ヤタト
 ヒ犯罪アルモ現行犯ナルヤ否ヤ等詳ナラサルモノナリ故ニ逮捕ノ結果トシテ
 此義務ヲ負ハシメタルモノナリ

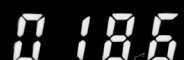
以上列擧スルカ如ク或ハ官吏公吏ニ或ハ常人ニ告訴告發ノ義務ヲ負ハシムル
 ト雖モ法律ハ其義務ヲ盡サ、ル者ニ對シ制裁トシテ刑罰ヲ科スルコトナシ已
 制裁ナシトセハ此義務ヲ命令シタルノ効ナキカ如シト雖モ制裁ハ必シモ刑罰
 ニ限ルモノニ非ス他ニ其義務ヲ盡サ、ル者ヲ懲戒ス可キノ處分アレハ其處分
 ヲ施スヲ以テ足レリト是レ即チ一ノ制裁ナリ彼ノ官吏公吏ニ付テハ規律上
 ノ懲戒處分アリ故ニ告發ヲ爲ス可キニ之ヲ爲サスシテ爲メニ其職務上ニ不都
 合ヲ生シタルトキハ此懲戒處分ヲ施シ以テ之ヲ責ムルコトヲ得ヘシ法律ハ懲
 戒處分ノ制裁ヲ以テ十分ナルモノトシ特ニ刑罰ヲ用非サルマテノコトトス但
 タ常人ニ對シテハ固ヨリ懲戒處分ヲ施ス可キニ由ナキヲ以テ常人カ告發又ハ
 告訴ヲ爲ス可キニ之ヲ爲サ、ルコトアルモ之ヲ奈何トモスルコト能ハサルナ



第五ノ例外 此例外ハ特別法ニ之ヲ規定ス明治十七年第三十二號布告爆發物取締罰則第八條ニ曰ク本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處スト茲ニ所謂ル警察官吏ニ告知ス可シトハ即チ告發ス可シトノ義ニ外ナラス

此例外ハ一般ノ犯罪ニ關スルモノニ非スシテ爆發物ニ關スル重罪ニ限ルモノナリ又危害ヲ被ムラントスル者ニ告知スル上ハ別ニ告發ヲ爲スコトヲ要セサルナリ此二點ヨリ觀察スレハ此告發ノ義務ハ前數段ニ擧ケタル例外ニ比スルニ極メテ制限アルモノトス然レトモ此告發ノ義務ヲ盡ス可キニ之ヲ盡ササル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處セラレ即チ輕罪中至重ノ刑ヲ受ク可キカ故ニ此一點ヨリ觀察スレハ此義務ハ最モ重キモノト謂ハサル可カラズ
茲ニ告訴告發ニ關シ總論ヲ終ルニ臨ミ尙ホ一言ヲ附加ス可キモノアリ法律規
則中殊テ收稅ニ關スルモノニハ往々告發人ニ賞ヲ與フルコトヲ規定シタルモ

ノアリ告發シタル者ニハ本則罰金ノ半額ヲ與フト云フカ如キ是レナリ此ノ如ク告發人ヲ賞スルモノハ其公益ノ爲メニ秘密ノ犯罪ヲ摘發シ國家ヲシテ其刑罰權ヲ行フコトヲ得セシメタルモノニシテ即チ國家ニ忠ヲ盡シタルカ故ナルカ若シ然リトセハ刑法中ノ公要ニ關スル重罪ヲ告發シタル者ハ猶更之ヲ賞與ヒサル可カラズ然ルニ之ヲ賞セスシテ瑣々タル稅則違犯ノ告發人ヲ賞與スレ其國家ニ忠ヲ盡シタルヲ賞スルニ非サルヤ明白ナリ然ラハ何カ故ニ之ヲ賞與スルカ單ニ政略上其犯罪事件ヲ容易ニ摘發セシメ一ハ以テ直接ニ稅稅者ヲ處分シ一ハ以テ間接ニ稅稅ヲ圖ル者ノ心膽ヲ塞カラシメ之ニ山リテ國庫ノ損害ヲ防カントスルカ爲メニシタルモノナリ且ツ其告發人ヲ賞與スルトハ云ハ國庫ヨリ其金圓ヲ出スニ非ス犯則者ヨリ徵收シタル罰金ノ中ヨリ之ヲ割與スルモノナレハ結局國庫ノ利ト爲ルモ決シテ其害ト爲ル可キコトナケレハ立法者ハ一ノ便法トシテ此賞與ノ事ヲ規定シタルモノナリ
然レトモ此告發人ヲ賞與スルハ決シテ好ミス可キノ事ニ非ス純乎タル正義ニ於テモ亦認許スル所ニ非サルナリ蓋シ其告發人ノ心事ヲ察スルニ國家ニ忠ヲ



告訴告發
ヲ爲スコ
トヲ得ル
者

盡サントスルノ念寸毫モ之レナク單ニ他人ノ犯罪ヲ許キ以テ自家ノ利益ヲ圖ラントスルニ在ルノミ即チ賞與ヲ得ルノ望ミアルカ爲メニ告發ヲ爲スモノニシテ若シ一方ニ賞與ヲ行フ可シトノ法則ナクハ決シテ告發ノ勞ヲ執ルコトナキモノナリ其卑劣ナル不道德ナル實ニコレヨリ甚シキハ莫シ殊ニ告發以テ賞與ヲ得ルヲ營業ト爲スカ如キ者實際任令ニシテ之アルヲ見ル而モ猶ホ法律ハ之ヲ咎メス反テ之ヲ賞與ス不義非道ヲ獎勵スルノ嫌ナシトセサルナリ故ニ賞與ヲ懸ケテ告發ヲ募ルノ法ハ速ニ廢止セサル可カラサルモノト思考ス

告訴及ヒ告發ハ何人カ之ヲ爲スコトヲ得ヘキカ告訴ハ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者之ヲ爲シ告發ハ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル者之ヲ爲スコトヲ得ヘク而シテ兩者共ニ其人ノ身分如何ヲ論セリルナリ即チ内國人タルト外國人タルト男タルト女タルト成年者タルト未成年者タルトヲ問フコトナシ第四十九條第五十三條ノ法文ニ何人ニ限ラス云々ト明言シタルハ即チ此意ヲ示シタルニ外ナラス畢竟犯罪ノ速ニ發覺スルト否トハ大ニ公益ニ關係スルヲ以テ一日一時モ早ク其發覺センコトヲ欲シ爲メニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得ヘキ人ニ制限ヲ置カサルナリ

法律上代人告訴
去及

有能カ夫及官吏
ニテハ告訴其妻

告訴ハ被害者自カラ之ヲ爲スコトヲ得本則トス然レトモ其者無能力ナルトキハ法律上ノ代人當然本人ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス此場合ニ於テハ法律上ノ代人タルコトヲ疏明セシム可キハ勿論ナリト雖トモ別ニ本人ヨリノ委任アルヲ要セス否共委任アル可キノ理ナキヲ以テ右ノ如ク其身分ヲ疏明セシムルヲ以テ是レリトスルナリ

之ニ反シ被害者有能力ニシテ代人ヲ以テ告訴ヲ爲サントスルトキハ必ス委任狀ヲ與ヘ以テ合意上代理セシムルコトヲ證セサル可カラス

告發ニ付テモ亦代人ヲ用ユルコトヲ得然レトモ官吏公吏カ公ケノ告發即チ職務上ノ告發ヲ爲スニ付テハ必ス自己ノ氏名ヲ用非自己ノ責任ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス第五十四條ノ但書ハ則チ此事ヲ示シタルモノナリ又告發ニ付テハ法律上ノ代人代リテ之ヲ爲スヲナシ何トナレハタトヒ無能力者ヨリ犯罪アリタルコトヲ開知シタルニモセヨ自己モ亦犯罪アリタルコトヲ認知シ思料スルモノナレハ自己ノ名ヲ以テ告訴ヲ爲スコク故ラニ其無能力者ノ名ヲ用ユルノ

要アラサレハナリ是レ第五十四條第二項ニ於テ無能力者ノ告訴ハ法律上ノ代理人之ヲ爲スモ其効アリトスト明言シ而シテ其告發ニ付テ同一ノ規定ヲ爲シ、ル所以ナリトス

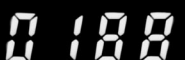
告訴告發
ヲ受ク可
キ官吏

告發人ノ
告訴官
官廳ニ
送付ス

告訴ト云ヒ告發ト云ヒ共ニ公訴ノ提起ヲ促カス可キモノナルヲ以テ其公訴ヲ提起スルノ職權アル官吏即チ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ檢事ニ之ヲ爲サシムルヲ至當トス然レトモ此檢事ニ限リ告訴告發ヲ受クルコトヲ得ルモノト爲サンカ告訴告發大ニ其數ヲ減シ爲メニ犯罪發覺ノ便ヲ失フニ至ルヤ必然ナリ何ツヤ檢事ハ裁判所ノ側ラニ在ルモノニシテ而シテ其裁判所ノ設ケタル全國ニ沿カラス僻地遠境ニ至リテハ全ク其設ケナキヲ通例トス左レハ今此告訴告發ハ必ス管轄檢事ニ爲ス可キモノトスルトキハ遠ク裁判所ヲ隔ル者ノ如キハ時日ト費用トヲ要スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス而カモ時日ト費用トヲ要スルハ常人ノ好マサル所ナルヲ以テ現ニ犯罪ノ爲メニ害ヲ受クルモ又現ニ犯罪アルコトヲ知ルモ之ヲ黙々ニ隔シ去ル者多キニ居ラン因テ法律上使法ヲ設ケ成ル可ク告訴告發ヲ容易ニ爲スコトヲ得セシメサル可カラス

管人告發
地ニモ
法ニモ
ス

先ツ法律ハ告訴ニ付テハ管轄檢事ノ外司法警察官ニモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲セリ(第四十九條第一項)蓋シ司法警察官タル者ハ全國到處ニ其設ケナキハナク而シテ該官ハ犯罪ヲ搜查シ以テ檢事ノ補助ヲ爲ス可キモノナレハ之ニ告訴ヲ受クルコトヲ得セシムルハ公私ノ爲メニ至大ナル便益アルヲ以テナリ
次ニ告發ニ付テハ其私ノ告發ハ告訴ト同シク檢事ノ外司法警察官ニモ亦之ヲ爲スコトヲ許シ(第五十三條第一項)加之ノミナラス土地ニ關シテハ必シモ犯罪管轄ノ地ニ於テ告發ヲ爲スヲ要セス告發人何レノ地ニ在ルモ其地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトヘリ(同上)是レ他ナキ告訴ニ在リテハ被害者所在ノ地ハ多クハ犯罪ノ地タル可ク否ラサルモ被害者被告人ヲ追跡シ其所在ノ地ニ到ルコトアル可キヲ以テ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得セシメサルモ敢テ不便ヲ感スルコトナカル可シト雖トモ告發ニ在リテハ告發人ハ初メヨリ犯罪ニ關係ナキモノナレハ其犯罪アリタルコトヲ認知シ思料スルハ必シモ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ニ於テセス左レハ此二ノ地ノ中ニ



官吏の職權
官署の事務

於テノミ告發ヲ爲ス可シト強フ可キニ非ス之ヲ強フルニ於テハ其地ニ到ルノ不便ヲ厭ヒ遂ニ告發ヲナサスシテ已ムニ至ラン是レ告訴ト異ナリ告訴人其所在ノ地ヲ離ル、ニ及ハス直チニ其地ニ於テ告發ヲ爲スコトヲ得ヘシト定メタル所以ナリ公ケノ告發ハ少ク私ノ告發ニ異ナリ第五十二條ニ依レハ官吏公吏カ職務上ノ告發ハ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ爲ス可キモノト定メタリ故ニ其地ハ犯罪ノ地ニ非サルモ又被告人所在ノ地ニ非サルモ其地ニ於テ告發ヲ爲スコトヲ得ヘキニ因リ此點ハ私ノ告發ニ於ケルト異ナル所ナキカ如シ然レトモ此規定ノ旨趣ハ其官吏公吏カ遠隔ノ地ニ到ルノ不便ヲ厭ヒ遂ニ告發ヲ爲サハルニ至ルヲ恐ル、ニ在ラス元ト其職務上ニ於テ發見シタル犯罪ニ係ルカ故ニ多クハ其犯罪タル即チ其地ニ於テ犯シタルモノナル可ク又ハ被告人タル可キ者多クハ其官吏公吏ノ目前ニ在ル可ク否ラサルモ其告發ハ公文ノ式ニ依リ爲ス可キモノナルカ故ニ遠隔セル檢事ニ之ヲ爲サシメスシテ接近セル檢事ニ移牒シ處分ヲ求ムルコトヲ得ヒシムルヲ便宜トスルニ由ル又其告發ヲ檢事ニノミ爲サシメ司法警察官ニ爲スコトヲ許サハルモノハ亦公文ノ式ヲ以テ告發シ取

テ私ノ告發ノ如ク自カラ告發ヲ受ク可キ官吏ノ面前ニ出ルコトヲ要スルコトナキカ故ニ司法警察官ノ手ヲ經由セシムルノ必要ナキニ由ルナリ此他第五十八條第二項及ヒ第五十九條第二項ニ規定シタルカ如ク法律上特ニ告發ヲ受ク可キ官吏ヲ指定シタルモノハ固ヨリ其官吏ニ告發ヲ爲ス可シ是レ亦其官吏以外ノ者ニ告發セシムヘキノ理由ナク若クハ其官吏ニ告發セシムルヲ便宜ナリトスレハナリ

終ニ臨ンテ尙ホ一言ヲ要スルモノアリ第四十九條第五十二條及ヒ第五十三條中檢事トアルハ一般ノ檢事ヲ指シタルモノニ非スシテ最初告訴提起ノ事ニ從フ可キ檢事ヲ指シタルモノナリ即チ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ其裁判所ノ檢事ニ告訴告發ヲ爲シ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ其裁判所ノ檢事ニ之ヲ爲ス可キヲ相當トス地方裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ事件ヲ區裁判所ノ檢事ニ告訴告發スルモ殆ト其効ナク區裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ事件ヲ地方裁判所ノ檢事ニ告訴告發スルモ亦同シ

然ラハ則チ地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ノミ告訴告發ヲ受ケ控訴院大審院

告訴告發
ノ方式

ノ檢事ハ之ヲ受クルコトナキカ裁判所構成法第八十三條ニ曰ク「檢事總長檢事
長檢事正ハ各管轄區内ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍内ニ在ル事務ヲ自ラ取扱
フノ權ヲ有スト此告訴告發ヲ受クルハ檢事ノ職務ナリ左レハ檢事總長等ハ右
ノ明文ニ從ヒ自ラ告訴告發ヲ受クルコトヲ得ルモノト謂ハサル可カラス然レ
トモ檢事總長等カ下級檢事ノ職務ヲ取扱フハ其職權ニシテ義務ニ非ス故ニ必
シモ一々告訴告發ヲ受クルコトヲ要セスト雖トモ下級檢事カ告訴告發ヲ受理
セス又ハ之ヲ受ケテ起訴ヲ爲サ、ル等ノ爲メ更ニ告訴告發ヲ爲シタルトキハ
檢事總長等ハ之ヲ受ケテ相當ノ處分ヲ爲ス可キモノトス
告訴告發ハ公ケノ性質ヲ有スルト私ノ性質ヲ有スルト又義務ニ屬スルト否ト
ヲ問ハス之ヲ爲スニ付テハ一定ノ方式ナカル可カラス若シ一ノ方式ヲモ設ケ
ス各自ノ爲ス所ニ任センカ誣告冒訴等ノ弊害必ス生スルヲ免カレス然レトモ
又其方式ヲ嚴重ニセンカ告訴告發ノ途ヲ塞クニ至ルノ恐レナシトセス故ニ法
律ハ簡單ニシテ且ツ必要ナル方式ヲ設クルニ止メ其細密ナル點ニ及ハス
告訴告發ハ本人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可キヲ本則トス第五十

一條第一項第五十二條第二項及ヒ第五十三條第一項蓋シ告訴人告發人ハ其申
告スル所ノ事項ニ付テハ總テ其責ニ任シ萬一之カ爲メ被告人ニ損害ヲ加ヘタ
ルトキハ法律ニ規定シタル制限ニ從ヒ賠償ヲ爲サ、ル可カラサルモノナリ然
ルニ其果シテ何人ナルヤ判然タラサルニ於テハ他日其告訴告發ノ事件ニ付キ
證人トシテ之ヲ呼出サントスルモ之ヲ呼出スコト能ハス被告人ヨリ賠償ヲ要
求セントスルモ亦實際之ヲ要求スルコト能ハサル等ノ不都合アルヲ免カレス
且被害者ノ告訴ヲ要スル犯罪ニ付テハ其告訴ハ即チ公訴權實行ノ基本ト爲ル
モノナルヲ以テ第一ニ被害者果シテ告訴ヲ爲シタルコトヲ證明セサル可カラ
ス然ルニ告訴人果シテ被害者ナルヤ否ヤ判然タラサルトキハ公訴ヲ起スモ其
效ナク加之ノミナラス好事者詐テ被害者ノ氏名ヲ冒稱シ告訴ヲ爲スカ如キコ
トアラハ其弊害言フニ忍ビサルモノアラン故ニ其何人タルコトヲ確實ナラシ
メンカ爲メ本人自ラ署名捺印シタル書面ヲ差出スコトヲ定メタルナリ
然ラハ則チ告訴狀告發狀ニハ本人ノ署名捺印アルノミヲ以テ足レリトスルカ
法文上ヨリ觀レハ然リト答ヘサルヲ得ス然レトモ世上往々氏名ヲ同シフスル

ス法交ニ成ル可クトアルハ即チ此意ヲ示シタルモノナリ
 借前述ノ方式ヲ履ミ告訴告發ヲ爲ストキハ必ス之ヲ受理セサル可カラズ若レ
 官吏ニ於テ其申告ニ係ル所爲ノ罪ト爲ラサルコトヲ認メ又ハ事實ノ有無ニ付
 キ疑アルトキモ亦同シク然ルカ此点ニ付テハ區別ヲ爲サ、ル可カラズ
 第一 官吏ニ於テ告訴告發ニ係ル所爲罪ト爲ラスト認ムルトキハ其旨ヲ諭示
 シテ告訴告發ヲ棄却スルコトヲ得ヘシ例ヘハ純粹民事ニ屬スルコト判明ナル
 事件ヲ申告シ來ル場合ノ如キ申告人ハ他マテ刑律ニ觸ル、旨ヲ主張スルモ是
 レ或ハ名ヲ犯罪ニ籍リ以テ相手方ヲ威嚇シ若クハ權利ヲ證明スルノ具ニ乏シ
 キヨリ官ノ手ヲ假リテ之ヲ搜出センカ爲メニスルヤモ計リ知ル可カラズ借金
 ヲ辨濟セサルノ所爲ヲ以テ詐欺取財ナリト主張スルモ此所爲タル決シテ犯罪
 ヲ構成スルモノニ非ス己ニ犯罪ニ非ストモハ告訴告發隨テ生スルコトナレ何
 トナレハ告訴告發ハ犯罪ヲ申告スルモノニシテ犯罪ニ非サル所爲ニ對シ公訴
 ノ提起ヲ促ス可キノ謂ハレナケレハナリ故ニ申告ニ於テ告訴告發ノ名稱ヲ用
 ンルモ其申告スル所ノ事刑律ニ觸レサルヲ顯然タルトキハ棄却レテ妨ナク否

反テ棄却スルヲ至當ナリトス

第二 官吏ニ於テハ告訴人告發人カ申立ツル所ノ事明カニ刑律ニ觸ル、コト
 ヲ認ムルモ其事實決レテ存在セサル可シト信スルトキハ如何此場合ニ於テハ
 其告訴告發ヲ受理セサル可カラズ何トナレハ官吏ハ豫メ其事實ノ有無ヲ判斷
 ス可キモノニ非ス兎ニ角犯罪タル所爲ヲ申告スル上ハ法律上之ヲ受理ス可キ
 ノ義務アレハナリ例ヘハ曾參人ヲ殺シタリトシテ告訴告發スルカ如シ若シ其
 告訴告發ヲ受ケタル官吏ニ於テ曾參ハ大賢人ナリ人ヲ殺スカ如キ事アル可キ
 等ナシト確信スルトキハ別ニ捜査ノ處分ヲ爲サ、ルハ格別自己ノ責任ヲ以テ
 其告訴告發ヲ受クルノ手續ヲ爲サ、ル可カラズ殊ニ司法警察官ニ於テハ檢事
 ノ職務ヲ補助スル爲メニ之ヲ受クルモノナレハ自カラ之ヲ取捨スルコトヲ得
 ス必ス之ヲ受ケテ檢事ニ移サ、ル可カラズ
 借告訴告發ハ一旦之ヲ爲シタル後或ハ取下ケヲ爲シ或ハ前ノ申立ヲ變更スル
 コトヲ許ス(第五十五條)然レトモ法律ハ此事ニ關レ別ニ方式ヲ規定セス蓋シ取
 下ケ又ハ申立ノ變更ヲ許シタルモノハ其前ニ申立タル所ノ事大ニ事實ニ相違

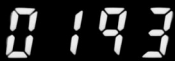
スル場合アル可ク然ラサルモ他ニ事情ノ存スル場合アル可シ其事實ニ相違スル場合ニ在リテハ速ニ其相違ノ廉ヲ正サシメ以テ眞誠ノ事實ヲ發見スルノ便ト爲ス可キノミナラス本人ヲシテ其一旦申立タル所ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得セシム可カラサルノ理アルコトナシ殊ニ其申立ノ重過失ニ出タル場合ニ於テハ本人賠償ノ責ヲ免カレサルモノナレハ旁以テ其申立ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得セシメサル可カラス是レ法律ニ於テ明ニ之ヲ許容セタル所以ナリトス然リ而シテ此申立ノ變更及ヒ取消ニ付キ法律ハ別ニ其方式ヲ規定セサルモ無論告訴發ヲ爲スニ付テノ方式ヲ準用セシムルノ旨意ナリト解釋ス可シ即チ本人自カラ爲スト代人ヲ以テ爲スト又書面ヲ以テ爲スト口述ヲ以テ爲スト其隨意ナリト爲ス可キナリ

現行犯罪

第二節 現行犯罪

法律上犯罪ヲ現行ト非現行トニ區別セタルハ一ニ實際處分上ノ爲メニタシタルモノナリ蓋シ如何ナル犯罪ト雖モ必ス之ヲ犯シタルノ時アリ其之ヲ犯レタルノ時ハ即チ現行ト行ヒタルノ時ナルヲ以テ總テノ犯罪ハ之ヲ犯シタル時ヨリ觀レハ皆現行犯ニ非サルナク乃チ犯罪ヲ現行ト非現行トニ區別スルハ甚ダ謂ハレナキニ似タリ又刑罰ヲ科スル上ニ於テモ現行ノ犯罪ト非現行ノ犯罪ト其刑ヲ異ニス可キノ理ナキヲ以テ賭博罪ハ現行ニ限り之ヲ罰スト定メタルハ例外此區別ハ實際ニ於テモ其必要ナキカ如シ然ルニ法律上此區別ヲ立テタルモノハ治罪上ニ必要ナル事項アリテ存スルニ依ルナリ

今コヽニ二ノ罪アリ一ハ數日若クハ數月前ニ之ヲ犯シ一ハ現ニ吾人ノ目前ニ於テ之ヲ犯シタリト假想セヨ吾人ハ此二ノ罪ニ付テ感覺ヲ同フスルカ決シテ然ラサル可シ數日前數月前ノ犯罪ハ吾人之ヲ覺知スルノ日ニ在リテハ已ニ過去ニ屬スルカ故ニ吾人ニ感覺ヲ與フルヲ自カラ深カラス隨テ吾人ニ於テ其處分ノ急速ナランコトヲ欲スルヤ亦大ナラス之ニ反シ吾人ノ目前ニ於テ現ニ罪ヲ犯ス者アランカ吾人誰カ其處分ノ急速ナラン事ヲ望マサランヤ其之ヲ望ムノ切ナル官府ノ處分ヲ待タスシテ吾人自カラ手ヲ下サント欲スルニ至ル場合ナシトセス是レ人間普通ノ感情ニ於テ然ラサルヲ得サル所ナリ左レハ此ノ普通

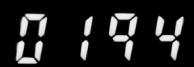


ノ感情ニ從ヒ現行ノ犯罪ト非現行ノ犯罪ト其處分ヲ異ニシ一ハ專ラ急速ヲ主トシ一ハ專ラ鄭重ヲ主トスルコトト定ムルハ事ノ宜シキヲ得タルモノト謂フ可シ

人或ハ言ハシ現行ノ犯罪ニ付キ急速ノ處分ヲ要スルハ固ヨリ論ナシ唯恐ラクハ其處分自ラ輕忽ニ涉リ爲メニ無辜ヲ苦シムルノ弊アルヲ免カレサル可シト然リ此弊ヤ全ク之ナキヲ保シ難シ然レトモ現行ノ犯罪ニ付テハ其犯人ノ誰タルコト分明ナル場合多キニ居ル故ニ此場合ニ於テハ方式ヲ履マシテ直チニ其人ヲ逮捕スルモ可ナリ別ニ方式ヲ履ムノ必要ナレ若シ徒ラニ方式ニ拘泥セシカ犯人ヲシテ容易ニ遁逃スルコトヲ得セシムルニ至ランタトヒ又犯人ノ誰タルコト確然分明ナラサルモ犯人ナル可シト推定スルニ足ル可キ情况アルトキハ亦之ヲ逮捕レテ可ナリ例ヘハ甲者カ乙者ヲ殺レタルノ現狀ヲ目撃セサルモ甲者血ニ染レタル兇器ヲ携ヘテ乙者カ死屍ノ傍ニ立居ル場合ノ如キハ十中ノ九マテハ甲者ヲ以テ其犯人ナリト看做スモ敢テ過ツコトナカル可シ故ニ直チニ甲者ヲ逮捕ス可シ萬一ノ誤リアラシキコトヲ恐レテ之ニ手ヲ下サハルニ於テハ後レ必ス遁逃シ累ヲ積リ日ニ進ケン罪人ノ逮捕スルモ方式ヲ履ムルハ根據ナキノ嫌疑ニ因リ濫ニ無辜ヲ苦シムルコトアラシキコトヲ恐レテナリ前例ノ場合ノ如キハ犯罪ノ嫌疑ト謂ハシヨリハ寧ろ犯罪ノ確認ト謂フモ可ナルモノナレハ方式ヲ履ムノ必要ナク直チニ其人ヲ逮捕スルモ殆ト其害ヲ見ルコトナカル可シ

又證據集取ニ付テハ或ハ人ノ自由ヲ害シ成ハ人ノ權利ヲ侵スコトアルヲ以テ通常ノ場合ニ於テハ判事以外ノ者之ヲ行フ可カラサルコトト爲シタルモ犯罪目前ニアリテ其證據タル可キ事物亦目前ニ横ハル場合ニ於テハ急速ニ之ヲ集取スルノ處分ヲ爲サシメサル可カラス袖手傍觀徒ラニ時日ヲ遷延シ爲メニ其證據ヲシテ空シク湮滅ニ歸セシムルハ迂モ亦太甚レト謂ハサル可カラス因リテ現行ノ犯罪ニ付テハ其證據集取ニ付テ亦通常ノ規定ニ依ラサルコトヲ得ルモノト爲スヲ要ス

且ツ現行ノ犯罪タル前ニモ一言シタルカ如ク人ノ感覺ニ觸ルハコト深クシテ大ナルモノナレハ之ヲ見聞スル者畏懼ノ念ヲ懷クコト甚シカル可ク又或ハ官



府ノ處分遲緩ナルヲ咎メ多衆相徒黨シテ私ニ復讐ヲ謀ルカ如キコト亦絶テ之レナシトセズ故ニ經ヲ捨テ、權ニ就キ急速ノ處分ヲ行ヒ以テ公安ヲ奮ニ復シ以テ秩序ノ紊亂ヲ防止セサル可カラズ

以上説述スルカ如ク現行ノ犯罪ニ付テハ其處分急速ヲ要スルカ故ニ自カラ方式ヲ願ルニ違アラサルコト多カル可シ非現行ノ犯罪ニ付テハ然ラス左マテ其處分ヲ急速ニヒサルモ公安ヲ維持スルニ足ラスト謂フ可カラズ故ニ總テノ處分悉ク方式ニ依ラシムルヲ要ス若シ方式ノ依ル可キモノナキトキハ其處分自カラ專横ニ流レ濫ニ人ノ自由ヲ拘束シ人ノ家宅ニ侵入シ人ノ財産ヲ差押フル等反テ公安ヲ害スルノ結果ヲ生スルモ計ラレス故ニ現行ノ犯罪ト非現行ノ犯罪トハ其處分上ニ於テ必ス區別ヲ爲サ、ル可カラズ

本法ハ乃チ犯罪ヲ現行ト非現行トニ區別シ其現行ノ場合ニ於テハ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ所謂ル特別ノ處分トハ

第一、令狀ナク又常人ト雖モ被告人ヲ逮捕スルヲ得ル事

第二、檢事及ヒ司法警察官ニ於テ總テノ令狀又ハ或ル令狀ヲ發スルヲ得ル

事

第三、檢事及ヒ司法警察官ニ於テ豫審處分ヲ爲スヲ得ル事

第四、檢事ノ起訴ナクシテ豫審判事直チニ豫審ニ着手スルヲ得ル事

是ナリ此四个ノ特別處分ハ現行犯罪ノ場合ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ズ右ノ如ク現行ノ犯罪ニ付テハ被告人ヲ逮捕スル爲メ法定ノ方式ヲ履マサルモ可ナリト爲シ又檢事及ヒ司法警察官ニ與フルニ豫審判事ニ屬スル職權ノ幾分ヲ以テスル等異常ノ特例ヲ設ケタル以上ハ嚴ニ其現行犯罪ノ區域ヲ制限シ容易ニ之ヲ超ユルコトナカラシムルヲ要ス是レ即チ第五十六條第五十七條ノ規定アル所以ナリ

第五十六條ニ依ルニ現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フトアリ是レ現行犯罪ニ付テノ制限ナリ已ニ前ニモ一言シタルカ如ク總テノ犯罪皆現ニ行フタル時アルハ勿論ナリト雖モ之ヲ現行犯罪トシテ處分スルニハ其現ニ行フ時又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺スルコトヲ要ス若シ此時期ヲ過キテ發覺シタルモノハ即チ非現行犯罪ニシテ特別ノ處分ヲ爲ス

コトヲ得サルナリ蓋シ現ニ行フ時ニ於テ發覺スル犯罪ノ現行犯罪タルコトハ法律ノ規定ヲ待タズレテ知リ得ル所ナルモ此他現行犯罪ナシト爲ストキハ其區域甚々狹隘ニ過キ法律カ現行犯罪ニ付キ特別處分ヲ許シタルノ效用殆ト之レナキニ至ラン何ゾヤ處分權ヲ有スル官吏ノ面前ニ於テ罪ヲ犯ス者極メテ少ナク百中ノ九十八九迄ハ其官吏ノ耳目ニ觸レサル様注意シテ隱密ニ罪ヲ犯スヲ通例トスレハナリ左レハ法律ハ現ニ行フ時ニ發覺シタルモノ、外現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノ即チ幾分カ過去ニ屬スル犯罪ヲモ現行犯罪ト爲シタリ所謂ル現ニ行ヒ終リタル際トハ犯罪現行ノ時ヲ隔ルコト幾何時間内ニ限ル可キカ法律ハ之レカ時限ヲ定メス蓋シ犯罪ノ性質方法其他ノ模様ニ依リ其痕跡疾ク消滅スルモノト然ラサルモノトアリテ一概ニ時間ヲ以テ是カ區域ヲ限ルコトヲ得ス法律ノ精神ハ官吏自ラ其現行ノ場ヲ目撃セサルモ現ニ行ヒタルヨリ間モナク現場又ハ其近傍ニ於テ犯跡ノ現存スルヲ發見スルトキハ即チ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘント云フニ在リ因テ其外形上ノ事物ニ付テ罪跡仍ホ灼然トシテ存スルヤ否ヤヲ見而シテ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ許サレ

準現行犯ノ場合

タレヤ否ヤヲ決定セサル可カラズ

現行犯罪ノ外準現行犯罪ナルモノアリ其性質全ク現行犯罪ニ非サルモ犯罪アリタルコトヲ確認スルニ足ル可キ形跡アリテ而カモ急速ニ處分ヲ爲スコトヲ要スル事情アルカ故ニ之ヲ現行犯罪ト同視シ同一ノ處分ヲ爲スコトヲ許シタルモノナリ然レトモ違警罪ニ付テハ其罪質極メテ輕微ナルノミナラス急速ノ處分ヲ要スルコト稀ナルカ故ニ其現行犯罪ニ非サルヲ強テ現行犯罪ニ准シ處分シム可キニ非サルヲ以テ此罪ニ付テハ特ニ準現行犯罪ナルモノヲ認メス唯重罪及ヒ輕罪ニ付テノミ準現行犯罪ヲ定メタリ

準現行犯罪ノ場合ハ第五十七條ニ之ヲ列記シタリ左ニ其法文ヲ掲ケン

重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス

第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、トキ

第二 兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帯シ又ハ身附被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ

第三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ

者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ
故ニ准現行犯罪ト爲ス可キモノハ右三个ノ場合ニ限ルナリ今此各場合ニ付キ
一々之ヲ分拆スルニ就レモ二个以上ノ條件具備スルコトヲ必要トスルヲ見
ナリ

先ツ第一ノ場合ニ付テ觀ルニ第一現ニ逃走スル者アルコト第二其跡ヲ追フ者
アルコト第三追跡者ニ於テ重罪輕罪ノ犯人ナリト呼ハルコトノ三條件ヲ具備
スルコトヲ要ス若シ其一ヲ欠ケハ准現行犯罪ト爲スコトヲ得サルナリ蓋シ右
ノ三條件具備スル場合ニ於テハ必ス犯罪アリタルニ相違ナカル可ク又其逃走
スル者カ犯人ニ相違ナカル可シト思料スルコトヲ得ヘク其思料ハ多クノ場合
ニ於テ確實ナル可キノ望ミアリ何トナレハ故ナキニ他人ヲ指シテ犯人ナリト
呼ハル者固ヨリ之アル管ナク又犯人ナリト呼ハル、者憤怒ヲモ發セス辯解ヲ
モ爲サス加之ナラス畏懼逃走スルハ太甚タ怪ムニ足ル可キコトナレハナリ因
テ急速ノ處分ヲ要スルモノトシ直チニ其逃走者ヲ逮捕スル等ノ處分ヲ爲スコ
トヲ許シタルナリ今若シ重罪輕罪アリトシテ公ニ呼ハルモノアルモ現ニ逃走
スル者ナキトキハハトヒ犯罪アリタルニ相違ナシト思料ス可キト雖モ之

ヲ現行犯罪ニ准ス可キニ非ス犯人ト思料ス可キ者現ニ目前ニ在ラサルニ拘ハ
ラス仍ホ現行犯罪ト同シク處分スルニ於テハ毫モ犯罪ノ證據存セサル者ヲモ
逮捕スルニ至リ人ノ權利ヲ濫ニ侵害スルノ恐れアレハナリ佛國法ハ公ノ叫即
チ衆ノ哄傳ヲ以テ准現行犯罪ノ一場合ニ數ヘタリ所謂ル公ノ叫トハ其範圍廣
ク現ニ犯人トシテ追呼セラレサルモ何某ハ何罪ヲ犯シタリト衆人相傳唱スル
トキハ即チ特別處分ヲ行フコトヲ得ルコトナラン此場合ニ於テ急速ノ處分ヲ
要セサルニ非スト雖モ此ノ如キ制限ノ漠然ニ失スルモノヲ尙ホ現行犯罪ニ准
スルハ危險極マリナシト謂フヘシ何トナレハ無根ノ風説ヲモ公ノ叫ナリト爲
シ漫ニ嚴格ノ處分ヲ行フニ至ルヘケレハナリ故ニ我法律ニ於テハ右ニ說示シ
タルカ如ク三條件具備スルニ非サレハ現行犯罪ニ准シ處分スルコトヲ許サ、
ルモノト定メタリ

第二ノ場合ニ於テハ第一兇器贓物等犯罪ノ用ニ供シ若クハ犯罪ニ因テ得タル
物件其他總テ犯罪ニ關係アルヘシト思料スルニ足ル可キ物件ヲ携帯スルカ又

ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡ヲ留ムルコト第二其物件ヲ携帶シ又ハ犯罪ノ痕跡ヲ留ムル人ノ舉動ニ怪ム可キ所アリト犯人ノ思料ス可キコトノ二條件具備スルコトヲ要ス今人アリ刀劍等ヲ携帶スルモ之ヲ携帶スルニ付キ正當ノ事由アルモノト否ラサルモノトアリ護身ノ爲メニ之ヲ携帶スルカ如キハ即チ正當ノ事由アルモノナリ左レハ單ニ兇器ヲ携帶スルトノ一事ヲ以テ直チニ其人ヲ犯人ナリト推定シ准現行犯罪ノ處分ヲ爲ス可キニ非ス然レトモ其刀劍ヲ檢スルニ血痕ヲ留メ其狀殺傷ノ用ニ供シタリト思料ス可キヲ以テ其携帶者ヲ推問スルニ答辭頗ル曖昧ナルノミナラス問ヲ得テ逃走セントスル等ノ舉動アリトセンカ此場合ニ於テハ其人其物共ニ怪ムニ足ル可キヲ以テ此ニ至リテ始メテ准現行犯罪トシテ處分スルコトヲ得ヘシ又身體被服ニ血痕ヲ留ムル者ノ如キモ一概ニ犯人ナリト推定ス可カラズ其血痕ヲ檢スルニ正シク人ノ血痕ノ相違ナク而シテ本人ノ舉動怪ム可キトキニ非サレハ容易ニ准現行犯罪ト爲ス可キモノニ非サルナリ

佛國法ヲ觀ルニ兇器等ヲ携帶スル場合ヲ以テ現行犯罪ニ推スコト我法律ト

異ナル所ナシト雖モ彼ノ法律ニ於テハ犯罪ヲ隔ル些少ノ時間内ニ在ルニトシテ要セリ此ノ犯罪ヲ隔ル些少ノ時間内トハ果シテ幾許時間内ナルヤ明瞭ナラザルニ依リ初メ參議院ニ於テ該法律案討議ノ際大ニ論難ヲ生シ而シテペルリエル氏ノ如キハ改メテ二十四時間内ト明言ス可レトマテニ論シタリ然レトモ多數ノ說ニ於テ此等ノ修正ヲ容レス遂ニ原案ニ可決シタリト云フ蓋シ彼ノ立法者ノ意タルヤ犯罪ノ時ヲ隔ルコト已ニ遠ク數日若クハ數十日ヲ經過シタル場合ニ於テハ兇器贓物等必シモ犯人ノ手ニ存セズ輾轉シテ良民ノ手ニ移リタルヤモ亦知ル可カラズ然ルニ之ヲ携帶スルノ故ヲ以テ現行犯罪ニ推シ處分スルコトヲ許ストキハ良民モ亦不幸ニシテ嚴格ナル處分ヲ受クニ至ルナキヲ保シ難シ因テ其兇器贓物等仍ホ犯人ノ手ニ存在シ未ダ良民ノ手ニ移ルノ暇アラザル場合ニ限リ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ許サンカ爲メ此時間ノ制限ヲ加ヘタルモノナラン然レトモ已ニ犯罪アルコトヲ覺知シ其犯人ヲ搜查スルニ當リ兇器贓物等ヲ發見スル場合ハ格別未ダ初メヨリ犯罪アリシコトヲ認知セシメテ偶然此等ノ物件ヲ携帶シ舉動犯人ト思料ス可キ者ヲ發見シタル場合ニ於テハ其



犯罪ノ日時ヲ確ムルコトヲ得サルヤ勿論ナリ左リトテ其日時確カナラス己ニ二十四時ヲ經過シタルモ知ル可カラサルニ輕忽ニ手ヲ下スコトヲ得ス故ニ手ヲ下サントスルニハ先ツ犯罪ノ日時ヲ取調ヘサル可カラス之カ爲メニ時期ヲ失シ犯人ヲシテ逃走セシムルノ不便ナシトセス故ニ二十四時内ト限ルハ固ヨリ言フ埃タス犯罪ヨリ些少ノ時間ヲ隔ツルコトヲ要スルハ其意可ナリト雖モ實際ニ適セス是レ我法律ニ於テ時間ノ制限ヲ設ケサル所以ナリ

第三ノ場合ニ於テハ家宅内ノ犯罪ナルコト其犯罪ニ付テ檢證又ハ逮捕ノ請求アルコト其請求ニ係ル處分ハ家宅内ニ於テス可キコト其請求ヲ爲ス者ハ戸主又ハ戸主ニ代ル可キ者ナルコトヲ要ス蓋シ此場合ヲ以テ現行犯罪ニ准シタルモノハ前ニ述ヘタル二箇ノ場合ノ如ク偏ニ公益ノ爲メニ急速ノ處分ヲ要スルトノ理由ニノミ基クモノニ非ス專ラ一家内ノ休安ヲ保護シ人々ヲシテ其堵ニ安ンセシメントノ意ニ出テタルモノナリ乃チ第一ニ家宅内ノ犯罪ナルコトヲ要シタル所以ニシテ其家宅外ノ犯罪ハ一家ノ休安ニ直接ノ關係ナケレハトモ何等ノ請求アルモ現行犯罪トシテ處分スルコトヲ許サス第二ニ檢證又ハ

逮捕ノ請求ニ限リタルハ一家内ノ休安ヲ保護スル處分ハ此二箇ノ處分ノ外他ニ之アラサレハナリ第三家宅内ニ於ケル處分ハ一家ノ休安ヲ得セシムルニ足ルモ他ノ場所ニ於ケル處分ハ一家ノ休安ニ關係ナシ故ニ其處分モ家宅内ニ於テス可キモノナルコトヲ要シタルナリ若シ家宅外ニ於ケル處分ヲ請求スル場合ヲ以テ猶ホ現行犯罪ト爲ストキハ家宅内ニ於テ犯シタル強盜其他ノ罪ハ常ニ准現行犯罪トシテ嚴格ナル處分ヲ受クルニ至ル可ク法律カ現行犯罪現行犯罪區別シタルノ効全ク之ナキニ至ラシ此ノ如キハ決シテ許容ス可キ事ニ非サルヲ以テ此第三ノ條件ヲ要シタルモノナリ第四家宅ハ人ノ城廓ニシテ故ナク之ニ侵入スルコトヲ許ス可カラス憲法已ニ其不可侵ナルコトヲ擔保シタリ左レハ家宅内ノ犯罪ヲ檢証シ又ハ其犯人ヲ逮捕スル爲メナリト雖トモ眞ノ現行犯罪ノ場合ノ外ハ方式ヲ履行セスシテ之ニ侵入ス可キニ非ス是レ戸主又ハ戸主ニ代ル可キ者ヨリ請求シタルコトヲ要スル所以ニシテ其請求ニ依ル場合ハ一家ノ休安ヲ害セスシテ反テ之ヲ保護スルニ足ル可シ以上四箇ノ條件具備シタル場合ニ於テ始メテ准現行犯罪トシテ處分ヲ爲スコトヲ許シタルモノナリ

現行犯准現行犯ノ何物タルカハ以上説示レタル所ニ依リ之ヲ了知スルニ餘リ
アラシク因テ其處分ヲ説示ス可キヲ順序トスルモ其處分タル一ハ捜査ニ屬シ一
ハ豫審ニ屬スルモノナルヲ以テ今之ヲ略シ捜査及ヒ豫審ノ章節ニ至リテ併セ
テ之ヲ説示ス可シ

特別ノ原由

第三節 特別ノ原由

法律ハ告訴發覺及ヒ現行犯罪ニ付テハ各一節ヲ設ケ之カ規定ヲ爲シタリト雖
トモ此三者以外ノ事項ニシテ犯罪發覺ノ原由ト爲ルモノニ付テハ特ニ節ヲ設
ケス隨テ又何等ノ規定ヲ爲サス是レ畢竟其必要ナキニ由ルナリ然レトモ己ニ
第四十六條ニ於テ告訴發覺現行犯罪^〇他^〇ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ云
々ト定メ告訴發覺現行犯罪ノ外尙ホ犯罪發覺ノ原由アルコトヲ認メタル上ハ此
特別ノ原由ニ付テハ講説上勢ヒ一言ヲ費サ、ルヲ得ス因テ便宜上特ニ一節ヲ
置キコ、ニ之ヲ説示スルコト、爲シタリ

蓋シ犯罪ノ發覺スルハ告訴發覺現行犯罪ニ因ルモノ多キニ居ラシ然レトモ當ニ
此三者ニ限ル可キニ非ス或ハ新聞紙ノ記載スル所ニ因リ或ハ聞者ノ風説ニ因
リ犯罪アリタルコトヲ認知思料^シ或ハ犯人ノ自首ニ因リ之ヲ認知思料スルコ
トアリ或ハ非命死又ハ隱匿物ノ發見ニ付キ其原由ヲ尋子テ始メテ其犯罪ノ結
果ナルコトヲ確知スルコトモアラン此ノ如キ種々ノ原由アリ因テ以テ犯罪ヲ
發覺スルコトアル可シト雖トモ是等ノ原由ニ付テハ法律上之カ規定ヲ爲スノ
必要アルヲ要ス新聞紙上犯罪アリタルコトヲ記載スルモ當該官吏必シモ其新
聞社ニ就テ取調ヲ爲スニ及ハス風説ニ付テモ亦同シ唯捜査上其出所ヲ取糺シ
果シテ犯罪アリタルヤ否ヲ確ムルハ格別方式ヲ取ラシテ處分ヲ爲ス可キ性質ノ
モノニ非サレハナリ尤モ犯人ノ自首ノ如キハ其首白スル所他日ノ證據ト爲ス
ニ足ル可キモノアラン故ニ其自首ヲ受クル官吏ニ於テ之ヲ錄取ス可キハ當然
ナルモ己ニ自首ヲ爲ス者ナレハ他日ニ至リ之ヲ竊異スルカ如キコトハ殆ト之
ナカルヘシ故ニ法律ハ此點ニ付テモ別ニ其方式手續等ヲ定メサルナリ
非命死ニ付テハ佛獨ノ法律之ヲ司法警察ノ處分ニ屬セシメタルモ我法律ハ然
ラス其死ノ原因甚ク疑ハシキモ必シモ犯罪ノ結果ナリト豫斷ス可カラズ故ニ

其處分ハ行政官ニ一任シ犯罪ニ原因スルノ微憑アリテ始メテ司法上ノ處分ニ
涉ル可キモノナリト爲レタリ。

第四節 搜查處分手續

搜查處分 手續

搜查處分手續ニ付テハ法律ハ單ニ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料
シタルトキハ其證憑及ヒ犯人ヲ搜查ス可シ(第四十六條)ト檢事ニ命シ又司法警
察官ニ向テハ「犯罪ヲ搜查スルニ付キ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス」司法警
察官トシテ犯罪ヲ搜查ス可シ(第四十七條)ト命スルニ過キス而シテ其搜查ハ如
何ナル手續ヲ以テ爲ス可キカヲ規定セシ他ナレ何人カ眞ノ犯人ナルカ其
犯人ハ何レノ地ニ在ルカ證人タル可キ者アルカ證憑ハ現在スルカ等ノ事ヲ搜
査スルハ其職ニ任スル者ノ知能經驗勉勵ニ一任ス可キモノニシテ特ニ制限的
ノ方式等ヲ要スルコトナケレハナリ

然レトモ現行犯ニ付テハ事體已ニ急速ヲ要シ且ツ被告人ノ身體ニ對シ拘束ノ
處分ヲ爲スコトヲ要スル場合多シ是ニ於テカ法律ハ此一事ノ爲メニ(二三)規

定ヲ爲シタリ

第五十八條ニ曰ク

司法警察官及ヒ巡查憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可
キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕
ス可シ

罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知りタルトキハ被
告人ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官
署ニ告發ス可シ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若クハ官
吏ニ引致スルコトヲ得

右ノ規定ニ依レハ同シク現行犯ナリト雖トモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪ト
罰金以下ノ刑ニ該ル可キ犯罪トハ其處分ヲ異ニスルモノトス即チ甲ノ犯罪ニ
付テハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕シ其自由ヲ拘束セサル可カラス乙ノ犯
罪ニ付テハ其被告人ノ何人ナルカヲ確カメ置クニ止マリ原則トシテハ其自由
ヲ拘束スルコトヲ許サ、ルナリ

何カ依ニ右ノ區別ヲ爲シタルカ蓋シ人身ノ自由ハ最モ貴重ス可キモノナルヲ以テ萬已ムヲ得サルニ非サルヨリハ之ヲ拘束セサルヲ我法律一般ノ精神ナリトス左レハ罰金ノ刑ニ該ル可キ犯罪ノ如キハ裁判確定セ有罪ト決スルモ猶ホ且ツ自由ヲ拘束セサルモノナルニ其裁判未確定前否未タ裁判アラサル前未タ公訴ノ起ラサル前ニ於テ之ヲ拘束スルハ事理ニ於テ決シテ許容ス可キモノニ非ス又違警罪ニ付テハ拘留ノ刑アリ本刑トシテ之ヲ科スルコトアル可シト雖トモ其刑期ハ多クトモ十二日ニ超ユルコトナシ此ノ如キモノハ裁判未決中拘束スルノ必要ナク事理ニ於テモ之ヲ許容ス可キモノニ非ス况ンヤ拘留ニ處セラル可キカ將タ科料ニ處セラル可キカ未タ知ル可カラサルニ於テヲヤ因テ其現行犯ニ係リ犯人目前ニ在ルトキト雖トモ之ヲ逮捕スルコトヲ許サズ單ニ其何人ナルカラ確カメ置クニ止ム可キコト、爲シタリ

然ルニ其犯人ノ何人ナルカラ確カメシカ爲メ其氏名住所ヲ問フニ本人默シテ答ヘス又ハ其實ヲ告ケサルニ因リ之ヲ知ルコト能ハス又本人其實ヲ告クルモ直チニ逃亡シ他日對照裁判ヲ爲スコトヲ得サルノ恐アルトキハ一時之ヲ監罪ニ付テハ檢事ニ違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ警察署ニ引致スルコトヲ得ルモノトス而シテ檢事ニ引致シタル場合ニ於テハ檢事重キテ其氏名住所等ヲ問ヒ以テ之ヲ確カメ若シ能フ可クハ即時起訴シテ裁判ヲ求ムルハ格別決シテ其儘被告人ノ自由ヲ拘束スルコトヲ得ス警察署ニ引致シタル場合ニ於テハ違警罪即決例ニ從ヒ警察署ハ其處分ヲ爲ス可ク引續キ被告人ノ自由ヲ拘束スルコトヲ得サルナリ

右ニ反シ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪ニ付テハ其犯罪己ニ重ク公安ヲ害スルコト又非常ナルヲ以テ其現行犯ニ係リ犯人目前ニ在ルトキハ之ヲ看過ス可キニ非ス因テ正式ニ從ヒ令狀ノ發セラル、ヲ待ツニ及ハス直チニ其被告人ヲ逮捕ス可キモノト爲レタリ此逮捕ノ處分ハ搜查處分トシテ通常爲レ得ヘキモノニ非サルモ現行犯ニシテ急速ヲ要スルヨリ例外トシテ之ヲ行フコトヲ得セシメタルモノナリ畢竟其被告人ノ犯人タルコト殆ト確實ニシテ徒ニ無辜ヲ苦シムノ恐ナキノミナラス一方ニ於テハ現ニ攪亂セフレタル公安ヲ回復シ人々ヲシテ安堵セシムルノ大必要アルヲ以テ此例外ノ處分ヲ許シタルニ外ナラス

借法律ノ命スル所ニ從ヒ巡查又ハ憲兵卒ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ彼等ハ自ラ被告人ヲ訊問スルノ權ナキヲ以テ勢ヒ之ヲ他ノ此權ヲ有スル官吏ノ前ニ引致ヒサル可カラス乃チ第五十九條ニ於テ巡查憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シト定メタル所以ナリ此法文ニ所謂司法警察官トハ廣ク司法警察ヲ行フ官吏公吏ヲ指シタルニ相違ナキモ巡查ヨリ之ヲ觀レハ其上官タル警部警部補ニ又憲兵卒ヨリ之ヲ觀レハ同シク其上官タル將校下士ニ引致スルヲ其職務上ノ順序ナリトス然レトモ法律ハ此順序ニ從フ可キコトヲ命セス又實際ニ於テハ反テ此順序ニ從フヲ不便トスルコトアル可キヲ以テ巡查憲兵卒タル者ハ便宜ニ從ヒ適當ノ處置ヲ爲ス可シ要ハ只其逮捕シタル被告人ヲ瞬時モ早ク訊問權ヲ有スル司法警察官ニ引渡スルニ在リトス

第五十九條第二項ニ其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シトアリ左レハ逮捕ヲ爲シタル巡查又ハ憲兵卒ハ司法警察官ニ對シ現行犯ナルニ因リ逮捕シタル旨ヲ申立テ且チ其犯罪ニ付テノ告發ヲ爲ス可キコトヲ通知ス可シ而シテ此告發ハ通常ノ方式ニ依リテ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス可キコト又自ラ明ナリ何トナレハ法律ハ司法警察官ニ其調書ヲ作ル可キコトヲ命シタルハナリ

司法警察官自ラ現行犯ノ被告人ヲ逮捕シタルトキハ又ハ前述ノ如ク巡查憲兵卒ヨリ其逮捕シタル被告人ヲ受取リタルトキハ爾後如何ナル處分ヲ爲ス可キ乎第四百十七條ニ第四百四十四條第四百六十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス云々トアリ故ニ急速ヲ要スル豫審處分ヲ假ニ行フコトヲ得ヘシト雖トモ這ハ是レ搜查處分ニ屬セサルヲ以テコトニ之ヲ說示セサル可シ

借第六十條ニ依レハ何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得トアリテ常人ト雖トモ此場合ニ限り被告人ヲ逮捕スルコトヲ許セリ此事固ヨリ搜查處分ニ非サルハ勿論ナリト雖トモ以上說キ來リタル所ノ事ニ關係アルヲ以テ序ニ之ヲ說示セシトス蓋シ法律カ被告人逮捕ノ權ヲ常人ニ與ヘタルモノハ要スルニ裁判上ノ利

益ト公安保護上ノ利益トヲ望ミタルニ外ナラサル可レト雖モ尙ホ之ヲ熟考スルニ現行犯ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕スルハ何人モ能クレ得ヘキ所ニレテ敢テ法律ノ規定アルコトヲ要セス即チ其尙有ノ權利ナリト謂フモ可ナルカ如シ何ソヤ重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ハ孰レモ道德ニ背クハ勿論大ニ社會ノ安寧ヲ攪亂スルモノニレテ殊ニ其現行犯ノ場合ニ在リテハ瞬時モ其儘看過ス可キニ非ス之ヲ其儘看過スルトキハ犯人益々其兇暴ヲ逞フシ犯罪ニ疊ムルニ犯罪ヲ以テスルモ知ル可カラスタトヒ又犯罪ハ已ニ遂ケ終リタルニセヨ犯人目前ニ在リテ而カモ其身猶ホ自由ヲ有レ居ルニ於テハ人々危懼ノ念ヲ懷キ公衆一般ニ安堵スルコト能ハス左レハ社會ノ一員タル者ハ何人ヲ問ハス社會ノ實害ヲ防衛スルニ付キ適當ノ處置ヲ施スノ權利ナカル可カラス而シテ其防衛ニ適當ナル處分ハ犯人ヲ逮捕シ復タ其身體ノ自由ヲ得セシメサルニ在リ是レ常人ト雖トモ固ヨリ此逮捕ノ權利ヲ有スト謂フ所以ナリ

常人カ被告人ヲ逮捕スルハ防衛ノ爲メニ行フモノニシテ決シテ司法處分ヲ行ハシカ爲メニスルモノニ非ス左レハ其逮捕シタル被告人ハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ然レトモ或ハ其人ノ力足ラザルカ或ハ其他正當ノ事由アリテ自ラ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ其被告人ヲ巡查又ハ憲兵卒ニ引渡スコトヲ得ルモノトス但此場合ニ於テハ其逮捕ノ不法ニ非サリシコトヲ証スル爲メ其現行犯ニ係ルコト等逮捕ノ事由ヲ陳述シ猶ホ且ツ自己ノ氏名職業住所ヲ申立タルコトヲ要ス加之其引渡後速ニ方式ヲ履ンテ告訴又ハ告發ヲ爲サ、可カラス

被告人ヲ巡查又ハ憲兵卒ニ引渡ス場合ニ於テ其被告人ハ己レ罪ヲ犯シタルコトナク反テ不法ニ逮捕セラレタル者ナルコトヲ主張シ其黑白ヲ爭ハンカ爲メ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ警察官ノ面前ニ出テシコトヲ求ムルコトアル可ク又巡查又ハ憲兵卒ニ於テ同上ノ嫌疑ヲ挾ミ同シク逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトナシトセス此場合ニ於テハ逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス若シ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムニ於テハ公力ヲ用非テ警察官署ニ同行スルモ固ヨリ妨ケン



借搜查ハ下調處分ノ一ニシテ豫審モ亦然リ同シク下調處分ナリトスルトキハ
 搜查ト云ヒ豫審ト云ヒ其目的トスル所ノ事物ハ彼此同一ナル可キ言フマ
 ス唯タ夫レ豫審ハ公力ヲ用井テ之ヲ行フカ故ニ往々人ノ權利ヲ侵害スルコ
 ルヲ免カレス乃チ法律ハ其處分ノ專横濫妄ニ涉ラシコトヲ恐レ種々ノ方式制
 限ヲ設ケタリ搜查ハ之ニ反シ公力ヲ用井テ之ヲ行フコトヲ得サルモノナレハ
 其處分ノ專横濫妄ニ涉ルノ恐レアルコトナクタトヒ專横濫妄ニ涉ルコトアル
 モ爲メニ人ノ權利ヲ侵害スルコトナカル可シ是レ法律カ此處分ニ付キ別ニ方
 式制限ヲ定メサル所以ナリ

左レハ公力ヲ用ユルコトナク又人ノ權利ヲ侵害スルコトナキ上ハ搜查處分ト
 シテ豫審ニ於ケルト同一ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ之ヲ爲スモ決シテ法律
 背反スルモノニ非サルナリ即チ被告人ナリ證人ナリ一應之ヲ尋問スルノ必要
 アルトキハ或ハ其所在ニ就キ或ハ之ヲ呼出シテ尋問スルモ可ナリ唯其呼出ニ
 應セサル場合ニ於テ拘引狀ヲ發スルコトヲ得サルノミ又戶主ノ承諾アルトキ
 ハ其家宅内ニ入り犯罪ノ證據ヲ取調フルコトヲ得ヘシ所有者ノ承諾アルトキ

ハ證據ト爲ル可キ物件ヲ一時預リ置クコトヲ得ヘシ其他道路等公ケノ場所ニ
 臨檢スルカ如キハ人ノ權利ニ關係ナキヲ以テ無論之ヲ行フコトヲ妨ケヌ要ス
 ルニ其處分ノ爲メニ公力ヲ用井人ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得サルノミ
 然レトモ如何ニ本人ノ承諾アレハトテ其自由ヲ束縛シ之ヲ拘留スルカ如キハ
 性質上決シテ爲レ得ヘキ所ニ非ス又實際注意ヲ要スルモノハ其處分ノ爲メニ
 後日ノ證據ヲ失フニ至ルカ如キ處分ヲ行フ可カラサルコト是レナリ例ヘハ毒
 殺事件ニ付キ其毒物ヲ分拆スルカ如キタトヒ之カ爲メ證據ノ端緒ヲ發見スル
 コトヲ得ルニモセヨ元ト方式ヲ履ンテ行ヒタルモノニ非サルヲ以テ其分拆ノ
 結果ハ單ニ事實參考ト爲ルニ過キスレテ適法ノ證據ト爲ルコトナシ而シテ後
 日方式ヲ履ンテ其毒物ノ鑑定ヲ爲サレメントスルモ原物ノ本體已ニ敗滅シタ
 ル上ハ復タ之ヲ奈何トモスルコト能ハス遂ニ有力ナル一ノ證據ヲ失フニ至ル
 可シ此ノ如キ處分ハ搜查上之ヲ避ケサル可カラス

起訴

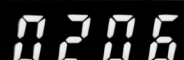
第二章 起訴

刑事訴訟法(第三編)

犯罪ノ捜査終了スルトキハ順序トシテ起訴ノ手續ヲ爲サ、ル可カラス地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付キテハ起訴ノ手續ニ様アリ一ハ豫審判事ニ豫審ヲ求ムルト一ハ直チニ其裁判所ノ公判ニ付スルト是レナリ而シテ重罪事件ハ最モ鄭重ナルヲ要スルカ故ニ必ス豫審ヲ求メサル可カラス輕罪事件ハ其鄭重難易ニ從ヒ或ハ豫審ヲ求メ或ハ直チニ公判ニ付スヘク法律ハ一ニ檢事ノ見ル所ニ任セタリ

區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ如何ニ事狀繁雜ナルモノアルモ法律ハ豫審ヲ求ムルコトヲ許サス是レ法律ハ事狀繁雜ナルモノナルコトヲ推定セサルニ由ルモ其實ハ區裁判所ニ豫審判事ヲ置カサルヲ以テナリ蓋シ輕罪ノ輕キモノ及ヒ違警罪ノ如キ輕微ノ事件ニ付キ鄭重ナル豫審ヲ行フハ事ニ益ナキノミナラス反テ訴訟延滞ノ害アルコトヲ免カレサル可シ故ニ一切豫審ヲ行ハス直チニ公判ニ付ス可キモノト定メタリ

倍地方裁判所檢事カ豫審ヲ求ムルニ付テハ第六十六條ニ證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シトアリテ法文上ニテハ必ス此等ノ事ヲ指示スルコトヲ要スルカ如ク見ユルモ是レ唯注意ノ爲メニ規定シタルマテニシテ其指示ヲ闕クコトアルモ其起訴ノ手續決シテ無効ニ屬スルコトナシ證憑等ヲ送致セント欲スルモ捜査上一モ得ル所ナケレハ之ヲ送致スルニ由ナク臨檢ヲ要スル場所ナケレハ之ヲ示スノ必要ナク又逮捕ス可キ人名即チ被告人ヲ指名セント欲スルモ未タ其何人タルカヲ詳ニセサルトキハ之ヲ奈何トモレ難シ又證人アルヤ否ヤヲ知ラサルトキハ同シク之ヲ指名スルコト能ハサル可シ因テ此等ノ事ノ分明ナル場合ニ限り之ヲ指示ス可キコトヲ命シタルモノト解釋セサル可カラス
檢事直チニ事件ヲ公判ニ付スルニハ其事件ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スルト地方裁判所ノ管轄ニ屬スルコトヲ問ハス法律上別段其手續ヲ定メサルヲ以テ唯云々ノ事件ニ付キ公判ヲ求ムル旨ヲ申立ツルヲ以テ足レリトス尤モ證憑等已ニ收取シタルモノハ之ヲ送致ス可キコト豫審ヲ求ムル場合ニ於ケルト異ナルコトアル可カラス唯一事ノ豫審ヲ求ムル場合ト異ナラサル可カラサルモノアリ必ス被告人ヲ指名ス可キコト是レナリ蓋シ豫審ハ證憑ヲ收取スルヲ以テ其主



タル目的ト爲スモノナレハ被告人未タ定マラサルモ之ヲ求ムルニ妨ケナシト雖モ公判ハ本案罪ノ有無輕重ヲ判定スルモノナレハ被告人ナクシテ之ヲ行フコト能ハサルヤ多言ヲ要セスシテ明ナリ是レ豫審ヲ求ムル場合ト異ナル所ノ一點ナリトス

以上説示シタル所ハ被告事件タル檢事カ附置セラレタル裁判所タルノ管轄ニ屬スル場合ニ於テノ手續ナリ若シ其被告事件タル他ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ檢事其裁判所ニ起訴スルコトヲ得サルヲ以テ法律上管轄權ヲ有スル裁判所ノ檢事ニ其事件ヲ送致セサル可カラス

又最初ハ犯罪ナリト信シテ搜查處分ヲ爲シタル上ニテ其事件ノ法律上罪ト爲ラサルカ又ハ罪タルニ相違ナキモ公訴ヲ停止ス可キ場合若クハ公訴ノ消滅シタル場合ニ係リ到底公訴ノ受理セラル可キモノニ非サルコトヲ覺知シタルトキハ固ヨリ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラサルヤ勿論ナリトス

檢事起訴ノ手續ヲ爲スト又之ヲ爲サ、ルトヲ別タス其事件ニ付キ告訴人アルトキハ檢事ヨリ其手續ヲ爲シタル旨又ハ之ヲ爲サ、ル旨ヲ其告訴人ニ通知ス

ルコトヲ要ス是レ告訴人ハ檢事起訴スルニ於テハ其公訴ニ附帯シテ私訴ヲ爲シ否ラサル場合ニ於テハ別ニ民事裁判所ニ起訴セントノ念ヲ懷キ居ルコトアル可クタトヒ又私訴ヲ起スニ意ナキモ檢事起訴セサルトキハ進ンテ其上官ニ告訴ヲ爲シ以テ公訴提起ノ命令ヲ下サシメ飽クマテ行害者ヲ刑罰ニ處セシメント希望スルコトアル可ク兎ニ角告訴人ハ其告訴ノ結果如何ヲ知ルニ於テ利益ヲ有スルカ故ニ法律ハ檢事ヨリ其處分ヲ通知ス可キモノト定メタルナリ此他起訴ニ關シテハ總則ノ首ニ於テ十分説明ヲ下シタル所アルヲ以テ復タコヽニ贅セス

豫審

第三章 豫審

總論

前章ニモ陳ヘタル如ク豫審ナルモノハ違警罪ニ付テハ全ク之ヲ行ハスト雖トモ輕罪事件ニ付テハ其輕重難易ニ因リ或ハ行ヒ或ハ行ハス而シテ重罪事件ニ付テハ必ス之ヲ行フモノトス

豫審ハ何ノ爲メニ行フヤ曰ク事實發見ノ爲メノ下調處分ナリトス夫レ然リ然
ラハ此目的ヲ達スルニ最重要ナル方法ハ其處分ヲ秘密ニスルニアリ蓋シ之
ヲ公判ニ於ケルカ如ク公行シテ以テ公衆ノ傍聽ヲ許サンカ世人ハ皆ナ其事件
ノ何タルヲ知ルカ故ニ或ハ被告人ノ爲メニ證據ヲ湮滅シ或ハ辯護ノ方法ヲ指
示シテ其罪ヲ免レシムルコトアラン殊ニ被告人ト親ミアル者ハ百方手ヲ盡シ
テ被告人ノ利益ヲ謀ル可ク隙アル者ハ其不利ヲ謀ル可シ又之ヲ被告人ヨリ觀
察スルトキハ被告人ハ公開ノ法廷ニ立テ取調ヲ受クルニヨリ他日無罪ノ言渡
ヲ受クルモ世人ハ多少被告人ノ惡業犯行ヲ疑フ可キカ故ニ大ニ名譽ト信用ト
ヲ墮スニ至ル可キナリ是ニ於テカ豫審ハ密行ヲ以テ原則ト爲スナリ但シ場合
ニ依リ密行センヨリハ寧ロ公行スルヲ以テ事實ノ發見ニ便ナリト爲ストキハ
豫審ヲ公行スルコトアリ例ヘハ被告人ト證人トヲ對質セシムルカ如キ又或ハ
檢證ノ爲メ臨檢スルニ當リ被告人ヲシテ之ニ臨マシムルカ如キ是ナリ然レト
モ是レ純然タル公行ニアラサルナリ之ヲ要スルニ豫審ノ第一原則トシテ且
ツ特有ノ性質ハ秘密ノ一點ニアリトス

上ニ述ヘタルカ如ク豫審ノ目的ハ事實發見ニアリ故ニ必スシモ犯罪ノ證據ノ
ミヲ蒐集スルニアラス無罪ノ證據ヲモ蒐集セサル可カラズ豫審ヲ目シテ無罪
ヲ證スルニ足ル可キ證據ハ之ヲ願ミス一ニ有罪ノ證據物ノミ蒐集スルモノト
思惟スルハ大ナル謬見ナリ有罪ノ證據ヲ蒐集スト云ハ、同時ニ其無罪ノ證據
ヲモ併セテ蒐集スルコトヲ知ラサル可ラス要スルニ事實ヲ明ニスルヲ以テ一
大目的トス

夫レ此ノ如ク豫審ハ事實發見ノ爲メニ證據ノ蒐集スルトセハ之ヲ爲スニ付テ
勢ヒ巨多ノ費用ト時日トヲ糜セサル可ラス此ノ巨多ノ費用ヲ爲シ時日ヲ消シ
テ始メテ其目的ヲ遂ク可キナリ

豫審ノ性質此ノ如クナリトセハ其事件ノ重罪タルト輕罪タルト又違警罪タル
トト問ハス總テノ刑事ニ皆ナ豫審ヲ行フヲ以テ相當トス然ルニ法律ハ違警罪
及ヒ輕易ナル輕罪事件ニ付テ豫審ヲ要セサルハ何ツヤ是レ故アリ法律ハ決シ
テ輕罪若クハ違警罪事件ハ事實ニ相違アルモ之ヲ願ミストノ趣意ニアラス其
事件ノ輕重大小ニ依リ其取調ノ方法ヲ異ニセサル可ラサレハナリ夫レ重大ナ

豫審ト
區別

ル事件ハ付テハ其取調ノ方法ヲ鄭重ニセサル可ラスト雖トモ輕易微少ナル事
件ニ至テハ固ヨリ鄭重ヲ盡スノ勝レルニ如カサレトモ斯ク爲ストキハ徒ラニ
訴訟落着ノ延滞ヲ招クニ至ルナリ是レ却テ國家ノ爲メ被告人ノ爲メ不利ナリ
此點ヨリ論スルトキハ輕微ナル事件ハ迅速ニ決定ヲ爲スニ若カサルナリ是レ
法律ニ於テ犯罪ノ輕重難易及ヒ大小ニ依リ豫審ヲ行フト否トヲ區別シタル所
以ナリ故ニ之ヲ以テ不當ノ區別ナリト思フ可カラズ

夫ノ搜查ナルモノモ亦多事實發見ヲ以テ目的ト爲スモノナリ然ラハ搜查ト豫
審トノ區別ハ那邊ニアルヤ曰ク此間一大區別アリ嘗テ述ヘタル如ク彼ト此ト
ハ共ニ下調處分ナリト雖トモ搜查ナルモノハ公力ヲ以テ強行スルコトヲ得ス
隨テ人民ノ權利ヲ傷害若クハ停止スルコトヲ得ス之ニ反シ豫審ハ公力ヲ以テ
其事ヲ強行ス隨テ時ニ人民ノ自由ヲ停止シ權利ヲ傷害スルコトアルモノ之ヲ顧
ミス否ナ法律ハ之ヲ許容セリ故ニ必要ナリトスル場合ニハ豫審判事ハ公力ヲ
以テ或ハ人民ノ身体ヲ拘束シ或ハ人ノ家宅ニ侵入シ或ハ人ノ財産ヲ差押フル
コトヲ得此大權ハ獨リ豫審判事ノ爲スヲ得可キ所ニシテ警察官司法警察官等
ハ現行犯ヲ除クノ外決シテ之ヲ爲スコトヲ得サルナリ是レ二者間ニ存スル一
大差異ナリトス

豫審ハ此ノ如ク公力ヲ以テ其處分ヲ爲スカ故ニ平生公平無私ノ豫審判事ト雖
トモ時ニ其權利ヲ濫用スルノ恐ナシト云フ可ラス假ニ此恐ナレトスルモ他人
之ニ籍テ其奸惡ヲ遂クルノ媒トナルノ恐レナレトセス是故ニ法律ハ一方ニ於
テ豫審判事ニ此大權ヲ許與スルト同時ニ他ノ一方ニ於テ嚴正ナル程式ヲ設ケ
且ツ大ニ之ヲ制限シ以テ其弊ヲ防カンコトヲ欲シタリ請フ是ヨリ順次其制限
及ヒ程式ヲ説明セン

自由ニ對
スル豫審
處分

第一節 人ノ自由ニ對スル豫審處分

凡ツ人ハ生レナカラニシテ自由ナリトハ今日動カス可ラサルノ原則ナリトス
然レトモ此自由タルヤ決シテ無限ナルモノニアラス一方ニ於テハ人ノ自由ヲ
害セサルニ於テハ自由タリトノ範圍ニ在ラサル可ラス又他ノ一方ニ於テハ其
自由ハ時ニ法律ノ爲メニ制限セラレ減縮セラレ又ハ停止セララルコトヲ記憶

ス可シ帝國憲法第二十三條ニ曰フ「日本臣民ハ法律ニ依ルニアラスシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシト故ニ日本臣民ハ素ト自由ナリト雖トモ法律ニ依テ逮捕監禁セラレ、コトアリ是即チ自由ノ法律ニ制限セラレ、所ナリトス而シテ之ヲ逮捕監禁スルノ法律ハ他ニ之ナキニアラスト難トモ刑事訴訟法ハ其主要ナルモノナリ故ニ此法ニ依テ自由ヲ害セラレ、コトアルモ之カ爲メニ異論ヲ唱フルヲ得ス

爰ニ異説ヲ唱フル者アリ曰ク刑事訴訟法上ノ原則トシテ有罪裁判確定スルマテハ被告人ヲ待スルニ無罪潔白ノ人ヲ以テセサル可ラス其果シテ有罪ナルヤ否ヤハ裁判アルニ非ラサレハ知ル可ラサレハナリ然ルニ今其犯罪ノ有無確知ス可ラサルニモ拘ハラス僅ニ嫌疑ヲ受ケタルニ過キサル被告人ヲ早已ニ逮捕シ監禁スルハ豫斷ハ最モ避ク可シトノ刑事ノ一大原則ニ背キテ被告人ヲ有罪視スル者ナリ加之此處斷ノ爲メ生スル害ハ獨リ被告人ノ名譽ト健康トヲ害スルノミナラス其被告人カ若シ家長タルトキハ一家ノ安寧ト生活トヲ妨ケ妻子家族ハ凍餒飢饉ノ慘境ニ迷フニ至ラン豈戒メサル可ケンヤ法律ハ此ノ恐ル可カ思ム可キノ結果ヲ知リナカラ猶ホ逮捕監禁ヲ許スハ何故ソ不正モ亦此ニ至テ極マレリト云フ可シ是故ニ有罪ノ裁判確定スルニ至ルマテ逮捕監禁ヲ爲ス可ラスト

此言タルヤ之ヲ個人的主義ヨリ觀察スルトキハ是ハ則チ是ナリ然レトモ之ヲ他方ヨリ評スルトキハ大ナル國家アルコトヲ知ラサル僻説タルヲ免レサルナリ蓋シ經濟併行ハレテ始テ公安ヲ保維シ公益ヲ増進ス可シ古人言アリ「法ハ理ヲ曲クルモ理ハ法ヲ曲ケスト社會公益ノ爲メ必要ナルニ當テハ理ヲ曲ケテ法ヲ制スル亦タ止ムヲ得サルナリ偏ニ個人ノ私益ノミ惟レ重シ肯テ社會公益ヲ顧ミサルハ大權設立ノ本旨ニ非ラサルナリ宜ク個人ノ私益ト社會ノ公益トヲ折衷斟酌セサル可ラス故ニ當今ノ世又此ノ如キ僻説ヲ唱フル者將ニ地ヲ掃ハントス

法律ニ依リ逮捕監禁スルノ不正ナラサル此ノ如シ然ラハ之ヲ許スノ理由如何曰ク國家必要ノ爲メナリ而シテ其必要ヤ三个ノ點ヨリ成ル今之ヲ示サシ其一、公安ヲ保護ス。蓋シ人ノ罪ヲ犯スヤ必スヤ原因アリ或ハ利慾ニ眩シ或ハ

自由停止
理由
分ノ
處ス
ノ
許由



痴情ニ溺レ或ハ生計ニ窮レ又或ハ私慾ニ因リ憤怒ニ乘スル等必スヤ其因來タル所ナクンハアツス而レテ此等ノ事タル心情其常ヲ踰越シ異常ノ量積トナリテ犯スニ至ルモノナリ既ニ此等ノ原因アリテ犯ス以上ハ其原因ヲ全ク消滅セサル限りハ後日再ヒ同種類ノ罪ヲ犯スナキヲ保セス管ニ之ヲ保ス可ラサル而已ナラス恐ラクハ却テ犯スコトノ多キヲ加ヘン試ニ想ヘ利慾ノ爲メニ甲者ノ物ヲ盜ミ而シテ官之ヲ逮捕スルコトナク身監禁セラレ、コトナク全ク自由ナランカ勞セスシテ物ヲ得ルノ利ナルヲ見テ乙ニ盜ミ丁ニ盜ミ底止スル所ナカラン苟モ此ノ如クンハ犯罪人ハ益々非行ノ人トナリ良民ハ虎狼ノ我身邊ニ彷徨スルカ如キノ虞アリテ一日トシテ其堵ニ安ス可ラサルナリ是レ果シテ公安ノ全キヲ得ルト云フ可キヤ是ヲ以テ此處ナカラシムルノ方法ハ犯人ヲ逮捕監禁シテ其自由ヲ停止スルニアルノミ

如何トモス可ラサルコトアラシ夫レ世間已決ノ囚ニシテ刑役ニ在ル者脱監破獄百方逃走ノ術ヲ講シ裁判執行ヲ免カレントスル者多キニ依テ見レハ刑罰ハ人ノ疾ム所タルコトヲ知ル可シ况ンヤ未決囚ニ於テヲヤ被告人ハ未タ犯罪ノ斷定ナキ者ナルカ故ニ或ハ證據不充分ノ爲メ無罪トナルノ望ナキニ非ラス然ルニ自ラ好テ辯護權ヲ抛チ以テ逃匿此處ヲ去ルハ却テ有罪タルノ推測ヲ招キ甚メ不利益タルニモ拘ハラス之アルハ何ゾ是レ他ナシ苟モ一日ノ安ヲ偷ミテ時効ヲ得ンコトノ万一ヲ願フ者ナレハナリ是ヲ以テ被告人ヲ自由ニ放任スルトキハ甚メ危險ニシテ且ツ裁判ノ執行ヲ爲ス能ハサルニ至ル之ヲ事實ニ徵スルニ刑事訴訟中ノ八九皆ナ有罪ニ歸ス然ラハ則チ後日其裁判ノ執行ヲ保証センカ爲メ豫メ被告人ヲ逮捕監禁スルノ必要アリトス

其三事實ノ發見ヲ容易ナラシム 蓋シ今日開明ヲ以テ稱セラル、諸國ノ法律ヲ閱スルニ刑事ハ口供ノミヲ以テ其罪ヲ斷スルノ舊主義ヲ排シ事實ノ判定ハ一ニ裁判官ノ心証ニ委セリ然レトモ裁判官カ其心証ヲ作ルヤ毫モ據ル所ナクシテ作り得可キモノニアラス非除ヤ之ヲ作り得ルトスルモ是レ一個ノ妄想ニ



過キサルナリ故ニ其無形ノ心証ヲ作ルニハ必ス有形ノ証憑ニ依ラザル可ラス
 而シテ其有形ノ証據ニ依ラスニハ被告人ノ訊問証人ノ陳述鑑定人ノ意見犯
 所臨檢等細大洩サス証據ヲ蒐集セサル可ラス然ルニ今之ヲ爲スニ當リ被告人
 フ監禁スルコトナク裁判確定ノ日マテ其自由ニ放任センカ之ヲ訊問セント欲
 スルモ被告人ノ出廷セサルヲ如何セン加之自己ノ不利益ナル證據ノ湮滅ヲ企
 テ自ラ証據物件ヲ毀壞滅失又ハ隱匿シ或ハ賄賂ヲ贈リ若クハ脅迫ヲ爲シテ證
 人ヲ噤シ又ハ僞ラシムル等種々ノ手段ヲ施ラストキハ豫審判事ハ如何ニ思フ
 疑ラシテ爲サント欲スルモ到底証據蒐集シ目的ヲ達スルコト能ハサル可キナ
 リ故ニ其必要ナルニ當テハ被告人ノ自由ヲ停止シ其權利ヲ傷害スル又止ムヲ
 得サルナリ

監禁ハ禁
 錮以上ノ
 刑ニ該ス
 者ニアル
 ナレハ爲
 ス得ス

夫レ此三个ノ理由アルコトヲ知ラハ未決勾留ノ不當ナラザルコトヲ知ル思半
 ニ過キン然レモ人ノ自由ヲ停止スルハ素ト是重大ノ事ナリ容易ク之ヲ許スト
 キハ遂ニ正當ノ域ヲ脱シテ不正ノ境ニ入ラン仍テ豫審判事ハ宜ク公平無私ノ
 心ヲ以テ且ツ社會公益ノ爲メ必要ナル場合ヲ吟味シテ爲サハル可ラス被告人
 フ拘留スルトキハ逃走スルコトナカル可ク又之ヲ取調フルニ便ナリトノ單一
 理由ニテ之ヲ拘留スルハ不正ノ誹ヲ免レサルナリ然ラハ如何ナル場合ニ於テ
 拘留スルノ必要アリヤ又如何ナル場合ニ此必要ナシト爲スヤ曰ク是レ事實ノ
 問題ナリ豫メ一定ノ條例ヲ以テ規定シ得可キ所ニアラザルナリ唯タ法律ハ犯
 罪ノ種類ニ依リテ逮捕拘留ノ必要アル可キト否トヲ推定セシノミ即チ罰金以
 下ノ刑ニ該ル可キ者ト禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者トノ區別是ナリ
 第七十五條ニ曰ク「拘留狀ハ中略禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料スルニ非
 サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス」

本條ヲ裏面ヨリ解釋スルトキハ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪及ヒ拘留料料ニ該ル
 可キ違警罪ニ付テハ未決拘留ヲ許サスト知ル可シ既ニ拘留ヲ許サストセハ未
 決ノ逮捕亦之ヲ許サハルノ意ナルニ推知スルニ餘アリ何トナレハ逮捕スルモ
 之ヲ監禁スルコトヲ得サル以上ハ一旦之ヲ逮捕スルモ後直ニ之ヲ放タリル可
 ラス果シテ然ラハ寧ロ初ヨリ逮捕セサルノ勝レルニ如カサルナリ然ラハ罰金
 以下ノ刑ニ該ル可キ者ニ付テ之ヲ監禁セサル理由如何ト云フニ罰金以下ノ刑

ハ刑法上孰レモ皆テ輕少ナルモノナリ犯人ヨリ觀察スルニ其惡意ノ度ハ甚タ低ク且ツ此等ノ刑ニ該ル者ハ多クハ惡意ナク單ニ過失ニ由ルモノナリ故ニ此等ノ事件ニ付テハ何レノ場合即チ現行犯ヲモ包含スルハ勿論ナリト雖モ未決拘留ヲ爲ス可キノ必要ナシト云ハサル可ラス殊ニ違警罪ノ如キハ其性質單ニ警察取締ノ規則ニ違犯スルニ止マリ所謂自然ノ犯罪ニアラサルカ故ニ之カ自由ヲ停止スルニ及ハサル可ク未決拘留ヲ爲スノ理由ハ殆ト之ナシト云ハサル可カラス是レ此區別アル所以ナリ

第七十五條ハ拘留ニ付テノ規定ニシテ逮捕ニ關スル規定ニアラス是ヲ以テ或ハ罰金以下ノ刑ニ該ル者ト雖モ逮捕スルコトヲ得可キカノ疑ヲ起ス者アラシ左レト前述ノ如ク逮捕モ亦許サスト決定セサル可ラス若シ逮捕ヲ許スモノト決定スルトキハ奇異ノ結果ヲ生セン即チ一方ニハ拘留スルヲ得スト爲シ他ノ一方ニハ逮捕スルヲ得ルト爲ストキハ一面ニ自由ヲ束縛サレ他ノ一面ニハ自由ヲ得恰モ左手ニ放チ右手ニ摔フルト一般豈道理ニ適シタリト云フ可ケンヤ加之罰金以下ノ刑ニ該ルモノニ付テハ前論ノ如ク未決拘留ス可キノ理由ナ

逮捕ハ罰金以下ノ刑ニ該ル者ト雖モ逮捕スルコトヲ得可キ

トスル以上ハ逮捕モ亦何ゾ其理由アラシキ故ニ法文ナキニモ拘ハラズ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ付テハ逮捕モ亦タ爲スコトヲ得スト決スルノ適理ナルコトヲ知ル可シ

然リト雖モ爰ニ余カ說ニ反對ヲ試ムル者ナキヲ保セス曰ク第五十八條第二項ニ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事ニ違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得ト記セリ此引致ハ逮捕ト同一ニシテ毫モ其區別ヲ見スト夫レ然リ豈其レ然ランヤ皮想ノ見ヲ以テスルトキハ引致ハ則チ逮捕逮捕ハ即チ引致ニシテ二者ノ區別ナキカ如シト雖モ其實大ニ異ナルモノナリ抑モ逮捕ナルモノハ逃亡ヲ防カンカ爲メニ行フモノニシテ即チ逮捕ヲ爲シテ一應取調ヘ而シテ後拘留センカ爲メナリ換言セハ逮捕ハ拘留ノ準備ナリトスルハ普通ノ解釋ナリ然ルニ第五十八條ノ引致ハ之ト異ニシテ其人ノ氏名住所ヲ確メシカ爲メニ施ス手段タルニ過キサルナリ是ヲ以テ逮捕ハ豫審ノ趣意ヲ貫徹セ



シカ爲メニ本案ノ事實ニ蹈入リタルモノナレバ第五十八條ノ所謂引致ハ未
本案ニ屬セサルカ故ニ其氏名住所ヲ確メ可キノ處分ヲ終リタルトキハ之ヲ元
來ノ地位ニ復歸セサル可ラス又引致ノ途中ト雖モ其氏名住所ヲ明ニシタルト
キハ直ニ之ヲ放還セサル可ラス是ニ由テ之ヲ見レハ逮捕ト引致トハ大ニ異ナ
ルモノニシテ第五十八條ノ所謂引致ハ逮捕ヲ包含セサルコト明瞭ナリ之ヲ要
スルニ逮捕監禁ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ施ス可ク罰金以下ノ刑ニ該
ル者ニハ決シテ施スヲ得スト知ルヘシ

前ニ述ヘタルカ如ク未決勾留ノ目的ハ公安ヲ保護シ裁判執行ヲ確保シ事實ノ
判決ヲ容易ニスルニアルノミ故ニ或人ニ對シテハ實際此處分ヲ必要トセサル
コトアラン例ヘハ彼ノ幼者ノ如キハ素是レ思考ニ乏キカ故ニ罪證湮滅ヲ謀ル
ノ恐ナカル可シ又彼ノ一定ノ住所ヲ有シ巨多ノ財産ヲ積ム者若クハ土地ニ名
望ヲ有スル者ノ如キハ逃避跡ヲ晦マヌノ恐レナカル可シ從テ此等ノ者ハ概シ
テ未決勾留ヲ爲ス可キノ必要ナキカ如シ昔シユスチニアン帝ノ法律ニ婦女ノ
如キ者ハ如何ナル場合ト雖モ未決勾留スヘカラスト爲セリ然リト雖モ斯ノ如

未決勾留
ノ必要ナ
ルト事ト
ハ判事ノ
認定ニ任
ス

未決勾留
ヲ爲スニ
ハ令狀ヲ
要ス

法律ヲ以テ此者ノ犯罪ノ逮捕ス可ラス後者ノ犯罪ハ監禁ス可シト定ムルハ
決シテ宜ヲ得タルモノニアラサルナリ未決勾留ハ通例ノ被告人逃走ノ恐アル
カ若クハ罪證湮滅ノ虞アリト認メテ爲スモノナルカ故ニ之ヲ爲スト爲サハル
トノ場合ハ一ニ裁判官ノ認定思量ニ委セサル可ラサルナリ是ヲ以テ我法律ハ
被告人ノ身分ヲ區別セス之ヲ勾留スルト否トハ裁判官ノ認定ニ一任セリ但シ
今日或ル規則ニ於テ或ル身分ヲ有スル者即チ勅任官奏任官華族及ヒ帶勳有位
者ニ付テハ現行犯ノ場合ヲ除クノ外直チニ逮捕勾留スルコトヲ許サス其逮捕
勾留ヲ必要トスル場合ニハ豫メ上奏ノ手續ヲ經可シト定メタリ然リト雖モ此
規則タルヤ逮捕監禁ヲ許サストスルニアラス之ヲ逮捕シ勾留スルニ要スル條
件ヲ定メタルノミト知ル可シ

未決勾留ハ人ノ自由ヲ停止スルモノナリ是故ニ之ヲ爲スニハ宜ク鄭重ナル法
式ヲ履行セシメサル可ラス何等ノ制限ヲ付スルコトナク苟モ必要ナルトキハ
自由ニ爲レ得可シトスルトキハ其極ヤ專横ニ流レ漫ニ人ノ自由ヲ拘束スルニ
至ラン何トナレハ其局ニ當ル者ハ其職ヲ盡スニ熱心ナルモノナリ而シテ被告



人ヲ勾留シテ己レノ手許ニ置クトキハ大ニ事ニ便ナルカ故ニ濫リニ之ヲ勾留スルニ至ル可ケレハナリ是ヲ以テ法律ハ現行犯ノ場合ハ格別ナレトモ其他ノ場合ニ於テ苟モ人ヲ逮捕シ勾留スルニハ令狀ヲ要スト爲セリ而シテ此令狀ハ之ニ具ハル可キ方式ト其効力トヲ規定ス可キコト甚タ必要ナリ否ラサレハ其令狀ノ嚴正ナルコトヲ示スニ足ラサルナリ今法律ハ人ヲ逮捕シ勾留スルニ付テハ令狀ヲ要スト定メタルト同時ニ其方式ト効力トヲ細ニ規定セリ故ニ此方法ニ據ラスシテ人ヲ逮捕勾留スルトキハ刑法ニ規定セル不法逮捕不法監禁ノ罪アルヲ免レサルナリ要スルニ刑事訴訟法ハ此方式ヲ定メ此方式ヲ履マシテ爲シタル者ノ制裁ヲ定メタリト云フ可シ

令狀ノ種類

第一款 令狀

令狀ニ三種アリ召喚狀。勾引狀。勾留狀即チ是ナリ。召喚狀ハ眞ノ令狀ニ非ス令狀トハ公力ヲ以テ強行スル命令ヲ云フ故ニ此名アリ然ルニ召喚狀ハ肯テ公力ヲ以テスルモノニアラス通常ノ手續ニ依リテ送達ス而シテ其送達ヲ受ケタル被

先ツ召喚狀ヲ發スル理由

告人ハ其召喚狀ニ應シテ出廷スルト否トハ自己ノ勝手ナリ何トナレハ別ニ公力ヲ以テスルモノニアラサレハナリ夫レ然ラハ此召喚狀ナルモノハ毫モ人身ノ自由ニ關スルコトナク即チ通常ノ呼出狀ト異ナル所ナシ然レトモ法律ハ之ヲ以テ令狀ナリト爲シタル以上ハ暫ク令狀ノ名ヲ以テ呼ハサル可ラス第六十九條ニ依ルニ豫審判事ハ檢事ハ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事件ヲ受理シタハトキハ被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス可シト記セリ夫レ召喚ヲ發シテ被告人ニ出廷ヲ爲サシメントスルハ如何ナル必要アルカト云フニ凡テ事實ノ實否ヲ知ラント欲セハ其事實ノ原因ヲ爲シタル本人ヲ訊問セサル可ラス而シテ之ヲ訊問センニハ其本人ヲ呼出サ、ル可ラス是レ召喚狀ノ必要ナル所以ナリ先ツ召喚狀ヲ發セヨト命セシハ何故ゾ曰ク人ノ自由ヲ重ンスルニ因ルナリ蓋シ人ハ漫リニ逮捕ス可ラス又拘留ス可ラサルナリ故ニ先ツ自由ヲ停止セサル方法ヨリ始メサル可ラサルナリ

召喚狀ノ効力

召喚狀ハ被告人カ隨意ニ出廷スルコトヲ命スルモノナリ然ラハ此召喚狀ハ如何ナル効力ヲ有スルヤ被告人ハ之ニ應シテ直ニ出廷セサル可ラサルヤ又出廷

シタルトキハ幾何時ニ訊問ス可キヤ同條但書ニ曰ク召喚狀ハ送達ト被告人
出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ路程ニ關スル猶豫期限ハ此外ナ
リ何故此猶豫期限アルヤト云フニ是レ被告人ノ利益ヲ保護スルニアリ則チ此
猶豫期限アルトキハ被告人ハ其間ニ自己ノ用ヲ辨シ且其間ニ辯護ノ方法モ亦
タ案シ得可ケレハナリ

被告人出廷シタルトキハ豫審判事ハ即時ニ訊問ス可ク決テ其儘ニ打捨テ置
ク可ラス而シテ此令狀即チ召喚狀ノ効力ニ依リ被告人ヲ法廷ニ在ラシムルハ
運クトモ其日ヲ過クルコトヲ許サス第六十九條第二項故ニ被告人午前ニ出廷
シタルト又ハ午後ニ出廷シタルトヲ問ハス其日ヲ過キテ尙ホ之ヲ留メ置クコ
トヲ得サルナリ若シ其日ニ取調ヲ終ヘサルトキハ翌日又更ニ召喚狀ヲ以テ之
ヲ呼出ス可シ但シ次日之ヲ呼出スニ付テ前ノ如ク二十四時間ノ猶豫ヲ附與ス
ルコトヲ要セズ明日直ニ出頭セヨト命スルコトヲ得ヘキナリ

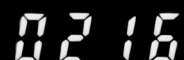
拘引狀ヲ
發シ得ル
場合

召喚狀ヲ發シテ被告人其日時ニ出廷セサルトキハ如何此場合ニ於テハ公力ヲ
以テ強テ出廷セシムルコトヲ得ス然レトモ豫審判事ハ見込ニテ勾引狀ヲ發ス
ルコトヲ得第七十一條但シ此令狀ハ猥リニ發ス可キモノニアラス先ク召喚狀
ヲ發シテ被告人其日時ニ出廷セサルトキニ限ルナリ

第七十二條ニ依レハ

- (一) 被告人定リタル住所アリサルトキ
- (二) 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃走スル恐アルトキ
- (三) 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アルトキ

ハ先ク召喚狀ヲ發セストモ直ニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得是レ止ムヲ得サルノ變例
ナリ蓋シ(一)一定ノ住所ナキ者ハ召喚狀ヲ發スルモ多クハ其効ヲ見サル可シ何
ソヤ召喚狀ハ被告人ノ住所ニ送達ス可キモノナリ然ルニ一定ノ住所ナキ浮浪ノ
輩ハ其出沒スル所其來往スル處得テ知ル可ラス隨テ其住所ニ送達スルコトハ
蓋シ能ハスト云ハサル可ラス是レ斯ノ變例アル所以ナリ(二)罪證ヲ湮滅シ又ハ
逃亡ノ恐アル者ニ付テハ裁判執行ヲ確保ス可キノ必要ニ迫レリ故ニ此變例ニ
依リ以テ直ニ其自由ヲ停止セサル可ラス(三)未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目
的ヲ遂ケントスル者ニ付テハ公安保護上殊ニ此必要アリ蓋シ未タ全ク害ノ生



勾引狀ノ効力

セサルニ當テ之ヲ防ク可キハ須臾モ猶豫ス可キモノニ非サレハナリ
勾引狀ノ効力如何 勾引狀ハ公力ヲ以テ被告人ヲ判事ノ面前ニ引致スルモノ
ナリ是レ此令狀ノ特性ナリトス第七十三條第一項而シテ其効力ハ四十八時間
繼續ス即チ此令狀ヲ執行シ引致シタル時ヨリ計算シテ四十八時間假ニ留置ス
ルコトヲ得ルナリ但シ其間ニ訊問セサル可ラサルハ勿論ナリ若シ四十八時間
ヲ過クルトキハ之ヲ釋放セサル可ラス四十八時ヲ過キテ尙ホ留置ク可キノ必
要アルトキハ更ニ勾留狀ヲ發スルコトヲ要ス(同條第二項)
以上述ヘタル所ニ由テ見ルトキハ先ツ召喚狀ヲ發スルモ被告人其日時ニ出廷
セサルカ又ハ初ヨリ第七十二條ニ記載シタル場合ニ該當スルトキ拘引狀ヲ發
シ而シテ後ニ勾留狀ヲ發ス可キモノトス

勾留狀ヲ發スルニハ一ノ制限ヲ必要トス此制限ニ據ルニアラサレハ之ヲ發スル
コトヲ得ス而シテ其制限ハ第七十五條ニ規定セリ同條ニ曰ク「勾留狀ハ被告人
ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發ス
ルコトヲ得ス」故ニ此令狀ヲ發スルニハ第一其被告人ヲ訊問シタルコト第二

其被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノナルコトヲ要ス若シ被告大ウ訊問
スルコトナク又罰金以下ノ刑ニ該ル可キモノト思料スルニモ拘ハラス之ヲ勾
留スルトキハ其勾留ハ不法タリ然レトモ此訊問ヲ要スルノ條件ニハ一ノ例外
アリ即チ被告人逃亡シタルトキ是ナリ此場合ニ於テハ訊問スルコトヲ得サル
カ故ニ禁錮以上ノ刑ニ該ルノ一條件アレハ即チ此令狀ヲ發スルコトヲ得ルナ
リ

勾留狀ノ効力

勾留狀ハ令狀中最モ重大ニシテ其効力ハ殆ト無限ナリ即チ此令狀ハ幾年月ノ
間ト雖モ之ニ依テ被告人ノ自由ヲ停止シ勾束シ得可キモノナリ此ノ如ク重大
ナルモノナルカ故ニ之ヲ發スルニ付テハ最モ慎重ヲ加ヘサル可カラズ法律カ
被告人訊問ノ後ナルト被告事件ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノナルトノ條件
ヲ要シタルハ畢竟判事カ直接ニ被告人ヲ取調ヘタル上ニテ其事件重大ナルコ
トノ心証ヲ得ルニ非サルヨリハ如何ニ重大ナル犯罪ナリトシテ檢事カ公訴ヲ
提起シタルニセヨ輕々此令狀ヲ發ス可カラズトノ意ヲ表示シタルモノト云フ

召喚狀ト
他ノ令狀
トノ差異

可シ

是ヨリ以上ニ述タル召喚狀ト他ノ令狀トノ差異ヲ對比シテ示サン

一 召喚狀ハ被告人ヲシテ隨意ニ出廷セシメンカ爲メ之ヲ通知スルニ過キス故ニ普通ノ規則ニ從ヒ執達吏ヲシテ之ヲ送達セシム然ルニ勾引狀勾留狀ハ公力ヲ用ユルモノナルカ故ニ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム第七十六條

第三項

二 召喚狀ハ常ニ一通ニ限ルモノニシテ全時ニ數通ヲ發スルコトナシ然ルニ勾引狀勾留狀ハ時宜ニ依テハ數通ヲ作り之ヲ巡查憲兵卒數人ニ分付スルコトヲ得第七十七條是レ他ナシ若シ一通ニ限ルトキハ令狀執行ノ望ナキコトナシトセサレハナリ例ヘハ執行ノ爲メ甲處ニ至レハ被告人早既ニ逃避シテ其所ニ在ラス而シテ之ヲ追フテ其逃避シタル乙處ニ至レハ又已ニ其處ヲ去レルカ如キコトアル可シ故ニ一方ニ於テハ被告人既ニ居ルナラント思量スル處ニ一巡查ヲ派シ又他ノ一方ニハ其逃テ潛匿スルナラント思量スル場所ニ他ノ巡查ヲ派シ若クハ其居ラント思量スル各所ニ全時ニ數人ノ巡查憲兵

ヲ派スルヲ得策トスルコトアリ是此二ノ令狀ハ數通ヲ作ルコトヲ得セシメタルナリ

三 召喚狀ヲ發ス可キ場合ニ被告人其管轄地内ニ住セスシテ他ノ管轄内ニアルトキハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ囑託シテ其訊問ヲ爲サシムルコトヲ得(第七十條)若シ訊問スル爲メ召喚スルコトヲ要スルトキハ其召喚狀ハ此書記ヨリ彼書記ニ囑託シテ之ヲ送達セシム勾引狀勾留狀ニ付テハ亦全國ニ効力ヲ有シ何レノ地ニ於テモ之ヲ執行スルコトヲ得ヘク例ヘハ東京ニテ發シタル令狀ヲ長崎ニテ執行セントスルトキハ東京ノ檢事ヨリ長崎ノ檢事ニ此令狀ヲ送致シ其地ノ公力者ヲシテ執行セシムルモノトス此點ハ召喚狀ニ於ケルト殆ト同一ナレトモ若シ急速ヲ要スルトキハ東京ノ巡查憲兵卒ニ令狀ヲ携帶セシメ長崎ニ至リテ執行セシムルコトヲ許セリ(第七十九條)第一項之ヲ許シタル所以ハ迂遠ニモ東京ノ檢事ヨリ長崎ノ檢事ニ令狀ヲ送致シテ彼此時日ヲ遷延スルトキハ被告人逃走シテ其目的ヲ達スルコト能ハサルコトアレハナリ尤モ此場合ト雖トモ其令狀ヲ携帶シタル者ハ自ラ之ヲ執行スルコトヲ得ス其地ノ公力者

豫審判事
被告人ノ
所在地ヲ
覺知セザ
ルトキハ
處分

ヲシテ執行セシメサル可ラス故ニ之ヲ携帶シタル者ハ其地ノ豫審判事檢事
又ハ司法警察官ニ其令狀ヲ示シテ執行ヲ求メサル可ラス(同條第二項)
召喚狀ト他ノ令狀トノ間ニハ其方式及ヒ効力ニ於テ此ノ如ク差異アリ
又勾引狀勾留狀ヲ發セントスルニ被告人ノ所在知レサルトキハ之ヲ執行シ難
ク他ニ別段ノ方法アラザルヲ以テ豫審判事ハ各控訴院ノ檢事長ニ人相書ヲ配
附シテ其捜査及ヒ逮捕ヲ求ムルコトヲ得此請求アルトキハ各控訴院ノ檢事長
ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ之カ處分ヲ爲サシム可ク檢事ハ即チ勾留狀ト同一
ノ効力アル逮捕狀ヲ發スルコトヲ得ルナリ但レ此事ヲ爲スハ重大ナル事件ニ
限ル可シ(第八十條)

第八十條ニ依レハ各檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲ス云
々トアリ左レト常ニ必スシモ各控訴院ノ檢事長ニ請求セサル可ラサルモノト
誤解ス可ラス豫審判事ノ見込ニテ一ノ控訴院檢事長ニ請求スルコトヲ得可キ
ハ言ヲ埃タサルナリ例ヘハ其被告人ハ東京控訴院管轄内ニ潜匿シ居ラント思
トキハ他ノ管轄内ノ檢事長ニ之カ捜査逮捕ヲ請求スルハ實ニ無用ノコトナレ

ハ唯タ東京控訴院檢事長ニノミ之ヲ請求スルヲ以テ足レリトス

勾引狀勾
留狀執行
ニ關スル
方式

勾引狀勾留狀ノ執行ニ關スル方式 勾引狀勾留狀ノ執行ニ付テハ被告人ニ正
本ヲ示シ其謄本ヲ下付スルモノトス且ツ被告人ヲシテ之ニ署名捺印セシム若
シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ此方式ヲ要スル所以ハ
擅ニ其自由ヲ停止シ拘束スルニ非ラス實ニ正當ノ職權アル判事ノ命令ニ出テ
タルコトヲ示スニアリ第七十七條第二項)

勾留狀ヲ
受ケタル
被告人ハ
必ス監獄
ニ引致ス
ヘシ

勾留狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致ス可キモノ
ナリ而シテ其被告人ヲ監獄署ニ引渡スニ當リ令狀執行者ハ其令狀ヲ監獄署長
ニ示シ監獄署長ハ之ヲ檢閲シタル上被告人ヲ受取り其受取證書ヲ渡ス可キモ
ノトス此時ヨリ被告人ハ前執行者ノ手ヲ離レ以來監獄署長ノ監督ニ屬ス(第八
十二條)

令狀ノ執行者タル巡查憲兵卒カ令狀執行ノ任ヲ終リタルトキハ其之ヲ執行シ
タルコト又執行シ能ハサルトキハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載シ總テ此執行ニ
關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ(第八十三條)是ニ於テ乎執行者其責任ヲ免カル

被告人軍人軍屬ナ
ルトキ

未決囚ノ
既決囚ノ
間ニ取
上ノ差
既決囚ノ
間ニ取
上ノ差

モノトス

勾引狀勾留狀ヲ受ク可キ被告人カ陸海軍下士以下ノ軍人ニシテ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサルモノナルトキハ直ニ被告人ニ對シテ之ヲ執行ス可キモノニアラス蓋シ被告人ハ軍旗ノ下ニ隸屬スルモノニシテ躬ヲ其身ヲ左右ス可キ獨立ノ地位ニ在ル者ニ非ラサレハナリ故ニ此ノ場合ニ於テハ其被告人ヲ指揮監督スル所ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示ス可シ而シテ長官又ハ隊長ハ己ムヲコトヲ得サキ差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可キモノトス第八十

一條

令狀ニ因リ自由ヲ停止セラレタリト雖トモ其者ハ單ニ被告人ト稱ス可ク犯罪人トシテ視ル可キ者ニ非サルハ勿論ナリ故ニ其取扱モ亦タ既決囚ト異ニシテ自由停止ヲ除クノ外ハ通常人ト同一ニシテ乃チ外人ト接見スルコトヲ得セシメサル可カラズ但シ外人ト接見スルトキハ或ハ罪証湮滅ノ企ヲ爲スヤ知ル可ラス故ニ外人ト接見スルトキハ監獄則ニ定メタル所ノ官吏之ニ立會フモノトス第八十五條第一項

又此被告人ハ外人ト通信其他書類往復ヲ爲スコトヲ得セシメサル可カラズ是レ亦既決囚ト異ナル所ナリ既決囚ハ通信ヲ許スモ嚴重ナル制限アリ又其他ノ書類ニ付テハ概シテ外人ト往復スルコトヲ許サハルモ此被告人即チ未決囚ニ付テハ殆ト之カ制限ヲ爲スコトナシ然レトモ音信ヤ新聞ヤ書籍ヤ自由ニ外人ト授受スルコトヲ許ストキハ或ハ之ニ據テ以テ罪證ノ湮滅ヲ爲スヤ料ル可ラス故ニ書翰書籍其他ノ書類ハ一タヒ豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經タル後ニ非ラサレハ外人ト授受スルコトヲ許サスト定メタリ而シテ豫審判事又ハ檢事之ヲ檢閱スルニ當リ其書翰書籍其他ノ書類カ事實發見ノ資料タル可キモノト認ムルトキハ之ヲ留置クコトヲ得ルナリ(第八十五條第二項)

又未決囚即チ被告人ト既決囚トハ其檻房ヲ混一ス可ラス未決囚ノ別ニ未決檻ニ置ク可キモノナリ但シ一人一室ニ置クハ國家ノ經濟上能ハサルカ故ニ一室ニ數人ヲ置クナリ然レトモ一室ニ數人ヲ置クトハ云ヘトモ共犯者ハ密ヨリ其檻房ヲ異ニセサル可ラス蓋シ罪跡ヲ蔽ヒ罪證ヲ滅シ其他巧ニ罪責ヲ免カルコトヲ謀ルノ恐レアレハナリ

第二款 密室監禁

或場合ニ於テハ數人ヲ一房ニ混シ置クトキハ縱令共犯者ナラサルニモセヨ互ニ相謀リテ罪ヲ免カルノ方法ヲ案シ若クハ互ニ相教示スルヲアリ又或ハ將ニ放免セラレントスル者ト同居スルトキハ罪證湮滅ノ方法ヲ囑托シ爲メニ放免セラレタル者ハ檢倉ヲ出タルノ後彼レカ爲メニ之ヲ遂クルコトアルヘシ故ニ豫審判事之ヲ同室ニ混居セシムルトキハ妨害アリト思量セル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ自己ノ職權ヲ以テ密室監禁ヲ言渡スコトヲ得第八十七條但此言渡ヲ爲スハ勾留狀ヲ受ケタル被告人ニ限ルモノトス

密室監禁トハ外人トノ交通ヲ絶タンカ爲メ密室ニ入レ置クコトヲ云フナリ然レトモ密室ハ暗室同様ノモノト思フ可ラス苟モ人ト交通ヲ絶ツニ足ル可キナラハ室ノ結構如何ハ問フニ及ハサルナリ

密室監禁ノ目的ハ他人ト交通ヲ爲サシメサルニアリ故ニ密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎ニ之ヲ別室ニ置クモノトス然レトモ又全ク人ト接見スルヲ禁絶スルニアラス豫審判事ノ允許ヲ得レハ外人ト接見スルコトヲ得夫ノ通常ノ未決勾留ト異ナル所ハ通常ノ未決勾留ハ獄則ニ定メタル官吏ノ立會アレハ自由ニ外人ト接見スルコトヲ得ト雖トモ密室監禁ニ付テハ其接見ノ爲メ一々必ス豫審判事ノ允許ヲ得サル可ラサルコト是ナリ又通常ノ未決勾留ニ於テハ書類物品ヲ授受スルニハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經ルヲ以テ足レリト雖トモ密室監禁ニ付テハ必ス允許ヲ得ルコトヲ要ス(第八十八條)

密室監禁ハ被告人ノ爲メニ甚タ不利益ニシテ且ツ精神ニ苦痛ヲ與フルコト鮮カラサルモノナリ故ニ法律ハ容易ニ之ヲ許スコトヲ欲セサルナリ夫ノ拷問法ニ代ヘテ之ヲ使用スルカ如キハ法律ノ精神ニ背クコト最モ太甚シキモノト云フ可レ

密室監禁ハ此ノ如ク嚴重ノ處分ナリ故ニ之ヲ無限ナル歲月ノ間ニ置ク可ラス法律ハ密室監禁ノ期限ハ十日ヲ超過ス可ラスト定メタリ故ニ十日以外ニ涉ルヲ許サ、ルナリ夫レ之ヲ十日ト限リシ所以ハ何ゾ曰ク人ハ社交的ノ動物ナリ人ト相交ハリ相接スルハ其本性ナリ然ルニ全ク其性ニ遠カラレメテ永ク之ヲ

一室ニ籠居セシムルトキハ苦愁鬱悶若クハ無聊不遣ノ情積テ精神ニ刺激ヲ與ヘ遂ニ病ヲ^レサシムルハ歐洲諸國其實例ニ乏シカラサルナリ是ヲ以テ我法律モ亦之ニ鑑ミ十日ヲ超過ス可ラスト爲シタルモノナリ然リト雖トモ其十日ヲ過キ猶ホ之ヲ密室監禁ス可キノ必要アルトキハ公益ノ爲メ又以テ止ム可ラサルカ故ニ更ニ十日間密室監禁ノ言渡ヲ爲スコトヲ許セリ然レトモ更ニ爲シタレ言渡ト雖トモ十日ヲ過ク可ラサルハ前ト同一ナリ換言セハ縱令初メヨリ永キ日時ノ間密室監禁ス可キノ必要アルトキト雖トモ必ス十日毎ニ其言渡ヲ更改セサル可ラス斯ノ如ク云フトキハ密室監禁ハ其言渡ヲ更改スレハ幾回モ密室監禁スルコトヲ得ルカ故ニ其極遠ニ幾年月間ノ久キニ涉ルコトアラン是ヲ以テ若シ一タレヒ法ヲ舞ハシ權ヲ弄スル者アラハ之ヲ濫用シテ法律ノ精神ヲ滅却スルヤ知ル可ラス豈戒メサル可ケンヤ然レトモ果シテ其必要アリシヤ否ヤハ事實ノ問題ニシテ其更改ノ回数ヲ豫メ限ルコトハ法律ノ能ハサル所ナリ然レトモ法律ハ又全ク之ヲ慮カラサルニ非ス此濫用ヲ防カンカ爲メ其言渡ヲ更改スルトキハ其事由ヲ裁判所長ニ報告ス可レト規定セリ夫レ裁判所長ハ行

未決勾留
ヲ取消ス
可キ場合

政ト司法ノ職トヲ併帶スルモノナリ故ニ豫審判事之ヲ濫用スルトキハ監督上ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ是ヲ以テ其濫用ノ弊ヲ避クルヲ得ヘキナリ又法律ハ密室監禁シタルマヽ之ヲ打捨テ置キテ訊問セサルハ決シテ許サヽル所ナリ故ニ少クモ其間ニ二度訊問セサル可ラス而シテ之ヲ訊問セタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ訊問調書ヲ作ル可キハ勿論ナリ(以上第八十九條)未決勾留ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告事件ニ付キ之ヲ許スト雖トモ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告事件ニ付テハ之ヲ許サヽルナリ故ニ豫審判事初メ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思量セテ之ヲ未決勾留セシニ後ニ其被告事件タル罰金若クハ拘留科料ノ刑ニ該ル可キモノナルコトヲ發見スルトキハ其未決勾留ノ命令ヲ取消サヽル可ラス而シテ之ヲ取消スハ豫審判事ノ自由ニシテ別ニ之カ爲メ檢事ノ意見ヲ聞クヲ要セス何時ニテモ其取消ヲ爲スコトヲ得ルナリ第八十六條)又初メ未決拘留ヲ爲スコキノ必要アリテ爲セシカ今ハ其必要ナキニ至リシトキハ之ヲ拘留シ置ク可キノ必要ナキヲ以テ前ノ合狀ヲ取消シ被告人ヲシテ平生



ノ自由ニ復セシメサル可ラス
豫審判事ニ於テ現今ハ被告人ヲ未決拘留シ置ク可キノ必要ナシト雖トモ又余
ニ無條件ニテ解放ス可ラストスルトキハ之ニ或ル條件ヲ付シテ拘留ヲ解クコ
トヲ得而シテ其條件ニ二種アリ保釋及ヒ責付即チ是ナリ

保釋

第三款 保釋

保釋トハ或ル保證ヲ以テ釋放スルヲ云フナリ即チ何時ニテモ呼出ニ應シ出頭
ス可キノ證書ヲ差出シ且保證ヲ立テシメテ其拘留ヲ釋クヲ保釋ト云フナリ而
シテ其保證ノ方法ハ保證金若クハ之ニ代ル可キ有價証券ヲ差出サシメ又ハ其
裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ノ資力アル者ヨリ金額ニ充ツ可キ保證書ヲ差
出サシムルナリ(第百五十條及ヒ第百五十二條)

保釋ハ願
出アルヲ
要スル

此保釋ハ甚タ有益ノ處分ナリ然レトモ之ヲ爲スニ付テハ金額等ヲ差出サシム
ルモノナルカ故ニ豫審判事ヨリ命令スルコトヲ得サルナリ必ス被告人ヨリ願
出スルコトヲ要ス願出アルニアラサレハ之ヲ爲スヲ得サルナリ且ツ保釋ハ一

ノ處分ナルカ故ニ之ヲ爲スニ當テハ必ス檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス(第百五
十條第一項)

保釋ノ願出ハ被告人ヨリ爲ス可キハ勿論ナリト雖モ被告人無能力ナルトキハ
其法律上代理人ヨリ願出ツルコトヲ得法律上當然本人ニ代ル可キ者ナルカ故
ニ本人ト同一ニ見做スナリ(同條第二項)

保證ヲ立テシムルニ付テハ豫メ保證金額ヲ一定セサル可ラス然レトモ其金額
ハ被告事件ノ大小被告人ノ資力ノ程度ニ應シテ定メサル可ラス重大ナル事件
ト輕小ナル事件ト同一ナル可カラス又貧困ナル者ハ富者ニ比スレハ少金額ト
ト雖モ確保ヲ爲スニ餘アルコトアル可シ故ニ其額ヲ定ムルハ豫審判事ニ一任
セリ(第百五十條)

右ノ條件ヲ充タシテ保釋ヲ爲シタルノ後ニ於テ被告人ヲ訊問ス可キ時ハ何時
ニテモ呼出スコトヲ得然レトモ之ヲ呼出スニ當テハ呼出ト出頭トノ間二十四
時ノ猶豫アルコトヲ要ス若シ夫レ二十四時前ニ出頭ス可キノ報知ヲ爲スコト
ナクシテ即刻出廷セヨト命令得可キモノト爲ストキハ被告人ハ保釋ヲ得サル

保釋セラ
レタル被
告人ヲ呼
出スニ付
テノ期限

保釋セラル被
告人出廷被
レタル時
制取裁

ト同一ニシテ之ヲ許サレタル甲斐ナカルヘシ(第一百五十三條) 被告
人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ當利ノ約束ニ違フモ
ノナリ故ニ其違約ノ制裁トシテ保證金ノ全部又ハ一分ヲ沒收スルモノトス(第
百五十四條)然レトモ此沒收ハ刑法上ノ沒收ト異ナリ決シテ之ヲ一ノ刑罰ナリ
ト看做ス可カラズ

又一タヒ出頭ス可キノ約ニ違フトキハ以後復タ違約スルナラントノ推測アル
カ故ニ其保釋ヲ取消シテ前ノ令狀ノ効力ヲ復スルナリ(第五十六條) 此
ノ如ク被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ其保證金ヲ沒收ス而シ
テ之ヲ沒收スルハ全部ヲ沒收スルト又ハ一分ヲ沒收スルトハ豫審判事ノ權
ニ一任セリ此理由ハ被告人ノ出頭セサルハ縱令正當ノ事由ナラサルモ幾分か
恕ス可キコトナシトセサレハナリ 保釋中被告人ノ出頭セサルハ檢事ノ意見ヲ
保證金ノ沒收保釋ノ取消ハニノ制裁ナリ故ニ之ヲ爲スニ付テハ檢事ノ意見ヲ
聽カサル可ラス而シテ檢事ノ意見ヲ聽テ爲シタルトキハ檢事ハ其執行ヲ爲サ
ル可ラス即チ保釋物カ金圓ナルトキハ直チニ之ヲ國庫ニ入レ若シ又貯金預

所又ハ銀行ノ預證書ナルトキハ民事ノ手續ニ因テ徵收シタル上國庫ニ收ムル
ナリ

保釋ノ言
渡ヲ取消
スコトヲ
必要トス
ル場合

保釋中被告人カ罪證ヲ湮滅スルカ如キ危險ノ生スルトキハ保釋ノ言渡ヲ取消
スコトヲ得ルナリ但シ此場合ト雖モ檢事ノ意見ヲ聽カサル可ラス(第五十六
條)第二項而シテ此場合ニ於テハ其保證金ヲ被告人又ハ之ヲ出シタル者ニ還付
ス可キハ當然ナリ

又一旦保釋ヲ爲シタル後ニ豫審判事其終結ニ於テ免訴ノ言渡違警罪又ハ罰金
ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スルノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人釋放セラ
ルハ以テ其保證金ヲ還付ス可キハ勿論此言渡ノ場合ニ於テ被告人前ニ保釋
中保證金ヲ沒收セラレタルコトアルトキハ亦之ヲ還付セサル可ラス蓋シ其被
告人ハ元來勾留セラル可キ者ニアラサリシヲ誤テ勾留セラレタルモノナレハ
其自由ヲ得ルニ付キ保証金ヲ出スノ義務ナク從テ保釋中出廷セサルモ之ヲ沒
收セラル可キモノニアラサレハナリ(第五十七條)第五十八條) 若シ豫審判事誤テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト爲レ之ヲ公判ニ付シタリ

シニ公判ニ於テ被告人無罪免訴又ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡サレタルトキハ前キニ没收シタル金額ハ如何ス可キヤ之ヲ道理ヨリ考フルトキハ宜ク還付ス可キカ如シ然レトモ法律ハ公判ニ付テ特ニ此事ヲ規定セサルカ故ニ還付セサルモノト解セサル可ラス

責付

第四款 責付

責付トハ其親屬又ハ故舊ニ責任ヲ負ハシメテ被告人ヲ引取ラシムルコトヲ云フナリ恰モ舊時ノ被告人ヲ組頭惣代其他組合若クハ一町村ニ預ケタルト其性質ト殆ト同一ナルモノナリ

責付ハ別ニ保證金ヲ徴セス是レ保釋ト異ナル點ナリ他ハ保釋ト同一ナリ責付ハ如何ナル場合ニ爲スカト云フニ被告人ヲ拘留スルノ必要ナク又保證金ヲ徴スルノ必要ナシト雖モ無條件ニテ自由ヲ解ク可ラサルコトアリ此場合ニ於テ之ヲ親屬又ハ故舊ニ監督セシムルトキハ被告人ハ其親屬故舊ニ迷惑ヲ掛ケルコトヲ願ミ敢テ證據ヲ運送シ又身ヲ逃レテ潛匿スルカ如キコトハ爲サル

責付ヲ爲スル條件

可シト思量スル時ニ於テ爲スモノナリ
第五十九條ニ曰ク豫審判事ハ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルコトヲ得ト故ニ責付ヲ爲スニ付テモ亦豫メ檢事ノ意見ヲ聽カサル可カラス而シテ同條第二項責付ヲ爲スニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシム可キ證書ヲ差出サシム可シトアルニ因リ必ス親屬故舊ノ證書ヲ取置カサル可カラス之ヲ責付ニ付テノ要件トス若シ被告人呼出ヲ受ケテ出廷セサルトキハ親屬故舊ハ如何ナル制裁ヲ受ク可キヤト云フニ法律ノ規定ハ斯ル點マテ踏込マス唯タ道德上ノ責付ヲ負ハシメタルノミ

責付中被告人ヲ訊問スルニ付テ呼出ストキハ其呼出ト出廷トノ間二十四時ノ猶豫ヲ與フ可ク若シ被告人正當ノ事由ナクシテ出廷セサルトキハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽テ其責付ヲ取消ス可キコトハ第六十條ニ規定スル所ノ如シ

財産ニ對スル豫審處分

第二節 財産ニ對スル豫審處分

所有權ノ
施行ヲ停
止スル場
合

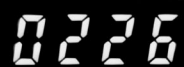
夫レ所有權ハ尊重ス可ク侵ス可ラス憲法第二十七條ハ所有權不可侵ノ大則ヲ揭ケテ曰ク「日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、コトナシ、公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル」ト故ニ夫ノ土地收用法ノ如キ公益ノ爲メニ定メタル法律ニ依ルニ非ラサルヨリハ此權ヲ侵スコトヲ得サルナリ竊テ此訴訟法ヲ通覽スルニ人ノ所有權ヲ侵シ得可キノ規定往々之アリ是レ亦實ニ公益ノ爲メ必要ナルヨリ之カ規定ヲ爲シタルモノナリ

物件差押

治罪手續上全然所有權ヲ侵犯スルコト彼ノ土地ヲ収用スルカ如キ場合ハ殆ト之ナク唯々稀ニ見ルコトアルノミ即チ事實發見ノ爲メ或ル物件ヲ分拆セシムル場合ニシテ此場合ニ於テハ其物件ハ全ク消滅ニ歸スルヲ以テ所有權ヲ喪失セシムルノ結果ヲ生ス可シ此他全ク所有權ヲ侵害スル場合ハ恐クハ之ナカル可ク餘ハ皆所有權ノ施行ヲ停止スルニ過キサルナリ
第六百六條ニ曰ク「豫審判事ハ臨檢搜索ニ因リ發見セタル物件其事實ヲ證明スルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ但其物件ヲ監視シ又ハ遷送スルハ裁判所書記之ヲ擔任ス可シト此ノ如ク法律ノ明

差押ノ手
續

記ヲルニ依リ豫審判事ハ事實發見ノ資料トナル物件ハ被告人ノ所有ナルト又ハ他人ノ所有ナルトヲ問ハス之ヲ差押フルコトヲ得ルナリ而シテ此差押タルヤ唯々所有權ノ施行ヲ停止スルニ過キサルモノトス
差押ノ結果ハ所有權ノ施行ヲ停止スルニ過キサルナリ換言セハ被差押人ハ其物件ヲ自由ニ使用スルコトヲ得サルノミ故ニ其物件ハ差押ヘラレタルマヽ之ヲ他人ニ讓渡スハ決シテ法ノ禁セサル所ナリ然レトモ其物件ヲ毀損滅壞スルコトハ素ヨリ爲スコトヲ得サルナリ又其物件ヨリ生スル利益ハ結局所有者ノ手ニ歸スト雖トモ差押ヘラレタル間ハ自由ニ收益スルコトヲ得サルヲ例トス差押ハ所有權侵ス可ラサルノ大則ニ對シテハ特例タルヲ免レサルナリ故ニ之ヲ爲スニ付テハ勉メテ慎重ヲ用井一ニ法式ニ依テ爲サハル可ラス法律ハ此差押ヲ許スト同時ニ之ニ關スル法式ヲ要求セリ今之ヲ説明ス可シ
先ツ犯罪ノ場所ニ於テ事實發見ノ資料トナル可キ物件ヲ發見シタルトキハ此物件ハ多クハ犯人ノ所有ニシテ且犯人カ遺留シタル物件ナル可シ故ニ此場合ニ於テハ止メ其物件ヲモ差押ヘタルコトヲ證スル爲メ其物件ニ封印シテ目錄



書ヲ作ル可キモノトスルノミ
 然レトモ若シ被告人ノ住所又ハ事實ヲ証明ス可キ物件ヲ藏匿スルノ疑アル者
 ノ住所ニ於テ差押ヲ爲ストキハ其本人ヲシテ立會ヲ爲サシメサル可ラス若シ
 本人在ラサルトキハ同居ノ親屬ヲ之ニ立會ハシメ若シ其親屬モ在ラサルトキ
 ハ市町村長ヲ立會ハシメサル可ラス蓋シ之ヲ立會ハシムルハ斯々ノ物件ヲ差
 押ヘタルコトヲ示サンカ爲メナリ
 物件ヲ差押ヘルハ事實發見ノ爲メナリ故ニ其物件ヲ取調ヘ最早事實ノ調査ヲ
 爲スヲ要セス裁判ヲ爲スノ時機ニ至ルトキハ刑法上沒收ス可キ物件ハ格別其
 他ノ物件ハ皆テ被告人ニ返還ス可キモノトス第二百二條ニ被告人有罪ト爲リ
 タルト否トヲ問ハス沒收ニ係ラサル差押物ハ所有者ノ請求ナシト雖トモ之ヲ
 遷付スル言渡ヲ爲ス可シトアルハ則チ之ヲ云フモノナリ本條ニ所有者ノ請求
 云々トアル所有者トハ必スシモ民法上ノ眞所有者ヲ云フニアラスシテ物件ヲ
 占有セシ者差押ヘラレタル人ヲ云フナリ故ニ其物件カ質屋ヨリ差押ヘタルト
 キハ之ヲ質屋ニ遷付セサル可ラス

又豫審免訴ノ場合ニ於テハ別ニ規定ナシト雖トモ之ヲ遷付ス可キハ勿論ナリ
 唯タ別段ニ遷付ノ言渡ヲ爲スニ及ハサルノミ故ニ免訴ノ場合ニ於テハ檢事之
 カ遷付ノ手續ヲ爲サル可ラス

人ノ住所
 ニ對スル
 豫審處分

第三節 人ノ住所ニ對スル豫審處分

憲法第二十五條ハ住所不可侵ノ大原則ヲ掲ケテ曰ク「日本臣民ハ法律ニ定メタ
 ル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ヒ搜索セラル、トナシ
 ト寔ニ住所ハ茅屋タルト大廈タルトノ區別ナク共ニ是レ人ノ據テ以テ安全ヲ
 保ツノ城廓ナリ住居者ノ寢食シ起臥スル所ナリ加之ナラス住居ハ他人ニ知ラ
 シム可ラサル秘密ノ事ヲ爲シ又秘密ノモノ、存スル所ナリ然ルニ漫リニ此住
 所ニ侵入セラルレ搜索セラル、コトアランカ人焉ソ其堵ニ安スルコトヲ得ンヤ故
 ニ住所ニ侵入シ搜索スルハ必ス法律ニ之ヲ許ス場合ニ限ラサル可ラス而シテ
 縱令法律ニ於テ之ヲ許ストキト雖トモ之ニ付テハ又法律ニ於テ若干ノ法式ヲ
 定ムルコトヲ要ス若シ法律ニ之ヲ許シテ而シテ其法式ノ定メナクシテハ住所侵入

ノ害ハ依然タルノミ是ヲ以テ此法律ニ於テモ其侵入搜索ヲ許スト同時ニ或法式ヲ要スト定メタリ

他ノ法律ニ於テモ人ノ住所ニ侵入シ搜索スルコトヲ許シタル場合アリ即チ收稅取締ノ爲メ收稅吏カ納稅者ノ家宅ニ侵入シテ搜索ヲ爲スカ如キ是ナリ然レトモ此等ノコトハ刑事訴訟法ノ關セサル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ説カス

刑事訴訟法ニ於テ家宅ニ侵入搜索スルヲ許シタル場合ニアリ

家宅搜索
ヲ許シタル
場合

第一 令狀執行ノ爲メ住所ニ侵入搜索スル場合 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査憲兵卒カ其令狀執行ニ際シ被告人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其家屋ニ侵入搜索スルコトヲ得第七十八條初段

第二 豫審判事證據蒐集ノ爲メ住所ニ侵入搜索スル場合 豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得第一百四條第一項

第一ノ場合ニ於テ其住所ニ侵入シ搜索ヲ爲スコトヲ許サレタル者ハ巡査憲兵卒ナリ元來巡査憲兵卒ハ唯々上官ノ指揮ヲ受ケテ其公力ヲ假スニ過キサル輕

キ身分ノ者ナレハ此等ノ者カ人民ノ住所ニ侵入スルニ付テハ其專横ヲ防クノ方法ナカル可ラス是ヲ以テ法律ハ巡査憲兵卒カ家宅ニ侵入搜索スルニ付テハ本人ノ立會ノミヲ以テ足レリトセス猶ホ必ス其他ノ市町村長ヲ立會ハシムルヲ要ス若シ市町村長差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メテ之ヲ搜索スヘシト爲セリ(第七十八條)

第二ノ場合即チ豫審判事カ證據蒐集ノ爲メ家宅ニ臨檢搜索スルトキハ本人ノ立會ノミヲ以テ足レリト爲セリ第一ノ場合ノ如ク別ニ市町村長又ハ隣佑ノ立會アルヲ要セサルナリ是レ當然ナリ何トナレハ一ノ裁判官タル豫審判事自ラ臨檢スルノミナラス其伴ヒタル書記其傍ニ在テ調書ヲ錄製スルカ故ニ專横ノ處分ナカルヘシ非除ヤ之アリトスルモ其專横ハ調書ノ上ニ顯然記錄セラルヘシ兎ニ角判事ニレテ且ツ大權力ヲ有スルモノナレハ其責任重キカ故專横ナシト見做シタルモノナリ然レトモ若シ本人不在ナルトキハ後日苦情ノ生スルヤ知ル可ラス故ニ本人不在ナルトキハ同居ノ親屬ヲ立會ハシメ親屬ナキトキハ市町村長ノ立會アルヲ要スト定メタリ(第一百四條第二項)

第一即チ令狀執行ノ爲メ搜索スル場合ニ於テ別ニ法文ノ存スルモノナシト雖モ性質上其搜索ノ領域アリ即チ其領域トハ他ナシ此搜索ハ被告人ヲ見出シテ逮捕スルニアルヲ以テ其搜索ス可キ場所ハ人ノ身体ヲ容ル、ニ足ル可キ場所ニ限ラサル可ラス夫ノ小箱ヲ開キ小箆筒ヲ發テ搜索スルカ如キコトハ決シテ許ス所ニアラサルナリ若シ人身ヲ容ル、ニ足ラサル器物ニマテ搜索ヲ及ホスカ如キハ專横ノ處分ニシテ時トシテ刑事ノ制裁ヲ免カレサルナリ

之ニ反シ第二場合ハ事實ヲ發見スルニ足ルヘキ證據蒐集ノ爲メニスルモノナレハ其搜索スル所ノ物件カ大ナルヤ小ナルヤヲ問ハス家ノ隅々ニ至ルマテ遺漏ナク搜索スルコトヲ得是亦タ事物ノ性質上ヨリ然ルモノナリ

家宅搜索ニ關シ專横ノ處分ヲ防カンカ爲メ規定セル第二ノ制限ハ時刻ナリ即チ家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得サルナリ此制限ハ令狀執行ノ場合ニ於テモ又證據蒐集ノ場合ニ於テモ共ニ守ルヘキ制限ナリ(第七十八條第三項第一百四條第三項)故ニ令狀執行ノ場合ニ於テ其家宅ニ潛匿セリト思料スルモ時惟レ日出前若クハ日没後ナラハ其家宅ヲ取圍テ免レシメサルノ方法ヲ爲ス

可シ敢テ侵入シテ搜索スルトキハ違法ノ處分トナルナリ又證據蒐集ノ場合ニ於テ其證據ヲ他所ニ轉匿スル等ノ恐アルトキハ其家ヲ圍テ他ニ出ツルヲ妨クヘク敢テ侵入スルヲ許サ、ルナリ

日出前日没後ニ家宅搜索ヲ許サ、ル理由如何ト云フニ日出前日没後即チ夜間ハ人ノ休息スル時ナリ然ルニ其休息ヲ攪破シテ踏入ルトキハ人ノ權利ハ蓋シ地ニ墜ツ且ツ之ヲ許スルハ或ハ言フ可ラサル侵害ヲ生セン即チ搜索ヲ爲ス者暗黒ニ乘シテ不正ヲ働クノ恐アルノミナラス平人カ官吏公吏ト詐稱シテ漫ニ侵入シ強盜其他ノ惡所爲ヲ行フアラン是ヲ以テ法律ハ夜間ハ總テ入ルヲ得スト規定シタル所以ナリ尤モ實際上ノ處分ヨリ看察スルルハ此禁制ハ憲法ニ於テモ其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ搜索セラル、コトナシトアルカ如ク本人ノ承諾ナキトキニ限ルナリ故ニ或ル家ニ被告人カ潛匿シタリト思料スルトキハ已レ其追跡スル所以ヲ説明シ其家主ノ承諾ヲ得ハ夜間ト雖トモ搜索スルコトヲ得説明シテ承諾ヲ求メタル場合ニ於テハ之ヲ請ハレタル者眞ニ之ヲ隱匿セサルトキハ蓋シ承諾スルナラン何トナレハ之ヲ拒テ嫌疑ヲ受クルハ決シテ潔

カラサルコトナレハナリ故ニ此夜間搜索スルヲ得サルノ規定アリト雖トモ時トシテ搜索スル場合アリ此事證據蒐集ノ爲メ搜索スル場合モ同一ナリ此ノ如ク法律ハ夜間侵入シ搜索スルコトヲ許サ、ルヲ以テ原則トスト雖トモ此原則ニ對シテ例外アリ即チ旅店、割烹店、其他夜間ト雖トモ衆人ノ出入スル場所是レナリ此等ノ場所ニ付テハ其公開時間内ニ限り何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得ルナリ第七十八條第三項、第四百條第三項故ニ料理店、寄席、湯屋ノ如キ公開ノ場所ニシテ現ニ其營業ヲ開キ居ルトキハ時ノ制限ナシ即チ此等ノ公開店ハ人ノ住所ト見サルナリ然レトモ其湯屋、寄席、料理屋等ニシテ其日ノ營業ヲ閉鎖シタル時ハ最早公開店ニアラサルカ故ニ侵入搜索スルコトヲ得サルナリ猶ホ一ノ例外アリ刑法附則ノ規定是ナリ刑法附則ニヨレハ警察官ハ何時ニテモ監視ニ付セラレタル者ノ家宅ニ臨檢スルコトヲ得ルナリ(刑法附則第二十八條)故ニ監視ニ付セラレタル者ニハ警察官ニ對シテハ家宅不可侵ノ權利ヲ主張スルコトヲ得サルモノナリト云フヘシ

人ノ信書ニ對スル豫審處分

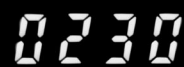
第四節 人ノ信書ニ對スル豫審處分

信書ノ秘密ハ侵ス可カラサルナリ憲法第二十六條ニ曰ク「日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシト寔ニ信書ハ其記載事項ノ政事ニ關スルト商事ニ關スルト家事ニ關スルトヲ問ハス何レモ皆ナ秘密ヲ主トスルモノニシテ他人ニ洩スコトヲ憚カルモノト見サル可ラス(はかきノ如キハ格別然ルヲ官ノ必要ナリトテ漫ニ開封シテ其秘密ヲ發クコトヲ得ト爲サハ人民ハ容易ニ信書ヲ發スルコトヲ得サルニ至ラ、果シテ然ラハ社會經濟ノ害ヤ鮮尠ナラサルナリ憲法ノ信書不可侵ノ一大原則ヲ掲ケタル所以ノモノ實ニ茲ニ外ナラサルナリ然レトモ其信書ノ秘密タルヤ時アリテ其侵被ヲ許サ、ル可ラス是レ憲法ニ於テ法律ニ許シタル場合ニアラサレハト記シ以テ時アリテ開被セラル、コトアルヲ示セシ所以ナリ

今刑事訴訟法ニ於テハ豫審處分ニ必要ナル場合ニハ之ヲ侵被スルコトヲ許セリ而シテ之ヲ披クコトヲ得ル場合ニアリ

信書ヲ發シテ得ル場合

刑事訴訟法(第三編)



其一 豫審判事、事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ驛遞、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審事件ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報ヲ受取開披スルコトヲ得但シ豫審判事ハ其受取證書ヲ渡スヘキモノトス(第百十三條)

其二 前已ニ說示シタルカ如ク未決勾留ヲ受ケタル被告人ト檻外ノ者トノ間ニ往復スル書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經タル後ニアラサレハ授受スルヲ許サス(第八十五條)既ニ檢閱ヲ經ルヲ要ストアル以上ハ之ヲ開披スルハ當然ナリ依テ此場合ニ於テ被告人又ハ外人ハ信書ノ秘密ヲ侵サル、モノト云フ可シ但シコレハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ宛テタルモノニ限ルモノニシテ決シテ其他ニ及ホスコトヲ得サルナリ

右二箇ノ場合ニ於テ開披シタル書類ハ如何ニ處置ス可キヤ此事別ニ法文ノ規定ナシト雖トモ其書類カ證據トナルヘキモノナラハ豫審判事ハ裁判確定マテ差押ヘ置ク可ク而シテ證據トナラサルモノ及ヒ既ニ其用ヲ終リタルモノハ之ヲ還付スヘキモノトス

許諾ナケ
スレハ開披
スルコト
ヲ得サル
書類物件

信書即チ通常ノ往復書翰ニ限ラス一切ノ書類物件皆豫審判事ニ於テ之ヲ開披スルコトヲ得ルト雖トモコレニ付テ一ノ例外アリ即チ法律ニ於テ本人ノ許諾ナケレハ差押開披スルコトヲ得スト定メタルモノ是ナリ(第百十四條)此書類物件ハ如何ナルモノカト云フニ證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ有スル書類ニシテ默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノ是ナリ例ヘハ公證人辯護士醫師ノ如キハ其依托セラレタル秘密事件ニ付テハ證言即チ口頭ノ陳述ト雖トモ之ヲ拒ムヲ得故ニ其秘密書類ニ付テモ亦タ其差押及ヒ開披ヲ拒ムコトヲ得ト云ハサル可ラス何トナレハ已ニ口頭ノ陳述ヲ拒否スルコトヲ許シナカラ書類物件ノ開披ハ拒ムコトヲ得スト爲サハ口頭ニテ其事件ヲ陳述洩漏スルコトヲ許サハルモ書類ニテ陳述洩漏スルハ妨ケナシトノ奇怪ナル結果ヲ生スヘケレハナリ故ニ其者ノ許諾ナケレハ差押開披スルコトヲ得サルナリ

第五節 身体ニ對スル豫審處分

人ノ身体モ亦タ侵ス可ラサルモノナリ然レトモ豫審判事事實發見ノ爲メ必要

身体ニ對
スル豫審
處分

ナル場合ニ於テハ被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ身体及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ許セリ(第五百五條)即チ人ヲ裸體ト爲シ又局所ノ檢査ヲ爲スコトヲ妨ナキナリ

法律ニ明文ナシト雖モ被告人以外ノ者即チ被害者ノ身体ヲ檢査スル必要アル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得可シ蓋シ殺人事件ニ付テ其死シタル人ハ殺サレタルモノナルヤ又ハ自殺セシモノナルヤ將テ病死セシモノナルヤヲ見ルノ必要アル場合ニ於テハ醫師ヲシテ之ヲ鑑定セシメ又其鑑定ノ爲メ豫審判事ハ其死體ノ解剖ヲモ命スルノ權アリ(第三百三十條第二項)左レハ解剖ヨリモ其性質重大ナラサル身体ノ檢査ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリト云フ可シ

法律ハ獨リ被告人等ノ身体ニ對スル處分ノコトノミ規定シ敢テ被害者ノ身体ニ對スル處分ヲ規定セサル所以ハ何ゾ是レ知リ易シ被告入ハ其處分ノ己レニ不利ナルヲ以テ之ヲ拒ムコトアリ之ヲ拒ムトキハ如何トモス可ラス故ニ特ニ之ヲ規定スルノ必要アリ然ルニ被害者ノ身体ヲ檢査スル場合ニハ被害者ニ不利ナルニ非ラス却テ其利益ナレハ被害者ハ自ラ進テ之ヲ請フ可キナリ故ニ豫審判事之ヲ命スルモ別ニ拒ムカ如キコトナカルヘシ是レ法律ニ於テ特ニ規定ヲ爲サ、ル所以ナリ

第六節 墳墓ニ對スル豫審處分

墳墓ハ死後永眠ノ場所ニシテ是レ亦侵ス可ラサルモノナリ殊ニ東洋ニ於テハ古來最モ之ヲ尊敬シ我刑法既ニ其發掘ヲ罰ス是ヲ以テ刑事訴訟法ハ此發掘ヲ豫審判事ニ許スニ或ル必要ナル場合ニ限ルヲ以テセリ其必要ノ場合トハ死體解剖又ハ檢視ノ如キ是ナリ解剖セサル可ラス檢視セサル可ラサルニ際シ其死屍ヲ埋葬シタルトキハ已ムヲ得ス之ヲ發掘セサル可カラス(第三百三十五條第二項)

一般ノ人ニ對スル權利侵害處分

以上講説シタル所ハ特定ノ人ニ對シテ權利ヲ侵害スル場合ナリ此他特定ノ人ニ對スルニ非スシテ一般ノ人ニ對シテ權利ヲ侵害スル場合アリ先ツ(第一百一十條)ニ曰ク豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ

墳墓ニ對スル豫審處分

一般ノ人ニ對スル權利ノ侵害



其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得、若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ其處分ヲ終ルマテ之ヲ留置スルコトヲ得、本條ハ事實發見ノ爲メト云ハシヨリハ寧ロ豫審處分ノ妨害ヲ除クニアリト云フヘシ外人猥ニ此場所ニ立入ルトキハ檢證ノ妨碍トナルノミナラス或ル場合ニハ其處分ヲ他人ニ示ストキハ豫審密行ノ趣旨ニ背クコトアリ是レ入ルヲ禁スル所以ナリ又出ルヲ禁スル所以ハ場合ニ依リ其場所ニ在ル人ハ證人トナルコトナシトセサレハナリ故ニ一時其場所ニ留置クコトヲ許セシナリ

此禁制ヲ犯シテ入ラントスル者アルトキハ豫審判事ハ之ヲ逐斥スルコトヲ得又出テントスル者アルトキハ其處分ヲ終ハルマテ公力ヲ用テ留置クコトヲ得是レ禁制ノ制裁ナリトス

又刑事訴訟法ニ於テ證人鑑定人又ハ通事トシテ呼出ヲ受ケタル者正當ノ理由ナクシテ出頭セサルトキハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡スコトヲ得、第百八條、第百三十六條、百一十一條又證人鑑定人ニシテ宣誓ヲ肯ンセス又ハ宣誓シテ陳述ヲ肯ンセサルトキハ豫審判事ハ檢事ノ意見

ヲ聽キ刑法第七十九條又ハ第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡スコトヲ得、第百三十六條、第百三十八條

豫審判事カ證人鑑定人ニ對シ罰金ヲ言渡スハ刑事訴訟法上最モ變例ニ屬スルモノナリ何トナレハ(一)凡ソ刑罰ノ言渡ハ公判々事ノ爲ス可キモノナリ然ルニ此罰金ハ豫審判事之ヲ言渡セハナリ(二)凡ソ刑罰ヲ言渡スニハ先ツ起訴アルコトヲ要ス然ルニ此場合ニ於テハ公訴ノ起ルナクシテ豫審判事直ニ之ヲ言渡セハナリ(三)凡ソ刑罰ヲ言渡スニハ公廷ヲ開キ衆人ノ傍聽ヲ許シ及ヒ被告人ニ辯護人ヲ用ユルコトヲ許サ、ル可ラス然ルニ此場合ニ於テハ此等ノ手續ナシ(四)此言渡タルヤ遲參ニ因ルモノナルトキハ缺席判決ナリ缺席判決ハ故障ヲ許サ、ル可ラス又陳述若クハ鑑定ヲ肯ンセサルニ因ルモノナルトキハ對席ト同一ナルカ故ニ控訴ヲ許サ、ル可ラス然ルニ此場合ニ於テハ故障及ヒ控訴ヲ許サス唯テ抗告スルコトヲ得ルノミ(五)此言渡ハ證人鑑定人ニ於テ三日內ニ正當ノ事由アリテ出頭スルコトヲ得サルカ又ハ其呼出カ手續ニ合ハサリシコトノ證明ヲ爲ストキハ其言渡ヲ取消シ既ニ納メタル罰金ハ之ヲ還付ス、第百十九條第

百三十六條然ルニ他ノ裁判ニ於テハ此ノ如ク一旦言渡シタル判決ヲ取消スコトナシ

刑事訴訟法ニ於テ此ノ如キ變例ヲ設ケタル理由如何ト云フニ必竟已ヲ得サルニ出タルモノナリ即チ今證人鑑定人等カ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ宣誓若クハ陳述ヲ肯シセサルニヨリ通常ノ手續ニ依テ裁判ヲ爲スヘキモノトスルトキハ其制裁ノ効力顯著ナラサルカ故ニ終ニ以テ豫審處分ニ大ナル影響ヲ及ホシ事實發見ノ途ヲ塞クニ至ラン何トナレハ豫審判事ハ必ス其者ノ陳述又ハ鑑定ヲ要スル場合ニ當リ仍ホ公訴ヲ起シ管轄裁判所ニ於テ審理判決ヲ爲スモノトスルトキハ多少ノ日子ヲ費サ、ル可ラス隨テ其間豫審ヲ停止シ爲メニ迅速ニ事實ノ端緒ヲ發見スルノ機會ヲ失ス可ケレハナリ

刑事訴訟法ハ猶ホ規定シテ證人鑑定人カ罰金ノ言渡ヲ受ケ而シテ猶ホ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ二倍ノ罰金ヲ言渡スコトヲ許シ且ツ再度ノ呼出ノ費用ヲ擔當セシムルモノト爲セリ加之證人ニ付テハ豫審判事カ必要ト認ムル場合ニ於テハ勾引狀ヲ用ユルコトヲ得ト定メタリ但シ鑑定人通事ニ付テハ勾引スルコトヲ許サス第百十八條第百三十六條第百一一條證人ハ之ヲ勾引スルコトヲ

得他ノ者ニ對シテハ勾引スルヲ得サルハ何故ゾト云フニ鑑定人通事ノ如キハ一ニ學識技術經驗ニ依ルモノニシテ敢テ其事件ニ關係シタルモノニ非ラサルナリ故ニ此等ノ者出頭セサルトキハ他ノ學識技術經驗アル者ヲシテ之ニ代リ爲サシムルコトヲ得然ルニ夫ノ證人ナル者ハ他ニ其事件ヲ見聞シタル者ナク之ヲ見聞シタル者ハ獨リ其證人ノミナレハ他人ヲシテ之ニ代テ陳述セシムルコトヲ得サルモノナリ要スルニ一ハ何人モ爲スコトヲ得一ハ其人ニアラサレハ能ハサルニ依ルナリ

上來説述セルカ如ク特定ノ人ニ對シ又ハ一般ノ人ニ對シ豫審判事ニ法律上非常ノ權力ヲ附與シタルハ要スルニ事ノ實否ヲ知ルニ足ル可キ證據徵憑ヲ得セシメンカ爲メナリ然ラハ其所謂證據徵憑トハ如何是レ説明セサル可ラス

第七節 證據

野蠻時代ニ在テハ證據ニ依テ裁判スルコト殆ト之ナク多クハ「オルダリ」神ノ

裁判ト稱スヲ用井タルノモ「オルダリー」トハ手ヲ沸湯ニ入レ爛タレハ罪アリ爛
 タレサレハ罪ナシトスルカ如キノ類ナリ又或ハ決闘ニヨルコトモアリシ此ノ
 如キ時代ニ在テハ固ヨリ證據蒐集ノ要ナク且ツ此ノ如キコトノ却テ當時ニ適
 切ナリレナラン然レトモ稍々野蠻ノ境界ヲ離ル、ニ隨ヒ斯カル裁判方ノ用ユヘ
 キモノニアラサルヲ知り漸次相廢シ中古時代ニ及ンテ證據裁判方起レリ然レ
 トモ此中古ノ證據裁判方タルヤ法律上ノ證據ナルモノアリテ證人幾人アルト
 キ又ハ自白シタルトキハ必ス有罪ト決ス可シト爲シタルカ如キモノ一ニシテ
 足ラサリシ此裁判方タル野蠻時代ノ裁判方ニ比スレハ優ルコト違シト雖トモ
 未タ不條理ノ域ヲ免レサルモノナリ今日開明時代ニ於テハ法律上ノ證據ナル
 モノハ全ク其痕跡ヲ滅シ諸般ノ證據ハ虛心平氣ニ取捨シ裁判官カ斯クアル可
 シト感スル所ニ從ヒテ裁判スルモノト爲セリ即チ心證裁判トナレリ
 此ノ如ク今日ハ法律上ノ證據ナク一ニ裁判官ノ心證ニ委セリ而シテ其心證タ
 ルヤ必ス有形的證據ヨリ生スルコトヲ要ス唯タ漠然タル想像ヲ以テ有罪ナラ
 ン若クハ無罪ナラント其面貌ヲ見テ決スルカ如キハ根據ナキノ心證ナリ故ニ
 其心證タル必ス據ル可キ證據アルヲ要スルナリ第九十五條ニ曰ク「被告人ノ
 自白官吏ノ檢證調査證據物件證人及ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ判事ノ
 判斷ニ任スト本條ハ即チ心證裁判ノ原則ヲ示シタルモノナリ

第一款 被告人ノ自白(即チ白狀)

自白

古來自白ヲ以テ最上無比ノ證據ト信シタルカ故ニ刑事訴訟法ニ於テ最モ此自
 白ヲ得ンコトヲ力メタリ而シテ其結果遂ニ法律ニ於テ夫ノ拷問ナルモノヲ明
 許シ毫モ怪マサルニ至レリ夫レ自白ハ被告人己レニ不利益ナルコトヲ自ラ陳
 ヘ自ラ認ムルモノナリ抑モ己レニ利益ノコトヲ云ヒ己レニ不利益ノコトヲ云ハ
 サルハ普通ノ人情ナリ今被告人己レニ不利益ナルコトヲ陳述スルハ或ハ真心
 悔悟ヨリ出テ又ハ自ラ蔽フコト能ハサルニ因リシモノト見做サ、ル可ラス古
 來自白ヲ以テ最上無比ノ證據ナリトシタルノ感念ハ實ハ此ニ起レリ寔ニ此自
 白ニシテ被告人ノ自由任意ニ出レハ自白ハ最上無比ノ證據タル可シ然レモ此
 自白ニシテ拷問ニ依リ強テ爲サシメタルカ如キモノナラハ是所謂眞ノ自白ナ

ラス信ス可キ毫釐ノ價值タモ有セサルモノナリ何トナレハ被告人其苦痛ニ堪
 ハス一時之ヲ免レンカ爲メ不實ノ事ヲ言立ツルコトアラン加之一ニ茲ニ據テ以
 テ其罪ノ有無ヲ斷スルトキハ有罪ノ者法網ヲ免カレ無辜ノ者刑辟ニ觸ルハア
 ラン蓋シ強壯剛復ナル者ハ詐リ忍ヒ脆弱温柔ナル者ハ自ラ誣テ服スモニ至レ
 ハナリ故ニ拷問ニ依テ得タル自白ハ信憑ス可ラサルナリ
 然レトモ自白ニシテ拷問ヲ用井タルニ非ラス眞ニ自由任意ニ出テタルモノナ
 ルトキハ信憑ス可キヤ言ヲ待タサルナリ然ラハ其自由任意ノ自白ハ之ノミニ
 テ直ニ罪ヲ斷ス可キヤト云フニ一概ニ然リト答フルコトヲ得ス一ニ判事ノ取捨
 ニ委セサル可ラス何トナレハ縦ヒ自由任意ニ出ツルモノトスルモ其自白ノ眞
 偽未ダ知ル可ラス或ハ無辜ヲ辯護セントスルモ其證據ナキ爲メ自ラ斷念シテ
 枉服スルコトアルヘク又或ハ名譽上強盜ノ罪ヲ疾ンテ他ノ罪ニ詐ハルモノア
 リ往年或ル強盜犯人カ強盜罪ヲ蔽フテ廣澤參議ヲ殺シタルハ自分ナリト言ヒ
 タルカ如キ其例ナリ此他義俠又ハ利慾心ヨリ他人ノ罪ニ代ランカ爲メ詐リテ
 自白ヲ作スコトアリ又最モ多クアルハ長キ刑期ノ囚徒ニシテ自ラ他ノ犯罪ヲ

捏造シテ自分ハ此他斯々ノ犯罪アリト申立ツルコト是ナリ此等ノ犯人ハ無實
 ノ事ヲ申立テ、一日ナリトモ未決檻倉ニアランコトヲ欲スルニ依ルモノナリ
 故ニ縱令自白アリトモ裁判官ハ克ク其眞偽ヲ考察セサル可ラス

刑事ノ自白ハ可分ナルヤ將タ不可分ナルヤ諸君モ知ルナラン民事ノ自由ハ不
 可分ナリ即チ原告ノ請求スル金圓ハ余實ニ借入タリ然レトモ既ニ辨濟セリト
 云フトキハ原告ハ其辨濟セリトノ言ヲ捨テ、金圓ハ實ニ借入タリトノ言ノミ
 ヲ取ルコトヲ得ス必ス其答辨ノ全部ヲ取ルカ又ハ之ヲ捨ツルカ取捨ハ全部ニ
 係レリ今刑事ノ自白ナルモノハ又民事ノ自白ノ如ク不可分ナルヤ否ヤト云フ
 ニ刑事ノ自白ハ可分ナリト決定セサル可カラス何トナレハ刑事ハ民事ト異ニ
 シテ専ラ公益ノ爲メニ起ル所ノ訴訟ナリ隨テ其訴訟ノ目的ハ十分事實ニ基キ
 テ爲サ、ル可ラス故ニ民事ノ如ク原告被告ヨリ提供シムル證據ニノミ據ルニ
 アラスシテ裁判所自ラ證據ヲ蒐集ス既ニ事實ニ基クテハ其事實ヲ調査スル
 ニ當リ一部分眞ニシテ一部分虛ナラハ其虛ヲ捨テ眞ヲ取ル固ヨリ可ナリ故ニ
 例ヘハ被告人ニ於テ自分ハ他人ノ物ヲ奪取セリ然レトモ竊ニ奪取シタルモノ

ニシテ肯テ暴行脅迫ヲ用ヰタルコトナシト自白スルモ裁判官見テ以テ暴行脅迫ノ事實アリト傲サハ其已レノ信スル所ニ從ヒ強盜アルナリトシテ處分スルコトヲ得可キナリ此ノ如ク民事ト刑事ト相異ナルモノハ民事ハ各人ノ私益ニ關スルモノニシテ而シテ其私益ハ兩々相對立ス決シテ一方ヲ輕シトシ一方ヲ重シトスルヲ得ス故ニ請求ヲ爲ス一方ノ者ハ其證據ヲ舉クルノ責任アリ然ルニ自分ハ證據ヲ舉ケスレテ偶然ニモ相手方カ自白ヲ爲シタルヲ幸トシ己レニ都合好キ部分ノミヲ採用セシメントスルハ甚タ自儘勝手ノ事ト云ハサル可ラス故ニ相手方ノ自白ヲ採用セント欲セハ其全部ヲ通シテ採用シ敢テ之ヲ分割スルヲ許サ、ルナリ刑事ハ専ラ公益ニ關スルモノニシテ事實ヲ明ニシ相當ノ處分ヲ爲スヲ目的トス故ニ被告ノ自由中事實ニ適スルモノハ之ヲ取り其事實ニ適セサルモノハ之ヲ捨ツルコトヲ得ヘク又實ニ然ラサルヲ得サルモノトス

被告人ノ訊問

被告人ノ訊問

自由ヲ得ルノ方法如何自由ハ被告人自ラ來リ進テ爲スモノニ非ラス故ニ裁判官之ヲ得シトスレハ先ツ被告人ヲ訊問セサル可ラス此訊問ハ事實ノ發見ニ益アルノミナラス被告人ニモ亦タ利益アルモノトス即チ被告人元來無罪ノモノナルトキハ其訊問ノ時ニ當リ十分辯解スルコトヲ得ヘシ辯解ナクシテ裁判セラル、アラハ被告人ノ不利ヤ言ヲ待タサルナリ又縱令有罪ナルトキト雖トモ其訊問ノ時ニ有ノ儘ニ供述スレハ或ハ酌量減輕ノ原因トモナルコトアリ要スルニ一方ニ於テハ自白ヲ得ルノ利益アリ他ノ一方ニ於テハ辯解ノ利益アリ故ニ被告人ノ不在ナルトキハ格別必ス先ツ訊問ヲ爲サ、ル可ラス而カモ刑事訴訟法ハ第一着ノ處分トシテ訊問ヲ爲ス可シト命セリ是レ即チ右ノ理由ニ基クモノナリ然レトモ訊問ニ先テ爲ス可キ處分アル場合ハ格別ニシテ此場合ハ先ツ其處分ヲ爲サ、ル可ラス例ヘハ急速ニ檢證ヲ爲サ、レハ犯所ニ印シタル其足跡若クハ血痕カ雨ノ爲メニ消ユルカ如キ場合其他證人カ死去スル恐レアル場合ノ如キ先ツ其檢證及ヒ證人訊問ヲ爲サ、ル可ラス(第九十三條)

訊問ノ方法ハ別ニ之ナレ但タ被告人ヲ自白セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用ユ可カラサルノミ(第九十四條恐嚇ノ用ユ可カラサル固ヨリ言ヲ待タズ詐言ニ至

テモ爾リ堂々タル帝國ノ裁判官カ詐言ヲ以テ服罪セシムルカ如キハ裁判ノ信
用ヲ傷クルノミナラス自ラ其威嚴ヲ失墜スルモノナリ要スルニ恐嚇詐言ハ任
意ノ自白ヲ誘致スルニアラスシテ不正ノ枉服ヲ爲サシムルモノナレハ法律ハ
嚴ニ之ヲ用ユルコトヲ禁止シタリ

豫審判事被告人ヲ訊問スルトキハ其自白ヲ得タルト否トヲ問ハス一々其訊問
答辯ヲ録取スルコトヲ要ス即チ書記其傍ニ在テ判事ノ問ト被告人ノ答トヲ遺
漏ナク録取シ而シテ之ヲ被告人ニ讀聞カセテ陳述ノ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ相
違ナキトキハ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨
ヲ附記スヘキモノトス(第九十五條)

豫審ノ調書ハ何ノ爲メニ作ルヤト云フニ要スルニ他日其事件ヲ公判ニ付スル
ニ當リ公判判事ヲシテ其心證ヲ此ニ資ラシメンカ爲メニスルモノナリ又之ヲ
被告人ニ讀聞カセテ署名捺印セシムルハ之ヲ確實ニセンカ爲メナリ被告人之
ヲ認メサルトキハ其事ノ正確ナルヤ否ヤ知ル可ララナリ

判例

豫審處分ハ密行ヲ原則トス故ニ被告人ヲ訊問スルニ當リ敢テ他人ノ傍聽ヲ許
サス然レトモ必要ノ場合ニ當リテハ多少密行ノ原則ヲ緩フセサル可カラス例
ヘハ人違ナキ爲メ證人ト對質セシメ又ハ共犯ヲ知ル爲メニ他ノ被告人ト對質
セシムルノ必要アルコトアラン此ノ如キ場合ニハ嚴ニ密行ノ原則ヲ格守スル
コト能ハス多少之ヲ緩フセサル可カラス故ニ第九十八條ハ豫審判事ハ被告人
ノ共犯ナルコト人違ナキコト其他事實ヲ發見ス可キ一切ノ模様ヲ證スル爲メ
必要ナリトスルトキハ被告人ト他ノ被告人證人又ハ其他ノ者ト對質セシムル
コトヲ得ト規定セリ

此ノ對質ノ場合ニ於テモ亦々其問答ノ次第ハ書記之ヲ録取シテ其對質人ニ對
質ニ關スル部分ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム(第九十九條)
又被告人ヲ訊問スルニ當リ他人ヲ立會ハシムルコトアリ被告人聲者啞者又ハ
國語ニ通セサルトキ是ナリ此場合ニハ通事ヲシテ之ニ立會ハシムルナリ被告
人聲者又ハ啞者ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム可キモ若シ聲者啞者文字ヲ知
ラサルトキハ他ニ訊問ノ方法ナキヲ以テ止ムヲ得ス通事ヲ命スルナリ又被告

刑事訴訟法(第三編)

人日本語ヲ以テ問ヒ又答ヘシムルコト能ハサル者ナルトキハ又通知ヲ命スルナリ(第百條)

通事ノ正直不正直ハ大ニ公益ニ關係スルカ故ニ正實ニ通譯ス可キ宣誓ヲ爲サシムルモノトス(第百一條)第一項宣誓ハ歐羅巴ニ於テハ宗教的即チ神ニ誓ハシムルモノナリ故ニ彼ノ宣誓ハ他宗ノ人ニ對シ之ヲ強ユルコト能ハサルノ不便アリ非除ヤ強テ誓ハシムルコトヲ得ルトスルモ信スルニ足ラサルナリ我國ノ宣誓ハ宗教的ニアラスシテ本人ノ良心ト名譽トニ誓ハシムルモノナリ故ニ如何ナル宗教ヲ信スル人ニ對シテモ皆ナ誓ハシムルコトヲ得乃チ以テ我國ノ宣誓ハ名譽良心ヲ顧ミサル者ニ對シテハ格別普通人ニハ此ノ宣誓ノ爲メ大ニ名譽ヲ顧ミ其良心ヲ發揮セシムルノ益アリ併シ通事カ宣誓ヲ肯ンセサルモ別ニ制裁ナシ是レ或ヘ刑法ノ一缺典ナラン

通事ヲ用井テ被告人ヲ訊問シタルトキハ其訊問調査ハ通事ニ讀聞カセ被告人ト共ニ之ニ署名捺印セシム此他通事ノ呼出不參ノ制裁等ニ付テハ鑑定人ニ關スル規定ヲ適用ス

豫審ノ本人訊問ハ其本人即チ被告人ニ辯護人ヲ用ユルヲ許サズ(公判ハ之ヲ許ス)是他ナシ豫審ニ於テハ辯論スルコトナシ辯論スルコトナケレハ辯護人ヲ用ユル必要アルコトナシ是レ辯護人ヲ用ユルヲ許サ、ル所以ナリ尤モ辯護人ヲ用ユルヲ許サ、ルハ被告人ノ方ヨリ觀察セハ或ハ多少ノ不利ナラン何トナレハ辯護人アルトキハ己レノ傍ニ在テ己レヲ補助シ且ツ辯護ノ方法ヲ指示ス可ケレハナリ然レトモ之ヲ他方ヨリ觀察スルトキハ豫審ハ元來事實ヲ發見スルヲ以テ主眼トス然リトモハ其事件以外ノ人カ之ニ立會フテ指示ヲ補助スルトキハ事實發見ノ妨害タリ被告人果シテ犯罪ナカランカ訊問ヲ受グルニ當リ十分之ヲ辯明スルコトヲ得可ク何ゾ辯護ナキカ爲メ不利不便ヲ感スルアラシヤ己レノ利益ナル點ハ唯々之ヲ黙々ニ付シテ足レルノミ

被告人ノ訊問ヲ受タルハ一回ニ限ルニアラス數回ニ涉ルコトアリ左レハ同一ノ事ヲ數回訊問セラレテ其供述前後齟齬シ之ヲ改ムレハ益々其嫌疑ヲ深カラシムルノ不利ナルコトアラン是ヲ以テ法律ハ被告人ハ訊問供述書ノ謄本ヲ取ムルコトヲ得ト爲セリ(第九十七條)

第二款 官吏ノ檢證調書及ヒ證據物件

犯罪ノ性質模樣ニ依リ或ハ痕跡ヲ犯罪ノ場所ニ留ムルモノアリ例ヘハ門戶墻壁ヲ踰越損壞シテ犯シタル竊盜ノ如キハ歷々トシテ其犯罪ノ痕跡ヲ遺ス可シ又雪中ノ犯罪ノ如キハ犯人ノ足跡點々トシテ犯所ニ印スルモノアル可シ此ノ如キ場合ニ於テ速ニ其犯所ニ臨檢スルトキハ其徵憑ニ據テ以テ犯人ノ手掛リヲ得ルコトアリ

又檢證ニ依ルニ非ラサレハ其犯罪ノ性質ヲ知り難キモノアリ例ヘハ死傷ノ場合ニ於テ實地檢證セサレハ果シテ自殺ナルカ又ハ他殺ナルカ知ルコトヲ得ス是ヲ以テ第二百二條ニ「豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ」ト記シ以テ豫審判事ニ事實發見ノ方法ヲ指示セリ

豫審判事臨檢ヲ爲ストキハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明スヘキ模樣ニ付キ檢證調書ヲ作ル可キモノトス而シテ此調書ハ被告

人ノ利益トナル可キモノモ洩ナク記載スルコトヲ要ス(第百三條)

又檢證ハ必スシモ犯罪ノ場所ニ限ラサルナリ犯罪ノ場所ヨリ隔タリタル所ニ證據ヲ遺スコトアルヘシ例ヘハ殺人ノ場合ニ其兇器ヲ他ノ場所ニ打捨テ置クカ如キ是ナリ此ノ如キトキハ其兇器ノアル場所ニ臨テ檢證セサル可ラス

檢證處分ハ必覺其證憑ノ滅失セサル間ニ之ヲ檢覈シ以テ後ノ證據トナサンカ爲メナレハ可成犯罪ノ日時ト相隔ツ遠カラサル時ニ於テ爲サ、レハ其効力大ナルヲ得ス何トナレハ多ク日時ノ經ルトキハ足跡血痕其他ノ徵憑ハ既ニ消滅ス可ケレハナリ殊ニ被告人及ヒ證人ノ訊問ノ如キ證據蒐集ノ方法ハ公判々事モ亦タ之ヲ行フコトヲ得ト雖トモ夫ノ檢證處分ニ至テハ公判々事ニ於テ之ヲ爲サ、ルヲ通例トス故ニ豫審判事ハ可成速ニ之ヲ行ヒ苟モ姑息ニ流レテ其機會ヲ失フ可カラス

檢證ハ犯罪以外ノ場所ニ於テモ亦タ之ヲ爲スコトヲ得ルハ上ニ述タルカ如シ法律ハ尙ホ一步ヲ進メ人ノ住所ヲ侵シテ爲スコトヲモ得ト爲セリ但シ此場合ニハ立會人其他ノ手續ヲ要ス此事ハ前ニ詳述シタルヲ以テ今復タ説明ヲ爲サ

スト雖トモ玆ニ一言ノ注意ヲ爲サンニ專ラ證據物ヲ得ンカ爲メ家宅ニ臨ミテ
 檢討スル場合ニハ可成の先ツ其物件ヲ差出サシムルコトヲ力メサル可ラス其
 差出ヌ可キ命令ノ手續ヲ盡シテ尙ホ差出サハルトキニ其家宅搜索ノ手續ヲ爲
 スコトヲ要ス如何ニ必要ナレハトテ唐突ニ人ノ住所ヲ侵入スハ決シテ嘉ミス可
 キコトニアラサルナリ

臨檢ノコトニ付キ實際ニ生シタル一問題アリ嘗テ或ル郡役所ノ役人カ官金ヲ
 竊取シ其罪跡ヲ蔽ハシカ爲メ其郡役所ノ帳簿ヲ變造セシニヨリ豫審判事ハ其
 郡役所ニ臨ミ帳簿ヲ差押ヘントセシニ郡長ハ之ヲ拒メリ其檢證差押ヲ拒否シ
 タル理由ニ曰ク郡役所ハ官廳ナリ官廳ニハ秘密ニシテ人ニ漏洩ス可ラサルモ
 ノアリ然ルニ豫審判事之ニ臨テ檢覈スルトキハ其秘密ヲ發カルノミナラス
 之カ爲メ事務ノ混雜ヲ來タスナリ且ツ治罪法第六十二條即チ今ノ刑事訴訟
 法第一百四條ニ豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル
 疑アル者ノ住居ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得トアリ郡役所ハ官廳ナリ被告人
 ノ住居ニアラス又事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑ヲ受クヘキモノニ非ラ

スト余ハ之ニ反對ノ意見ヲ有スルモノナリ請フ試ニ之ヲ辯セン
 夫レ此臨檢搜索ノ爲メニ或ハ帳簿錯綜シ爲メニ事務ノ困難ヲ來タサン然レト
 モ此故ヲ以テ司法權ノ實行ヲ拒ム可カラス如何ナル權力ト雖トモ裁判權ノ作
 用ニ服セサル可カラス今郡役所ハ行政官廳タルニ相違ナシ然レトモ之ヲ拒ム
 ノ理ハ決シテ之ナキナリ抑々裁判所ニ大權ヲ附與シタル所以ハ事實ノ真相ヲ
 發見シテ之ニ適切ナル裁判ヲ下タシ有罪ヲシテ法網ヲ免カレシメス無辜ヲシ
 テ刑辟ニ觸レシメサルカ爲メナリ然ラハ其官衙行政廳ニセヨ決シテ之ヲ拒ム
 ノ理ナシ且ツ官廳ハ固リ國家ノ事ニ當ル公ノ事務所ナリ此公ケノ事務所ニハ
 通例秘密ノ存ス可キ理ナシ(外交事務ヲ掌ル官吏等ハ格別左レハ秘密ヲ發カル
 ハカ如キコト決シテ之ナキナリ法律既ニ人ノ住所ニ侵入スルヲ許ス以上ハ人
 ノ住所ナラサル郡役所ニ踏込ミ檢証シ得可キ固ヨリ當然ナリト云ハサル可カ
 ラス刑事訴訟法ニ於テ別ニ此問題ヲ決シタル明文ナント雖トモ余ハ此ノ如ク
 決定シテ疑ハサルナリ尤モ實際上ヨリ論スルトキハ突然其所ニ臨檢スルハ穩
 カナラサルカ故ニ先ツ一應其廳ニ照會スルヲ可トス併シ其長官カ犯罪ヲ爲シ

タル場合ニハ斯カル迂遠ノ手續ヲ用ユ可カラサルヤ言フ竣タサレナリ要スルニ何レノ場所ニテモ豫審判事ハ臨檢スルコトヲ得ト云可シ

豫審判事ハ臨檢又ハ搜索ニ因リ發見セタル物件カ事實ヲ証明スルニ足ルヘキモノナリト思料シタルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得此差押ハ一時人ノ所有權ヲ侵害シ一般人カ之ニ觸ルヽコトヲ禁スルモノナルカ故ニ其事ヲ表示スル爲メ之ニ封印ヲ爲シ且ツ目錄ヲ作ルヘシ而シテ其物件カ少量ノモノナルトキハ之ヲ裁判所ニ遞送シ又不動産ノ如キ遞送スルヲ得サルモノナルトキハ之ヲ監視スル爲メ看守人ヲ付スルコトアルヘシ(第百六條)

發見シタル証據物件ハ何人ノ所有タルヲ問ハス差押フルコトヲ得ト雖トモ其
人ノ承諾アルニ非ラサレハ之ヲ差押フルコトヲ得サルモノアリ則チ証言ヲ拒
ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ニシテ其秘密ス可キ義務アル事情ニ關スル物
件ナルトキ是ナリ此等ノ人ハ証人トシテ口頭ノ供述ヲ拒ムコトヲ得左レハ其
秘密ニ關スル物件ニ付テモ亦其開披差押ヲ拒ムコトヲ得サル可カラズ第百十
四條

檢証處分ハ事實發見ノ証據トナル可キ物件ヲ得ルヲ主眼トス故ニ公力ヲ用井
テ強行スルコトヲ得例ヘハ家宅臨檢ノ場合ニ於テ主人之ヲ拒ミテ應セサルカ
又ハ固ク門戸ヲ鎖サシテ入ルヲ得サリシカ如キトキハ主人ヲ排シ門戸ヲ開キ
テ侵入シ十分搜索スルコトヲ得ルナリ

佛國治罪法ニ依レハ門戸ヲ閉シ又ハ物件ヲ箱ニ入レテ密閉シタルカ如キ場
合ニハ相當ノ職人ヲシテ之ヲ開キ又ハ發カレムルモノトセリ是レ其物ヲ毀
壞セザランカ爲メナリ我カ刑事訴訟法ハ此ノ如キ細目ノ規定ナシト雖トモ
公力ノ濫用ハ素ヨリ之ヲ許サス故ニ鎖鑰ヲ開キ篋箱ヲ發グニ當リ之ヲ毀壞
スルカ如キコトハ決シテ法律ノ欲スル所ニ非ラス故ニ實際ニ於テハ可成的
相當ノ職工ヲ用井之ヲシテ開發セシムルコトヲ要ス

臨檢家宅搜索ノ處分ハ何レモ皆ナ豫審廷ノ外ニ於テ行フ所ノ者ニシテ其目的
トスル事物ハ皆ナ形体アリテ而シテ智覺感情生氣ヲ有セサルモノナリ既ニ智
覺ナク感情ナク生氣ヲ有セザランカ是等ノ處分ニ付キ他人ヲ立會ハシムルモ
爲メニ其物ノ性質ヲ變スル等ノコトナカルヘシ夫ノ被告人證人ノ訊問ノ如キ

ハ他人ヲシテ之ニ立會ハシムルトキハ或ハ其感情ニ異變ヲ來タス等ノコトアレ
トモ知覺感情生氣ナキ物ハ此ノ如キコトナシ故ニ此檢証及ヒ搜索ニ被告人ヲ立
會ハシムルモ何等ノ障礙ナキノミナラス其立會ノ爲メ反テ事實ヲ發見スルコ
トアラン例ヘハ殺人罪ニ付キ被告人ヲシテ屍體ノ檢證ニ立會ハシムルトキハ
被告人ハ忽チ感動色ニ現ハレ或ハ當時ノ事ヲ想起シ或ハ所行ヲ懺悔シ其他種
々ノコトヨリシテ忽チ色動キ身戰キ豫審判事ハ是ニ據テ以テ事實發見ノ緒ニ
就クコトアリ此故ニ法律ハ被告人其處分ニ立會フコトヲ得ルノミナラス必要
トスルトキハ豫審判事ハ之カ立會ヲ命スルコトヲ得ト定メタリ但シ被告人拘
留ヲ受ケ監獄ニ在ルトキハ漫リニ之ヲ出ストキハ或ハ逃走潛匿ノ恐アルヲ以
テ被告人カ自ラ進ンテ立會フコトヲ許サス但シ豫審判事カ認テ以テ必要ナリ
トスル場合ハ之ヲ許スノミ(第百八條)

臨檢ス可キ場所搜索ス可キ家宅カ豫審廳ヲ距ルコト遠キトキハ豫審判事ハ其
出張ノ爲メニ一時他ノ職務ヲ執ルコト能ハサル場合アリ故ニ其臨檢搜索ス可
キ場所遠方ナルトキハ豫審判事ハ其管轄地内ト雖トモ其地ノ區裁判所判事ニ

囑托シテ臨檢搜索又ハ差押ヲ爲サシムルコトヲ得但シ重大ナル事件ハ自ラ爲
スコトヲ要ス但シ其管轄地内ニアラスシテ他ノ管轄地内ナルトキハ必ス其地
ノ區裁判所ニ囑托セサル可カラス(第百十二條)

證人ノ供
述

第三款 證人ノ供述

證人ノ供述ハ刑事裁判上肝要ノ證據ニシテ諸般ノ證據中第一ノ地位ヲ占ムル
ト云フモ過言ニアラサルナリ凡ソ世間何事ヲ問ハス自身ノ目撃シタルヨリ確
カナルコト莫カル可シト雖トモ己レカ目撃セサル事柄ハ之ヲ目撃シタル人ニ
聞カサレハ知ルコトヲ得ス見スヤ吾人カ過去ノ事ヲ知ルニ之ヲ見聞シタル過
去ノ人ノ記録セル書ニ就キ又ハ其人ノ傳フル言語ニ依ルコトヲ若シ夫レ之ヲ
目撃シタル所ノ人カ正實ニシテ且ツ信用ス可キ者ナルニモ拘ハララス猶ホ信ス
可ラスト爲サハ古來千百ノ歴史ハ皆ナ信ス可ラサルナリ刑事裁判ニ於テモ亦
此一般ノ真理ヲ脱セサルナリ其裁判ニ係ル事實ヲ目撃セリトシテ陳述スルト
キハ其證言ハ確實ナリト見做ス可キハ當然ノコトナリ尤モ供述者數人アリテ

其陳フル所ノ事實各異ナルカ如キ場合ニ於テハ孰レカ眞實ナルヤ否ヤ裁判官ノ宜シク考查スヘキ所ナレトモ寧ロ其事實ヲ一ニスルトキハ先ツ以テ眞ナリト爲サ、ル可ラス英國有名ノ學者ベンサム氏曰ク證人ハ裁判上ノ耳目ナリト眞ニ然リ

現ニ見聞シタリトシテ供述スル所ノ證言ハ確實ナルノ推定ヲ下ス可シト雖トモ裁判官ハ必ス之ニ從テ心證ヲ作ラサル可ラスト斷スルハ非ナリ其心證ヲ作ルニハ供述ノ事實ハ果シテ誤ナキノ事實ナルヤ否ヤヲ吟味セサル可ラス蓋シ人ハ妄斷ナク又臆測ナキヲ保セス况ンヤ貪慾ノ爲メニ正ヲ枉クルアリ憤怒ノ爲メニ公平ヲ失スルアリ感情ノ爲メニ實ヲ誤ルコトアルニ於テヤ是ヲ以テ法律ハ其證言ノ信ス可キ者ト信ス可ラサル者トノ限界ヲ示サンカ爲メ證人トシテ證言スルコトヲ得ル者ト否ラサル者トノ區別ヲ定メタリ是レ余カ後ニ講セントスル所ナリ

又證人ハ之ヲ訊問スルニ付テノ方式ナカル可ラス故ニ法律ハ備サニ訊問前後ノ方式ヲ定メタリ

證人訊問ニ關スル法式

證人訊問ニ關スル法式

舊治罪法第七十條ニ曰ク豫審判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人トシテ指名シタル者ヲ呼出ス可シ原告證人被告證人ノ員數夥多ナル時ハ指名ノ順序ニ從ヒ又ハ最モ事實ヲ知ル可シト思料シタルモノ輕罪事件ニ付テハ各五名重罪事件ニ付テハ各十名ヲ限リ先ツ之ヲ呼出ス可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスレトキハ此限ニ在ラス又被告ノ指名セサル者ト雖トモ豫審判事ノ職權ヲ以テ證人トシテ之ヲ呼出スコトヲ得ト故ニ治罪法ノ下ニ在テハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人トナルヘキ者ヲ指名シテ其訊問ヲ請求スルトキハ必ス呼出スコトナリキ又必スシモ指名アル者ノミニ限ラス指名ナシト雖トモ豫審判事ニ於テ必要ナリトスルトキハ職權ヲ以テ呼出スコトヲモ得タリ故ニ治罪法ノ規定ニヨルトキハ證人トシテ呼出スハ原被告人ヨリ請求シタル者ト豫審判事ノ職權ヲ以テスル者トノ二トス而シテ原被告ヨリ指名シタルトキハ悉ク呼出ス可キヤト云フニ法文明記スルカ如ク必シモ悉ク呼出スコトヲ要セス蓋シ檢事ナレハ猥リニ不必要ノ證人訊問ヲ請求スルコトナカルヘキモ他ノ

訴訟人ハ或ハ訴訟ヲ延滞セシメ又ハ其他故意ニテ必要ナラサル證人ノ指名ヲ爲スコトアリ然レテ向ホ悉ク呼出スコト、スルトキハ訴訟人ノ欺瞞奸策ヲ成スノミニシテ毫モ事ニ益ナキナリ故ニ數多ノ證人ヲ指名シタル場合ニハ輕罪ニハ五名重罪ニハ十名ヲ限リテ先ツ之ヲ呼出スヘク其餘ハ豫審判事ノ判定ニ一任セリ

然ルニ刑事訴訟法ハ此治罪法ノ明文ヲ全然廢除シ別ニ此ノ如キノ規定ヲ爲サ、ルコト、セリ刑事訴訟法ニ於テ此規定ヲ要セストシタル理由如何ト云フニ證憑蒐集ハ實ニ豫審判事ノ權内ニアラルヲ以テ縱合原被告ヨリ請求スルモ豫審判事ニ於テ不必要ナリトスルトキハ其請求ヲ拒斥スルハ當然ナリ若シ其必要アラハ原被告ノ請求ヲ待タス自ラ蒐集ニ從フヘキハ又當然ナリ然ルニ治罪法ノ如ク原被告ヨリ請求アルトキハ必ス呼出スヘキモノトスルハ訊問ノ必要ナク且ツ其證人タルヘキ者ハ其實ヲ知ラサルヲ判然タルモ尙ホ之ヲ呼出サ、ル可カラサル故ニ徒ニ日時ヲ延シ費用ヲ増加スルノミナラス舊治罪法ヲ通覽スルニ諸般ノ證憑タル之ヲ蒐集スルハ一ニ豫審判事ノ隨意ナリ(檢事ヨリ臨檢ノ

請求アル場合ハ格別然ルニ證人訊問ニ關シ獨リ此職權ヲ減縮セラルヘキ理ナシ是レ之ヲ採用セサル所以ナリ又治罪法ニ於ケル輕罪ニ付テハ五名重罪ニ付テハ十名云々ノ區別ヲ設クルニ至テモ亦毫モ理由ナシ寔ニ重罪ハ鄭重ヲ要スヘシト雖モ時トシテハ多クノ證人ヲ訊問スルヲ必要トセサルコトアリ又輕罪ト雖トモ時ニ多數ノ證人ヲ訊問セサル可カラサル必要アルコトアリ決シテ重罪タルト輕罪タルトニ依テ之ヲ限畫スルノ道理ナシ是ヲ以テ刑事訴訟法ハ一ニ判事ノ判定ニ委シ敢テ制限規則ヲ設ケサルナリ

證人ハ呼出狀ヲ以テ之ヲ呼出スモ、ハトス是即チ證人呼出ニ必要ナル方式ナリ是故ニ呼出狀ヲ受ケサル者自ラ出頭シテ證人トシテ訊問ヲ受ケント願出ルモ之ヲ許容スルヲ得ス蓋シ此ノ如キ者ハ呼出狀ヲ受ケス即チ必要ナル方式ヲ缺キタルモノナレハナリ加之呼出ヲ受クルコトナクシテ躬自ラ出頭シテ訊問ニ與カラントスル者ハ或ハ被告人ヲ陷害セン爲メナルカ若クハ曲庇セン爲メナルカ多少疑フ可キ者ナリ此ノ如キ者ヲ訊問スルハ害アリテ益ナシ故ニ法律ニ之ヲ證人トスルコトヲ許サ、ルナリ

法律ハ猶ホ注意ヲ重ネ呼出狀ヲ受ケテ出頭シタル者ナルヤ否ヤヲ最初ニ確カ
ムルヲ要スト爲セリ即チ呼出狀ヲ受ケテ出頭スル者ハ其呼出狀ヲ示シテ之ヲ
明ニス可ク若シ其呼出狀ヲ紛失遺逸シタルトキハ證人トシテ呼出ヲ受ケタル
者ニ相違ナキコトヲ疏明ス可シト爲セリ(第百二十條是レ亦タ呼出ヲ受ケサル
者ノ漫ニ訊問ニ與カルコトヲ防ケンカ爲メナリ)

正式ノ呼出狀ヲ受ケタル者ハ其呼出狀ニ記載シタル日時ニ出頭シ供述ス可キ
ノ義務アリ凡ソ裁判所ニ出頭シテ證人トナルハ刑法ノ剝奪公權ノ規定ニ依レ
ハ一ノ公權タリト雖トモ必ス出頭ス可キノ點ヨリ看察スルトキハ一ノ義務タ
ルヤ疑フ可ラサルナリ是故ニ裁判所ヨリ證人タルヘキノ命ヲ受ケタル者ハ何
人ヲ問ハス皆ナ此義務ヲ盡サ、ル可ラス然レトモコレニハ多少ノ例外アリ

證人出廷
ノ義務ヲ
免ル者

第一 例外 即チ或ル場合ニ證人トシテ出頭スルヲ免カル、者
或ル場合ニ裁判所ニ出頭スルノ義務ヲ免カル、者ハ左ノ如シ
第一 皇族各大臣帝國議會ノ議員(第百三十條)
皇族○皇族證人ナルトキハ豫審判事必ス其所在ニ就キ訊問ス可キモノトセリ

然レトモ茲ニ注意ス可キハ皇族ハ唯々特別ノ取扱ノ爲メニ裁判所ニ出頭スル
ノ義務ヲ免カル、ノミニシテ事實ヲ供述スルノ義務ヲ免カル、ニハアラサル
ナリ

各大臣○各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ
滞在スルトキハ其現住地ニ於テ之ヲ訊問ス可キモノトス
帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滞在中ハ其所在地ニ於テ
之ヲ訊問ス可キモノトス

右ノ大臣及ヒ議員ハ皇族ト異ニシテ常ニ出頭ノ義務ヲ免カル、ニアラス唯々
遠方ノ裁判所ヨリ呼出ヲ受ケテ出頭スルノ義務ナキノミナリ此特別ハ其職務
ニ基因スルモノナリ即チ國務大臣ニシテ久シク執務廳ヲ離ル、トキハ事務延
滞國事ニ利ナラス又帝國議會ノ議員ニシテ遠方ノ裁判所ニ呼出サル、トキハ
議會ニ與カルヲ得スシテ國事ニ不利ナレハナリ

第二 疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スル能ハサル者(第百十六條) 此等
ノ者ハ事實上出頭スル能ハサルモノニシテ縱令法律ヲ以テ強テ出頭セシメン

トスルモ到底能ハサルナリ故ニ此等ノ事情アル者ニハ出頭ノ義務ヲ免シ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可キモノト爲セリ但シ此等ノ者ニシテ出頭ノ義務ヲ免カレントスルニハ出頭スルコト能ハサル疾病又ハ其他正當ノ事故ヲ疏明セサル可ラス

正當ノ事故トハ何ゾ是レ別ニ法律ニ規定セス豫審判事ノ認定ニ一任セリ故ニ一定ノ文言ヲ以テ之ヲ示スヲ得スト雖トモ一二ノ事實ニ就テ言ハシニ正當ノ事故アリトスルニハ本人一身上ノ事情ノミナラス他ノ原因ニ依ルコトモアラシ例ヘハ本人ノ疾病ノミナラス父母ノ重病ニシテ看護ノ爲メ一刻モ其傍ヲ去ル可カラサルトキハ又以テ正當ノ事故トスルコトヲ得可シ然レトモ父母ノ病弱ハ本人ノ爲メ常ニ正當ノ事故ナリト思惟ス可ラス其病ニシテ輕症患フルニ足ラサルカ如キ場合ニハ所謂正當ノ事故ト云フコトヲ得サル可シ此等ノ事實問題ハ一ニ豫審判事ノ事實認定權内ニアリ

又事故アルコトヲ疏明ストハ例ヘハ醫師ノ診斷書ヲ以テ其疾病ヲ證明スルノ類ナリ

全ク出頭ノ義務ヲ免カル、ニ非ラサレトモ其出頭延期ヲ請フコトヲ得ル者アリ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬即チ是ナリ(第十七條此等ノ者ハ常ニ所屬長官ノ指揮監督ノ下ニ服従スルモノニシテ自ラ縦マニ軍隊ヲ離ル、コトヲ得ス是故ニ豫審判事此等ノ者ヲ呼出スニ當テハ其長官ヲ經ルコトナク直接ニ本人ヲ呼出スコトヲ得ス其呼出狀ハ長官又ハ隊長ヲ經由シテ送達スルコトヲ要ス而シテ其長官又ハ隊長ハ差支ナキトキハ即時ニ出頭セシメ若シ職務上已ムコトヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ付シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請ハサル可カラス

前掲ノ例外ヲ除ク外苟モ證人トシテ呼出ヲ受ケタル者ハ其呼出狀送達ト出頭トノ間廿四時ノ猶豫ヲ得テ出頭セサル可カラス若シ其呼出ニ應セサルトキハ第一百八條ニ記載スル如ク豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡スモノトス此罰金ノ言渡カ通常ノ訴訟手續ト異ナル點ハ前已ニ述ヘタル所ナリ

不參ノ爲メ言渡ス罰金ハ前ノ不參ヲ制裁スルニ過キス之カ爲メ出頭ノ義務ヲ

免カレ、モ、ニアラサルナリ故ニ罰金言渡ノ後ト雖トモ必要アルトキハ幾度ニテモ呼出スコトヲ得ルノミナラス急速ヲ要スル場合ニハ呼出狀ヲ用ユルコトナク公力ヲ用井テ直ニ出頭セシムルコトヲ得

證人出頭ニ關シ此ノ如キ嚴重ノ法則アル所以ハ事實發見ノ必要ニ依ルモノニシテ是亦前逃シタル所ナリ

證人不參ノ爲メ罰金ノ言渡ヲ受クルトキハ其言渡ニ對シ抗告スルコトヲ得而シテ此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有スルモノナリ

證人カ出頭セサリシハ其責證人ニアラスシテ他ニアルコトヲ疏明スルトキ例ハ豫審判事ハ其證人ニ呼出狀ヲ送達シアルモノト信シテ言渡セシニ書記ノ錯誤若クハ過失ノ爲メ實ニ送達セサリシカ又ハ其呼出狀カ方式ニ違背シ被告人ハ已レニ對スル呼出狀ニアラスト信シテ出頭セサリシカ又ハ猶豫期限ノ記載ナク又ハ急ニ發病シテ出頭スルコト能ハサリシカ如キ場合ニ於テハ言渡ノ日ヨリ三日内ニ其事ヲ疏明セハ其罰金ハ不當ニ言渡シタルモノナルコト明白ナルヲ以テ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消ス可キモノトス(第百十

證人ト爲
ルコトヲ
得サル者

九條是ニ由テ之ヲ見レハ此罰金ノ言渡ヲ取消スニハ抗告スルカ又ハ已レニ過失ナキコトヲ疏明スルノ二方法アリ然レトモ此二方法ヲ除クトキハ他ニ之ヲ排撃スルノ方法アルコトナシ

第二例外 即チ證人タルヲ得サル人

法律上證人タルヲ得サル者ニ二種アリ第一ハ第百二十三條ニ第二ハ第百二十四條ニ規定セリ

第一、此種ニ屬スル人ハ左ノ如シ(第百二十三條)

- 一 民事原告人
- 二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但シ姻屬ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖トモ亦同シ
- 三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者
- 四 民事原告人及ヒ其親屬等ノ證人タルヲ得サル理由ハ民事原告人ハ現ニ私訴ヲ提起シタル者ナレハ公訴ノ成否ニ付キ利害ノ關係ヲ有ス即チ民事原告人ハ多

クノ場合ニ於テ被告人刑ノ言渡ヲ受クルトキハ私訴ノ目的ヲ達ス可ク之ニ反シ被告人無罪ノ言渡ヲ受クルトキハ賠償ノ利益ヲ得サルコトアル可シ故ニ此ノ如キ人ヲ證人トシテ訊問スルトキハ己レノ私訴ニ不利益ナル事柄ハ之ヲ供述セス好シヤ供述スルモ其供述ハ公平ナラサルノ疑アリ是レ法律ニ於テ民事原告人ノ證人タルヲ禁セシ所以ナリ但シ被害者ニシテ單ニ告訴ノミ爲シ私訴ヲ爲シタルニアラサルトキハ所謂民事原告人タルニアラス從テ利害ノ關係ナキカ故ニ證人タルニ妨ナシ

民事原告人及ヒ被告人ノ親屬又ハ後見人又ハ民事原告人被告人ノ後見ヲ受クル者ノ證人タルヲ得サル理由ハ利益上又ハ情誼上本人ニ不利益ナル事實ヲ隱蔽スルノ恐レアレハナリ殊ニ被告人ノ親屬ニ就テ見ルニ所謂子ハ父ノ爲メニ隱シ父ハ子ノ爲メニ隱スト云フカ如ク互ニ容隠スルハ道德ニ於ケル吾人ノ本分ナリ法律ハ此道德ヲ抛テ互ニ惡事ヲ發露セヨト命スルハ豈ニ夫レ忍フ可クンヤ非除ヤ無情ニモ強テ之ヲ命スト爲スモ其供述タル毫モ信憑ス可カラサルナリ

又被告人ノ雇人同居人モ前ト同一ノ理由ニ依リ證人タルコトヲ許サ、ルナリ法律ハ特ニ注意シテ姻屬ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖トモ同一ナリトセリ夫レ婚姻タル一旦解除スルトキハ法律上最早双方ノ間姻屬ノ關係アラサルナリ然ルニ猶ホ其證人タルヲ許サストセシハ何故ゾト云フニ是レ大ニ理由アリ今其婚姻ノ解除離婚ニ原因シタル場合ニ就テ見ルトキハ離婚サレタル者ハ離婚シタル者ヲ怨ミテ本人ニ不利益ナル事實ヲ捏造シテ供述スルコトアルヘク又ハ表面離婚スト雖トモ其實内縁等ノアルアリテ被告ノ利益ヲ計畫スルコトアルヘク孰レニシテモ信ヲ置テ可カラス、又婚姻ノ關係ヨリシテ親屬トナリシ者例ヘハ被告人ノ配偶者ノ父母兄弟姉妹ノ如キハ縱令其配偶者死去スト雖トモ姻屬ノ親情ハ尙ホ未ダ絶ヘス况シテ其配偶者ノ擧ケタレ子アルトキニ於テオヤ是レ姻屬ハ解婚スト雖トモ尙ホ證人タルコトヲ許サ、ル所以ナリ右ニ述マル第二百二十三條ニ規定セル所ハ人ト人トノ關係上ヨリ之ヲ許サ、ルニアリ他ノ事件ニ關シテハ證人タルニ妨ナシ換言セハ第二百二十三條ニ記載スル所ノ人々ハ一般ニ證人タル權ナキニアラスシテ特定ノ事件ニ關シテノミ證

人タルノ權ナキノモ

第二此種ニ屬スル人ハ左ノ如シ(第二百二十四條)

- 一 十六歳未滿ノ幼者
- 二 知覺精神不十分ナル者

三 瘡腫者

四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者

五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者

六 現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラサルニ因

リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

十六歳未滿ノ幼者ハ是非ノ辨別ナク偶々之アリトスルモ其辨別タル不完全ノモノナルヲ以テ刑法ハ或ハ不論罪トシ或ハ宥恕ノ原由ト爲セリ斯ノ如ク是非ノ辨別ナク隨テ已レノ責任ヲ審ニセサル者ヲ証人トシテ訊問スルモ妄想ノ陳述ノミ爲シ其真ヲ得ルハ蓋シ期ス可カラサルナリ故ニ此幼者ノ証人タルコ

トヲ禁ス

又智覺精神ノ不十分ナル者即チ白痴癡癪人ハ其言ノ信用ス可カラサルハ一般人ノ認ムル所ニシテ別ニ説明ヲ要セサルナリ

又瘡腫ニハ口言フコト能ハス耳聞クコト能ハス刑法ニモ之ヲ罰セス即チ法律上辨別ナキ者ト見做セリ故ニ此等ノ者ヲ以テ證人タルヲ許サ、ルハ當然ノコトナリ

次ニ公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者ハ現行刑法ニ於テ現ニ證人タルコトヲ禁セリ左レハ刑事訴訟法ニ於テモ亦之ヲ禁スルハ當然ノコトナリ加之此等ノ者ハ到底信用スルコト能ハサル者ナリ

次ニ重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者ヲ證人タラシメサル所以ハ此等ノ者ハ殆ト社會ノ信用ヲ失フタル者ナレハナリ而シテ輕禁錮以下ノ刑ニ該ル者ニ證人タルヲ許シタルハ如何ト云フニ輕禁錮以下ノ刑ハ破廉恥罪ノ犯人ニ科スルモノニアラス時ニ過失ニ因テ此刑ヲ科セラルハ、コトアリ左レハ禁錮ノ刑ニ該ル者ハ舉テ信用ス可ラサルニアラス



是レ輕禁錮以下ノ者ニ證人タルヲ許ス所以ナリ
 右ノ人々ハ一切ニ證人トナルコトヲ得サルモノニシテ特定ノ事件ニ限ルニ非
 ラス第一ノ者即チ百二十三條ニ規定セル者ト全ク異ナリ
 又法律ハ現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ會テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラサルニ
 因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ニ證人タルコトヲ禁セリ例ヘハ竊盜事件ニ付キ
 甲者豫審ノ取調ヲ受ケ證據不十分ノ故ヲ以テ放免サレタルトキハ乙者ノ同一
 竊盜ノ被告事件ニ付キ證人トナルコトヲ得ス是レ如何ナル理由ニ本キタルヤ
 ト云フニ此甲者ヲ證人トシテ供述ヲ聽クトキハ甚ダ危險ナルニ依ルナリ即チ
 甲者ハ證據不十分ノ爲メニ免訴セラレタル者ナレハ後日新證アルトキハ罰セ
 ラル可キ者ナリ左レハ乙ノ事件ニ新證アルトキハ己レノ不利ナリ又其事件ニ
 レテ一刻モ早ク之カ罪人タル者確定スレハ己レノ事件ハ最早憂ナキカ故ニ可
 成の不實ノ陳述ヲ以テ乙者ヲ罪人ト爲サント企ツルノ恐アリ是レ之ヲ禁シタ
 ル所以ナリ但シ此者ハ一切ノ事件ニ付キ證人タルヲ得サルニアラス己レカ會
 テ取調ヲ受ケタル事件ニ限ルナリ

以上説述セタル二種ノ人ハ證人タルコトヲ得サルナリ然レトモ豫審判事ハ其
 供述ヲ聽クコトヲ得サルニアラス唯タ證人トシテ之ニ宣誓セシメ訊問スルコ
 トヲ得サルノミ夫ノ事實參考人トシテ訊問聽取スルハ法律之ヲ許セリ但シ此
 事實參考人ハ真ニ參考ニ過キサルカ故ニ此訊問ニノミ基テ心證ヲ作ルヲ得ス
 若シ專ラ之ニ基テ心證ヲ作ルトキハ是即チ違法ノモノナリ
 以上ハ法律上證人ト爲ルヲ許サハル者ノ列擧ナリ此ヨリ法律ニ於テ證人ト爲
 ルヲ拒絶スルノ權ヲ與ヘタル者ニ付テ説明セン
 前既ニ述ヘタルカ如ク證人ト爲ルハ國民ノ權利ニシテ又其義務ナリ然ルニ或
 ル種類ノ人ニ付テハ之ヲ證人ト爲スニ付キ法律上其本人ノ承諾ヲ要スルモノ
 アリ此レ其身分職業上秘密ヲ守ラサル可カラサルヲ謂フ蓋シ此種ノ人々ハ一
 方ニ於テハ道德或ハ法律ニヨリ秘密ヲ守ルノ義務ヲ負擔スルニモ拘ハラス他
 ノ一方ニ於テ法律之ニ證言ヲ爲ス義務ヲ命スルトキハ二箇ノ義務相衝突スル
 ニ至ル此ノ如クハ到底完全ニ兩義務ヲ履行スルヲ得サル故ニ又其一方ノ義
 務ヲ履行スルヲ強ニル能ハサルヲ以テ此場合ニ於テハ本人ニ何レノ義務ヲ履

證言ヲ拒
ル者トシテ

行ス可キカ之カ選擇ヲ爲スヲ許スヲ要ス然リ而シテ其秘密ヲ守ル義務アル場
 合ハ何レニ在ルヤ義務トハ其人ノ身分若クハ職業ニ附着セルモノニシテ概シ
 テ言ハ、私ノ義務ニ過キサルカ如シ果シテ然ラハ公益ノ爲メニハ私益モ屈セ
 サル可カラス公權ノ爲メニハ私權モ服セサル可ラス故ニ此私ノ義務ヲ措テ公
 ノ義務即チ証言ヲ爲サシメテ可ナルカ如キ外觀アリ然ルニ法律カ此似テ而シ
 テ非ナル私ノ義務ヲ以テ公ノ義務ニ對セシメタルハ抑モ又其理由ナキニ非サ
 ルナリ所謂秘密ヲ守ル義務ナルモノハ其人ノ特有ニ非スシテ其身分若クハ職
 業ニ一般ニ專屬スルモノナリ即チ何人ヲ問ハス苟クモ其身分ナリ職業ナリニ
 當ル者ハ皆此義務ヲ盡サ、ル可ラス而シテ其義務ヲ盡サ、ルモ可ナリトスレ
 ハ爲メニ公益上尠少ナラサル害アラシ故ニ之ヲ以テ一箇ノ公ノ義務ト做シ若
 シ其履行ヲ缺クニ於テハ一罪トシテ之ヲ罰スルニ至レリ既ニ斯ノ如ク公ノ義
 務ト爲ス以上ハ彼証人タルノ義務ト相對立セシムルモ果シテ何ノ不都合カア
 ル

法律ニ於テ證人ト爲ルヲ拒ムヲ許シタル者ハ如何ナル者ナルヤ左ニ之ヲ列叙

第一 官吏公吏又ハ官吏公吏トシテ者其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關
 スルトキ

此等ノ者ハ右ノ事情ニ付キ証言ヲ拒ムヲ得ルナリ此レ前述ノ理由ト異ナリ官
 吏公吏ノ職務上當然免レサルモノナレハ公ノ義務ト謂フ可シ其義務ノ如何ハ
 其事情ニ由リ豫メ一定シ難キモ多クハ外交上軍事上ノ機密ニシテ政署上漏洩
 ヲ許サ、ルモノニ關ス故ニ法律ハ其秘密ヲ漏ラスニ於テハ一般公益ニ妨碍ア
 ルヨリ裁判所ニ向テモ尙ホ其默秘ヲ墨守スルヲ許容セリ

第二 醫師藥商穩婆辯護士辯護人公證人神職僧侶其身分職業ノ爲メ委託ヲ受
 ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ關スルトキ

此等ノ者カ其職業ヲ行フニ當テ知得シタル秘密ニ付テハ己レ其証言ヲ爲スヲ
 拒絶スルヲ得ルナリ醫師藥商穩婆等ノ如キ者ハ何故ニ証言ヲ拒ムヲ得ルヤ此
 等ノ者ノ職業ハ病ヲ治スルカ藥餌ヲ供スルニアリ今茲ニ犯罪人アリ其犯罪ノ
 爲メニ身体ニ創ヲ被ムリタル場合ニ其治療ヲ醫師ニ求ムルカ或ハ婦女ノ如キ

刑事訴訟法(第三編)

0252

産胎罪ヲ犯シ産婆ノ介保ヲ求メタルニ醫師又ハ産婆ノ如キ者ヲシテ証言セシ
 メハ最モ事實ノ証明ヲ容易ナラシムルヲ得可シ故ニ一方ノ公益上ヨリ言ヘハ
 強ヒテ之ニ証言ヲ爲サシムルハ頗ル利アリ然ルニ法律ノ規定此ニ出テサルハ
 全ク人命ヲ重シスルヨリ生ス醫師産婆等カ証言ヲ爲ス義務アリトスレハ犯人
 タル者其犯罪ニ因テ受ケタル疾病創傷ノ治療ヲ托スル所ノ者ヲ失フニ至ル可
 シ尤モ犯罪其者ハ惡ム可キモ犯人其人ハ惡ム可ラス一人ト雖トモ社會ノ分子
 ナリ此分子タル人ニシテ病トナルモ罪ノ發露ヲ恐レテ其治療ヲ乞ハストセハ
 些々タル害ノ爲メ貴重ノ身命ヲ斃スニ至ルコトナシトセス故ニ斯ク証言ヲ拒
 ムヲ許スニ於テハ犯人ハ安心以テ病傷ノ治療ヲ施スニ躊躇スルコトナカラシ
 是一般公益上實ニ有益ノコト、謂フ可シ
 辯護人公證人ニ付テモ之ト全様ナリ此等ノ者ハ何レモ各個人ノ私益ヲ保護シ
 私權ヲ伸張スルヲ以テ其任ト爲ス故ニ犯罪人ヨリ事實ノ詳細ヲ聽取シ充分之
 ヲ知ルコアル可シ然ルニ辯護士、辯護人又ハ公證人ノ資格ニ於テ充分犯人ノ情
 狀ヲ審聽シ一方ニ於テ裁判上之カ証言ヲ爲スノ責アリトセハ依頼者ハ則チ罪

ノ發覺ヲ恐レテ已レニ不利益ナル事情ハ皆之ヲ默秘ス可シ然ルトキハ伸張ス
 可ク保護ス可キ權利モ爲メニ伸張保護セサルニ終ルコト往々之有ラン故ニ事
 ノ最大ナルト最小ナルトヲ問ハス之ヲ辯護人等ニ開示シ以テ各自ノ權利ヲ伸
 張保護セシムルヲ要ス故ニ此等ノ者ニ証言拒否ノ權能ヲ付與シタリ公證人モ
 往々秘密ヲ托セラル、コトアリ佛國ニ於テハ反對證書ヲ作ルカ或ハ遺言等ニ
 關シテ豫メ秘密ノ委托ヲ受クルコトアルハ此レ其職務上秘密ノ委托ヲ受ケタ
 ル者ナレハ裁判上ニ於テモ亦其証言ノ拒否ヲ許サハル可ラス
 又神職僧侶ノ如キハ宗教上ノ方式ニ依リ信徒ヨリ秘密ノ委托ヲ受クルコトアリ
 リ舊惡ノ懺悔ヲ以テ舊罪ヲ贖フト云フコトアリ然ルニ信者之ヲ行フニ當テ法律
 ハ之ヲ知リタルトキ僧侶等ハ乃チ裁判所ニ向テ証言セサル可ラストストキ
 ハ法律ノ干渉ニ因テ懺悔ナル宗教上ノ方式ヲ禁止若クハ防碍スルニ至ル故ニ
 法律ハ宗教上ノ方式ハ特別ノモノトシテ之ニ付テ秘密ヲ委托セラレタルトキ
 ハ秘密ヲ守ルヲ許ストセリ
 以上列擧セル所ノ者ハ何レモ證人トナルヲ拒ミ得ルニ止マリ若シ自ラ之ヲ承

諾セハ則チ完全ナル證人ト爲ルナリ即チ本人カ其身分上ノ義務ヲ缺クモ寧ロ公益ノ爲メニ證言スルヲ至當トシ以テ證言スルトキハ之ヲ一ノ證據ト爲シ裁判官ハ之ニ依テ自己ノ心證ヲ形成スルヲ得可シ反之此等ノ者其證言ヲ拒否スルモ之ヲ以テ有罪トシ處罰スルコト能ハス又此等ノ者カ證人タルヲ拒ムヲ得ルハ唯タ其委任セラレタル部分ニ付テノミ其他ノ默秘ス可キ義務ノ存セサル事情ニ付テハ固ヨリ證人トナリテ陳述セサル可ラス例ヘハ犯罪人其犯罪ノ爲メ創傷ヲ被フリ醫師ニ其診斷ヲ乞ヒタルトキハ該醫師ニシテ訟廷ニ呼出サレ證人トナリタルトキハ其創傷ノ原因ハ秘密ニセサル可ラス即チ何處ニ至テ強盜ヲ爲シ爲メニ創ヲ被フレリト云フ事ハ默秘ス可キ義務ナキ故ニ之ヲ證言セザニ來テ治療ヲ求メシト云フ點ニ付テハ默秘ス可キ義務ナキ故ニ之ヲ證言セザル可ラス故ニ法律ハ全ク證人ト爲ルヲ許サハル者ニ付テハ左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルヲ許サスト一般ニ規定セリ然ルニ單ニ證人ト爲ルヲ拒ミ得ル者ニ付テハ左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ト所謂制限的ノ語ヲ用井タリ即チ默秘ス可キ義務アル事情ニ付テノミ證人ト爲ルヲ拒ムコトヲ得ルナリ又

証人訊問
ノ方式手
續

此等證言ヲ拒否スルヲ得ル者ニ付テハ第百二十五條ニ規定スル所ナレトモ本條ニ列舉セル者ト雖モ偶然人ノ秘密ヲ知り得タル場合ニ於テハ勿論證人ト爲ルヲ拒ムヲ得ス是レ即チ其身分職業上秘密ノ委託ヲ受ケタルモノニ非ス唯タ單ニ通常人ノ事實ヲ知り得タルト毫モ其間差等アラサルナリ故ニ醫師藥商ノ徒ト雖モ亦證言ヲ拒ムヲ得サル場合ナキニ非サルナリ
此ヨリ證人ヲ訊問スルニハ如何ナル方式手續ヲ爲スヲ要スルカラ論究セントス
證人ハ他ノ證人ト各別ニ訊問スルヲ要ス是レ多クノ證人ヲ同席ニ連テテ訊問スルトキハ甲乙互ニ附和雷同スルノ虞ナキヲ保セサレハナリ眞ニ事實ヲ知悉センニハ證人各自別々ニ訊問シ以テ其眞實ヲ供述セシメ互ニ立會フコトヲ許サハルヲ可トス又良シ雷同ノ虞ナシトスルモ同時之ヲ訊問スルトセハ彼ノ豫審ハ之ヲ密行ストノ大旨意ニ背戻シ一事件ヲ知ル者ニ付キ訊問ヲ爲スニ他ノ事件ヲ與知スル證人ヲ列席セシムルトキハ遂ニハ之ヲ漏洩スルノ恐アリ又被告入ヲ訊問ニ立會ハシムルトキハ証人タル者或ハ愛憎畏懼ノ念ニ堪ヘス十分



証言セサルコトアリ故ニ豫審中ハ証人ハ必ス判事ト相對シ他人ヲ列席セシムルコトナク訊問セラル、モノトス乍併場合ニ由リ對質セシムルトキハ事實發見ノ爲メニ有益ナルコト有ラン斯ル場合ニ於テハ證人ヲ同時ニ訊問スルヲ許ス例ヘハ甲證人ト乙證人ト其供述相齟齬スルトキハ遂ニ双方ヲ對質セシムルトキハ一方虛ナレハ必ス屈ス可ケレハナリ

又愈ヨ訊問ニ着手スルトキハ法律ニ規定スル種々ノ細則ニ從ハサル可ラス即チ先ツ其證人トシテ出廷シタル者ノ氏名、年齢、職業及ヒ住所等ヲ問ヒ(第百二十一條)トアリ是蓋シ實際證人ニ非サル者カ僞テ證人ト稱シ虛偽ノ供述ヲ爲シ以テ裁判所ヲ誤ラシムル恐アル故ニ此方式ヲ設ケテ以テ此弊害ヲ豫防シタルナリ加之此方式ニ依レハ其人ノ供述ニ幾何ノ信用ヲ置ク可キカヲ知ルノ利益アリ例ハ年齢ノ如キ餘リ老年ニ亘ル者ナレハ或ハ視違ヒ聽違ヒ有ル可シ又殊ニ未成年者ニ付テハ證人ト爲ルヲ許サ、ル位ヒノ者ナレハ官警モ爲サシメサルコトモ有ル故ニ此訊問ヲ必要トス尤モ證人ト爲ルヲ許サ、ル所ノ第二種類ノ者即チ白痴者、瘋癲者、公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止セラレタル者ニハ右ノ

諸點ニ付テハ訊問セシ白痴者、瘋癲者ナルヤヲ問フハ其人ノ名譽ヲ害スルノミナラス畢竟無益ナルヨリ之ヲ爲サス裁判官ハ他ノ方法ニ依テ其如何ヲ確定ス可シ此氏名、年齢ノ訊問ヲ終レハ他ノ事柄ニ依リ又ハ他ノ方法ニ依リ證人ハ證言ヲ禁セラレタル者ニ非サルカ又之ヲ拒ムノ職アル者ナルモ之ヲ拒マサルカヲ確カメタル上ニテ本人ノ訊問ヲ爲スナリ

訊問ヲ爲スニハ先ツ一ノ宣誓ヲ爲サシムルナリ即チ被告事件ニ付テ本人カ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ヲ誓ハシムルナリ(第百二十二條)若シ證人カ宣誓ヲ肯ンセサルカ又ハ之ヲ爲シテモ之ニ從ハサルトキハ刑法ニ依リ公務ヲ行フヲ拒ム罪トシテ處罰セラル可シ(刑法第百八十條)

訊問ノ事ニ付テハ法律ハ又證人ト爲ル可キ者カ蠱者又ハ匿者ナル場合ヲ想像シテ之ヲ規定セリ此レ別ニ被告人ニ於ケル例ト異ナラサルヲ以テ茲ニ省ク證人ノ尋問スルハ豫審廷ニ於テ爲スヲ通例トスレトモ或ハ證人ノ供述ニ係ル事項カ犯罪ノ模様ヲ實地臨檢シタル上ニ非サレハ明瞭ナラズトスルトキハ其

場所ニ臨ンテ訊問ヲ爲スヲ許ス此場合ニハ豫審判事ハ證人ヲ同伴スルヲ得若シ證人其同伴ヲ拒ムトキハ猶ホ呼出ヲ受ケテ出頭セサルト同様ナレハ通常ノ不參ニ付テ定メタル制裁ヲ施スナリ又事情ニ由リ勾引狀ヲ發シテ之ヲ勾引シテ訊問ヲ爲スヲ得

證人訊問ニ關シテ法律ノ規定スル所ハ以上ノ諸點ニ止マリ如何ナル方法ヲ以テ訊問ス可キカニ付テハ別ニ規定スル所ナレ而シテ證人訊問被告人訊問トアルカ故ニ其間更ニ區別ナキカ如シ乍併此兩種ノ訊問ニ付テハ其性質上自然其間ニ區別ナカル可ラス被告人ハ公判ノ上或ハ無罪ト爲ルカモ圖ラレズト雖モ然レトモ犯罪ト云フ重大ナル嫌疑ヲ受ケツ、アル者ナレハ其無罪ノ宣告アル迄ハ事實上犯人ト推測セラル、ナリ犯人ナレハ自己ニ利益ナル事項ハ之ヲ隱蔽スルノ嫌アリ或ハ言ヲ巧ニシ以テ自己ニ利益ナル事柄ノミヲ陳述スルコトナレトモ此ヲ以テ被告人ヲ訊問スルニハ法律上恐嚇詐言ヲ用弁サルニ於テハ其他如何ナル方法ニ依ルモ毫モ差支アルコトナシ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ判事カ被告人ヲ誘導シテ事實ヲ陳述セサルヲ得サルニ至ラレムルヲ得ルナリ

證人ヲ訊問スル場合ニハ斯ル方法ハ許ス可ラス畢竟證人ナル者ハ他ノ事實ヲ見聞セタルヲ其儘陳述スレハ足レリ決シテ被告人ニ非サレハ之ト同様ニ虚偽ノ陳述ヲ爲ス可シトノ嫌疑ヲ爲ス可ラス然ルニ被告人ヲ訊問スル場合ト同様ノ方法ヲ許スニ於テハ證人ハ虚ヲ實トシテ述ヘサル可ラサルニ至ル人情トシテ其前ノ供述ハ誤リタルヲ知ルモ後ニ至テ之ヲ改メ難キ事情生スルコトナシトセス然ルニ之ヲ窮問シテ已マサレハ益々誤マラシムルニ至ル故ニ證人訊問ニ付テハ大体ノ疑問ヲ設ケテ之ヲ訊問シ十分證人ヲシテ事件ノ狀況ヲ述ヘシムルナリ決シテ判事ヨリ細末ナル問題ヲ設ケテ之ヲ問フ可ラス尤モ證人ノ陳述カ曖昧ナルカ又ハ眞實ナラスト見ヘタルトキハ細密ノ方法ヲ爲スモ亦可ナリ

證人ノ訊問了レハ其證人ノ陳述セタルコトハ後ノ證據トシテ之ヲ保存シ置カサル可ラス因テ證人ノ訊問モ被告人ノ訊問ト同シク書記ノ立會ノ上證人訊問調書ヲ作り訊問終了ノ上ハ之ヲ證人ニ讀ミ聞カセ以テ之ニ署名捺印ヲ爲サレムルナリ



證人ハ前述ノ如ク公ノ義務トシテ其見聞シタル事實ヲ述ヘサル可ラサル者ナレハ或ル身分ヲ有スル者ノ外ハ裁判所ノ呼出ニ應セサル可ラス又裁判所ニ出ツレハ其義務ヲ盡サ、ル可ラス乍併此義務ヲ盡サレムル爲メ大ニ迷惑ヲ被ムラシムルコトアリ例ハ證人裁判所々在地ヨリ遠隔ノ地ニ住居スル場合ニハ旅費ヲ要シ又ハ其業務ヲ休マサル可ラス因テ法律ハ證人ニ賠償ヲ求ムル權利ヲ與ヘリ即チ證人ハ旅費日當ヲ要ムルコトヲ得(第三百三十四條)トアリ此旅費日當ニ付テハ刑法附則第四十九條ニ其額ヲ規定セリ明治廿二年法律百二號ヲ以テ之ヲ改正シ民事訴訟ニ付キ規定シタルコト、同一ニナレリ如此法律ハ單ニ證人ハ旅費日當ヲ得ルト云フニ止マリ之ヲ得ルニ付テハ如何トモ規定アルナシ佛法ニ依レハ刑事裁判費用法ニ於テハ凡テ刑事ニ要スル旅費日當ハ凡テ官ニ於テ之ヲ立替ヒ有罪ナルトキハ被告ヨリ取立テ無罪ナルトキハ裁判所ノ負擔トスト規定セリ我法ニ於テハ被告人刑ノ言渡ヲ受クルトキハ幾分ヲ負擔セシメ無罪ナルトキハ裁判所ノ負擔ニ歸ス然レトモ官ニ於テ立替ヘ支給ストハナシ從來ノ慣習ニ依ルモ旅費日當ヲ要ムルヲ得ルトアルモ結局此負擔ハ何人ニ屬

傳聞ノ證人

スルヲ除去スルコトハ故ニ證人ハ唯々其請求書ヲ差出スノミニテ之アレハ結局官或ハ被告人ヨリ辨濟セシムルト云フニアリ乍併此ハ法律カ旅費日當ヲ要ムルヲ許シタル精神トハ固ヨリ相容レス又實際上斯ノ如クスレハ大ナル都合ヲ生スルニ至ル證人ト爲ル者ハ必ス旅費日當ヲ豫メ支辨シ得ル者ニ限ラス其日稼ノ貧民ナルトキハ爲メニ稼業ヲ廢スルノミナラス費用ノ支辨ニ究シ若シ出頭セサレハ罰金ニ處セラル故ニ旅費日當ハ本人ヨリ求メタルトキハ官廳ニ於テ之ヲ支給シ結局被告人カ有罪トナルトキハ更ニ官廳カ債權者トナリ以テ之カ辨濟ヲ催告スルヲ相當ナリトス

リ

證人中傳聞ノ證人ト稱スル所ノ證人アリ之ハ自身親シク事實ヲ見聞シタルニ非ス唯々他人カ實際見聞シタル事實ヲ聞キ得タル者ナリ此者ノ供述ハ所謂証據ト爲ル可キカ是レ決シテ證據力ヲ有スルモノニ非サルナリ實際自身カ其事ヲ見聞シタルナラハ信用ヲ置クニ足ル可シト雖トモ傳聞ノ證人ハ然ラス僅ニ



他人ヨリ聞キ得タルニ止マリ極メテ間接ニシテ信用ス可キハ唯タ他人ヨリ傳聞シタリト云フコトノミ例ハ某々ノ人ハ犯罪セリト或ル人ヨリ聞キ又ハ其事ノ新聞紙ニ掲載シアルヲ見タリト云フトキハ其人ヨリ聞キ又ハ新聞紙ヲ見タルコトハ信スルニ足ルモ其本件ノ事實ニ至テハ即チ果シテ犯罪ヒシヤ否ニ付テハ未タ卒カニ其真否ヲ知ル可ラサルナリ故ニ法律カ證人ト爲スハ直接ニ其事實ヲ見聞シタル者ニ限り法律ニ所謂證人ハ直接ノ證人ニシテ間接ノ證人ハ眞ノ證人ニ非ス即チ證據微憑タルノカナク唯タ場合ニ由リ事實參考タルノ力アルノミ

第四款 鑑定人ノ供述

鑑定人ノ供述

犯罪ノ種類ニ依リ其犯シタル方法其性質及ヒ其結果等ニ付テハ特別専門ノ智識アル者ニ非サレハ之ヲ知ルコト能ハサル場合アリ例ヘハ同一ノ殺人罪アリテ一方ニ犯人アルモ其殺害ノ原因ハ謀殺ニ出ツルカ故殺ニ出ツルカ將タ毒殺若クハ毆打創傷ニ出ツルカ死体ヲ一見シタルノミニテハ一切知ルコト能ハス則チ其被フリタル創傷ヲ見又ハ死屍ヲ解剖シテ内部諸機關ノ變様ヲ實檢シタル上ニ非サレハ之ヲ知ルコト能ハサルナリ特ニ毒殺ノ如キハ通常人ハ容易ニ之ヲ知ル可ラス必スヤ醫師化學者等ノ智識ヲ藉リテ以テ之カ判斷ヲ爲シ得可キノミ又文書偽造等ニ付テハ其筆跡署名印章ノ如何ヲ鑑定スルヲ要ス此ノ如キ事情ニ接シ豫審判事ニ特別ノ智識ナク從テ犯罪ノ原因如何ヲ明知スル能ハサルトキハ己ムヲ得ス鑑定ヲ必要トス又良シ判事カ特別ノ智識ヲ具フルトスルモ之ヲ行ヘハ却テ裁判權ノ尊嚴ヲ汚辱スルコトナレトモ或ハ豫審判事ハ醫術ニ達スルト雖モ死体ノ解剖ヲ爲スカ如キハ固ヨリ其職務ニ適セス此場合ニハ鑑定人ヲ任命ス可シ

由是觀之鑑定ハ判事ノ智識ノ足ラサルヲ補フカ爲メニ命スル所ノモノナリ然ラハ鑑定人ノ申立ハ判事ヲ羈束スルヲ得ルカ否ナ然ラハ判事ハ他ニ見ル所アリテ鑑定人ノ意見眞實ニ非スト信スレハ自由ナル心證ヲ以テ自ラ判斷ヲ爲スノ權アリ尙ホ彼証人カ現ニ犯罪ノ情况ヲ目撃シタリト曰フモ其供述敢テ判事ヲ羈束スルノカナキト一般ナリ即チ證人カ判事ノ知ラサルヲ補足スルト同一



ナリ
如此鑑定ハ判事自身カ己レノ智識ノ足ラサル所ヲ補フ爲メニ命スルモノトスレハ鑑定人ハ判事カ自己ノ全權ヲ以テ己レノ信用スルニ足ルト思料スル者ニ任命スルヲ得ルナリ證人ニ至テハ然ラス多クハ檢事又ハ被告人ヨリ之ヲ指名シテ判事ニ申出ツルモノナリ而シテ判事ハ必スシモ此申立ニ拘束セラレサルモ證人ト爲ス可キモノナリト信スレハ之ヲ呼出ス義務アリ反之鑑定人ハ原被兩造ヨリ之ヲ請求スルノ權ナク其任命ハ一ニ判事ノ權内ニアルモノトス他ナシ其性質證人ト相異ナレハナリ

此鑑定人ヲ呼出スニ付テノ方式或ハ鑑定人呼出ニ應セサルニ付テノ制裁ニ關スル手續ニ付テハ法律ハ證人ニ關スル規定ヲ準用ストセリ罰金ノ如キモ然リ乍併不參ニ付テノ制裁ニハ證人ノ場合ニハ効力ヲ用フルヲ得ルモ鑑定人ニハ之ヲ用フルコト能ハス其故ハ證人ハ實際過去ノ事實ヲ見聞シタル者ノ謂ヒナレハ他ニ之ニ代ハル可キ者ナシ反之鑑定人ハ事件其物トハ關係ナク唯々特別ノ智識アルカ爲メニ命セラレタル者ナレハ必ス其人ナラサル可ラスト云フノ

理由ナシ故ニ之ヲ呼出スモ不參ナルトキハ更ニ別人ヲ用フ可ク決シテ之ヲ勾引スルヲ許サ、ルナリ

鑑定ニ付テモ矢張り證人ノ供述ニ於ケルト同シク本人カ之ヲ誠實ニ爲サ、ルトキ證據タルノ力ナシ故ニ鑑定ヲ爲ス前ニ公平且誠實ニ鑑定ス可キコトヲ宣誓セシム故ニ誠實且公平ニ鑑定ヲ爲サ、ル嫌疑アル者ハ鑑定人タルヲ許サス唯々必要ナル場合ニハ之ヲ事實參考人トシテ其意見ヲ陳述セシムルノミ
鑑定ニ付テ其處分ヲ爲スニ於テハ實物ノ原狀ヲ變更スルコトアリ例ハ肢体ヲ解剖スルカ如キハ之ヲ了レハ決シテ原狀ニ復スル能ハス又毒物ヲ分拆スルトキモ亦然リ故ニ誠實ノコトヲ申立テサル可シトノ嫌疑アル者ニ斯ル處分ヲ爲サシムルハ甚々危険ニシテ後ニ他ノ鑑定人ヲ任命スルモ其効ナキニ至ル故ニ原狀ヲ變スル所爲ニ付テハ此ノ如キ者ニハ鑑定ヲ爲サシメス唯々原狀ヲ變セサル所爲ニ付テノミ參考ノ爲メ鑑定ヲ命スルヲ得ルナリ
鑑定ハ鑑定人トシテ任命セラレタル者カ實行スルモノニシテ他ノ訊問臨檢等ニ至テハ判事自ラ之ヲ爲スモ鑑定ニ付テハ實々其如何ナル点ニ於テ鑑定ヲ爲

ス可キヤヲ指定スルニ止マルモノトス
 判事鑑定ノ處分ニ立會フトキハ其心證ヲ得ルニ大ニ便利ヲ得ルコトアリ即チ
 其鑑定人ノ上ニ信用ヲ置クノ厚薄ニ付テ利益アリ鑑定人ノ報告書ヲ見ルヨリ
 實際其處分ニ立會フニ於テハ尙ホ一層確實ナル場合アリ故ニ舊法ニハ可成的
 立會ヒトアリ新法ハ之ヲ廢スルニ非スニ一判事ノ見込ニ任シタルナリ判事ノ
 見込ニ依レハ僅少ノ時間ニ立會フテモ其實際ヲ知ル能ハサル場合アリ例ハ癲
 癲ナルヤ否ヤヲ鑑定スルハ其鑑定人自身ト雖モ容易ニ其真否ヲ知り得可キモ
 ノニ非サレハ豫審判事ハ立會フノ暇ナシトスルヲ得ルナリ故ニ之ハ判事ノ見
 込ニ任スルナリ

檢事又ハ**被告**人ハ鑑定ノ處分ニ立會フトコトヲ得ルヤ此点ニ付テ法律ニ明文ナ
 シ凡ソ豫審處分ハ之ヲ密行スルヲ以テ本則トス而シテ訴訟當事者ニ向テモ亦
 タ然リトス然ラハ檢事又ハ被告人ト雖モ之ニ立會フトコト能ハサルカ法律ニ特
 別ナル明文ナキモ別段妨碍ナキ以上ハ双方共ニ立會ハシメテ可ナリト解ス可
 シ彼證人訊問ノ場合ニハ檢事又ハ被告人ヲ立會ハシムルコト能ハス此レ其證

據トナル可キモノ生者ナル證人ヨリ出ルルナレハ若シ此等ノ者ヲ立會ハシム
 ルトキハ幾分カ其證人ノ供述ニ影響ヲ及ホス可ク從テ其證據力ニモ影響ヲ及
 ホス可ケレハナリ此故ニ證人訊問ハ之ヲ密行スト雖トモ元來鑑定ヲ受ク可キ
 事柄ハ他人之ニ立會フモ爲メニ其物ノ形狀ヲ變スルコトナク又鑑定人モ之カ
 爲メ十分其處分ヲ盡ス能ハスト云フ理由ナシ何ツヤ管々學術上技藝上ヨリ之
 ヲ研究スルモノナレハナリ故ニ明文ナキモ檢事ハ勿論被告人モ妨ケナキ以上
 ハ立會フテ可ナリトス

豫審判事既ニ鑑定人ヲ命シタリ然ルニ鑑定人一人ノミニテハ實際鑑定ヲ爲ス
 コト難ク又ハ多クノ日數ヲ要シ爲メニ鑑定ヲ受ク可キ物件カ其性質ヲ變スル
 如キ恐アルトキハ鑑定人ノ請求又ハ自己ノ職權ヲ以テ更ニ鑑定人ノ數ヲ増加
 スルヲ得又其鑑定人ハ鑑定ヲ爲ス能ハサル事故生スルカ又ハ疑ハシキトキハ
 別人ニ鑑定セシムルヲ得故ニ豫審判事ハ鑑定ノ摸樣等ニハ常ニ注意ヲ施コシ
 鑑定人ノ増減等ニ付テハ臨機ノ處置ヲ爲サハル可ラス
 法律ニハ鑑定人カ其處分ヲ了リタルトキハ如何ナル手續ヲ爲ス可キヤヲ規定



セリ鑑定人ニ手續書ヲ作り其結果ノ如何ヲ記載シ尙ホ如何ナル手續ヲ盡シタルヤ又幾何ノ時間ヲ要シタルヤヲ記載スルヲ要スルモノトス是レ其鑑定ノ當否ヲ知ルニ甚タ有益ナルコトアリ例ハ肢体ノ解剖ニ付テ數日ヲ費シタルトキハ既ニ身体敗腐セルヲ以テ後ノ處分ハ信スルニ足ラストスルヲ得又日常旅費等ヲ拂フニモ時間ノ差引ニ依リ之ヲ知ルコトアリ又法律ニハ鑑定人カ鑑定ヲ爲シテ其結果ヲ得ル場合ニハ唯タ其推測ヲ記載セシムトアリ結果ヲ得サルトハ如何例ハ毒殺ノ場合ニ其果シテ毒害ニ出ツルヤ否ヤ不確實ナルニ因テ死体ヲ解剖シテ毒物ヲ發見シタルトキハ即チ結果ヲ得タルナリ反之解剖中身体腐敗シテ毒物ノ有無判明タラサルトキハ唯タ其推測ノミヲ記載セシムルナリ鑑定人ノ任命ハ豫審判事ノ全權ニアルヲ以テ一人ニテモ二人ニテモ自由ニ其増減ヲ爲スヲ得鑑定人二人以上アルトキハ如何法律ノ規定ニ依レハ意見同一ナルトキハ連名ニテ一ノ鑑定書ヲ作レハ足ル反之意見各相異ナルトキハ別々ニ鑑定書ヲ作ルカ又ハ一書中ニ其異ナル所ヲ記述スルヲ許ス畢竟之ハ判事ノ裁判ノ材料トナル可キモノナレハ意見ノ同不同ニ拘ハラズ小數ノ意見ト雖モ

判事ヲシテ取捨セシムル爲メニ之ヲ報告セサル可カラズ

以上ヲ以テ証據ノ取方及ヒ其ノ性質ヲ説キタルモ此レヨリ各証據ヲ蒐集スルニ勢ヒ囑托ヲ爲サハルヘカラサル場合ニハ如何ス可キヤ其囑托ノ方法ニ付テ説明セントス

証據蒐集ニ付テノ囑托

凡ソ証據ハ豫審判事自ラ之ヲ蒐集スルヲ以テ本則トスレトモ時トシテ同一ノ豫審判事許多ノ証據ヲ悉一自ラ收取スル能ハサル場合アリ今証據トスヘキ物件カ地方裁判所ノ管轄地外ニ在ルトキハ豫審判事ハ管轄地外ニ出ツルコト能ハサレハ出ツレハ通常人ト同様ナリ勢ヒ其地方ノ官吏ニ其蒐集ヲ囑託セサルヘカラス即チ數罪俱發ノ場合ニ一罪ハ他ノ管轄地ニ屬スルトキハ其犯罪ニ關シテ物件ノ差押臨檢等ヲ爲ストキ之ヲ其地ノ官吏ニ依託セサルヘカラス又証人ニ付テモ豫審判事ノ管轄地内ニ住スルトキハ例外ノ外ハ呼出スヲ得ルモ許多ノ日數費用ヲ要スル場合ニハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問スルヲ適當トス况ヤ其管轄地外ニ在ル場合ニ於テオヤ必ス其地ノ管轄官吏ニ囑託セサル可カラズ

證據蒐集ニ付テノ囑託

囑託ニ付テハ第七十條第百三十二條ニ各其規定アリ而シテ第百十
二條ニ依レハ管轄地内ニ於テモ時宜ニ因リ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得
トアリ蓋シ地方裁判所ノ管轄ハ廣シ故ニ豫審判事カ毎々臨檢シ捜査ヲ爲スト
セハ無益ノ時間ト費用トヲ要ス可シ然ルニ區裁判所判事カ豫審判事ニ代ハル
コトヲ得ルトセハ斯ル不都合ヲ見サルナリ

証人ニ付テモ同様ノ規定アリ即チ証人カ地方裁判所々在地ニ住居セサルトキ
ハ區裁判所判事ニ囑託シ又其管轄地外ニ住居スルトキハ豫審判事ハ其地ノ豫
審判事又ハ區裁判所判事ニ囑託スルヲ得第百三十二條

如此豫審判事ハ管轄地外ニ出ツル能ハス必ス其地ノ豫審判事又ハ區裁判所判
事ニ囑託セサル可ラス管轄地内ニ於テモ被告人ニ非サレハ區裁判所判事ニ囑
託スルコトヲ得此ノ如ク判事ニ囑託ス可キモノト爲シタルハ畢竟囑託ハ同一
ノ權限ヲ有スル者ノ間ニ爲ス可キコトニシテ法律上當然權限アル者ニ非サレ
ハ他ノ官吏ヨリ囑託ヲ受ケタリトシテ働クコト能ハサレハナリ裁判所構成法ニ
法律上ノ補助ナルモノヲ規定シタリ是レ即チ囑託ニ外ナラス

囑託ヲ爲スニ付テハ法律上別ニ其方式ヲ定メス故ニ普通ノ公文ヲ以テ之ヲ爲
スヲ得可シ然レトモ囑託ス可キ處分ニ付テハ囑託書ニ明カナル區別ヲ定メサ
ル可ラス例ハ臨檢ノ場合ニ於テハ如何ナル場合ニ臨シテ如何ナル事物ヲ檢
ス可キヤ之ヲ明確ニセサル可ラス囑託ヲ受ケタル者ハ其示ス所ノ囑託ノ範圍
内ニ於テ働クヲ要ス然レトモ其囑託セラレタル處分ト直接ノ關係ヲ有スル事
情ニ付テハ其ニ進ンテ調査ヲ遂ケサル可ラス囑託ハ法律ニ背カサル以上ハ之
ヲ拒ムコト能ハス而シテ其効力ハ獨リ證據ノ蒐集ニ止マラス囑託ヲ爲シタル者
ノ權利ヲモ移サレタリト看做スニアリ即チ證人訊問ニ付テ見レハ其呼出ニ應
セサルトキハ罰金ヲ言渡シ又拘引スル等總テ原豫審判事ニ屬スル權ヲ行フヲ
得是レ第七十一條第七十二條第七十四條及ヒ第百三十三條ノ四ヶ條ニ明定ス
ル所ナリ

囑託ヲ受ケタル者ハ自身其處分ヲ爲サハル可ラス更ニ之ヲ他人ニ囑託スルヲ
得ス法律ノ確言ニ曰ク囑託ヲ受ケタル者ハ更ニ他ニ囑託スルヲ得スト他ナシ
之ヲ許セハ到底界限ナキニ至リ爲メニ必スヤ處分ヲ遲延スルノ結果ヲ惹起ス



ルヲ以テナリ故ニ受託者ハ必ス自ラ働カサル可ラス而シテ其處分ヲ完了シタルトキハ書類其他ノモノヲ囑託ヲ爲シタル判事ニ送致シ以テ自己ノ受託ニ關スル責任ヲ終ルモノトス

刑事ノ證據ト爲ル可キモノ即チ證人ナリ物件ナリカ外國ニ存在スル場合ハ如何ニス可キヤ此點ニ付テハ法律ニ明文ナシ無論豫審判事ハ外國ニ至ル能ハス然ラハ外國ノ相當官吏ニ囑託ヲ爲シ得ルヤ此レ其能ハサル所ナリ何トナレハ豫審判事ハ直チニ外國官吏ト往復スルノ權ナケレハナリ故ニ必要ナル場合ニ於テハ判事ヨリ司法大臣ニ上申シ司法大臣ヨリ外務大臣ヲ經テ外國ニ依頼スルノ手續ヲ履マサル可カラス尤モ歐洲各國ニ於テモ國際上ノ條約ヲ以テ互ニ證據蒐集ヲ許スモノアリ我國ニハ此ノ如キ條約ナキヲ以テ好意上其處分ヲ依頼スルノ外ナキナリ

以上ヲ以テ豫審判事カ豫審ニ於テ爲ス可キ處分及ヒ其制限ヲ説キタリ此ヨリ歩ヲ進メテ特別ノ性質ヲ有スル豫審ニ付テ論セン是レ即チ現行犯ニ於ケル豫審ノ處分ナリ

第八節 現行犯ノ豫審

現行犯ノ豫審

現行犯ハ現ニ犯罪カ目前ニ顯ハレ居ル場合ナリ故ニ之カ處分ハ急速ナルヲ要ス若シ其處分寸時ヲ遅延センカ犯人忽チ逃走ス可シ又現在ノ證據湮滅スルノ恐アリ更ニ眼ヲ公安上ニ轉スレハ現ニ犯罪アレハ世人一般之ヲ知ル之ヲ知レハ大ニ不安心ノ感ヲ懷ク故ニ速ニ處分ヲ爲シテ一般ノ靜謐ヲ維持セサル可ラス

右ノ理由ニ因リ現行犯ニハ特ニ急速ノ處分ヲ規定ス其特例トシテ見ル可キ場合三アリ左ノ如シ

第一 豫審判事ハ檢事ノ請求ヲ待タス豫審處分ニ着手スルヲ得

豫審判事ハ下調ノ處分ヲ擔當スル所ノ一ノ裁判官ナリ裁判官ハ訴訟ヲ爲ス者アリテ始メテ其事ニ干渉ス可キモノナリ自ラ立テ訴訟ナキ事件ヲ審理ス可キモノニ非ス換言スレハ他ヨリ動かサレテ始メテ働ク此レ其裁判官タル性質一點ノ疑ヲ容レサル所ナリ然ラハ豫審判事ハ豫審ニ着手スルニハ必ス檢事ノ起

現行犯ノ特例付



訴ヲ要ス然ルニ現行犯ノ場合ニ限り法律ハ檢事ノ請求ナシト雖モ自ラ豫審處分ヲ行フヲ得ルトセリ是レ即チ第一ノ特例トス
 然レトモ豫審判事カ檢事ノ請求ヲ待タズシテ豫審ニ着手スルヲ得ルハ固ヨリ變体ナレハ猥リニ此特例ヲ行フ可ラス片時モ猶豫ス可ラサル事件ナルヲ要ス而カモ其事件ハ重罪若クハ重キ輕罪ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナルヲ要ス即チ通常豫審處分ヲ施行ス可キ程ノ事件ナルトキニ限りテ此特例ノ處分ヲ爲スナリ

如此法律ハ特例トシテ豫審判事ニ自ラ立テ處分スルヲ許シタレモ實際此特例ヲ用ユ可キ場合ハ尠シトス何トナレハ豫審判事ハ檢事ト同一ノ裁判所即チ同一ノ地方裁判所ニ在ル者ナレハ檢事カ現行犯ヲ知ラサル前ニ豫審判事カ之ヲ知ルカ如キハ稀有ノ場合ナル可シ而シテ判事ト同時ニ犯罪ヲ知ルルハ此時ハ檢事カ正式ヲ履ンテ豫審ヲ求ムルヲ要ス唯タ豫審判事カ裁判所ヲ離レテ居ル場合ニ此特例ヲ行フ可キト生ス例セハ豫審判事或ル犯罪事件ニ付テ犯所ニ臨檢シ其地ニ於テ現行犯ヲ目撃シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ檢事ハ固ヨリ其所ニ立會ハサル故ニ豫審判事ハ先ツ之ヲ知ル隨テ直ニ其處分ニ從事スルヲ得ルモノトス

又豫審判事カ職務外(即チ休暇ニテ自宅ニ居ルトキノ如シ)ニ於テモ現行犯アルヲ知レハ其職務上袖手傍觀ス可キニ非ス即チ自身ノ職務ニ復シテ直ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルナリ佛蘭西ニ於テハ豫審判事ニ限ラス檢事司法警察官モ亦何時ニテモ其職務ニ復スルコトヲ得ルモノトス而シテ其職務ニ復スルニハ一ノ徽章アル制服ヲ服スルヲ例トス我法律ニハ別段法律ノ明文ナシト雖モ之ヲ以テ其職務ニ復スルコトヲ得サルモノト爲ス可カラス

豫審判事カ豫審ニ着手スルニ付テハ其着手前其旨ヲ檢事ニ通知ス可キモノトス是レ法律ノ明定スル所ナリ(第四百四十二條)他ナシ法律ハ可及的變例ヲ止メテ正則ノ手續ニ依リ檢事ノ請求ヲ望ムカ故ナリ豫審判事己ニ通知ヲ爲ス上ハ直ニ證據蒐集ニ着手スルヲ得第四百四十三條ニ依レハ豫審判事ハ此場合ニ檢證圖書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノトス即チ判事カ犯罪ノ場所ニ臨檢シ場所ノ模様ニ由リ檢證圖書ヲ作ルトキハ檢事カ起訴セサルモ公訴アリタルモノ

ト看做スナリ法律ハ單ニ檢證調書ヲ作リタルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノト
 スト言フニ止マリ別ニ他ノ處分ニ付テハ之ト同一ノ規定ナシ然ラハ豫審判事
 カ他ノ處分ヲ爲シタルハ未タ訴ヲ受ケサルモノト看做サ、ル可ラス然ラハ
 豫審判事ハ如何ニ豫審處分ヲ爲スモ公訴起ラサレハ其處分皆無効ニ歸スルノ
 虞アリ幸ニシテ檢事カ後ニ起訴スレハ其處分有効トナル可キモ檢事若シ其意
 見ヲ異ニシテ遂ニ訴ヲ起サ、ルトキハ判事ノ處分ハ皆無益トナル可シ無益ノ
 事ハ豫審判事之ヲ爲ス可キニ非ス又法律モ本則ニ反シテ無益ナルコトヲ爲サ
 シムル謂レナシ然ラハ檢證調書ヲ作レハ公訴カ起ルト云フ規定ハ畢竟豫審判
 事カ後ニ其處分ヲ有効ト爲ス可キモノハ檢證調書ヲ要スル事件ニ限ルト云フ
 ヲ推定シ得可シ今茲ニ殺人放火等ノ犯罪アレハ其犯罪ノ現場ニ臨ンテ檢證調
 書ヲ作ルヲ要ス即チ此等ノ場合ニノミ豫審判事ハ特例トシテ其處分ヲ爲ス可
 シ初メヨリ其處分カ無益トナルコトノ明ナル場合ニ於テハ何等ノ處分ヲモ爲
 サ、ルヲ相當ナリトス換言スレハ現行犯ナルモノ向犯罪ノ現場ニ何等ノ證據
 ヲモ留存セズ隨テ檢證ヲ要セサルモノニ付テハ豫審判事ハ當然之カ豫審處分
 ヲ爲ス可ラサルヲ知ル可シ

豫審判事カ檢證處分ヲ爲シタル上ハ關係書類ヲ檢事ニ送致シテ檢事カ其事件
 ニ干渉スルヲ促カス可シ併シ檢證調書ヲ作リタル場合ハ公訴已ニ起リタルヲ
 以テ檢事カ反對ノ意見ヲ有シテ罪トナラストスルモ通常ノ規則ニ從ヒ豫審終
 結マテ處分ヲ盡サ、ル可ラス

第二 檢事ニ於テ豫審處分ヲ行フコトヲ得

檢事ハ其性質原告ト爲リ公訴ヲ起ス可キ者ナリ故ニ檢事ハ裁判官ノ如ク豫審
 處分ヲ爲ス權ハ固ヨリ其ノ有セサル所トス然ルニ現行犯ノ場合ハ檢事其事ヲ
 知リタル上ハ一應豫審判事ニ通知シタル上ニテ犯所ニ臨檢シ豫審ヲ行フヲ得
 ルナリ其ノ故ハ究竟現行犯ハ急速ノ處分ヲ要スルモノナルニ通則ニ從ヒ檢事
 公訴ヲ提起シ豫審判事豫審處分ヲ爲ストモハ時機ヲ失シ犯人ヲ逃走シ證據ヲ
 湮滅スルノ恐アリ故ニ法律ハ特ニ檢事カ公力ヲ用非テ證據ヲ蒐集スルヲ許セ
 リ

第一百四十四條ノ法文ニ依レハ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコト



ヲ得ルトアリ故ニ犯所ニ臨檢シタル上初メテ其處分ヲ爲ス可キモノニシテ前ニ述ヘタル所ト同レク臨檢ヲ要セサル事件ニ付テハ爲ス能ハサル可キカノ疑アリ成程檢事カ爲ス可キ處分ハ多クハ臨檢ヲ要スル事件ニ關スルモノナル可シ併シ乍ラ其以外ノ事件ニ付テモ其要急ノ處分ヲ爲サ、ル可ラサルコトアリ即チ單ニ犯罪ノ嫌疑ヲ受ケタル被告人ト雖モ速ニ逮捕ヲ命セサル可ラサル場合アリ殊ニ檢事カ豫審處分ヲ行フモ直ニ公訴カ起ルニ非ス唯々捜査カ一步進シテ豫審處分ト捜査トノ間ニ一種特別ノ處分ヲ爲スモノナレハ檢事カ爲ス處分ハ臨檢シタル上ニ非サレハ行フ能ハスト云フ可キニ非ラス乃チ如何ナル事ニ付テモ其處分ヲ爲スヲ得ルモノト解釋スルカ正當ナル可シ

ホアツナード氏ノ治罪法原案ニ依ルモ犯所ニ臨檢シ其他此章ニ定メタル豫審處分云々トアリ即チ犯所ニ臨檢スルトハ最モ重モナル例ヲ示セシニ過キス然ルニ治罪法ニハ犯所ニ臨檢シ云々トアリ刑事訴訟法モ亦然リ併シ乍ラ草案ニ廻ホレハ其他ノ事ヲモ爲スヲ得故ニ其精神ニ從フ可キモノトス

右ノ疑問タル檢事ニ付テハ左程決定ノ必要ヲ見サレトモ後ニ説クヘキ司法警

察官ニ付テハ全ク余カ取ル所ノ如ク解釋セサル可ラサル理由アリ故ニ豫シメ茲ニ一言ヲ附シ置クナリ

檢事ハ豫審處分ヲ爲スヲ得ルトセハ此場合ニハ豫審判事ノ有スル權力ハ已レ亦之ヲ使用スルヲ得可キナリ然ルニ法律ハ之カ制限ヲ加ヘ證人ヲ訊問シ鑑定ヲ爲サシムルコトニ付テハ檢事ハ唯々其供述ヲ聽クニ止マリ此等ノ者ニ宣誓ヲ爲サシム能ハスト規定セリ此レ蓋シ宣誓ノ性質上然ラサルヲ得サルナリ即チ宣誓ハ裁判所ニ向テ虚偽ノ陳述ヲ爲サ、ルコトヲ約束スル所ノ方式ナリ故ニ檢事ニ向テ之ヲ爲ス可キニ非ス何トナレハ檢事ハ裁判所ニ附屬スル者ニシテ裁判官吏其者ニ非サレハナリ此ヲ以テ檢事ノ訊問ニ依テ獲タル供述鑑定ハ宣誓ニ由ラサルモノナレハ事實參考タルノ力アルノミトス

又證人鑑定人カ呼出ニ應シテ出頭セサルトキハ豫審判事ハ其不參ニ由テ生シタル費用ノ賠償并ニ罰金ノ言渡ヲ爲スノ制裁ヲ有スレトモ檢事ハ之ヲ行フ能ハス何トナレハ費用賠償ヲ言渡スコトハ極メテ輕微ノ事ナリトスルモ罰金ニ至テハ一ノ刑罰ナリ刑罰ハ裁判官獨リ之ヲ行フヲ得而シテ檢事ハ即チ裁判官



ニ非サルナリ故ニ證據集取ノ處分ハ檢事之ヲ爲スヲ得ルモ刑罰ハ之ヲ科スルヲ得サルナリ

前既ニ説キタル如ク通常豫審處分ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ限ル而シテ重罪ニ付テハ必ス之ヲ行ヒ輕罪ニ付テハ其輕重難易ニ從フテ之ヲ爲スト否トアリ今裁判所構成法ノ規定ニ依レハ地方裁判所ニ豫審判事ヲ置キ區裁判所ニ之ヲ置カス然ラハ則チ本段ニ所謂ル檢事カ豫審處分ヲ行フモ亦地方裁判所ノ檢事ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ事件ニ限ルカ

法律ハ特例ヲ置キ第一區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テモ即チ二ヶ月以下ノ禁錮ニ該當スル事件ニ付テモ區裁判所ノ檢事カ豫審處分ヲ爲スヲ許セリ此レ頗ル不當ナルカ如キモ其然實ラス元來現行犯ハ急速ナル處分ヲ要スルモノナリ故ニ其間ニ輕重ヲ置クノ暇ナシ例ヘハ同シク竊盜ナルモ刑法ニ依リ二月以上ノ重禁錮ニ該ルモノト明治二十三年法律第九十九號ニ依リ家屋外ノ竊盜ニシテ贓額五圓以下ナレハ二月以下ノ重禁錮ニ處セラル、ニ過キササルモノアリ即チ贓金多キ故ニ依リ急速ノ處分ヲ要シ算キテ以テ之ヲ要セサルノ理ナシ

故ニ特例トシテ之ヲ行ハシムル必要アリ若シ區裁判所檢事ハ豫審ヲ行フ能ハストセハ已ムヲ得ス直チニ公判ヲ求メサル可ラス其迄ノ間ニ證據湮滅スルトキハ如何トモス可ラス依テ區裁判所管轄事件ニ付テモ其檢事カ豫審處分ヲ行フヲ得ルト規定セリ

第二地方裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ナレハ地方裁判所ノ檢事カ豫審處分ヲ爲ス可キモノニシテ他ノ檢事カ之ニ干渉ス可キニ非サルハ當然ナリ然ルニ區裁判所檢事カ猶ホ之ニ付テ豫審處分ヲ爲スヲ得ルト規定セリ是レ即チ區裁判所檢事カ已レヨリ上級ニ位スル地方裁判所檢事ノ職務ヲ行フモノニシテ通常ハ之ヲ許ス可ラス唯々特例トシテ上官ノ職務ヲ下ノ者カ行フヲ得ルトセリ此レ亦實際上ノ必要ヨリ斯ク規定セタルモノナリ現行犯カ地方裁判所々在地ニ發覺スレハ該裁判所ノ檢事ニ於テ速ニ處分スルノ便アリ然レトモ其管轄地ノ區域甚タ廣キカ故ニ地方裁判所ノ檢事ノミニテハ常ニ緊急ノ處分ヲ爲ス能ハス數十里ヲモ隔ツル場處ニ現行犯アルトキハ檢事カ出張スル迄ニハ犯人カ逃走スルカ又ハ證據ノ湮滅ヲ來タスヤ必セリ然ラハ斯ル場合ニアリテハ其近傍ニ

居ル者ニ豫審處分ヲ爲スノ權ヲ與ヘルハ頗ル必要ナリト謂フ可シ即チ區裁判所ハ犯所ヲ距ルコト最モ近シ此ニ於テカ法律ハ區裁判所檢事ニモ重罪事件又ハ重キ輕罪事件ニ付キ豫審處分ヲ爲スヲ許セリ

檢事ニシテ豫審處分ヲ爲スヲ得ルハ急速ヲ要スル事件ニ付テ然ルノミ即チ總テ豫審判事ノ職權ヲ有スル者ニ非サルナリ故ニ急速ヲ要スル部分丈ケニ付テ處分ヲ結了セハ速ニ其本職ニ復ス可キモノナレハ地方裁判所檢事ナレハ直ニ豫審判事ニ總テノ書類ニ意見ヲ添ヘテ之ヲ送付セヨト規定セリ而シテ其送付スルヤ同時ニ公訴提起セラレタルモノトス又區裁判所檢事ナレハ地方裁判所檢事ニ之ヲ送致シ此ヨリ豫審處分ヲ請求ス又區裁判所管轄ニ屬スル事件ニ付テ處分スルトキハ區裁判所檢事ハ直ニ公訴ヲ起ス可シ此場合ニ被告人ヲ拘留スルトキハ三日内ニ起訴ノ手續ヲ盡サ、ル可ラス此レ實ニ至當ニシテ區裁判所管轄ニ屬ス可キモノハ本刑二个月以下ノ禁錮ヲ科ス可キ事件ナリ此ノ如キ事件ニ付キ長ク未決拘留ヲ爲スハ當ヲ得ス故ニ現行犯ノ豫審ニシテ被告人ヲ拘留シタルハ三日内ニ公訴ヲ爲シ以テ速ニ本裁判ヲ爲サシム即チ被告人ノ

自由ヲ長ク束縛セキル精神ナリ

第三 司法警察官モ亦假ニ豫審處分ヲ爲スヲ得

司法警察官ハ檢事ノ補助官ニシテ犯罪ノ搜查ニ從事スルヲ以テ其本分トス然ルニ現行犯ノ場合ニ於テハ特例トシテ豫審處分ヲ爲スヲ許シタルハ前ニ説キタルト同一ノ理由ニ出ツルモノニシテ司法警察官ハ豫審判事檢事ト異ナリ各所ニ散在セル者ナレハ最モ早ク事實ヲ知ル可シ故ニ之ニ豫審處分ヲ爲スヲ許セハ大ニ便利ヲ得ル故ニ法律ハ假ニ其處分ヲ爲スヲ許セリ而シテ其職權ノ及フ所ハ法律ノ規定ニ依レハ殆ト檢事ト同一ニシテ檢事ニ許シタルコト司法警察官モ亦假リニ行フヲ得ルトアル故ニ証據蒐集ニ付テハ判事檢事ト異ナラサルモ唯例外トシテ拘留狀ヲ發スルヲ得スト附記セリ檢事ニ付テハ証人鑑定人ニ宣誓ヲ爲サシムルヲ許サス又罰金言渡ノ權利ナキノミナレハ其他ノ權利アリ然ルニ司法警察官ハ拘留狀ヲ發スルヲ得スト云フ故ニ法律ハ司法警察官ニ對シテ拘留狀丈ケ許サ、ルナリ治罪法ノ下ニアリテハ司法警察官ハ總テ令狀ヲ發スルヲ得ス其故ハ現行犯ノ場合ニハ通常人スラ猶ホ能ク被告人ヲ逮捕ス

ルヲ得況ンヤ司法警察官ハ現行犯ナレハ決シテ之ヲ看過スヘキニ非ス故ニ法律ハ之ニ其逮捕ヲ命ス然ラハ現在目前ニ現行犯アリ被告人アリトスレハ司法警察官ハ速ニ之ヲ逮捕ス可シ逮捕スレハ檢事ニ通知シ檢事ヨリ令狀ヲ發スレハ差支ナシ他ノ証據ヲ蒐集スルコトニ付テハ別ニ制限ヲ置ク可ラス檢事カ爲ス可キ丈ケノコトハ總テ之ヲ爲サ、ル可ラス即チ檢証調書ヲ作り物件ヲ差押フルヲ得ルモ人ヲ拘留スルコトヲハ許サスト云フ特例ヲ設ケタリ然ルニ如斯規定ナルトキハ實際上甚タ不便ヲ感ス司法警察官ノ目前ニ犯罪人アレハ司法警察官自ラ之ヲ逮捕スルヲ得可キモ現行犯中現行犯ニ准スルモノアリ又或ハ純粹ノ現行犯ナルモ犯人逃走セリト云フトキハ令狀ヲ以テ逮捕スルノ外ナシ決シテ隨意ニ跡ヲ追フテ之ヲ逮捕スルヲ得ス故ニ是非トモ令狀ヲ要ス然ルトキハ實際上便利ヲ欠クナリ乃チ明治十四年第四十六號ノ布告ニ於テ右治罪法ノ制限ヲ解キタリ曰ク司法警察官ハ云々當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ苦シカラスト該布告ニ依リ司法警察官ハ檢事ト異ナルコトナク令狀ヲ發スルヲ得タリ即チ既ニ逮捕シタル犯人ニ更ラニ令狀ヲ發ス

ルヲ得又慣習トシテ收監狀マテモ發スルヲ得ルトシテ治罪法ノ規定ハ司法警察官ノ爲メ酷ナル規則ニシテ其目的ヲ達スル能ハサリシ併シ右第四十六號ノ布告ハ一般司法警察官ニ對シテ實ニ寛大ニシテ實際ニ於テハ甚タ便利ナル可キモ被告人ノ上ニハ大ニ影響ヲ及ホシ共ニ極端ニ走ルノ虞ヲ免レス故ニ公益ト私益トノ間ヲ取り規定セサル可ラストシテ刑事訴訟法ニハ舊法ノ如ク一般令狀ヲ發スルコトヲ禁セス又第四十六號ノ布告ノ如ク一般ニ之ヲ發スルコトヲ許サ、ルナリ乃チ新法ニ從ヘハ司法警察官ハ既ニ犯所ヲ去リタル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルヲ得此効力ハ四十八時間繼續スル故ニ其間ニ司法警察官ハ被告ヲ取調フルヲ得可ク又實際上ヨリ見ルモ四十八時間留メ置クヲ得ルトセハ左程不便ニモ非サル可シ

前ニ檢事ノ權力ヲ説クニ當リテ犯所ニ臨檢シ云々ト云フコトニ付テ一言セシカ法律ニ於テハ檢事ノ有スル職務ノ外ハ司法警察官ノ有セス而シテ檢事ノ職務ハ犯所ニ臨檢シタル上ニ非サレハ處分ヲ爲ス能ハストセハ司法警察官モ亦然リト謂ハサル可ラス然ラハ司法警察官ハ大ニ困難ヲ感ス可シ夫レ司法警

察官ハ自身犯所ニ臨檢スルニ非サレハ豫審處分ヲ行フコト能ハストセンカ實際司法警察官タル者カ現行犯ヲ自身目撃スルハ稀ニシテ多クハ其配下ニ屬スル巡查憲兵卒ノ如キ公力者ノ報知ヲ待テ之ヲ知ルヲ例トス然ルトキハ公力者ハ被告人ヲ逮捕シ之ヲ送致スルトキニ非サレハ司法警察官ハ其被告人ヲ訊問スル能ハサルニ至ル可シ又右ノ如ク解スルトキハ現行犯アルコトノ報告ヲ得タル場合ニ於テ嫌疑者ヲ速ニ逮捕セントスルモ令狀ヲ發スル能ハサルカ故ニ之ヲ發スル爲メ殊更ニ犯所ニ臨檢セサル可ラスト云フニ至ル豈ニ此ノ如キ理アラシヤ犯所ニ臨檢セサルモ現行犯ニシテ急速ノ處分ヲ要スルトスル上ハ宜ク法律ノ精神ニ基キ速ニ其處分ヲ爲ス可キナリ此ヲ以テ司法警察官ハ檢事ニ付テ説キタル如ク臨檢セサルモ假ニ豫審處分ヲ行フノ權アリト解釋スルヲ至當ナリトス

司法警察官ニ於テ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上ハ速ニ其集取シタル證據徴憑ヲ上官タル檢事ニ送付ス可シ又被告人ヲ逮捕セハ同時ニ之ヲ送付スヘシ而シテ法律ハ此司法警察官ノ處分ヲ以テ假處分トナシ假ニ之ヲ行フヲ得ルト規

定セリ何故ニ此ヲ假處分ト稱スルヤ

元來豫審處分ハ豫審判事ニ屬スルモノナリ唯タ事件ノ急速ヲ要スルト云フヨリ檢事ニ之ヲ行フヲ許ス然ルニ尙ホ之ヲ司法警察官ニ許スモノハ此種ノ官吏タル檢事ヲ補助スル者ナルニ因ル然ラハ檢事ヲ中間ニ置キ其下ニ立テ處分ヲ爲スカ故ニ恰モ複代理人ノ有様トナル仍テ假處分ノ名アリトス併シ其名異ナルモ其處分ノ實効ニ至テ檢事カ爲シタル場合ト別ニ異ナルコトナシ即チ其事件ニ付テ後ニ公訴起ルトキハ其集取シタル事物ハ矢張り眞ノ證據タルノ力アリ唯タ證人鑑定人ノ供述ニ付テハ事實參考ノ力ヲ有スルニ過キサルモ此レ亦檢事ノ場合ト異ナルナシ然ラハ假處分トコトヲ言ヘ其實眞ノ處分ナリト云フ可

區裁判所檢事或ハ司法警察官ニ於テ處分ヲ爲シタルトキハ其檢事又ハ司法警察官ヨリ地方裁判所檢事ニ事件ヲ送致セサル可ラス此送致ヲ受ケタルトキハ地方裁判所檢事ハ其書類ニ豫審請求書ヲ添ヘテ豫審判事ニ送致シ以テ公訴ヲ提起スルモノトス若シ被告人ト事件ト同時ニ受取りタルトキハ更ニ其被告人

ヲ訊問ス可シ然レトモ法律ハ其訊問ニ付キ二十四時間ヲ超過スルコトヲ許サ
 ス然リ而シテ其被告人ノ勾留ヲ要スルトキハ勾留狀ヲ發シ否ラサレハ被告人
 ヲ其儘自由ニ置キ豫審判事ニ豫審ヲ請求スル手續ヲ爲サ、ル可ラス
 ヲ其儘自由ニ置キ豫審判事ニ豫審ヲ請求スル手續ヲ爲サ、ル可ラス
 檢事自ラ處分ニ着手シタルト區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ送致ヲ受ケ
 ルトヲ問ハス其事件ノ輕罪ニシテ犯情煩雜ナルモノニ非サルトキハ直ニ地方
 裁判所公判ニ附スルヲ得此場合ニ於テモ勾留ヲ要セハ勾留狀ヲ發シテ公判ニ
 附シテ可ナリ其事件無罪ナルカ又ハ公訴停止ノ原因存スルトキハ被告人ヲ放
 免シ起訴ノ手續ヲ爲ス可ラス此レ地方裁判所檢事ノ處分ニ付テノ結局ナリ
 又區裁判所檢事カ區裁判所管轄ニ屬スル事件ニ付キ司法警察官ヨリ其事件ヲ
 送致セラレタルトキハ如何ナル手續ヲ爲ス可キヤ法律ニハ別ニ規定ノ存スル
 ナシト雖トモ此場合ニ區裁判所檢事ハ公訴ス可シト思惟スレハ直チニ公訴ヲ
 起シ起訴ス可ラスト思惟スレハ何等ノ手續ヲモ爲ス可カラス元來區裁判所管
 轄ノ事件ニ付テハ法律ハ豫審ニ付スルヲ許サ、ルヲ以テ起訴スルト否トニ付
 キ二者其一ヲ擇ハサル可カラス

此迄述ヘタル如ク現行犯ニ付テハ豫審判事檢事司法警察官ノ職權ヲ何レモ通
 常ノ範圍ヨリ擴張スルヲ許シタリ併シ乍ラ其現行犯ノ處分ナルモノハ固ト己
 ムヲ得サル必要ヨリ起リタルモノナレハ可成の速ニ通常ノ手續ニ復歸セサル
 可カラス故ニ一旦特例ニ從フテ處分スルモ情狀變スレハ速ニ本則ニ從フ可シ
 例ヘハ檢事現行犯ノ處分ニ着手シタリ然ルニ之ヲ爲スハ豫審判事ニ通知シタ
 ル上ナレハ豫審判事其通知ヲ得テ直チニ犯所ニ臨ミタリトセンニ此場合ニ於
 テハ檢事ハ直ニ其處分ヲ止メ起訴請求ノ任ニ當ラサル可ラス司法警察官カ假
 處分ヲ爲ストキニ檢事カ出張スルトキハ司法警察官ハ檢事ニ代リテ假處分ヲ
 爲ス性質ノモノナレハ直ニ其處分ヲ檢事ニ讓ラサル可ラス即チ可成の本則ニ
 復歸スルヲ要ス

豫審終結

第九節 豫審終結

事件ノ現行犯ナルト否トヲ問ハス豫審判事ニ於テ既ニ十分ニ處分ヲ爲シ十分
 ニ證據ヲ蒐集セハ即チ豫審ノ目的ヲ達シタルモノナレハ結局ヲ附ケサル可ラ

ス而カモ其豫審ヲ終結スルハ下調ノ裁判ヲ爲スニ過キサルカ故ニ訴訟關係人ヲシテ辯論セシムルノ要ナシ故ニ檢事ニモ之ヲ爲サシメス然レトモ兎ニ角下調ノ終局ヲ附ケルモノナレハ公益ノ代表者タル檢事ノ意見ヲ聽クヲ要ス乃チ檢事ニ於テハ無論公益ノ代表者トシテ公平ナル意見ヲ陳述シ被告人ニ利益ナルコトアレハ之ヲ主張シ決シテ公訴ヲ成立セシムルコトノモ主張ス可ラス檢事ノ意見ヲ聽クニモ豫審ハ公開スルモノニ非サレハ豫審判事ハ書面ヲ以テ其意見ヲ聽カサル可ラス而シテ訴訟記録ナルモノヲ檢事ニ送付シ檢事ハ三日内ニ意見ヲ付シテ之ヲ送致セサル可ラス然ルニ檢事ハ豫審カ不十分ナルヲ知ルトキハ之ヲ公判ニ付ス可ラサル故ニ此時ハ更ニ不十分ナリト云フ點ニ付テ豫審補足ノ請求ヲ爲スヲ得併シ乍ラ豫審判事カ既ニ十分調ヘタリトノ意見アルトキハ強ヒテ檢事ノ意見ニ應セサルモ可ナリ即チ判事ハ檢事ノ意見ニ拘束セラル、者ニ非ス併シ兎ニ角檢事ハ不十分ナリトシテ處分ノ補足ヲ請求シタル者ニシテ未ダ終結ニ付テノ意見ナシ故ニ豫審判事ハ其意見ヲ檢事ニ通知ス而シテ豫審判事カ檢事ノ意見ニ從ハサルトキハ檢事ハ已ムヲ得ス意見ヲ付シ

テ二十四時内ニ返付セサル可ラス既ニ檢事ノ意見出ツレハ豫審ノ終結ヲ爲ス之ヲ爲スニハ決定ヲ以テシ判決ヲ以テスルニ非ス

訴訟法上裁判ナル語中ニハ判決決定及ヒ命令ノ三種アレトモ各自其意義ヲ異ニセリ判決ハ係争事件ニ付テ真ノ判斷ヲ與フルモノナリ故ニ本案ニ付テノ裁判ナレハ之ヲ判決ト云フ判決ト云ヘハ勿論原被告兩造ヲシテ争ハシメテ其上ニテ下スモノナリ憲法ノ明文ニ所謂判決ハ必ス公行ストハ即チ是レナリ決定ハ本案ノ争ノ上ニ付テ決斷ヲ爲スニ非ス即チ訴訟手續上ニ付テ一ノ落着ヲ付クル所ノモノナリ命令トハ主トシテ訴訟關係人ニ對シテ命令スルモノニシテ命令ノ如キ即チ然リ裁判ハ汎ク以上三箇ノ事項ヲ包含ス即チ裁判所カ與フル決斷ノ總稱ナリ故ニ判決ナレハ之ニ對シテ不服ヲ唱フルニハ控訴又ハ上告ニ依ラサル可ラス但欠席判決ハ故障ヲ許ス又決定及ヒ命令ニ對シテ不服ヲ申立ツルニハ抗告ヲ以テスルヲ得ルノミナリ

豫審終結ハ本案ノ上ニ付テ公訴カ成立スルヤ否ヤヲ全ク判決スルモノニアラス唯其事件ノ公判ニ付スルニ足ルノ證據アリヤ否ヤ或ハ公訴權カ存スルヤ否

場合ニハ其公訴ハ受ク可キモノニ非ストシテ之ヲ棄却シテ差支ナシ

此管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其言渡ニ依テ豫審判事ハ事件ノ關係ヲ免ル、ナリ故ニ言渡ヲ爲シタル上ハ其事件ニ付テ最早如何ナル關係ヲモ有セス唯ダ言渡ト同時ニ被告ノ身体ニ付テ拘束ヲ爲スヲ許ス即チ拘留スルヲ要ストセハ前ニ發シタル令狀ヲ其儘ニ存スルカ又ハ新ニ之ヲ發スルヲ得此レ實ニ非常ノ例外ト云フ可シ抑々豫審判事ニ於テ管轄違トセハ更ニ檢事ヨリ管轄裁判所ニ公訴ヲ起ス可ク隨テ被告人ヲ拘留シアルトキハ之ヲ放免ス可キヲ至當トス况ンヤ新ニ令狀ヲ發スルカ如キハ之ヲ許ス可ラス被告人ニハ必ス完全ノ自由ヲ得セシメサル可ラサルカ如シ然ルニ令狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ許シタル所以ハ畢竟實際上公安上ニ大ナル害ヲ生スル恐アル故ニ之ヲ除ク爲メニ此權ヲ與ヘタルナリ例ヘハ重罪事件ニシテ東京地方裁判所ノ豫審判事ヲ取調ヲ爲シタル末其事件ハ横濱地方裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノナルコトヲ發見シタルトキ其被告人ノ東京ニ於テハ放免セラル可キモノトシ之ヲ放免スレハ被告人多クハ必ス逃亡ス可シ大罪人ノ嫌疑アル者ヲ抑ハ置キ乍ラ之ヲ放チ又之ヲ捕フルノ煩アリ故ニ被告人ヲ逃亡セシムルハ公安ニ害アリトシテ尙ホ引續キテ拘留スルヲ許セリ

前ノ令狀ヲ其儘ニ存スルカ又ハ新ニ令狀ヲ發スルトキハ無論其事件ニ付テノ公訴ハ一旦空無ニ歸スルモ檢事ヨリ管轄裁判所檢事ニ該令狀ヲ以テ被告人ヲ送致ス可シ其後ノ事ニ付テハ別ニ規定ナシ管轄裁判所檢事カ事件ヲ受取りシトキハ如何ス可キヤ管轄ナリト見レハ無論公訴ヲ起ス可シ若シ其事件ハ公訴ス可キモノニ非スト云フ反對ノ意見ヲ有スルトキハ檢事ハ如何處分ス可キ乎被告人ハ身体ノ自由ヲ拘束セラレテアル故ニ之ヲ其儘ニ差置クコト能ハスシテ令狀ノ執行ヲ止メサル可カラズ檢事ハ令狀ヲ取消スコトヲ得サル故ニ唯其令狀ノ執行ヲ止ムルノミ然ルトキハ被告人ハ自然未決拘留ヲ免カル、ヲ得ヘシ

第二 免訴ノ言渡

第百六十五條ニ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キ場合ヲ規定セリ而シテ之ヲ爲スヘキ被告人カ既ニ拘留サレテ居レハ同時ニ放免ノ言渡ヲ爲サ、ル可ラス此免訴ヲ言

免訴ヲ言
渡ス可キ
場合

渡ス可キ場合ハ

一 犯罪ノ證據十分ナラサルトキ
此中ニハ二个ノ事柄ヲ包含ス即チ十分ノ豫審處分ヲ盡シタルモ被告人カ其事
件ニ關係セリト云フ證據出テサル場合及ヒ之ニ反シテ被告人カ其事件ニ關係
セサルノ證據出テタル場合例ヘハ犯罪ノ當時被告人ハ遠方ニ居リシト云フ證
據出テタルトキノ如キ是ナリ何レノ場合ニ於テモ犯罪ノ證據十分ナラストシ
テ免訴ス可シ

二 被告事件罪ト爲ラサルトキ

被告人其事件ニ關係シタルト否トノ證據アルトナキトニ拘ハラズ刑法其他刑
事ニ關スル法律ニ照スニ其事件タル決シテ罪トシ罰セサル行爲ナルトキ例ヘ
ハ民事上ノ詐欺ニ過キスト云フ場合ノ如キ亦免訴ノ言渡ヲ爲サ、ル可ラス

三 公訴カ時効ニ罹リタルトキ

四 確定判決ヲ經タルトキ

國多數大赦アリタルトキ

此三个ノ場合ハ公訴已ニ消滅シタルヲ以テ之ヲ成立セシムルニ由ナシ故ニ被
告人ヲシテ其訴訟ノ關係ヲ免カレシメサル可ラス

六 法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ

被告事件其者ハ通常人ニ在テハ犯罪タルノ性質ヲ具フモ特別ノ理由ヨリ之ヲ
免スル場合アリ刑法ノ中ニモ往々其規定アリ即チ親屬間ノ竊盜詐欺取財又ハ
罪人隠匿ノ如キ是ナリ斯ル場合ニハ其事件ヲ公判ニ付スルニ及ハス故ニ免訴
ノ言渡ヲ爲スナリ

要スルニ免訴ノ言渡ハ證據不十分ノ場合法律上刑ヲ全免シタル場合法律上罪
トセサル場合及ヒ公訴消滅ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

法律ハ免訴ス可キ場合ノ中ニ公訴消滅ノ原因タル時効大赦確定判決ノ三個ヲ
擧ケタルモ其他ノ事項ニ付テハ何等ノ明文ナシ然ラハ其他ノ事項ニ付テハ如
何ナル言渡ヲ爲ス可キ例ヘハ告訴ヲ要スル事件ニ付キ被害者告訴ヲ拋棄シ又
ハ犯罪ノ後頒布シタル法律ニ依テ其刑ヲ廢止セラレタルトキハ公訴ハ消滅ニ
歸ス可キヲ以テ豫審判事ハ其公訴權ノ存在ヲ認ムル能ハス因テ此場合ニ於テ



モ免訴ノ言渡ヲ爲サル、可ラス尤モ被告人ノ死去ニ因テ公訴權消滅スル場合ニハ別ニ言渡ヲ爲スニ及ハス被告人ナケレハ訴訟ナクナリタルナリ訴訟ハ原告被告アリテ成立スルニ一方、被告カ死スレハ訴訟ハ當然消滅シ言渡ヲ要セス又言渡ヲ爲セハ死者カ言渡ヲ受クルト云フ奇ナル結果ヲ生ス故ニ此場合ニハ唯々帳簿ノ上ニ就テ其事件ヲ塗抹スルニ止マルナリ

第三 公判ニ付スル言渡

此言渡ヲ分テ二ト爲ス一ハ區裁判所ニ移スノ言渡ニハ地方裁判所ニ移スノ言渡ナリ即チ被告事件カ違警罪ナルカ又ハ輕キ輕罪ナルトキハ區裁判所ニ移シ

其他ノ事件ハ地方裁判所ニ移スナリ
違警罪トシテ區裁判所ニ移ス場合ニハ未決拘留ヲ許サス故ニ被告人未決拘留中ニアルトキハ之ヲ解放セサル可ラス即チ區裁判所ニ移スト同事ニ釋放ノ言渡ヲ爲スナリ又輕罪トシテ移ス場合地方裁判所區裁判所ニモ其事件ハ罰金ニ該ルモノアリ其金額如何ニ高キモ法律ハ未決拘留ヲ許サス故ニ釋放ノ言渡ヲ爲サハル可ラス禁錮ニ該ル場合ハ法律上未決拘留ヲ爲スヲ許ス故ニ此時ハ豫

審判事カ至當ト做ス所ニ從テ處分ヲ爲スヲ許ス即チ被告人ハ拘留スルノ必要ナシトセハ或ハ保釋ヲ爲シ或ハ責付ヲ爲スコトヲ得又拘留ヲ要ストセハ前ノ令狀アレハ之ヲ存スルコトモ又新ニ令狀ヲ發スルコトモ其權内ニアリ尤モ令狀ヲ新ニ發スルトカ保釋責付ヲ爲ストカ公判ニ移スノ言渡ト同時ナラサル可ラス言渡後ニ於テハ豫審判事ハ事件ノ關係ヲ免ル故ニ何等ノ處分ヲモ爲スヲ得ス

輕罪ノ中禁錮ノ刑又ハ罰金ノ刑ニ處スルヲ許シタルモノアリ判事ノ見込ニ從ヒ刑法中ニ多カラサルモ同第二百四十六條以下ニ其適例アリ即チ何々ノ禁錮又ハ何々ノ罰金ニ處ストアル故ニ判事ノ見込ニ從フナリ此ノ如ク法律上禁錮又ハ罰金ニ該ルトセハ豫審判事ハ如何ナル處分ヲ爲ス可キカ豫審判事ハ犯人ノ情狀ヨリ見テ禁錮ニ處ス可キモノトスルモ公判判事カ罰金トスルカモ知レス又反對ノ事アルカモ知レス即チ其見ル所異ナレハ裁判モ亦異ナリ併シ豫審判事ハ公判判事カ如何ナル判決ヲ爲ス可キカヲ豫審スル能ハス故ニ此場合ニ豫審判事ハ己レノ見込ニ從テ處分ヲ爲サハル可ラス故ニ豫審判事カ禁錮ニ處

ス可キモノトセハ拘留ヲ要スレハ合狀ヲ發スルコトヲ得又罰金ニ該ルモノトセハ無論解放ヲ爲シテ不法ナル處分ニ非スト信ス

又被告事件ヲ重罪トシテ公判ニ付スル場合ニハ被告人カ既ニ保釋責付ヲ受ケテ居ルト云フナレハ之ヲ取消シテ再ヒ拘留セサル可ラス又被告人カ其時迄ニ拘留ヲ受ケサリシナレハ新ニ合狀ヲ發セサル可ラス其故ハ重罪ナルトキハ縱令ヒ情狀輕シト云フモ輕懲役輕禁獄ニ處ス可キモノト云フ嫌疑アル故ニ被告人ヲ自由ニ付スルハ甚タ公安上ニ危險アリトス故ニ法律ハ判事ノ自由ヲ制限シテ必ス拘留セシムルトセリ尤モ場合ニ由リ事件ハ重罪ナルモ法律上ノ宥恕減輕等ニ因テ其刑カ輕罪ニ下ル可キ場合ナシトセス殊ニ被告人ノ年齢カ十六歲未滿ナルカ又ハ殺傷ニ關スル特別ノ宥恕ニ係ル場合ナレハ實際上一年以下ノ禁錮ニ過キサルコトアリ併シ此ハ稀有ノ事實ナルカ故ニ法律ハ矢張り重シ(輕罪ヨリハ)トシテ必ス拘留ヲ爲ス可シト規定セリ

豫審終結ノ決定ハ判決ト異ナリテ法廷ニ於テ言渡サス別ニ決定書ヲ作り之ヲ訴訟關係人ニ送達ス而シテ其決定書ニ如何ナル事項ヲ記載ス可キヤ法律ハ之

豫審決定
書記事
ヘキ事
項ス

カ規定ヲ爲セリ

第一 被告人ノ誰ナルコトヲ明示セサル可ラス即チ被告人ノ氏名年齢職業其他本人ノ異ナルコトナキヲ證ス可キ事項ヲ明示スルヲ要ス初メ檢事カ判事ニ豫審ヲ求ムルトキハ被告人ノ誰レタルヤハ不明ナルトキト雖モ證據ヲ蒐集スル爲メニ豫審ヲ求ムルコトアルモ豫審終結ノ場合ニハ被告人ハ必ス定マラサル可ラス被告人ナクシテ終結スル能ハス終結ハ一ノ裁判ナレハ檢事ノミニ對シ之ヲ爲スノ理由ナシ是レ被告人ヲ指名スルコトヲ要スル所以ナリ然レトモ被告人ノ氏名年齢等ヲ知ラザル場合アリ此時ハ他ノ方法ヲ以テ被告人ヲ示サ

ル可ラス即チ其容貌體格等ヲ記載シテ之ヲ示スナリ此ノ如キ事ハ欠席ノ儘豫審終結ヲ爲ストキハ往々生スルモノトス即チ被告人ノ容貌體格ヲ知り十分其事實ノ證據ヲ得タルモ氏名ヲ知ラザルトキ之ヲ爲スナリ即チ行方知レサル者トシ以テ容貌體格ヲ記載スルナリ

第二 事實ヲ明示スルヲ要ス即チ管轄邊ノ言渡ナルト公判ニ付スル言渡ト免訴ノ言渡ナルトヲ問ハス豫審判事カ受理シタル事件ハ果シテ如何ナルモノナ



ルカヲ舉示セサル可ラス是レ蓋シ如何ナル事件ニ付キ公訴起リシカヲ示ス爲メナリ此事實ハ即チ終結ノ理由ニ外ナラサルヲ以テ最モ精確ニ且ルヲ要ス殊ニ公判ニ付スル言渡ニ付テハ犯罪ノ性質摸樣等ニ關シ十分ナル證據ヲ舉ケサル可ラス法律ハ此點ニ關シ明文ヲ以テ規定セリ犯罪ノ性質トハ國事犯トカ常事犯トカ又ハ軍事犯トカヲ指スニ非ス竊盜強盜詐僞取財謀殺故殺トカノ同種類ノ犯罪ニ付テノ細別ナリ犯罪ノ摸樣トハ罪ヲ犯スニ如何ナル手段ヲ用井タルカ其他法律ニ規定セル加重減輕ノ如キ皆之ヲ包含ス犯罪ノ證據ハ最モ豫審ノ主タル目的トスルモノナレハ一々示サ、ル可ラス即チ證人ノ陳述ニ付テモ各證人ヲ舉ケ鑑定ノ結果ナリ總テノ證據微憑ヲ舉ケテ以テ豫審處分カ十分ナルヲ表白ス又管轄違フ言渡ストキハ何故ニ之ヲ言渡スカ其基ヲ所ノ事實ヲ舉ケサル可ラス即チ此被告事件ハ犯罪地ハ何レニアリテ當裁判所ノ管轄ニ屬セストカ又軍人ナルトキハ其旨ヲ舉ケサル可ラス免訴ヲ言渡ストキニモ免訴スル所ノ原因タル事實ヲ舉ケルナリ或ハ公訴カ時効ニ罹リシトカ犯人ハ精神ヲ錯亂シテ罪ヲ犯セリトカ云フコトヲ舉ケサル可ラス

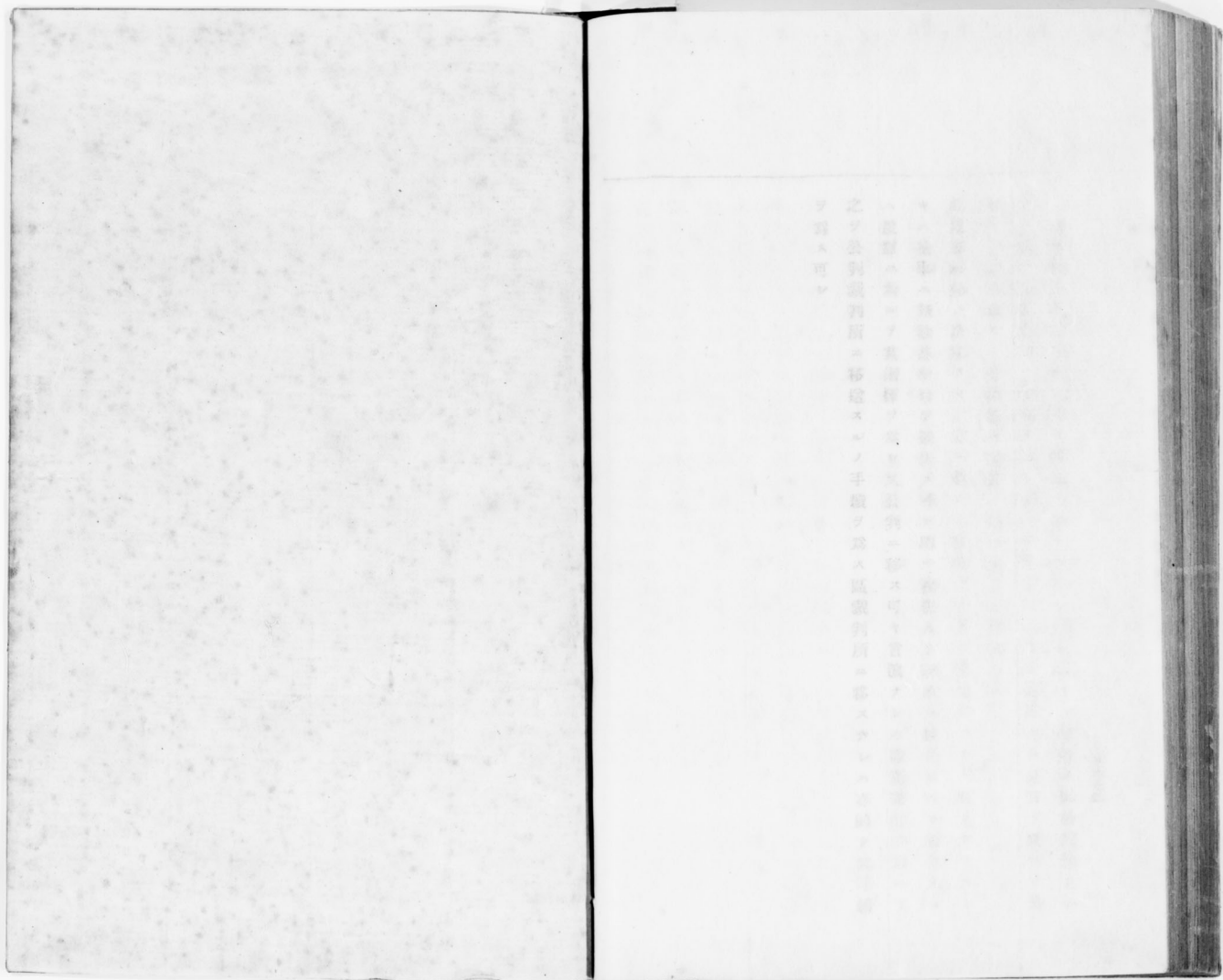
第三 其終結ヲ爲スニ付テハ其基本ト爲リシ法律ヲ示スヲ要ス尤モ此要件ハ公判ニ移ス場合ニ限ルモノニシテ即チ其被告事件ヲ刑法又ハ諸罰則ニ照スニ斯々ノ條ニ該當スト其正條マテヲ示スナリ

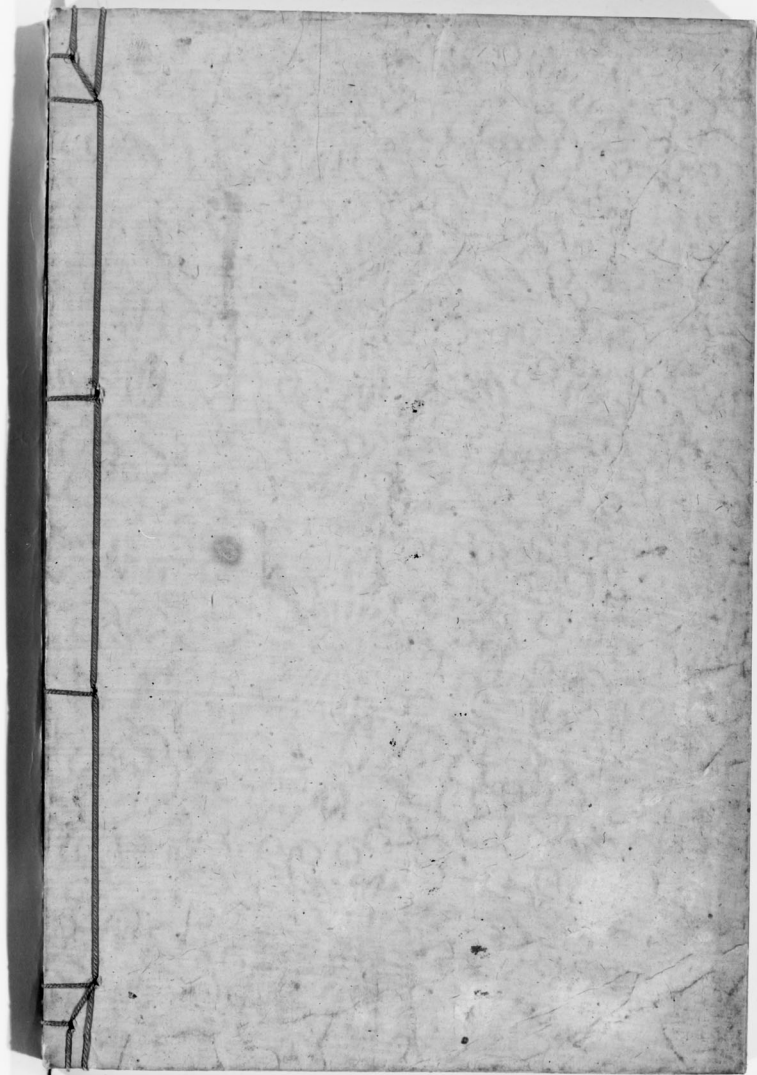
法律ハ公判ニ付スルニハ法律ノ正條マテ示セトアルモ管轄違フ言渡ニ付テハ之ヲ規定セス併シ乍ラ必要ナルトキハ罰スヘキ正條ヲ舉クルヲ要ス例ハハ皇族ノ犯レタル罪禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ大審院ノ管轄ノミニ屬ス故ニ之ニ付テ言渡ストキハ刑法ニ照セハ何々ノ條ニ該ルトシテ禁錮以上ニ該ルコトヲ示ス畢竟被告人ノ誰レタルコト、事實ト法律トノ三点ヲ列舉スルヲ要スルナリ

此他特別ナル記載ヲ要スル場合アリ即チ被告事件ヲ重罪公判ニ付スル場合ニ於テハ被告ニ送達ス可キ決定書ニハ抗告ヲ爲スヲ得ルコト及ヒ其期間ヲ記載スルヲ要ス然レトモ是レ唯被告人ニ送達ス可キ決定書ニ記載スルノミニ何トナレハ檢事ハ其職務上當然法律ヲ熟知スル者ナレハナリ

以上ノ條件ヲ具ヘテ始メテ豫審決定書ヲ形成シ其原本ハ裁判所ニ保存ス書記

ハ此原本ニ依テ正本ヲ作り職權ヲ以テ檢事ト被告人トニ送達ス訴訟關係人ハ
之ニ依テ豫審終結ノ如何ヲ知り從テ不服ナレハ法定期間内ニ抗告ヲ爲スヲ得
而シテ之ヲ爲スノ手續等ハ抗告ノ章ニ至リテ詳述セン
此豫審終結ノ決定アリテ之ニ對シテ抗告アリ又ハ抗告ナクシテ確定シタルト
キハ檢事ハ無論其執行ヲ擔任ス可シ即チ被告人ヲ釋放シ放免ス可キ場合ナレ
ハ監獄ニ對シテ其指揮ヲ爲シ又公判ニ移ス可キ言渡ナレハ證據書類ヲ添ヘテ
之ヲ公判裁判所ニ移送スルノ手續ヲ爲ス區裁判所ニ移スナレハ亦同ク其手續
ヲ爲ス可シ





0281